

# 土 木 工 學 中 卷

## 第 四 篇

### 材 料 力 學

(Mechanics of Materials.)

#### 第 一 章 應 力 及 變 形

(Stress and Deformation or Strain)

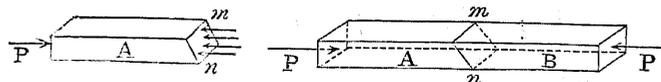
1. 材料力學ノ定義 材料力學トハ諸建築用材料及構造物ノ諸部分ニ起ル内力即チ應力ノ性質ト其影響トニ就テ論ズルモノニシテ力學ノ一分科タリ。第一篇靜力學ニ於テハ外力ハ剛體ニ働クモノト假定セリ。然レドモ實際ニハ斯ノ如キ剛體ナク諸物體ハ外力ヲ受クルトキ多少變形スルモノナリ。尤モ變形ノ際依然平衡状態ニ在ル以上ハ彈體ニ對シテモ亦剛體ト等シク靜力學ノ法則ヲ適用シ得ベキヤ明カナリ。

一ツノ構造物ニ於ケル外力ノ影響ハ構造物ノ部分ニヨリテ異ナルモノナレバ諸部分ガ夫々應力ニ

對シテ充分ナル強サ (Strength) ヲ有セザルベカラザルハ勿論ニシテ加之變形ニ對シ充分ナル抵抗力即チ剛性 (Stiffness) ヲ有セザルベカラズ。然ラズンバ其構造物ハ安定ヲ失ヒ若クハ破壊スルニ至ルベシ。依テ或構造物ガ安全ニ支持シ得ベキ荷重ヲ定メ又ハ一定量ノ荷重ヲ安全ニ支持スベキ構造物ヲ設計スルニ當リテハ構造物ノ諸部分ニ起ル應力及其材料ノ強度ト剛性トヲ知ルヲ要ス。此等ノ事柄ヲ知ルトキハ構造物各部分ノ大サヲ適當ニ定メ且其構造物ガ全體トシテ過度ノ變形ヲナサル様ニ設計シ得ベキナリ。要スルニ材料力學ハ工業用諸材料ノ強度及彈性ニ就テ半バ實驗的ニ半バ理論的ニ研究スルト同時ニ諸構造物ニ於ケル應力ト其變形トニ就テ論ズルモノナリ。

2. 應力 (Stress) 應力トハ靜力學第五章第30節ニ於テ説明セシ如ク一ツノ物體ノ二部分間ノ相互ノ作用ニシテ其一部分ガ他ノ部分ニ作用スル内力

第 1 圖



ナリ。例ヘバ第 1 圖ニ於テ一ツノ棒狀體ヲ  $m n$  ナル斷面ニテ切りタリト想像セバ外力ニ對シテ二部

分 A, B ヲ平衡ニ保ツモノハ A ト B トノ間ニ働ク應力ナリ。

物體ノ面ニ垂直ニ外方ニ働ク力即チ張力 (Pull) ニ依リテ誘起セラル、内力ヲ應張力 (Tensile Stress or Tension) ト謂ヒ、外方ヨリ其面ニ向ヒテ働ク力即チ壓力 (Thrust) ニ依リテ誘起セラル、内力ヲ應壓力 (Compressive Stress or Compression) ト謂フ。又其面ニ沿ヒテ働ク力即チ剪斷力 (Shear) ニ依リテ誘起セラル、内力ヲ應剪力 (Shearing Stress) ト謂フ。

若シ應力ガ斷面ニ傾斜シテ働クトキハ之ヲ其面ニ垂直ナル分應力 (Component of Stress) ト並行ナル分應力トニ分チテ考フルヲ便トス。然ラバ垂直分應力ハ應張力若クハ應壓力ニシテ接觸分應力ハ斷面ニ沿ヒテ物體ヲ剪斷セントスル力ニ抵抗スル應剪力タリ。

第 1 圖ノ如ク外力 P ガ棒狀體ノ軸ニ沿ヒテ働クトキハ其軸ニ垂直ナル横斷面ニ於ケル應張力若クハ應壓力ハ其斷面ニ均等ニ配布セラル、モノトス。然ラバ

$$S \cdot A = P, \quad S = \frac{P}{A}, \quad A = \frac{P}{S} \dots \dots \dots (1)$$

此式ニ於テ P=棒狀體ノ軸ニ沿ヒテ働ク外力、

S=横断面ノ單位面積ニ於ケル應力即チ單位應力 (Unit-Stress),

A=横断面積.

若シ外力ガ軸ニ沿ヒテ働カザルトキハ断面ニ於ケル應力ノ配布均等ナラズ. 此場合ニハ細微面積  $dA$ ニ働ク應力ヲ  $dP$ トスレバ

$$S = \frac{dP}{dA}$$

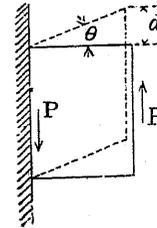
力ノ單位ガ吋ニシテ長サノ單位ガ吋ナルトキハ應力單位ハ一平方吋ニ付キ吋 (lbs. per square inch) ニシテ噸及呎ヲ單位トセバ一平方呎ニ付キ噸又呎及種ヲ單位トセバ一平方種ニ付キ呎ナリ. 之ヲ略記スルニハ吋毎平方吋,吋/平方吋ノ如キ記號ヲ用フ. 其他之ニ準ズ.

軸力 (Axial Force or Axial Load) ガ棒狀體ニ働クトキハ其影響トシテ先ツ其長サニ變化ヲ來タスベク,此變形ハ應力ノ大サガ外力ト平衡ヲ保ツニ至リテ止トベシ. 而シテ外力ノ増加ト共ニ應力モ亦増加スレドモ抵抗カト外力ト平衡シ得ザルニ至レバ遂ニ破壊スベシ. (1)式ハ此破壊ノ場合ニモ適用セラル.

3. 變形 (Deformation or Strain) 變形トハ應力ニ依テ生ズル形狀又ハ大サノ變化ヲ謂フ. 一ツノ物體

ニ張力ヲ加フレバ其物體ハ伸長シ壓力ヲ加フレバ短縮スベシ. 今原ノ長サ  $l$ ガ  $\Delta l$ ダケ伸縮セルモノトスレバ  $\frac{\Delta l}{l}$ ハ單位縱變形 (Longitudinal Unit-Strain)ヲ表ハス.

第2圖



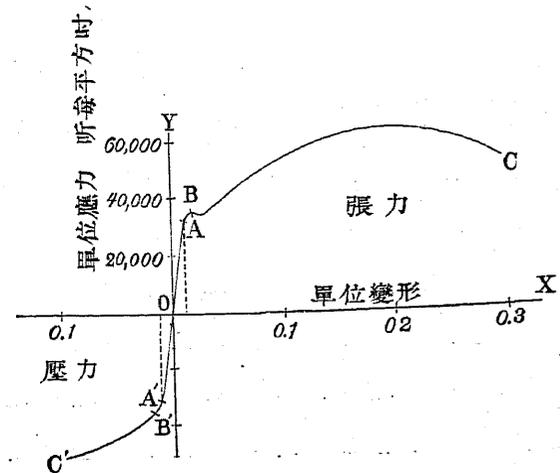
第2圖ノ如ク一ツノ物體ニ剪斷力ヲ加フルトキハ點線ニテ示ス如クニ變形スベシ. 此  $\theta$  角(弧度)ハ其物體ノ單位應剪變形 (Shearing Unit-Strain)ヲ表ハス.

4. 應力ト變形トノ關係表圖

(Stress-Deformation Diagram) 材料ノ供

試材ニ外力ヲ加フレバ外力ノ増加スルニ從ツテ變形ヲ増スベシ. 今横座標軸ニ沿ヒテ單位變形ヲ取

第3圖



リ、縦座標軸ニ沿ヒテ單位應力ヲ取ルトキハ其關係ヲ表示スル線ヲ得ベシ。之ヲ應力ト變形トノ關係表圖ト謂フ。第3圖ハ建築用鋼(Structural Steel)ノ供試材ヨリ得タル表圖ニシテ原點Oヨリ上方ニ測リタルハ應張力、下方ニ測リタルハ應壓力ナリ。又原點Oヨリ左方ニ測リタル變形ハ應壓變形(Compressive Strain)ニシテ右方ニ測リタルハ應張變形(Tensile Strain)ナリ。

#### 5. 彈性限度(Elastic Limit)及屈讓點(Yield Point)

第3圖ニ於テOA, OA'ハ直線ニシテABC, A'B'C'ハ曲線ナリ。A又ハA'點ニ達スル迄ハ變形ハ應力ニ正比例スレドモ此等ノ點ヲ通り越セバ兩者ハ正比例セズ。此限界ニ於ケル單位應力ヲ彈性限度ト謂フ。

單位應力ガA點若クハA'點ニ相當スル應力以下ナレバ應力ヲ除去スルト共ニ變形ハ全ク消失シ供試材ハ原ノ長サニ復スベシ。然レドモ應力ガ彈性限度以上ニ達スルトキハ應力ヲ除去スルトモ完全ニ原ノ長サニ復セズ。此ノ如ク舊態ニ復セズシテ殘留スル變形ヲ名付ケテ恒久變形(Permanent Set)ト謂フ。A又ハA'點ニ近キB又ハB'點ニ達セバ其以上僅少ノ應力増加ニ對シテ變形ハ急ニ増加スル

ヲ見ル。此點ヲ屈讓點ト稱ス。

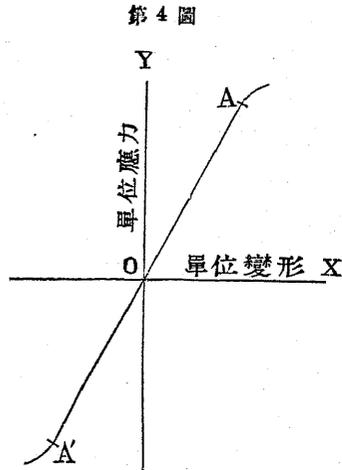
單位應力ガ彈性限度ヲ超過シテ恒久變形ヲ生ズルニ至レバ材料ノ彈性ガ害セラル、ユエ構造物ヲ設計スルニ當リ各部分ニ於ケル單位應力ハ材料ノ彈性限度以下タルヲ要ス。鍊鐵又ハ鋼ノ如キ材料ニ於テハ張力ニ對スル彈性限度モ壓力ニ對スル彈性限度モ同一ナリ而シテ鑄鐵、木材、石材、煉瓦等ノ如キ脆キ物體ニアリテハ應力ト變形トノ關係ヲ表ハス線ハ總テ曲線トナリ單位應力ノ値如何ニ拘ハラズ應力ヲ除去スルトモ全ク原形ニ復セズ、從ツテ此等ノ材料ノ彈性限度ヲ定ムル能ハズ。然レドモ單位應力小ナルトキハ彈體ト假定スルコトヲ得ベク、材料力學ニ於テ論ズル材料ノ多クハ彈性限度以內ニ於テハ實用上完全ナル彈體ト見做スヲ得。

#### 6. 彈性係數(Modulus of Elasticity or Stretch Modulus)

彈性限度以下ノ應力ニ對シテハ單位應力ト單位變形トノ比ハ常數ナリ即チ單位變形ハ單位應力ニ正比例ス(第4圖)。此關係ヲふつゝノ法則(Hooke's Law)ト謂フ。應力ガ應張力又ハ應壓力ニシテ之ニ對スル變形ガ縱變形ナルトキハ此法則ニ於ケル常數ヲ彈性係數又ハヤングノ係數(Young's Modulus)ト稱ス。通常Eヲ以テ之ヲ表ハス、即チ

$$E = \frac{\frac{P}{A}}{\frac{\Delta l}{l}} = \frac{P \cdot l}{A \cdot \Delta l} \dots \dots \dots (2)$$

$$\Delta l = \frac{P \cdot l}{A \cdot E} \dots \dots \dots (2_a)$$



(2)式 = 於テ單位變形ハ不名數ナルヲ以テ Eノ單位ハ應力單位ニ同ジキヤ明カナリ。而シテ單位應力  $S = \frac{P}{A}$  ト彈性係數 Eトノ比ガ單位變形  $\epsilon = \frac{\Delta l}{l}$  ナルユエ Eガ大ナレバ大ナル程  $\epsilon$ ガ小ナリ、然ラバ Eノ大小ハ材料ノ剛性ヲ計ルベ

キ準度 (Measure) トナル即チ物體ニ於ケル單位應力ガ彈性限度以下ナルトキ變形ニ抵抗スル材料ノ能力ヲ計ルベキ準度トナル。

應力ガ應剪力ニシテ變形ガ應剪變形ナルトキハ上記ノ常數ヲ應剪力 = 對スル彈性係數又ハ歪係數 (Modulus of Rigidity) ト謂フ。之ヲ Gニテ表ハセバ單位應剪力  $S_s$  ト  $\theta$  (第2圖參照)トノ比ガ Gナルニヨリ

$$G = \frac{S_s}{\theta}, \quad \theta = \frac{S_s}{G} \dots \dots \dots (3)$$

此式ニ於テ  $\theta$ ハ弧度ニテ表ハセル角度ナリ。

應剪力 = 對スル彈性限度ハ通常應張力 = 對スル彈性限度ノ百分ノ七十五乃至百分ノ八十ナリトス。

例題 1. 横斷面積 4 平方吋、長サ 4 呎ノ鋼釘ガ 60,000 呎ノ張力ヲ受クルトキ其單位應張力、全伸張及單位伸張ヲ求ム。

但シ  $E = 29,000,000$  呎/平方吋トス。

(1) 式ヨリ  $60,000 = 4 \times S_s, \quad \therefore S_s = \frac{60,000}{4} = 15,500 \#/\text{吋}^2$

(2) 式ヨリ  $29,000,000 = \frac{60,000 \times 4 \times 12}{4 \times \Delta l}$

$\therefore \Delta l = \frac{60,000 \times 4 \times 12}{4 \times 29,000,000} = 0.024$  吋,

$\epsilon = \frac{\Delta l}{l} = \frac{S_s}{E} = 0.0005.$

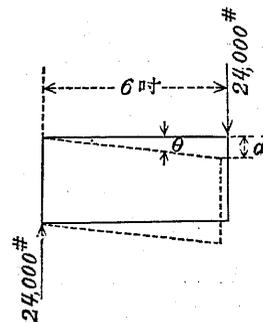
例題 2. 直徑  $1\frac{1}{4}$  吋、長サ 16 呎ナル釘ガ 21,000 呎ノ張力ヲ受ケテ 0.125 吋伸長セリ、其彈性係數幾何ナリヤ。

横斷面積 = 1.227 平方吋

(2) 式ヨリ  $E = \frac{21,000 \times 16 \times 12}{1.227 \times 0.125} = 26,300,000$  呎/平方吋。

例題 3. 横斷面 3 吋  $\times$  4 吋、長サ 6 吋ナル短キ木片ガ 24,000 呎ノ

第 5 圖



剪斷力ヲ纖維ト直角ノ方向ニ受クルトキ單位應剪力及單位應剪變形ハ幾何ナリヤ。但木材ノ纖維ト直角ナル方向ノ歪係數ヲ 400,000 呎/平方吋トス。

$S_s = \frac{24,000}{3 \times 4} = 2,000$  呎/平方吋。

(3) 式ヨリ

$\theta = \frac{S_s}{G} = \frac{2,000}{400,000} = 0.005$  弧度

$d = 6 \times 0.005 = 0.03$  吋

長サガ横ノ寸法ニ比シテ大ナルトキハ

變形後ノ變形ノ邊ハ直線ナラズ從ツテ長サト  $d$  トノ比ハ常數ナラザルニエ(3)式ガ與フル値ハ正確ナラズ。

7. 破壊強度 (Ultimate Strength); 作用又ハ實用強度 (Working or Allowable Strength); 安全率 (Factor of Safety)

材料ノ破壊強度トハ其材料ガ耐ヘ得ル最大單位應力ヲ謂フ。通常供試材ガ支持シタル最大荷重ヲ原ノ横斷面積ニテ除シタル商即チ原ノ横斷面ノ單位面積ニ於ケル最大單位應力ヲ破壊強度トナス。供試材ノ横斷面積ハ漸次増減スルモノナレバ如斯ニシテ得タル單位應力ノ値ハ真正ナラザルヤ勿論ナリ、諸材料ノ破壊強度ハ多クハ其彈性限度ノ二倍乃至四倍ニシテ鑄鐵ノ如ク破壊抗壓強度ガ破壊抗張強度ニ比シ著シク大ナルモノアリ。

一ツノ物體ガ外力ヲ受クルトキ其物體ガ破壊セザルタメニハ其最大單位應力ハ該物體ノ破壊強度以下ナルハ勿論、彈性限度ヨリ小ナルヲ要ス。而シテ別表ニ與フル破壊強度ハ材料ノ性質齊等ニシテ瑕瑾ナキ良材ニ對スルモノナレドモ實際使用セラレ、材料ニハ如スキ良材ナク多少ノ瑕瑾アリ。之ガ爲メニ外力ニ抵抗スルニ有效ナル横斷面積ヲ減少セントスル傾向アリ。且普通ノ材料試験ニ於テ供試材ガ受クル荷重ハ急激ニ加ハルモノ所謂急加

材料	重量 听/立方呎	彈性限度 听/平方吋	彈性係數 听/平方吋	歪係數 听/平方吋	破壊抗張 強度 听/平方吋	破壊抗壓 強度 听/平方吋	破壊抗 剪強度 听/平方吋
杉	25		900,000		6,500	4,500	750
檜	30		1,100,000		12,500	6,000	900
松	35		1,200,000		15,000	7,000	1,200
樅	30		1,100,000		12,000	6,500	900
栗	45		1,200,000		15,000	8,000	1,200
鑄鐵	450	6,000	12,000,000	6,000,000	20,000	80,000	20,000
鍊鐵	480	25,000	28,000,000	10,000,000	55,000	55,000	45,000
建築用鋼	480	20,000	29,000,000	12,000,000	60,000	60,000	50,000
花崗石	170					12,000	
石灰石	160					7,000	
砂石	110					4,500	
煉瓦	125				200	2,500	
煉瓦工	115					1,500	
混凝土 1:2:4	140				250	2,500	450

注意:表中木材強度ハ我國産ノ材ニ就キ試験セル結果ニシテ破壊抗剪強度ハ木理ニ沿ヒタルモノナリト知ルベシ。

荷重 (Suddenly Applied Load) ニアラズシテ極メテ靜ニ加ハル漸加荷重 (Gradually Applied Load) ナリ。今或外力ヲ急激ニ一ツノ物體ニ加フレバ漸加荷重ニ比シテ二倍ノ影響ヲ與フ。又現ニ  $P$  ナル外力ヲ受クル物體ニ更ニ同大ノ外力  $P$  ヲ急激ニ加フレバ最初ヨリ  $P$  ガ靜ニ加ハレル場合ニ比シ三倍ノ影響ヲ與フベシ。橋梁上ニ疾走シ來ル動荷重ノ如キハ此種ノ急加荷重ニアラザレドモ同大ノ漸加荷重ニ比スレ

バ夫レ以上ノ影響ヲ與フルヤ明カナリ。又一一定ノ外力ヲ一度靜ニ加フルトキト繰返シテ加フルトキ即チ反覆荷重(Repeated Load)ヲ加フルトキトハ其物體ノ破壊強度ニ及ボス影響ニ大差アリ。然レバ此等ノ場合ニ於テハ物體ノ保全上別表ノ破壊強度ニ相當ノ輕減ヲ要ス。之ガ爲メニハ1ヨリ大ナル或數ニテ材料ノ破壊強度ヲ除シタル商ヲ以テ其材料ガ安全ニ受ケ得ル強度ト定ム。尤モ此強度ハ常ニ彈性限度以下ナラザルベカラズ。此強度ヲ稱シテ其材料ノ作用又ハ實用強度ト謂ヒ其除數ヲ安全率ト謂フ。

安全率ハ材質、外力ノ加ハル状態及構造物ノ種類ニヨリテ異ニスベキモノナレバ一ツノ構造物ヲ設計スルニ當リテハ各部分ニ向ツテ夫々相當ノ安全率ヲ使用セザルベカラズ而シテ各部分ニ於ケル最大單位應力ヲシテ材料ノ實用強度ヨリ超過セシメザルヲ要ス。現今用キラル、標準安全率ヲ示セバ次ノ如シ。

安全率ノ表

材 料	靜荷重ヲ受クルトキ	動荷重ヲ受クルトキ	激衝ヲ受クルトキ
木 材	8	10	15
鑄 鐵	6	15	20

鍊 鐵	4	6	10
建 築 用 鋼	4	6	10
煉 瓦 及 石 材	15	25	40
混 凝 土	15	25	40

例題 或正方形横断面ヲ有スル木材アリ、之ガ81,000 呎ノ壓力ヲ受クルトキ彈性限度ノ三分ノ一ヲ作用強度トセバ其大サ如何、但木材ノ彈性限度ヲ3,000 呎/平方吋トス。

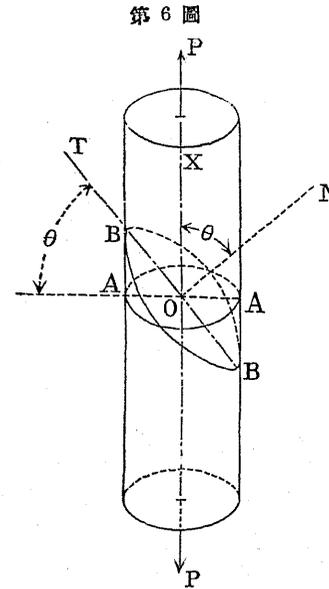
(1)式ヨリ  $81,000 = A \times 3,000 \times \frac{1}{3}$

$\therefore A = \frac{81,000}{1,000} = 81$  平方吋 (9吋×9吋)。

8. 單純ナル張力又ハ壓力 (Simple Pull or Thrust)

ニ對スル應力ノ状態

第2節ニ於テ述ベシ如ク外力ヲ受クル一ツノ物體ヲ或断面ニテ二ツノ部分ニ分チタリトセバ其断面ニ於テ二部分間ニ働ク所ノ内力ガ其断面ニ於ケル應力ナリ。此應力ヲ知ルニハ該断面中ノ各點ニ於ケル應力ノ方向ト配布トヲ知ラザルベカラズ。茲ニ應力配布ノ均等ナル場合ノミニ就キ述ベントス。



第6圖ノ如ク棒狀體ノ軸OXニ沿ヒテ張力Pヲ加フレバ軸ニ直角ナル横斷

面 AA = 於ケル應力ハ總テ之ニ垂直ニシテ其單位應力ハ

$$S_x = \frac{P}{A}$$

但 A ハ横斷面積ナリトス。

次ニ横斷面 AA ト θ ナル角ヲナセル斜面 BB ラ考フルニ外力 P ハ矢張軸 OX ノ方向ニ働クヲ以テ面 BB ニ對シテ傾斜ス、從ツテ該面上ニハ垂直應力並ニ應剪力ガ働クベキナリ。今斜面 BB ノ面積ヲ A' トスレバ

$$A' = A \cdot \sec\theta$$

此面ニ於テ OX ナル方向ノ單位應力ヲ S<sub>r</sub> トスレバ

$$S_r = \frac{P}{A \cdot \sec\theta} = \frac{P}{A} \cdot \cos\theta = S_x \cdot \cos\theta \dots\dots\dots(4)$$

此 S<sub>r</sub> ヲ斜面 BB ニ於ケル垂直單位分應力 S<sub>n</sub> ト接觸單位分應力 S<sub>s</sub> トニ分テバ

$$\left. \begin{aligned} S_n &= S_r \cdot \cos\theta = S_x \cdot \cos^2\theta \\ S_s &= S_r \cdot \sin\theta = S_x \cdot \cos\theta \cdot \sin\theta \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(5)$$

又 BB ナル面ト直角ナル他ノ斜面ヲ考フルトキハ此面ト AA 面トナス角ハ θ' = 90° - θ ナルニエ該面ニ於ケル垂直單位分應力 S'<sub>n</sub> 及接觸單位分應力 S'<sub>s</sub> ハ次ノ如シ。

$$\left. \begin{aligned} S'_n &= S_x \cdot \cos^2\theta' = S_x \cdot \sin^2\theta \\ S'_s &= S_x \cdot \cos\theta' \cdot \sin\theta' = S_x \cdot \sin\theta \cdot \cos\theta \end{aligned} \right\}$$

然ラバ 
$$\left. \begin{aligned} S_n + S'_n &= S_x (\cos^2\theta + \sin^2\theta) = S_x \\ S_s &= S'_s \end{aligned} \right\}$$

外力ノ働線ニ直角ナル横斷面ト或角度ヲナセルニツノ斜面間ノ角度ガ 90° ナルナキハ夫等ニ斜面ニ於ケル垂直單位分應力ノ和ハ該横斷面ニ於ケル單位應力ニ等シク又ニ斜面ニ於ケル接觸單位分應力ハ互ニ相等シ。

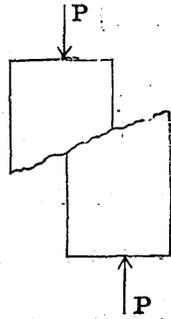
(5)式ニ於テ S<sub>r</sub> ハ斜面 BB ト外力 P ノ方向トガ 45° ノ角度ヲナストキ最大ナリ、是レ sinθ = cosθ ナルトキ sinθ · cosθ ノ値ガ最大ナレバナリ。即チ

$$\text{最大 } S_s = [S_x \cdot \cos\theta \cdot \sin\theta]_{\theta=45^\circ} = \frac{1}{2} S_x \dots\dots\dots(6)$$

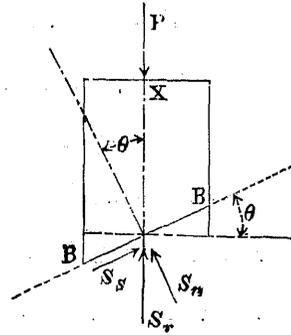
單純ナル壓力ニ因リテ斜面上ニ應剪力ヲ生ズル實例ハ材料試験ノ際供試材ニ顯ハレ其破面ハ屢々外力ノ働線ト 45° ノ傾斜ヲナス(第 7 圖(a))尤モ壓力ノ場合ニアリテハ 45° ヨリ小ナリ、是レ分子間ノ摩擦抵抗ニ基因ス。

若シ破面ニ於ケル摩擦抵抗ヲ加算スレバ、破面ガ棒狀體ノ軸トナス角ハ 45° ヨリ小ナルコト息角ノ二分ノ一ナリ。其理由次ノ如シ。

第7圖(a)



第7圖(b)



今  $\mu$  フ摩擦係數,  $\phi$  フ息角トスレバ破面間ニ摺動ヲ起サントスル單位應剪力ハ(第7圖(b))

$$S'_s = S_s - \mu \cdot S_n = S_n \cos \theta \cdot \sin \theta - \mu \cdot S_n \cos^2 \theta$$

$$= S_n (\cos \theta \cdot \sin \theta - \mu \cdot \cos^2 \theta)$$

然レバ單位應剪力  $S'_s$  ガ最大ナルベキ傾斜面ニ沿ヒテ破壊ヲ生ズベシ。而シテ之ガ最大ナルハ次ノ關係ノ成立スルトキナリ。

$$\frac{d(\cos \theta \cdot \sin \theta - \mu \cdot \cos^2 \theta)}{d\theta} = \cos^2 \theta - \sin^2 \theta + 2\mu \cdot \cos \theta \cdot \sin \theta$$

$$= \cos 2\theta + \mu \sin 2\theta = 0,$$

$$\mu = \tan \phi = -\cot(90^\circ + \phi) = -\cot 2\theta,$$

$$\therefore 2\theta = 90^\circ + \phi, \text{ 即チ } \theta = 45^\circ + \frac{\phi}{2}.$$

鑄鐵ニアリテハ  $\phi$  ハ約  $20^\circ$  ナリ。鑄鐵、石材、混凝土ノ如ク脆キ質ノ材料ニテ供試材ヲツクリ其長サヲ横幅以上ニナシ之ニ壓力ヲ加フレバ上記ノ如キ破

面ヲ供試材中ニ顯ハスベシ。

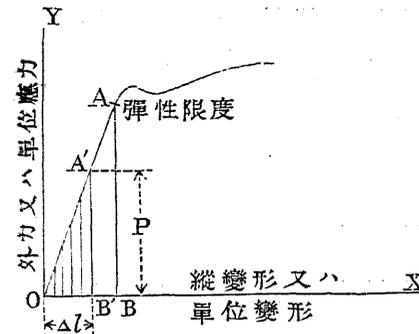
例題 直徑1吋ノ壓穿器ヲ用キテ厚サ  $\frac{1}{2}$  吋ノ鋼板ニ緩釘孔ヲ壓穿セントス。之ニ要スル壓力ヲ求ム、但鋼ノ破壞抗剪強度ヲ50,000 斤/平方吋トス。

此場合ニ於テハ壓穿孔ノ端面ニ等シキ面積ニ於ケル剪斷力ガ鋼ノ破壞抗剪強度ニ等シカラザルベカラズ

$$\therefore P = A \times S_s = \pi \times 1 \times \frac{1}{2} \times 50,000 = 79,000 \text{ 斤.}$$

9. 彈復働 (Elastic Resilience) 第4節ニ於テ述ベ

第8圖



シ如ク彈性棒狀體ニ軸張力又ハ軸壓力ヲ加フルトキ其物體ノ彈性限度以內ニ於テハ伸張 (Elongation) 又ハ短縮 (Shortening) ハ外力ニ正比例シ其關係ハ直線ニテ表ハサル

(第8圖). 今外力ハOヨリPナル値迄増加シ之ニ對シテ棒狀體ハ  $\Delta l$  ナル長サ丈變形シタリトセヨ。然ラバ此棒狀體ノ伸張又ハ短縮ニヨリテ爲セル働ハ平均外力  $\frac{1}{2}P$  ト  $\Delta l$  トノ相乘積  $\frac{1}{2}P \cdot \Delta l$  ニテ表ハサル。コレハ第8圖ニ於テ陰ヲ附シタル三角形  $OA'B'$  ノ面積ニ相當ス。

次ニ棒狀體ノ横斷面積ヲA, 其長サヲ  $l$ , 單位應力

ヲ S, 單位縱變形ヲ  $\epsilon$  トスレバ

$$P = S.A, \Delta l = \epsilon.l$$

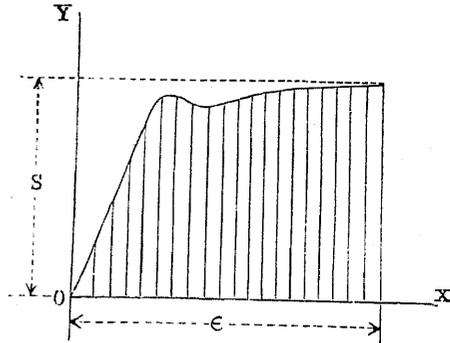
ナルユエ棒狀體ノ單位應力ヲ O ヨリ S 迄高メルニ爲セル働ヲ K トスレバ

$$K = \frac{1}{2} S \epsilon . A.l \dots \dots \dots (7)$$

此式ニ於テ A.l ハ棒狀體ノ容積ニシテ  $\frac{1}{2} S \epsilon$  ハ單位容積ノ棒狀體ノ單位應力ヲ O ヨリ S 迄高メルニ爲セル働ヲ表ハス。而シテ此働ハ能勢 (Potential Energy) トシテ棒狀體ニ貯ヘラル、モノニシテ外力ヲ除去スルトキ之ヲシテ其原形ニ復セシムル働ヲナスモノナレバ之ヲ彈復働ト稱ス。

單位應力ガ材料ノ彈性限度ヨリ大ナルトキハ (7) 式ヲ適用スル能ハズ。此場合ニ於テハ第 9 圖ニ示

第 9 圖



ス如ク表圖上ニテ陰ヲ附シタル部分ノ面積ヲ測リ、コレヨリ單位容積ニ對スル働ヲ算出スベシ。

以上ノ所論ハ應剪變形ノ場合ニモ

適用スルヲ得。

例題 直徑 4 吋, 長サ  $4\frac{1}{2}$  呎ナル鍊鐵釘ニ於ケル單位應力ヲ 6,000 呎/平方吋ヨリ 12,000 呎/平方吋迄高ムルニ爲セル彈復働ヲ求ム。但 E ナ 28,000,000 呎/平方吋トス。

横斷面積 = 12.57 平方吋, 長サ = 54 吋。

(7) 式ヨリ

$$K = (S_2^2 - S_1^2) \frac{A.l}{2E} = \frac{(12,000^2 - 6,000^2) \times 12.57 \times 54}{2 \times 28,000,000} = 110 \text{ 呎呎}$$

10. 横ノ伸縮率 (Factor of Lateral Deformation); 横斷面ノ變化 (Change in Cross-Section) 單純ナル張力又ハ壓力ノ場合ニ於テ變形ハ外力ノ方向ノミナラズ之ト直角ナル方向ニモ起ルベシ。而シテ材料ノ彈性限度以下ノ單位應力ニ對シテハ横單位變形 (Lateral Unit-Deformation) ト縱單位變形トノ比ハ常數ニシテ之ヲ横伸縮率又ハ**ぽあそんノ比** (Poisson's Ratio) ト謂フ。例ヘバ茲ニ長サ l, 直徑 d ナル釘アリ此縱單位伸張ヲ  $\epsilon$ , 横伸縮率ヲ  $\lambda$  トスレバ其長サノ伸張ハ  $\epsilon.l$  ニシテ直徑ノ短縮ハ  $\lambda.\epsilon.d$  ナリ。此  $\lambda$  ハ實驗ニヨリテ定メラル、モノニシテ鑄鐵ナレバ約  $\frac{1}{4}$ , 鋼ナレバ約  $\frac{1}{3}$ , 概シテ金屬ニアリテハ  $\frac{1}{3}$  乃至  $\frac{1}{4}$  ナリ。

長方形横斷面ヲ有スル棒狀體ニ於テ其斷面ノ幅及厚サヲ夫々 b 及 d トスレバ彈性限度以内ノ張力ノ場合ニハ斷面積ハ

$$(1-\lambda\epsilon)b \times (1-\lambda\epsilon)d = (1-2\lambda\epsilon)bd$$

トナル。即チ斷面積ノ減少ハ  $(2\lambda\epsilon bd)$  ニシテ單位面積ノ減少ハ  $(2\lambda\epsilon bd \div bd = 2\lambda\epsilon)$  ナリ。反之壓力ノ場合ニハ變形後ノ單位面積ノ増加ハ  $2\lambda\epsilon$  ナリ。

凡テ材料ノ終極單位變形(Ultimate Unit-Deformation)ハ計算上知ルコト能ハザルユエ材料試験ノ結果ヨリ打算スル外ナシ。供試材ノ原ノ長サト破壊後ノ長サトノ差ヲ原ノ長サニテ除シタル商ガ終極單位變形ナリ。而シテ此單位變形ガ大ナル程原ノ斷面積ト破壊斷面積トノ差ガ大ナルヤ勿論ナリ。材料ノ伸張試験ニ於テハ原ノ斷面積ト破壊斷面積トノ差ニ對スル原ノ斷面積ノ比ヲ斷面積ノ減少率 (Reduction of Area) ト謂フ。而シテコレハ材料ノ延性 (Ductility) ヲ定ムルニ當リ伸張變形ヨリモ一層信賴スルニ足ル準度タルベシ。是レ供試材ノ長サト其斷面トノ割合ニヨリテ終極單位伸張ニ差アレバナリ。

## 第二章 直應力 (Direct Stresses) — 應用

11. 自己重量ヨリ生ズル應力 (Stresses due to Own Weight) 第一章ニ於テハ棒狀體ノ斷面ハ其全長ヲ通ジテ均一ナルモノトシ且其自己重量ヲ省略セリ。

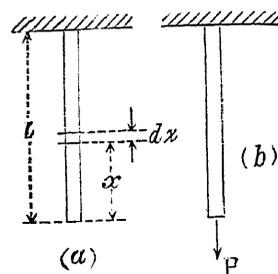
短キ棒狀體ナレバ其自己重量ハ外力ニ比シ省略シテ可ナルベキモ其長サ大ナルトキハ自己重量ヨリ生ズル應力ヲ算入セザルベカラズ。

今深キ豎坑 (Shaft) ニ於テ鑄條 (Wire-Rope) ヲ以テ或重量ヲ引上グル場合ヲ考フルニ其重量ニヨリテ生ズル單位應力ハ  $S = \frac{P}{A}$  ナリ。但 P ハ重量, A ハ鑄條橫斷面積ナリ。而シテ任意ノ點ニ於ケル鑄條斷面積ハ P ノ外ニ其點以下ノ自己重量ヲ支持セザルベカラズ。然ラバ鑄條ノ上端ニ於ケル斷面ノ單位應力ハ次ノ如シ。

$$S_1 = \frac{P+W}{A}$$

此式ニ於テ W ハ鑄條ノ自己重量ナリトス。一般ニ W ヨリ生ズル應力ガ P ヨリ生ズル應力ノ一割以內ナルトキハ自己重量ヲ省略スルモノトス。

第10圖



第10圖(a)ノ如ク棒狀體ノ上端ヲ固定シテ鉛直ニ吊ストキ自己重量 W ヨリ生ズル伸長ヲ求メシテ、下端ヨリ測リテ \$x\$ ナル部分ノ重量ハ  $\frac{W \cdot x}{l}$  ナルヲ以テ此重量ヨリ生ズル細微ナル

長サ \$dx\$ ノ伸張ハ

$$\frac{\left(\frac{W \cdot x}{l}\right) dx}{AE}$$

ナリ。但 A ハ棒狀體ノ横斷面積ナリ。然ラバ

$$\Delta l = \int_0^l \left(\frac{W \cdot x}{A \cdot l \cdot E}\right) dx = \frac{W}{A \cdot l \cdot E} \left(\frac{x^2}{2}\right)_0^l = \frac{1}{2} \cdot \frac{Wl}{AE}$$

コレハ W ナル荷重ヲ棒狀體ノ下端ニ加フルトキ其荷重ヨリ生ズル伸張ノ二分ノ一ナリ。乃チ

自己重量ヨリ生ズル伸張ハ其重量ト同大ノ荷重ヲ下端ニ加フルトキ其荷重ヨリ生ズル伸張ノ二分ノ一ナリ。

又第10圖(b)ノ如ク下端ニ P ナル荷重ヲ加フルトキハ

$$\Delta l = \frac{\left(\frac{1}{2}W + P\right)l}{A \cdot E}$$

ナリ。

壓力ノ場合ニ於テモ亦上記同様ノ關係ガ成立スベキヤ勿論ナリ。

例題 6吋角ノ木材棒ヲ鉛直ニ吊シ其下端ニ 21,600 斤ノ荷重ヲ加フルトキ此荷重並ニ自己重量ニヨリテ上端ノ横斷面ニ誘起セラル、單位應力ガ 650 斤/平方吋ナリシト云フ。其棒ノ長サ及伸張ヲ求ム。但木材ノ重量ヲ 40 斤/立方呎、E ナ 1,500,000 斤每平方吋トス。

$$W = \frac{1}{2} \times \frac{1}{2} \times l \times 40 = 10 \cdot l \text{ 斤, } 650 \text{ 斤/平方吋} = 650 \times 144 = 93,600 \text{ 斤/平方呎.}$$

$$\therefore 93,600 = \frac{21,600 + 10 \cdot l}{\frac{1}{2} \times \frac{1}{2}}, \text{ 即チ } l = 180 \text{ 呎.}$$

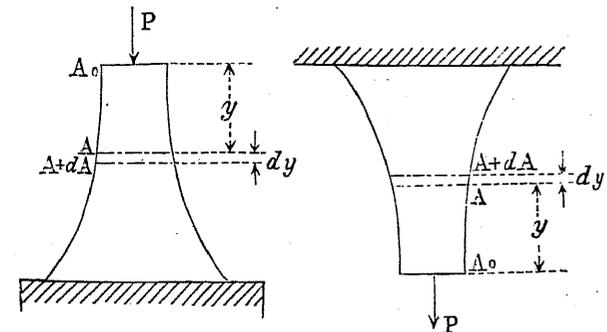
又  $W = 10 \times 180 = 1,800 \text{ 斤.}$

$$\therefore \Delta l = \frac{\left(\frac{1}{2} \times 1,800 + 21,600\right) \times 180 \times 12}{6 \times 6 \times 1,500,000} = 0.9 \text{ 吋.}$$

12. 等強ノ棒狀體 (Bars of Uniform Strength) 第10圖ノ如ク均等ナル横斷面ヲ有スル長キ鉛直棒狀體ガ軸力ヲ受クルトキハ上端ノ横斷面ヲ除ク外何レノ斷面モ所要ノ大サ以上ナルベキヲ以テ各斷面ニ於ケル單位應力ガ同ジクナル如クニ斷面ヲ變ズレバ其棒狀體ノ重量ハ減ゼラルベシ。此ノ如キ棒狀體ハ等強ナリト謂フ。此意義ハ何レノ斷面ニ於テモ強サガ同一ナリトイフニアラズ單位應力ガ同一ナリトイフナリ。此點ヨリイヘバ寧ロ均等應力ノ棒狀體 (Bars of Uniform Stress) ナル名稱ガ適當ナルベシ。

第11圖ニ於テ P ヲ軸力トシテ S ヲ作用強度トス

第11圖



レバ最小斷面積即チ P が加ヘラル、末端ノ斷面積ハ

$$A_0 = \frac{P}{S}$$

ナリ。斷面  $A_0$  ヨリ  $y$  ナル隔リニ於ケル斷面積ヲ  $A$  トスレバ  $(y+dy)$  ナル隔リニ於ケル斷面積ハ  $(A+dA)$  ナルベキナリ。而シテ此斷面積ノ増加  $dA$  ハ  $dy$  ナル長サニ相當スル重量ヨリ生ズル應力ニ耐ヘザルベカラズ。材料ノ單位容積ノ重量ヲ  $w$  トスレバ  $dy$  ナル長サニ相當スル重量ハ  $(A \cdot w \cdot dy)$  ナルユエ

$$dA = \frac{A \cdot w \cdot dy}{S}, \text{ 即チ } dy = \frac{S}{w} \cdot \frac{dA}{A}$$

之ヲ積分スレバ

$$y = \frac{S}{w} \cdot \log_e A + C$$

此式ニ於テ  $C$  ハ積分常數ナリ。而シテ  $y=0$  ナルトキハ  $A=A_0$  ナルヲ以テ

$$C = -\frac{S}{w} \cdot \log_e A_0$$

$$\therefore \log_e A = \frac{w}{S} \cdot y + \log_e A_0$$

又ハ

$$\log_{10} A = 0.434 \left( \frac{w}{S} \right) y + \log_{10} A_0 \dots \dots \dots (8)$$

コレハ最小横斷面積ト其斷面ヨリ任意ノ隔リ  $y$  ニ

於ケル横斷面積トノ關係ヲ表示スル式ナリ。先ヅ  $A_0$  ヲ定メ  $y$  ニ種々ノ値ヲ與ヘテ (8) 式ヲ解ケバ縱斷面形 (Profile) ガ得ラルベシ。

例題 高サ 50 呎ノ石造橋脚ガ其頂面ニ於テ 480,000 呎ノ軸壓力ヲ受クルトキ此橋脚ヲシテ等強ナラシムルニハ頂面積及底面積ヲ幾何ニナスベキヤ。但石材ノ重量ハ 160 呎/立方呎、石材ノ作用強度ハ 100 呎/平方呎即チ 14,400 呎/平方呎ナリトス。

$$\text{頂面積 } A_0 = \frac{480,000}{14,400} = 33.3 \text{ 平方呎,}$$

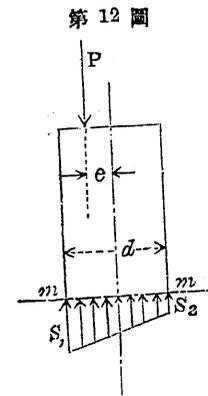
$$\frac{w}{S} = \frac{160}{14,400} = 0.0111.$$

(8) 式ヨリ

$$\log_{10} A = 0.00482y + 1.5224,$$

$\therefore$  底面積  $A = 58.0$  平方呎。

13. 偏心荷重ヨリ生ズル應力 (Stresses due to Eccentric Loads) 第 12 圖ノ如ク棒狀體ガ偏心荷重  $P$  ヲ受



クルトキハ任意ノ横斷面  $mm$  上ノ應力配布ハ均等ナラズシテ荷重ノ偏セル側ニ於ケル單位應力  $S_1$  ハ該斷面ノ平均單位應力  $\frac{P}{A}$  ヨリ大ニシテ他側ニ於ケル單位應力  $S_2$  ハ之ヨリ小ナリ。但  $A$  ハ棒狀體ノ横斷面積ナリ。外力ト内力トノ平衡條件ニヨリ斷面  $mm$  ニ於ケル單位應力ノ合成力ハ  $P$  ト同大ニシテ且働線ヲ同ジクスベ

キヤ明カナリ。又材料ノ彈性限度以内ナラバ此等ノ單位應力ノ變化ハ直線ニテ表ハサル、ニヨリ

$$P = \frac{1}{2}(S_1 + S_2)A.$$

單位應力ノ配布ヲ表ハセル梯形ノ重心ハ上卷第132頁例題1ニヨリ

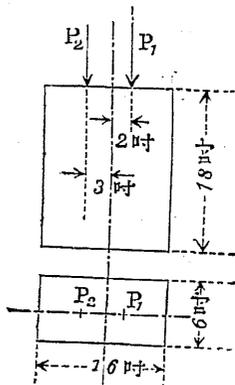
$$e = \frac{\frac{1}{6}d(S_1 - S_2)}{(S_1 + S_2)}.$$

此等二式ヲ解ケバ

$$S_1 = \frac{P}{A} \left(1 + \frac{6e}{d}\right), \quad S_2 = \frac{P}{A} \left(1 - \frac{6e}{d}\right) \dots \dots \dots (9)$$

(9)式ニ於テ  $e=0$  ナルトキハ  $S_1$  及  $S_2$  ハ  $\frac{P}{A}$  ニシテ單位應力ノ配布均等ナリ。 $e = \frac{d}{6}$  ナレバ  $S_1$  ハ  $2\frac{P}{A}$ ,  $S_2$  ハ  $0$ ,  $e > \frac{d}{6}$  ナレバ  $S_1$  ハ  $\frac{2P}{A}$  ヨリ大ニシテ  $S_2$  ハ負數即チ應張カトナル。

第13圖



如斯ニ横斷面上ノ單位應力ノ配布均等ナラザルトキハ棒狀體ノ部分ニヨリテ變形ヲ異ニスルキヤ明カナリ。

例題 横斷面6吋×16吋、高サ18吋ノ木片ガ其頂面ニ於テ第13圖ノ如ク二個ノ荷重  $P_1, P_2$  ナ受クルトキ其底面ニ於ケル單位應力ヲシテ均等ナラシムベキ  $P_1$  ト  $P_2$  トノ比如何。

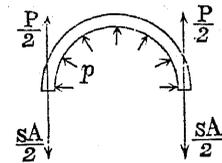
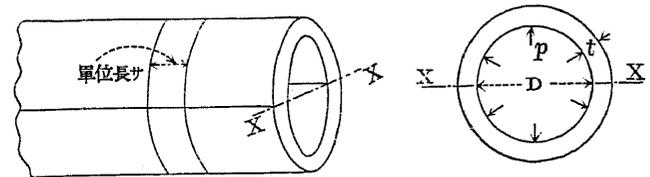
(9)式ヨリ

$$\frac{7}{4} \frac{P_1}{A} - \frac{1}{8} \frac{P_2}{A} = \frac{1}{4} \frac{P_1}{A} + \frac{17}{8} \frac{P_2}{A}$$

$$\therefore \frac{P_1}{P_2} = \frac{3}{2}$$

14. 薄キ管; 薄キ圓壙; 薄キ球 (Thin Pipes, Cylinders, Spheres) 管内ニ働ク水壓又ハ汽壓ハ其管ヲ縦ニ引裂カントス。之ニ抵抗スルハ材料ノ應張力ナリ。今内徑  $D$ , 厚サ  $t$  ナル管ガ  $p$  斤/平方吋ナル水壓ヲ受ク、ルトキ管壁ニ於ケル單位應力ヲ求メントス。管ノ各單位長サノ部分ハ同一壓力ヲ受クルヲ以テ此間

第14圖



題ヲ解クニハ單位長サニ就テ考フレバ可ナリ。第14圖ノ如ク直徑ヲ含メル面  $XX$  ニテ單位長サノ管ヲ縦ニ切リタリト想像スレバ其斷面ノ應力ハ管ヲ

縦ニ引裂カントスル水壓ニ抵抗セザルベカラズ。  
 而シテ  $t$  ガ小ナルトキハ斷面ニ於ケル應力配布均  
 等ナリト考フルヲ得。然ラバ管ヲ縦ニ引裂カント  
 スル力  $P$  ト求ムル單位應力  $S$  トノ關係ハ次式ニテ  
 表ハサル。

$$P = S.A.$$

此式ニ於テ  $A$  ハ斷面  $XX$  ニ於ケル管壁ノ斷面積ナ  
 リ。

上卷水力學第117節ニヨリ直徑ヲ含メル  $XX$  斷面  
 ニ垂直ナル力ハ  $p.D$  ニシテ之ヲ  $P = S.A$  ニ代入スレ  
 バ

$$p.D = S.A = 2.S.t \dots \dots \dots (10)$$

之ハ薄キ管ノ縱斷面ニ誘起セラル、單位應力ヲ與  
 フル一般公式ナリ。

若シ管端ヲ閉塞スレバ兩管端ニ働ク水壓又ハ汽  
 壓ハ軸ニ直角ナル斷面ニ於テ横ニ管ヲ破壊セント  
 ス。此場合ニ管端ニ働ク力ハ  $\frac{\pi D^2}{4} p$  ニシテ之ニ抵  
 抗スル面積ハ  $\pi D.t$  ナリ。此等ノ値ヲ  $P = S.A$  ニ代入  
 スレバ

$$p.D = 4.S.t \dots \dots \dots (10_a)$$

乃チ管ノ軸ニ垂直ナル斷面ニ於ケル單位應力ハ  
 管軸ヲ含ム斷面ニ於ケル單位應力ノ二分ノ一ナリ。

次ニ薄壁ヨリ成レル球ニ於テハ水壓又ハ氣壓ハ  
**大圓** (Great Circle) ヲ含ム斷面ニ於テ之ヲ破壊セント  
 ス。而シテ壓力及之ニ抵抗スル面積ハ上記圓嚮ノ  
 場合ニ於テ其軸ニ垂直ナル斷面ニ於ケルト同一ナ  
 ルヤ明カナリ。從而(10<sub>a</sub>)式ヲ適用スルヲ得。

上述ノ單位應力ハ總テ内部壓力  $p$  ヨリ生ズルモ  
 ノニシテ應張力ナリ。反之外部壓力  $p'$  ニ對シテハ  
 應壓力ガ誘起セラル。然ラバ  $p, p'$  ナル兩壓力ガ同  
 時ニ働クトキハ(10)式及(10<sub>a</sub>)式ヨリ

$$p.D - p'.D' = 2.S.t, \quad p.D - p'.D' = 4.S.t.$$

兩式中  $D'$  ハ外徑ニシテ  $p.D$  ガ  $p'.D'$  ヨリ大ナルカ  
 小ナルカニ依テ應張力又ハ應壓力ガ誘起セラル。  
 $t$  ガ小ナレバ

$$(p - p')D = 2.S.t, \quad (p - p')D = 4.S.t.$$

此外壓力ヲ受クルトキノ關係式ハ場合ニヨリテハ  
 適用スル能ハズ。

例題 1. 徑18吋ノ鑄鐵製水管ガ水頭300呎ニ相當スル壓力ヲ  
 受クルトキハ其厚サヲ幾何ニナスベキカ。但鑄鐵ノ破壞抗張  
 強度ヲ20,000 呎/平方吋, 安全率ヲ15トス。

$$p = \frac{62.5}{144} \times 300 = 130.2 \text{ 呎/平方吋.}$$

(10) 式ヨリ

$$t = \frac{130.2 \times 18}{\frac{20,000}{15} \times 2} = 0.88 \text{ 吋.}$$

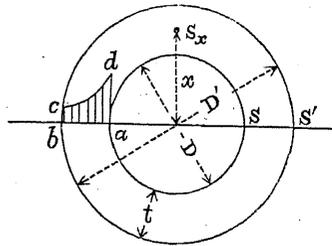
例題 2. 徑 24 吋, 厚サ  $\frac{3}{4}$  吋ナル鑄鐵製ノ球アリ. 之ヲ破裂セシムベキ壓力度如何.

(10<sub>a</sub>)式ヨリ

$$p = \frac{4 \times 20,000 \times \frac{3}{4}}{24} = 2,500 \text{ 呎/平方吋.}$$

15. 厚キ管 (Thick Pipes) 管ノ厚サが大ナルトキハ其軸ヲ含メル縦断面ニ於ケル應力ノ配布均等ナラズシテ  $S > S'$  ナリ (第 15 圖). 精確ナル解法ハ後章ニ譲リ茲ニは**ばあるら**公式 (Barlow's Formula) ニ就テ述ベントス.

第 15 圖



コレハ近似ノモノナレドモ此式ガ與フル最大單位應力ハ眞值ヨリ大ナルユエ實用上寧ロ安全ナリ. 此公式ニ於テハ水壓又ハ汽壓ガ管ノ内面ニ働キ其徑ガ増

大スルトモ管壁ノ容積ハ不變ナリト假定ス.

壓力ガ加ハル前ノ單位長サノ容積ハ  $\frac{\pi}{4}(D^2 - D'^2)$  ニシテ内外徑ガ夫々  $\Delta D, \Delta D'$  丈伸張セシトキノ容積ハ

$$\frac{\pi}{4} \left[ (D' + \Delta D')^2 - (D + \Delta D)^2 \right] = \frac{\pi}{4} \left[ (D'^2 + 2D'\Delta D') - (D^2 + 2D\Delta D) \right]$$

トナル. 然ルニ假定ニヨリ兩容積ハ等値ナルユエ  $D'\Delta D' = D\Delta D$  ヲ得. 原ノ圓周ハ夫々  $\pi D, \pi D'$  ニシテ此等圓周ノ變形ハ夫々  $\pi\Delta D, \pi\Delta D'$  ナルニヨリ單位伸張ハ夫々  $\frac{\Delta D}{D}, \frac{\Delta D'}{D'}$  ナリ. 而シテ彈性限度以内ナレバ  $S, S'$  ハ單位變形ニ正比例スルヲ以テ

$$\frac{S}{S'} = \frac{\frac{\Delta D}{D}}{\frac{\Delta D'}{D'}} = \frac{D'\Delta D}{D\Delta D'} = \frac{D'^2}{D^2} = \frac{r'^2}{r^2} \dots \dots \dots (11)$$

即チ單位應力ハ直徑又ハ半徑ノ自乗ニ反比例ス.

中心ヨリ  $x$  ナル距離ニ於ケル單位應力  $S_x$  ハ (11) 式ヨリ

$$S_x = \frac{S \cdot r^2}{x^2}$$

ニシテ  $(dx \times 1)$  ナル面積ニ於ケル應力ハ

$$S_x \cdot dx = S \cdot r^2 \cdot \frac{dx}{x^2}$$

$$\therefore p \cdot D = 2S \cdot r^2 \int_r^{r'} \frac{dx}{x^2} = 2S r^2 \left[ -\frac{1}{x} \right]_r^{r'} = \frac{2S \cdot r \cdot t}{r+t} = \frac{2S \cdot D \cdot t}{D+2t} \dots \dots \dots (12)$$

此式ヲ薄キ管ニ適用スレバ  $p \cdot D = 2 \cdot S \cdot t$  ヲ得. **ばあるら**公式ノ誤差ハ内徑ノ減少スルニ從ヒ増加スルユエ内徑ノ小ナル厚キ管ニ對シテハ之レヨリモ精確ナル他ノ公式ヲ使用スルヲ要ス.

第15圖ノ表圖abcdハ厚キ管ノ横斷面ニ於ケル應力ノ配布ヲ表ハシadハ内側, bcハ外側ニ於ケル應力ヲ表ハスモノナリ.

16. 温度ノ變化ニ基因スル應力 (Stresses due to Change in Temperature) 凡テ材料ハ温度ノ變化ニ伴ヒテ伸縮セントス. 若シ此變化ガ妨ゲラル、トキハ材料ニ應力ヲ生ズベシ. 今温度ノ變化ヲ $t^\circ$ , 伸縮係數即チ温度 $1^\circ$ ノ上昇又ハ降下ニ對スル單位長サノ伸縮ヲ $\alpha$ トスレバ單位長サノ伸縮ハ

$$\epsilon = \alpha \cdot t^\circ$$

之ニ外力ヲ加ヘテ原ノ長サニ復セシムルトキニ誘起セラル、單位應力ハ

$$S_t = \epsilon \cdot E = \alpha \cdot t^\circ \cdot E \dots \dots \dots (13)$$

ナリ. 又ハ材片ノ兩端ヲ堅固ニ支持シ温度ノ變化ガ起ルトキ自由ニ長サノ伸縮ヲナサシメザル場合ニ起ル應力モ亦  $S_t = \alpha \cdot t^\circ \cdot E$  ナリ.

伸縮係數表

材 料	伸縮係數每華氏一度
混凝土 1:2:4	0.000061
鑄 鐵	0.000062
鍊 鐵	0.000067
鋼	0.000065

次ニ箍鐵(Hoop-Iron)ヲ熱シテ圓壙ニ嵌メ收縮セシムルトキ之ニ誘起セラル、單位應力ハ第一章第6節(2)式ヲ適用シテ見出スヲ得. 即チ

$$E = \frac{P \cdot l}{A \cdot \Delta l}$$

此式ヲ用キテ單位應力ヲ見出スニハ箍鐵ヲ熱スル前ノ直徑 $D'$ ト圓壙ニ嵌メテ收縮セシムルトキノ直徑 $D$ トノ差ヲ知ラザルベカラズ. 而シテ此場合ノ影響ハ直徑ガ $D'$ ヨリ $D$ ニナル迄箍鐵ヲ引伸シタルト同様ナリ. 箍鐵ノ長サノ差ハ $\pi(D-D')$ ニシテ單位伸張ハ

$$\frac{\pi(D-D')}{\pi \cdot D} = \frac{D-D'}{D} \div \frac{D-D'}{D}$$

鋼箍鐵ナレバ  $\frac{D-D'}{D}$ ヲ約  $\frac{1}{1,500}$ ニ取ルヲ常トス. 圓壙材ハ箍鐵ヨリ壓力ヲ受ケテ變形スルニハ實際ニハ箍鐵及圓壙ノ終局ノ直徑ハ圓壙ノ原ノ直徑ヨリ少シク小ナルベキナリ. 而シテ此變形ハ圓壙及箍鐵ノ彈性係數ノ比並ニ此等ノ厚サニ因リテ異ナルモノナリ.

又圓壙ト箍鐵トノ接觸面ニ働ク半徑ノ方向ノ單位應力ハ(10)式ヨリ求ムルヲ得. 即チ

$$P = \frac{2S \cdot t}{D'}$$

例題 1. 長サ 30 呎ノ鋼軌條ガ 60° F ノ溫度變化ヲ受クルトキ自由ニ伸縮シ得ザリセバ之ニ誘起セラル單位應力如何.

但 E=29,000,000 呎/平方吋トス.

$$\text{單位伸張} = 0.0000065 \times 60 = 0.00039$$

(13) 式ヨリ

$$S_t = 29,000,000 \times 0.00039 = 11,310 \text{ 呎/平方吋.}$$

例題 2. 直徑 18 吋ノ圓鑄ニ厚サ 2 吋ノ鍊鐵箍輪ヲ嵌ムルトキ其内徑ヲ 17.98 吋ニ削上ゲ之ヲ熱シテ圓鑄ニ嵌メ然ル後ニ之ヲ冷シテ收縮セシメントス. 然ラバ鍊鐵ニ誘起セラル單位應力如何. 但 E=28,000,000 呎/平方吋トス.

$$S_t = \frac{18.000 - 17.98}{17.98} \times 28,000,000$$

$$= \frac{1}{900} \times 28,000,000 = 31,000 \text{ 呎/平方吋.}$$

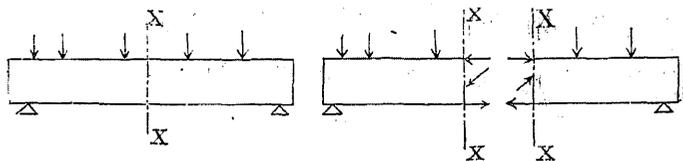
### 第三章 桁ニ關スル一般理論

(General Theory of Beams)

#### 17. 内カト外力 (Internal Stresses and External Forces)

桁ニ働ク外力ノ作用及外力相互ノ關係ニ就テハ第一篇靜力學ニ於テ論ジタレバ材料力學ノ篇ニ於テハ外力ノ作用ニ抵抗スル内力即チ應力ト其影響トニ就テ考究セントス.

第 16 圖 (a)



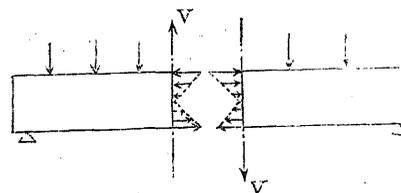
第 16 圖 (a) ノ如ク外力ヲ受ケタル一ツノ桁ヲ任意ノ鉛直斷面 XX ニテ切リテ考フレバ此斷面ニハ大サト方向トヲ異ニセル種々ノ未知應力ガ働クベシ. 而シテ桁ガ平衡ニアル以上ハ次ノ關係ガ成立セザルベカラズ. (上卷第 20 節公理參照)

桁ノ任意横斷面ニ於ケル内力即チ應力ハ其横斷面ノ各側ニ働ク外力ト平衡状態ニ在リ.

コレハ桁ノ理論ニ關シ最モ重要ナル原理ニシテ如何ナル桁ニモ適用セラルモノナリ.

斷面 XX ニ於ケル應力ヲ夫々水平分應力ト鉛直分應力トニ分チテ考フルニ水平分應力ノ若干ハ應張力ニシテ他ハ應壓力ナルベシ. 然ラバ平衡原則ニヨリ此等水平分應力ノ代數和ハ零ナリ. 又鉛直

第 16 圖 (b)



分應力ハ合シテ鉛直應剪カトナリ(第 16 圖 (b))之ハ該斷面ノ左側或ハ右側ニ働ク外力ノ代數和ニ等シ. 如斯ニシテ力ノ三平衡

條件ヨリ桁ノ任意横斷面ニ於ケル應力ニ關シテ次ノ法則ヲ得.

(1) 水平應力ノ代數和ハ零即チ水平應張力ノ和ハ

水平應壓力ノ和ニ等シ。

(2)鉛直應剪力ハ横斷面ノ各側ニ働ク外力ノ代數和ニ等シ。

(3)横斷面ニ於ケル應力ノ力率代數和ハ其斷面ノ各側ニ働ク外力ノ力率代數和ニ等シ。

以上三ツノ理論的法則ハ桁ニ關スル理論ノ基礎タリ。或斷面ニ於ケル鉛直分應力ノ代數和ヲ抵抗應剪力(Resisting Shear)ト名付ケ、其斷面中ノ或一定線ニ對スル水平分應力ノ力率代數和ヲ抵抗力率(Resisting Moment)ト名付ク。然ラバ

應張力ノ和ニ應壓力ノ和、

抵抗應剪力ニ鉛直剪斷力、

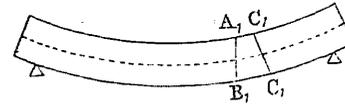
抵抗力率ニ彎曲率。

此等三方程式中第二ト第三ハ桁ニ關スル諸研究ヲナスニ當リ基本法則タルモノニシテ此等ハ任意横斷面ニ於ケル應力ト其斷面ノ各側ニ働ク外力トノ關係ヲ表示スルモノナリ。

18. 中立面ト中立軸(Neutral Surface and Axis) 桁ノ横斷面ニ於ケル應力ノ配布ガ未知ナル以上ハ單位應力ト外力トノ關係ハ力學法則ノミニ因リテ定ムルコト能ハズシテ實驗的法則ニ依ラザルベカラズ。桁ガ外力ノ作用ヲ受ケテ撓ムトキハ一面ハ凹面ヲ

呈シ他面ハ凸面ヲ呈スルヲ見ルベシ。然ラバ應張力ハ凸面ニ應壓力ハ凹面ニ誘起セラル、ヤ明カナリ。此等ノ事柄ハ桁ニ關スル實驗ニ於テ認メラル、ノミナラズ又桁ガ撓ム前ニ桁ノ側面ニ引キタルニツノ鉛直並行線ハ撓ミタル後モ亦直線ナレドモ其隔リハ凸面ニ於テ廣ク凹面ニ於テ狭キヲ認ムベシ(第17圖)。如斯ニシテ次ノ實驗法則ヲ得。

第 17 圖



(4)凸面ノ側ニ於ケル水平纖維(Horizontal Fiber)ハ伸張シ凹面ノ側ニ於テハ短縮ス。從ツテ其間ニ纖維ノ長サ不變ナル面アルベシ。此面ヲ中立面ト謂フ。

(5)任意ノ纖維ノ伸長又ハ短縮ハ中立面ヨリ其纖維ニ至ル距離ニ正比例ス

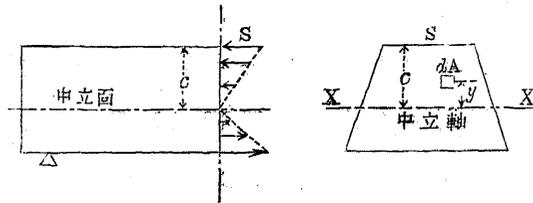
法則(5)ハ單位應力ガ材料ノ彈性限度以內ナルトキニ於テノミ眞ニシテ又此ノ限度以內ニテハ纖維應力ハ單位縱變形ニ正比例スルヲ以テ

(6)水平應力ハ中立面ヨリノ距離ニ正比例ス。

以上ノ法則ニヨリ中立面ノ位置ヲ定ムルヲ得.

第18圖ニ於テ $dA$ ハ或纖維ノ横斷面積, $y$ ハ中立面ヨリ $dA$ 迄ノ隔リ, $S$ ハ $c$ ナル隔リニアル最モ遠キ纖

第 18 圖



維ノ單位應力ナリ. 然ラバ第六法則ニヨリ $y$ ナル隔リニ於ケル單位應力ハ $\frac{S \cdot y}{c}$ ニシテ $dA$ ニ働ク水平應力ハ $\frac{S}{c} \cdot y \cdot dA$ ナルヲ以テ

$$\frac{S}{c} \int y \cdot dA = \text{全横斷面} = \text{働ク水平應力ノ代數和}$$

第17節第一法則ニ由リ此代數和ハ零ナラザルベカラズ即チ

$$\int y \cdot dA = 0$$

桁ノ材質ガ齊等ナラバ此條件ハ面率軸ガ横斷面ノ中心ヲ通過スルトキニ於テ満足サルベシ. 即チ桁ノ中立面ハ横斷面ノ中心ヲ通過スベキナリ. 而シテ横斷面ト中立面トノ交線ヲ横斷面ノ中立軸ト謂フ.

纖維ノ水平單位應力ガ材料ノ彈性限度ヲ超過スルニ至レバ第五實驗法則ヲ適用スル能ハズ. 從テ中立面ハ最早横斷面ノ中心ヲ通過セズ. 然ラバ普通ノ彎曲理論ハ單位應力ガ彈性限度以內ナル場合ニ限リ適用セラル、モノト知ルベシ.

實驗法則第五ニヨリ

$$\frac{S_1}{S} = \frac{c_1}{c}, \text{ 即チ } \frac{S_1}{c_1} = \frac{S}{c} \dots \dots \dots (14)$$

此式ニ於テ $S$ =中立面ヨリ最モ遠キ距離 $c$ ニ於ケル單位應力,

$S_1$ =中立面ヨリ $c_1$ ナル距離ニ於ケル單位應力.

19. 抵抗應剪力公式ト抵抗力率公式 (Shear and Flexure Formulae) 桁ノ横斷面積ヲ $A$ ,單位應剪力ヲ $S_s$ トシ此 $S_s$ ガ横斷面全部ニ於テ均等ナリトセバ

$$\text{抵抗應剪力} = S_s \cdot A.$$

コレト同一横斷面ニ於ケル鉛直剪斷力ヲ $V$ トスレバ

$$S_s \cdot A = V, \text{ 即チ } S_s = \frac{V}{A} \dots \dots \dots (15)$$

是レ桁ニ於ケル應剪力ニ關スル基本公式ニシテ之ヲ抵抗應剪力公式ト稱ス.

次ニ前節ニ於テ與ヘタル如ク中立軸ヨリ $y$ ナル距離ニ於テ $dA$ ナル斷面積ヲ有スル纖維ノ水平應力

ハ  $\frac{S}{c} \cdot y \cdot dA$  ニシテ中立軸ニ對スル此應力ノ力率ハ  $\frac{S}{c} \cdot y^2 \cdot dA$  ナリ。

∴  $\frac{S}{c} \int y^2 \cdot dA =$  横斷面ノ中立軸ニ對スル全  
水平應力ノ力率代數和。

之ハ第17節ノ定義ニヨリ抵抗力率ニシテ  $\int y^2 \cdot dA$  ハ  
中立軸ニ對スル横斷面ノ慣性能率ナリ。之ヲ  $I$  ニ  
テ表ハセバ

$$M = \frac{S \cdot I}{c}, \text{ 又ハ } S = \frac{M \cdot c}{I} \dots \dots \dots (16)$$

此式ニ於テ  $M =$  任意横斷面ノ左(又ハ右)側ニ働ク外  
力ノ力率,

$I =$  中立軸ニ對スル該斷面ノ慣性能率,  
 $c =$  中立軸ヨリ最モ遠キ纖維ニ至ル距  
離,

$S =$  斷面中ノ最大單位應力。

(16)式ハ一ツノ横斷面ニ於ケル彎曲率ト單位應力  
トノ關係ヲ表ハスモノニシテ桁ノ水平應張力及水  
平應壓力ニ關スル基本公式タリ。之ヲ抵抗力率公  
式ト稱ス。

20. 公式適用上ノ注意 横斷面ノ均等ナル單桁  
ノ破壊ハ其中央又ハ中央ニ近キ所ニ於ケル水平應

力ニ基因スルモノニシテ支端ニ於ケル剪斷力ニ原  
因スルコト稀ナルハ實驗上知ラル、所ナリ。從ツ  
テ桁ニ關スル實地問題ヲ解クニ當リテ普通ニ使用  
セラル、ハ抵抗力率公式ニシテ只短徑間ノ桁ニ向  
ツテノミ抵抗應剪力ヲ考フ。横斷面ノ不等ナル桁  
ニ向ツテハ(15),(16)兩式ハ共ニ重要ナリトス。

(15)式ニヨリ鉛直剪斷力ト作用抗剪強度トヲ知  
リテ横斷面ヲ定メ若クハ鉛直剪斷力ト斷面積トヲ  
知リテ單位應剪力ヲ定ムルコト容易ナリ。

(16)式ハ前述ノ如ク之ヲ求ムルニ當リ次ノ條件ヲ  
假定セリ。

(第一) 材質ハ齊等且彈性ニシテ應力ト變形トハ  
正比例スルモノト假定セシ故彈性係數ハ  
常數ナルベキナリ。

(第二) 單位應力ハ中立軸ヨリノ距離ニ正比例ス。

(第三) 凡テ單位應力ハ彈性限度ヨリ小ナルモノ  
トス。

此等ノ條件ヲ滿タサルトキハ(16)式ガ與フル單位  
應力ノ値ハ眞ナラザルヤ明カナリ。若シ(16)式ガ破  
壞ノ場合ニモ正シク適用セラル、モノナラバ此式  
ヨリ求メタル  $S$  ノ値ハ材料ノ破壊抗張強度若クハ  
破壊抗壓強度ノ中孰レガ小ナル強度ノ値ト一致ス

ベキ筈ナルニ其値ハ常ニ兩者ノ中間ニ在リ。然ラバ(16)式ヨリ得タル此Sノ値ハ近似的ノモノナレドモ大略ノ比較考究ヲナス場合又ハ石材ノ如キ材料ニ向ツテハ現今尙使用セラル。此ノ如ク破壊ノ際ニ於ケルSノ値ヲ彎折係數 (Modulus of Rupture) 又ハ破壊抗曲強度 (Ultimate Flexural Strength) ト謂フ。鍊鐵及建築用鋼ノ如キ延性材料ヨリ成レル桁ガ荷重ヲ受クルトキハ他ノ材料ノ如クニ折裂ニヨリテ破壊セザルユエ直ニ破壊抗曲強度ヲ定ムル能ハズ。

材料	破壊抗曲強度
杉	8,000 听每平方吋
檜	10,000
松	11,000
樅	11,000
栗	11,000
鑄鐵	35,000
鍊鐵	55,000
中鋼	75,000
花崗石	1,600
石灰石	1,500
砂石	1,200
混凝土	400

(1:2:4)

(16)式ハ桁ニ於ケル彎曲率ト單位應力トノ關係ヲ表ハシ桁ノ強サ、安全ノ度並ニ設計ニ關スル總テノ計算ニ用キラル。Mヲ知レバS又ハ $\frac{I}{c}$ ノ値ヲ見出スヲ得。而シテ $\frac{I}{c}$ ノ値ハ桁ノ材料ト荷重トニハ無關係ニシテ單ニ横斷面ノ形ト面積ノ大小トニヨル。依テ之ヲ斷面係數 (Section Modulus or Section Factor) ト稱ス。一ツノ横斷面ニ於ケル最大單位應張力又ハ最大單位應壓力ヲ求メントセバM, I 及 cヲ算出シテ之ヲ(16)式ニ代入スベシ。若シ桁ニ於ケル絶對最大單位應力ヲ知ラントセバ絶對最大彎曲率ヲ求メ之ヲ(16)式ニ代入スベシ。(16)式適用ニ際シ注意スベキハ各項ノ單位ニシテ例ヘバSガ听每平方吋ニテ與ヘラル、トキハMノ單位ハ听吋 (lb.-ins.), c 及 Iノ單位ハ吋ナリトス。

21. 經濟的横斷面 (Economic Sections) 一般ニ構造物ノ設計ニ關シニツノ根本目的アリ。即チ安全ト經濟トニ關スル事是レナリ。桁ノ場合ニ於テ安全ノ度ヲ適當ナラシムルニハ最大單位水平應力ヲシテ適度ノ作用強度ヨリ超過セシムベカラズ。又經濟上最大單位水平應力ガ作用強度ヨリモ餘リ小ナラザル様斷面ノ割合ヲ定ムルヲ要ス。然ラバ最モ危険ナル横斷面即チ絶對最大彎曲率ノ起ル斷面ニ於テ

水平單位應力ヲシテ適度ノ作用強度ニ等シカラシムレバ通常二ツノ根本目的ヲ達スルヲ得ベシ。又以上ノ條件ノ下ニ横斷面ノ形狀ハ桁ノ重量ヲシテ出來得ル限り小ナラシムル如キモノナルヲ要ス。

或斷面中ノ一點ニ於ケル水平單位應力ハ中立軸ヨリ其點迄ノ距離ニ正比例スルヲ以テ與ヘラレタル  $M$  ト  $S$  トノ値ニ對シ  $A$  ヲ小ナラシムルニハ一般ニ桁ノ深サヲ大キクスベキナリ。例ヘバ幅  $b$ 、高サ  $d$  ナル矩形横斷面ヲ考フルニ  $b$  邊ニ並行ナル中立軸ニ對スル  $I$  ハ  $\frac{1}{12}bd^3$  ニシテ  $c$  ハ  $\frac{d}{2}$  ナルユエ

$$\frac{1}{6}bd^2 = \frac{M}{S}, \text{ 即チ } A = \frac{6M}{S \cdot d}.$$

此式ガ示ス如ク  $M$  ト  $S$  トノ與ヘラレタル値ニ對シテ  $d$  ヲ増セバ増ス程  $A$  ハ小ニナルベキモ  $b$  ト  $d$  トノ比ガ適度ナラザレバ幅狭キ斷面トナリ安定上桁トシテ不適當ナル形トナル。從ツテ  $b:d$  ナル比ニ制限アリテ木材桁ニ於テ最小限度ハ約  $\frac{1}{6}$  ナルガ實用上  $\frac{1}{2}$  乃至  $\frac{2}{3}$  位ガ適當ナルベシ。

$M = \frac{S \cdot I}{c}$  ニ於テ與ヘラレタル  $S$  ノ値ニ對シテ桁ノ耐ヘ得ル  $M$  ノ値ヲ大ナラシムルニハ  $\frac{I}{c}$  即チ斷面係數ヲ大ナラシメザルベカラズ。而シテ  $\frac{I}{c}$  ヲ大ナラシムニハ中立軸ヨリ遠キ部分ノ面積ヲ大ナラシム

ベキナリ。I 字形鋼桁ノ如キハ此適例ナリ。

桁ガ彎曲率ニ對シテ安全ナレバ剪斷力ニ對シテモ亦安全ナルヲ通例トス。然レドモ桁ノ大サニ關シテ最終ノ決定ヲナスニハ選擇シタル斷面ガ剪斷力ニ對シ安全ナルヤ否ヤ檢算ヲナスベキナリ。

丸太ヨリ最モ強キ矩形横斷面ノ桁ヲ切取ルニハ如何ニナス

ベキカ。第19圖ニ於テ  $D$  ナル直徑ノ圓ヲ丸太ノ斷面トシ  $AEBF$  ナル矩形ヲ此丸太ヨリ切取リタリトスレバ

$$b^2 + d^2 = D^2,$$

$$\frac{I}{c} = \frac{1}{6}bd^2 = \frac{1}{6}b(D^2 - b^2).$$

最モ強キ桁ハ最モ大ナル斷面係數ヲ有スルモノナルヲ以テ  $b$  ト  $d$  トノ値ハ  $b \cdot d^2$  即チ  $b(D^2 - b^2)$  ヲ最大ナラシムルモ

ノナラザルベカラズ。  $b(D^2 - b^2)$  ヲ  $b$  ニ就テ微分シ第一次微分係數ヲ零ト置キテ得タル値ハ所要ノモノナリ。

$$D^2 - 3b^2 = 0, \text{ 即チ } b = \sqrt{\frac{1}{3}}D, \text{ 從ツテ } d = \sqrt{\frac{2}{3}}D$$

第19圖ニ於テ  $\triangle ABE$  ト  $\triangle ACE$  トハ相似ナルヲ以テ

$$\overline{AE}^2 = \overline{AB} \cdot \overline{AC}, \text{ 即チ } b^2 = D \cdot \overline{AC}$$

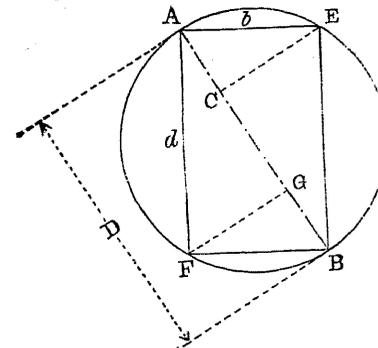
$$\therefore \frac{D^2}{3} = D \cdot \overline{AC}, \overline{AC} = \frac{1}{3}D$$

同様ニシテ

$$\overline{BG} = \frac{1}{3}D$$

故ニ直徑  $AB$  ヲ三等分シテ其分割點  $C$  及  $G$  ヲヨリ  $AB$  = 直角 =  $CE$ ,  $GF$  ヲ引キ此等方圓ト交ル點  $E, F$  ト  $A, B$  點トヲ連結シテ得ラル

第 19 圖



、矩形 AEBF へ上叙ノ關係ヲ滿タスモノナリ。

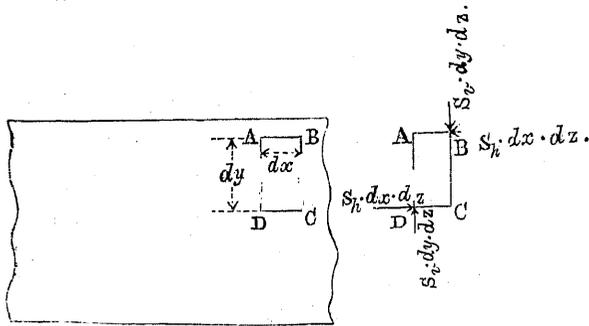
$$\frac{\text{角材ノ強サ}}{\text{丸太ノ強サ}} = \frac{\frac{1}{6}bd^2}{\frac{\pi}{32}(\sqrt{b^2+d^2})^3} = \frac{\frac{1}{6}bd^2}{\frac{\pi}{32}(1.23)^3d^3} \doteq 0.65$$

斯ク最モ強キ矩形横断面ノ桁ノ強サハ丸太ノ強サノ約六割五分ナリ。

22. 應剪力ノ配布 (Distribution of Shearing Stress)

(15)式ニ於テハ應剪力ハ横断面ニ均等ニ配布セラ  
ル、モノト假定セシモ實際ハ然ラズシテ断面中ノ  
各部分ニ於テ其値ヲ異ニス。而シテ互ニ直角ヲナ

第 20 圖



セル二断面ニ於ケル單位應剪力ガ相等シキコトハ  
第一章第 8 節ニ於テ證明セシガ桁ニ於テモ亦是レ  
ト同様ノ關係アリ。

第 20 圖ニ於テ ABCD ヲ桁ヨリ切取リタル微小ナ  
ル直並行六面體トシ其三邊ノ長サヲ dx, dy, dz トス。  
dx 間ノ荷重ハ極少ナレバ之ガ應剪力ニ及ボス影響

ハ省略スルヲ得ルヲ以テ此並行六面體ノ兩側鉛直  
面ニ於ケル鉛直單位應剪力 \$S\_v\$ ハ相等シク且頂面及  
底面ニ於ケル水平單位應剪力 \$S\_h\$ モ亦相等シカル  
ベキナリ。然ラバ兩側鉛直面ニ於ケル全應剪力ハ  
\$S\_v \cdot dy \cdot dz\$, 頂面及底面ニ於ケル全應剪力ハ \$S\_h \cdot dx \cdot dz\$ ニシ  
テ此並行六面體ガ平衡ヲ保ツ爲メニハ任意ノ點 A  
ニ對スル力率ノ代數和ガ零ナラザルベカラズ。即  
チ

$$\sum M_A = S_v \cdot dy \cdot dz \cdot dx - S_h \cdot dx \cdot dz \cdot dy = 0,$$

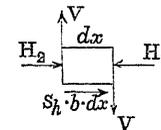


$$\therefore S_v = S_h.$$

如斯ニ應剪力ハ一ツノ面ニ沿ヒテノミ存在スル能  
ハズシテ必ズ其面ト直角ヲナセル面ニ於テ等大ノ  
應剪力ガ伴フモノナリ。

第 21 圖ノ如ク桁ノ上半部ヨリ桁ノ軸ニ並行ナル  
面ト垂直ナル面トヨリ成レル直並行六面體ヲ切取

第 21 圖



リ  $dx$  ヲ其長サ,  $b$  ヲ其幅, 中立軸ヨリ下面迄ノ距離ヲ  $y_1$  及桁ノ頂面迄ノ距離ヲ  $c$  トス. 此直並行六面體ノ各ノ側面ニ於ケル單位應力ハ中立軸ヨリノ距離ニ正比例スルヲ以テ其頂面ニ於ケル單位應力ヲ  $S$  トシ中立軸ヨリ  $y$  ナル距離ニ於ケル細微面積ヲ  $dA$  トセバ

$$\frac{S}{c} \cdot y \cdot dA = \text{中立軸ヨリ } y \text{ ナル距離ニ於ケル}$$

$dA$  = 働ク力.

直並行六面體ノ各ノ側面ニ働ク水平應力ノ和ヲ  $H$  ニテ表ハセバ

$$H = \frac{S}{c} \int_{y_1}^c y \cdot dA = \frac{M}{I} \int_{y_1}^c y \cdot dA.$$

長サ  $dx$  ナル並行六面體ノ兩側ニ於ケル彎曲率ヲ夫々  $M_1, M_2$  トシ各側ニ於ケル應力ノ和ヲ  $H_1, H_2$  トスレバ

$$M_1 - M_2 = dM, \quad H_1 - H_2 = \frac{dM}{I} \int_{y_1}^c y \cdot dA.$$

平衡ヲ保ツ爲メニハ  $(H_1 - H_2) =$  等シキ力ガ加ヘラレザルベカラズ. 而シテ此力ハ  $(dx \times b)$  ナル面積ニ於ケル應剪力ノ和ニ等シカルベシ. 此和ガ水平應剪力ニシテ

$$\frac{H_1 - H_2}{b \cdot dx} = \text{中立軸ヨリ } y_1 \text{ ナル距離ニ於ケル}$$

水平單位應剪力  $S_h$ .

即チ

$$S_h = \frac{dM}{dx} \cdot \frac{1}{I \cdot b} \int_{y_1}^c y \cdot dA = \frac{V}{I \cdot b} \int_{y_1}^c y \cdot dA \dots \dots \dots (17)$$

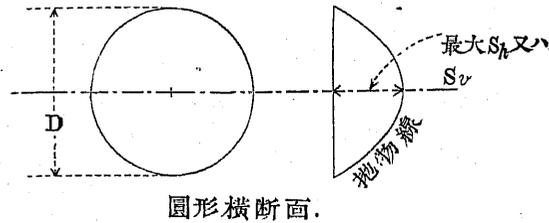
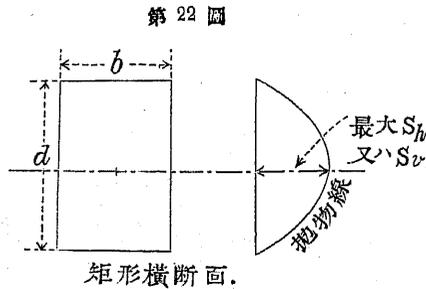
桁ノ中立面以下ニ於テ並行六面體ヲ切取ルトモ以上ノ理論ハ等シク眞ニシテ上式ハ或横斷面ニ於テ中立軸ヨリ  $y_1$  ナル距離ニ於ケル單位應剪力ヲ與フルモノナリ.  $b$  ハ中立軸ヨリ  $y_1$  ナル距離ニ於ケル桁ノ幅,  $I$  ハ全横斷面ノ慣性能率,  $\int_{y_1}^c y \cdot dA$  ハ中立軸ヨリ  $y_1$  ナル距離ヨリ上ノ部分ノ横斷面ノ面積ナリ. 而シテ中立軸ヨリ此部分ノ面積ノ中心迄ノ距離ヲ  $\bar{y}'$  トシ其面積ヲ  $A'$  トスレバ  $\int_{y_1}^c y \cdot dA = A' \cdot \bar{y}'$  ナルユエ

$$S_h = \frac{V}{I \cdot b} \cdot A' \cdot \bar{y}' \dots \dots \dots (18)$$

$y_1 = c$  ナル縁維(中立軸ヨリ最モ遠キ纖維)ニテハ  $A' \cdot \bar{y}' = 0$  即チ  $S_h = 0$  ナリ.  $y_1 = 0$  即チ中立軸ニ於テハ  $A'$  ハ中立軸ヨリ上ノ部分ノ全面積トナリテ  $S_h$  ノ値ハ最大ナリ. 又  $S_h$  ハ  $V$  ニ正比例スルユエ鉛直剪斷力ガ絶對最大ナル如キ横斷面ノ中立面ニ於テ  $S_h$  ノ値ハ絶對最大ナリ. (18)式ニ於テ  $S_h$  ハ桁ノ横斷面ノ各點ニ於テ其値ヲ異ニス從テ  $S_h$  モ亦同様ニ變化

スルモノナリ。

第22圖ノ如ク横断面矩形ナレバ(18)式ヨリ



$$\begin{aligned} \text{最大 } S_h \text{ 又ハ } S_v &= \frac{V}{\frac{1}{12} b \cdot d^3 \times b} \times \frac{b \cdot d}{2} \times \frac{d}{4} \\ &= \frac{3V}{2b \cdot d} = \frac{3}{2} \cdot \frac{V}{A} \end{aligned}$$

即チ最大鉛直又ハ水平單位應剪力ハ平均ノ値ヨリ大ナルコト其二分ノ一ナリ。又横断面圓形ナレバ

$$\text{最大 } S_h \text{ 又ハ } S_v = \frac{V}{\frac{1}{64} \pi D^4 \times D} \times \frac{\pi D^2}{8} \times \frac{2D}{3\pi} = \frac{4}{3} \cdot \frac{V}{A}$$

即チ最大鉛直又ハ水平單位應剪力ハ平均ノ値ヨリ

其三分ノ一丈ケ大ナリ。而シテ此等應剪力ノ變化ハ拋物線ニテ表ハサル。何トナレバ(17)式ヨリ

$$S_h = \frac{V}{I \cdot b} \int_{y_1}^c y \cdot b \cdot dy = \frac{V}{2I} \left[ y^2 \right]_{y_1}^c = \frac{V}{2I} (c^2 - y_1^2)$$

トナリ之ハーツノ拋物線ヲ表ハス。

抵抗力率公式ヨリ求メタル單位應力ガ安全ナル値ナラバ其桁ハ與ヘラレタル荷重ニ對シテ安全ナルヲ常トス。尤モ桁ノ徑間短ク且桁ノ高サ大ナルトキハ中立面ニ沿ヒテ働ク水平單位應剪力ガ作用抗剪強度ヲ超過スルコトアリ。而シテ木材ノ木理ニ沿ヒタル破壊抗剪強度ハ小ナルユエ木桁ニ於テハ殊ニ如斯基場合ニ就キ考フル必要アルベシ。

23. 等強桁 (Beams of Uniform Strength) 一般ニ彎曲率ハ桁ノ諸断面ニ於テ其値ヲ異ニスルユエ桁ノ横断面ガ均等ナラバ桁中ノ或部分ノミ作用強度ニ等シキ應力ヲ受ケ他ノ部分ハ之レヨリモ小ナル應力ヲ受クベシ。即チ桁ノ一部分ノミ適當ノ横断面ヲ有シ他ノ部分ハ必要以上ノ強サヲ有スベク材料使用上不經濟ナリ。桁ノ横断面ヲ適當ニ變ズレバ各断面ノ最大應力ヲシテ同値ナラシムルヲ得ベク如斯基桁ヲ名付ケテ等強桁ト謂フ。尤モ彎曲率ニ應ジテ容易ニ横断面ヲ變ジ得ルカ若クハ特殊ノ場

合ノ外材料ノ節約ト等強ニナスガ爲メニ要スル費用ノ増加ト相償ハザルコト多シ。

横断面均等ナル桁ニアリテハ何レノ横断面ニ於テモ  $\frac{I}{c}$  ナル値ハ同一ナリ然レドモ彎曲率  $M$  ハ變ズルユエ  $S$  ガ常數ナルタメニハ(16)式ガ示ス如ク  $\frac{I}{c}$  ハ  $M$  ニ正比例シテ變ズベキナリ。

矩形横断面ノ桁ニアリテハ  $\frac{I}{c} = \frac{1}{6}bd^2$ ,  $M = \frac{Sbd^2}{6}$  ニシテ  $b$  又ハ  $d$  孰レカヲ變ジテ  $bd^2$  ト  $M$  トガ正比例スル様ニナセバ等強桁ガ得ラルベシ。  $b$  ヲ常數トスレバ  $d = \left(\frac{6M}{Sb}\right)^{\frac{1}{2}}$  ニシテ桁ノ高さハ彎曲率ノ平方根ニ正比例ス。又  $d$  ヲ常數トスレバ  $b = \frac{6M}{Sd^2}$  ニシテ桁ノ幅ノ變化ハ彎曲率表圖ト同様ノ曲線ニテ表ハサル。

例ヘバ突桁ガ單位長さニ付キ  $w$  ナル等布荷重ヲ受クルトキハ  $\frac{1}{6}Sbd^2 = \frac{1}{2}wx^2$  ニシテ  $b$  ヲ常數トスレバ  $d = \sqrt{\frac{3w}{Sb}}x$  即チ  $d$  ハ  $x$  ニ正比例シ側面形ハ三角形トナル。

彎曲率ノミ考フレバ  $M=0$  ナル断面ニ於ケル面積ハ零ナリ。然レドモ  $M=0$  ナル断面ニ於テ  $V=0$  ナラザルトキハ鉛直剪斷力ヨリ生ズル應剪力アルユエ其断面面積ハ(15)式ヨリ定ムベキナリ。

## 24. 桁ニ關スル三問題

問題I. 一ツノ桁ガ或荷重ニ對シテ安全ナルヤ否ヤヲ知ルコト 先ヅ絶對最大彎曲率、断面面積  $A$  及  $\frac{I}{c}$  ヲ見出シ(16)式ヨリ單位應張力及單位應壓力ヲ求ムベシ。又必要ニ應ジテ絶對最大鉛直剪斷力ヲ見出シ(15)式又ハ(17)式ヨリ單位應剪力ヲ求ムベシ。而シテ此等ヲ作用強度ト比較スレバ其桁ガ安全ナルヤ否ヤヲ判定スルヲ得ベシ。

桁ノ自己重量ヨリ生ズル彎曲率ガ荷重ヨリ生ズル彎曲率ノ一割以内ナレバ自己重量ヲ考ヘズシテ可ナリ。例ヘバ桁ノ中央ニ一ツノ集中荷重  $W$  ヲ加フルトキ之ヨリ生ズル最大彎曲率ハ  $\frac{1}{4}Wl$  ニシテ自己重量ヨリ生ズル最大彎曲率ハ  $\frac{1}{8}W'l$  ナリ。但シ  $l$  ハ徑間、 $W'$  ハ桁ノ自己重量ナリトス。然ラバ  $\frac{1}{8}W'l < \left(\frac{1}{4}Wl \times \frac{1}{10} = \frac{1}{40}Wl\right)$  即チ  $5W' < W$  ナルトキハ自己重量ヲ考ヘズシテ可ナリ。

例題 幅8吋、高さ10吋、徑間20呎ナル木材單桁ガ延長一呎ニ付キ80呎ノ等布荷重ヲ受クルトキ此桁ハ安全ナリヤ。但作用抗張又ハ抗壓強度ヲ1,000呎毎平方吋及作用抗剪強度ヲ80呎毎平方吋トス。

$$\text{最大 } M = \frac{wl^2}{8} = \frac{80 \times 20^2 \times 12}{8} = 48,000 \text{ 呎吋},$$

$$\frac{I}{c} = \frac{1}{6}bd^2 = \frac{8 \times 10^2}{6} = \frac{400}{3} \text{ 吋}^3,$$

$$\therefore \text{最大單位應力 } S = \frac{M \cdot c}{I} = \frac{48,000 \times 3}{400} = 360 \text{ 昕/平方吋.}$$

又 反力 = 800 昕,

$$\therefore S_s \text{ノ平均値} = \frac{800}{80} = 10 \text{ 昕/平方吋.}$$

断面 = 於ケル最大單位應剪力 =  $\frac{3}{2} \times 10 = 15$  昕/平方吋.

故ニ此桁ハ與ヘラレタル荷重ニ對シテ安全ナリ

問題 II. 桁ガ支ヘ得ル安全荷重 (16)式ニ於テ S  
ヲ作用強度ニ取リテ得タル M ノ値ハ桁ガ耐ヘ得ル  
最大彎曲率ニシテ此値ヨリ桁ガ安全ニ支ヘ得ル荷  
重ヲ定ムルヲ得.

例題 茲ニ高サ 10 吋, 長サ一呎ニ付キ重量 25 昕ノ I 字形鋼桁  
アリ. 之ヲ支間 16 呎ノ單桁トシテ使用セントス. 此桁ガ支ヘ得  
ル安全等布荷重ハ幾何ナリヤ. 但作用強度ハ 16,000 昕/平方吋  
製造所製品目錄ニ依リ

$$\frac{I}{c} = 24.4 \text{ 吋}^3, \text{ 最大抵抗力率} = 16,000 \times 24.4 = 390,400 \text{ 昕吋.}$$

$$\therefore \frac{W \times 16 \times 12}{8} = 390,400,$$

即チ 全等布荷重 = 16,270 昕. (自己重量ヲ含ム)

又 鋼桁腹ノ横斷面積 =  $0.31 \times 10 = 3.1$  平方吋

鋼桁腹ハ断面ノ剪斷力ニ抵抗スルモノナルヲ以テ

$$S_s \text{ノ平均値} = \frac{V}{A} = \left( \frac{16,270}{2} \right) \div 3.1 = 2,630 \text{ 昕/平方吋.}$$

凡テ鋼桁ノ腹材ニ於ケル作用抗剪強度ハ 10,000 昕/平方吋ナルヲ  
以テ此例題ノ鋼桁ハ剪斷力ニ對シテモ亦安全ナリ.

問題 III. 桁ノ設計 桁ノ設計ハ其長サ, 荷重及作  
用強度ガ與ヘラレテ断面係數ヲ求メ之ニヨリテ斷

面ヲ定ムルニ在リ. 然ラバ其解法一ナラズシテ斷  
面ノ形狀ト大サトヲ決定スルニハ設計者ノ判斷ヲ  
要ス.

例題 1. 茲ニ長サ 8 呎ノ矩形横斷面ノ木材突桁アリ. コレ  
ガ其放端ニ於テ 500 昕ノ集中荷重ヲ安全ニ支フルニハ断面ノ大  
サナ幾何ニナスベキカ. 但木材ノ作用強度ヲ 1,000 昕每平方吋  
トス.

$$\text{最大 } M = 500 \times 8 \times 12 = 48,000 \text{ 昕吋.}$$

$$\therefore 1,000 \times \frac{bd^2}{6} = 48,000, \quad bd^2 = 288 \text{ 吋}^3.$$

即チ

$$b = 5 \text{ 吋トスレバ } d = 8 \text{ 吋.}$$

此荷重ニ對スル最大單位應剪力ハ

$$S_s = \frac{3}{2} \frac{V}{A} = \frac{3 \times 500}{2 \times 40} = 18.8 \text{ 昕/平方吋.}$$

之ハ作用抗剪強度ニ比シ遙ニ小ナルユエ剪斷力ニ對シテモ亦  
安全ナリ.

例題 2. 支間 24 呎ノ鋼 I 字形單桁アリ. 之ヲシテ延長一呎ニ  
付キ 1,100 昕ノ等布荷重ヲ安全ニ支ヘシメントス. 其寸法如何  
但鋼ノ作用強度ヲ 16,000 昕/平方吋トス.

$$\text{最大 } M = \frac{1,100 \times 24^2 \times 12}{8} \text{ 昕吋,}$$

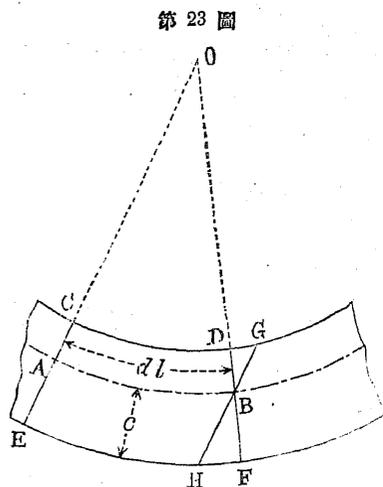
$$\therefore \frac{M}{S} = \frac{I}{c} = \frac{1,100 \times 24^2 \times 12}{8 \times 16,000} = 59.4 \text{ 吋}^3.$$

高サ 15 吋, 延長一呎ノ重量 45 昕ナル I 字形ノ断面係數ハ 60.8 吋<sup>3</sup>  
(製造所製品目錄ヲ見ヨ)ナルユエ此寸法ノモノヲ用フレバ可ナ  
リ.

### 第四章 桁ノ撓度

(Deflection of Beams)

25. 彈曲線ノ方程式 (Equation of Elastic Curve) 桁ガ彎曲スレバ其中立面ハ曲面トナル。此曲面ヲ桁ノ軸ニ並行ナル鉛直面上ニ投射シタル曲線ヲ名付ケテ彈曲線ト謂フ。此曲線ガ  $y=f(x)$  ナル方程式ニテ表ハサル、ナラバ桁ノ一點ニ於ケル撓度ハ容易ニ見出サルベシ。但  $y$  ハ桁ノ左支端ヨリ  $x$  ナル距離ニ於ケル點ノ撓度ナリ。



第23圖

第23圖ハ撓ミタル桁ノ一部分ヲ表ハスモノニシテ  $dl$  ハ彈曲線ノ細微部分ナリ。而シテ  $O$  ハ彎曲ノ中心ニシテ  $OA, OB$  ハ半徑ナリ。彎曲ガ起ル前ハ  $OA, OB$  ハ並行ナリシユエ  $DF$  ハ  $CE$  ニ並行ナル位置  $GH$  ニ在リシト考フルヲ得。

又  $c$  ハ中立面ヨリ最モ遠キ縁面迄ノ距離ナリ。然

ラバ縁維ノ變形ハ  $HF$  ニシテ單位變形ハ  $\frac{HF}{dl}$  ナリ。彈性係數ヲ  $E$  トシ縁維ノ單位應力ヲ  $S$  トスレバ  $HF = \frac{S \cdot dl}{E}$  ナリ。而シテ  $\triangle BHF$  ト  $\triangle OAB$  トハ相似ナルユエ

$$\frac{HF}{AB} = \frac{BF}{OB}, \quad \frac{S \cdot dl}{E \cdot dl} = \frac{c}{r} \quad \text{即チ} \quad \frac{S}{E} = \frac{c}{r}$$

然ラバ(16)式ニヨリ

$$\frac{M}{I} = \frac{E}{r}, \quad \text{即チ} \quad r = \frac{E \cdot I}{M} \dots \dots \dots (19)$$

之ハ彈曲線ノ方程式ニシテ任意ノ點ニ於ケル彈曲線ノ曲度半徑 (Radius of Curvature) ヲ彈性係數其點ニ於ケル彎曲率及慣性能率ニテ表ハセルモノナリ。

$r$  ヲ正座標ニテ表ハセバ豫備數學第六章第40節ニヨリ

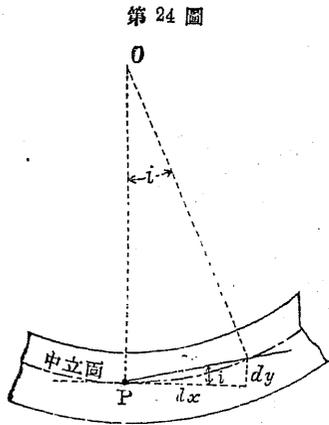
$$r = \frac{\left[1 + \left(\frac{dy}{dx}\right)^2\right]^{\frac{3}{2}}}{d^2y/dx^2}$$

普通ノ構造物ニ於テハ一般ニ桁ノ撓度小ナルユエ曲線上ノ一點ニ於ケル切線ガ  $X$  軸トナス角度ノ正切ノ値ハ至ツテ小ナリ。從テ  $\left(\frac{dy}{dx}\right)^2$  ハ  $1$  ニ比シテ省略スルヲ得。然ラバ

$$r = \frac{1}{d^2y/dx^2} = \frac{E \cdot I}{M}, \quad \text{即チ} \quad E \cdot I \frac{d^2y}{dx^2} = M \dots \dots \dots (20)$$

是レ桁ノ彈曲線ノ一般微分方程式ナリ。此式ニ於テ  $y$  ハ  $w$  フ横距トセル點ニ於ケル彈曲線ノ縱距即チ其點ノ撓度ニシテ  $M$  フ  $w$  ノ函數ニテ表ハシ二度積分スレバ  $w$  ト  $y$  トノ關係ヲ得。

(20)式ハ  $E$  フ含ムユエ單位應力ハ彈性限度以內ナラザルベカラズ。又(16)式ヲ用キシユエ(20)式ヲ適用スル際ニハ(16)式ノ條件ニ注意スベシ。又(20)式ハ  $\left(\frac{dy}{dx}\right)^2$  フ省略セルモノナレドモ普通ノ場合ニハ撓度小ナルユエ此式ニヨリテ算出シタル値ハ實驗ノ結果ト能ク一致スルモノナリ。



第24圖 實驗ノ結果ト能ク一致スルモノナリ。

第24圖ノ如ク一點  $P$  ニ於ケル中立面ノ傾斜ハ或一定線(通常水平線)ニ對スル傾斜角ニテ測ル。之ヲ  $i$  (角度ガ小ナルトキハ  $\tan i = i$ ) トスレバ

$$i \text{ 即チ } \frac{dy}{dx} = \int \frac{d^2y}{dx^2} \cdot dx = \int \frac{M}{EI} \cdot dx \dots \dots \dots (21)$$

又撓度ハ

$$y = \int \frac{dy}{dx} \cdot dx = \int i \cdot dx = \iint \frac{M}{EI} \cdot dx \cdot dx \dots \dots \dots (22)$$

以上(21), (22)兩式ノ積分ハ夫々適當ノ積分界限ニ

就テ之ヲ行フベシ。

第一篇靜力學第八章第67節ニヨリ

$$\frac{dM}{dx} = V \text{ 又 } \frac{dV}{dx} = w = \frac{d^2M}{dx^2}$$

此式中  $V$  ハ鉛直剪斷力ニシテ  $w$  ハ原點ヨリ  $x$  ナル距離ニ於ケル單位延長ニ付キテノ荷重ナリ。然レバ

$$V = \frac{d}{dx} \left( EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} \right), \quad w = \frac{d}{dx} \left( EI \cdot \frac{d^3y}{dx^3} \right).$$

若シ  $E, I$  ガ常數ナラバ

$$V = EI \cdot \frac{d^3y}{dx^3}, \quad w = EI \cdot \frac{d^4y}{dx^4}$$

$r.M = EI$  ナル式ガ示ス如ク  $E$  及  $I$  ハ代數的符號ヲ有セザルモノナレバ  $M$  トハ常ニ同一符號タルベキナリ。  $M$  ノ正負ハ下方ニ凸面ヲ呈スル如キ彎曲率ヲ正トシ上方ニ凸面ヲ呈スル如キ彎曲率ヲ負ト定ム。而シテ前者ノ場合ニ於テハ  $r$  ハ中立面ヨリ上方ニ位シ後者ノ場合ニ於テハ下方ニ位ス。故ニ中立面ヨリ上方ニ位スル  $r$  フ正トシ下方ニ位スル  $r$  フ負ト定ム。尤モ(20)式ノ積分ヲナスニ當リ積分界限内ニ於テ  $M$  ガ符號ヲ變ズルコトナケレバ別ニ之ニ符號ヲ付セズシテ可ナリ。

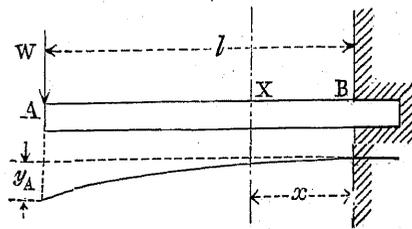
26. 均等又ハ不等横斷面ノ突桁 (Cantilevers of Uni-

form or Variable Cross-Section)

(A) 均等横断面ノ突桁

(1) 放端ニWナル集中荷重ヲ加フル場合 固定  
點Bヲ原點トスレバ此點ニ於テハ  $\frac{dy}{dx}=0, y=0$  ナリ。  
任意ノ断面Xニ於テハ

第25圖



$$EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = -W(l-x),$$

$$EI \int \frac{d^2y}{dx^2} \cdot dx = EI \cdot \frac{dy}{dx} = -Wlx + \frac{1}{2}Wx^2 + 0,$$

$$EI \int \frac{dy}{dx} \cdot dx = EI \cdot y = -\frac{1}{2}Wlx^2 + \frac{1}{6}Wx^3 + 0.$$

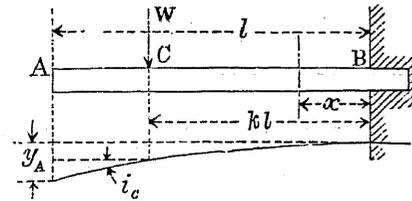
放端Aニ於テハ

$$\text{傾斜 } i_A = \left(\frac{dy}{dx}\right)_A = \frac{W}{EI} \left[ \frac{x^2}{2} - lx \right]_{x=l} = -\frac{Wl^2}{2EI} \dots\dots\dots (23)$$

$$\text{撓度 } y_A = \frac{W}{EI} \left[ \frac{x^3}{6} - \frac{lx^2}{2} \right]_{x=l} = -\frac{Wl^3}{3EI} \dots\dots\dots (24)$$

(2) 任意ノ點ニ集中荷重Wヲ加フル場合 Bヨ  
リC迄ノ間ハ

第26圖



$$EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = -W(kl-x),$$

$$EI \int \frac{d^2y}{dx^2} \cdot dx = EI \cdot \frac{dy}{dx} = -W \left( klx - \frac{1}{2}x^2 \right) + 0,$$

$$EI \int \frac{dy}{dx} \cdot dx = EI \cdot y = -W \left( \frac{1}{2}klx^2 - \frac{1}{6}x^3 \right) + 0.$$

上式中 kハ1ヨリ小ナル任意ノ數ナリトス。Wノ  
働點Cニ於テハ

$$i_C = \left(\frac{dy}{dx}\right)_C = -\frac{W}{EI} \left[ klx - \frac{1}{2}x^2 \right]_{x=kl} = -\frac{Wk^3l^2}{2EI} \dots\dots\dots (25)$$

$$y_C = -\frac{W}{EI} \left[ \frac{1}{2}klx^2 - \frac{1}{6}x^3 \right]_{x=kl} = -\frac{Wk^3l^3}{3EI} \dots\dots\dots (26)$$

之ハ klナル長サノ突桁ノ放端ニWナル集中荷重ヲ  
加フルトキ其放端ニ於ケル傾斜角及撓度ト同一ナ  
リ。

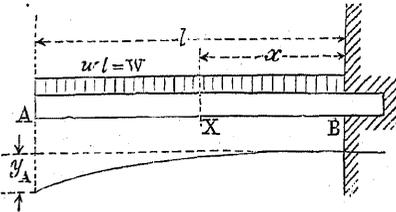
AC間ハM=0ナルヲ以テ(19)式ヨリ知ル如ク彈曲線  
ノ半徑ハ無窮大即チ彈曲線ハ直線ナリ。然ラバ

$$y_A = -\left[ \frac{Wk^3l^3}{3EI} + l(1-k) \frac{Wk^2l^2}{2EI} \right] \dots\dots\dots (27)$$

以上ノ公式ハ突桁ガ數個ノ集中荷重ヲ受クル場合ニモ之ヲ適用スルヲ得。即チ各荷重ヨリ生ズル撓度ヲ求メ夫等ヲ加フレバ可ナリ。

(3) 單位延長ニ付  $w$  ナル等布荷重ヲ加フル場合

第 27 圖



$$EI \frac{d^2y}{dx^2} = M = -\frac{w}{2}(l-x)^2,$$

$$EI \int \frac{d^2y}{dx^2} \cdot dx = EI \cdot \frac{dy}{dx} = -\frac{w}{2} \left( l^2x - lx^2 + \frac{1}{3}x^3 \right) + C,$$

$$EI \int \frac{dy}{dx} \cdot dx = EI \cdot y = -\frac{w}{2} \left( \frac{1}{2}l^2x^2 - \frac{1}{3}lx^3 + \frac{1}{12}x^4 \right) + C_1,$$

放端 A = 於テハ

$$i_A = \left( \frac{dy}{dx} \right)_A = -\frac{w}{2EI} \left[ l^2x - lx^2 + \frac{1}{3}x^3 \right]_{x=l} = -\frac{wl^3}{6EI} = -\frac{Wl^3}{6EI} \dots (28)$$

$$y_A = -\frac{w}{2EI} \left[ \frac{1}{2}l^2x^2 - \frac{1}{3}lx^3 + \frac{1}{12}x^4 \right]_{x=l} = -\frac{wl^4}{8EI} = -\frac{Wl^4}{8EI} \dots (29)$$

上式 = 於テ  $W$  ハ全荷重  $wl$  ヲ表ハスモノトス。

此場合 = 放端ガ固定點 B 下 同シ高サニナル迄支柱 (Prop) ニテ押上ゲタリトセバ其支柱ハ全荷重ノ  $\frac{3}{8}$  ヲ受クベシ。何トナレバ

$$\frac{Pl^3}{3EI} = \text{支柱ニ加ハル壓力 } P \text{ ノ爲メニ放端ニ}$$

起ル上向き撓度 ((24) 式ヲ見ヨ)

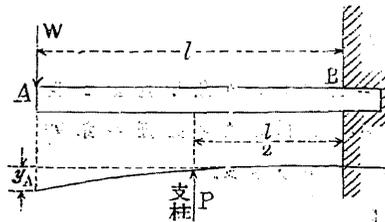
$$\frac{Wl^4}{8EI} = \text{全配布荷重 } W \text{ ヨリ生ズル下向き放端撓度}$$

$$\therefore \frac{Pl^3}{3EI} = \frac{Wl^4}{8EI}, \text{ 即チ } P = \frac{3}{8}W$$

例題 1. 突桁ガ其放端 = 於テ  $W$  ナル集中荷重ヲ受クルトキ其中央點ヲ支柱ニテ支ヘテ固定端ト同一高サニナラシメントス。支柱ニ加ハル壓力及放端ノ撓度ヲ求ム。

第 28 圖

突桁中央點ノ撓度ハ(24)式ヨリ



$$y_{\frac{l}{2}} = \frac{W}{EI} \left[ \frac{x^3}{6} - \frac{lx^2}{2} \right]_{x=\frac{l}{2}} = -\frac{5Wl^3}{48EI}$$

支柱ニ加ハル壓力  $P$  ヨリ生ズル中央點ノ上向き撓度ハ (26) 式ヨリ

$$y_{\frac{l}{2}} = \frac{P}{3EI} \left[ l^2 \left( \frac{l}{2} \right)^3 \right] = \frac{Pl^3}{24EI}$$

$$\therefore \frac{Pl^3}{24EI} = \frac{5Wl^3}{48EI}, \text{ 即チ } P = \frac{5}{2}W$$

又  $P$  ヨリ生ズル放端ノ上向き撓度ハ(27)式ヨリ

$$\frac{5}{2}W \left( \frac{l}{2} \right)^3 \frac{1}{3EI} + \frac{l}{2} \cdot \frac{5}{2}W \left( \frac{l}{2} \right)^2 \frac{1}{2EI} = \frac{5Wl^3}{48EI} + \frac{5Wl^3}{32EI} = \frac{25Wl^3}{96EI}$$

然ラバ結局放端ノ下向き撓度ハ

$$y'_A = -\frac{WL^3}{3EI} + \frac{25WL^3}{96EI} = -\frac{7WL^3}{96EI}$$

例題 2. 幅 2 吋, 高サ 4 吋, 長サ 6 呎ノ鑄鐵角棒ヲ其中央點ニテ支ヘテ兩放端ニ 4,000 呎ノ荷重ヲ加ヘタルトキ放端ノ撓度ハ 0.401 吋ナリシトイフ. 鑄鐵ノ彈性係數ヲ求ム.

(24) 式ヨリ

$$0.401 = \frac{4,000 \times (3 \times 12)^3}{3 \times E \times \frac{3}{3}}$$

即チ

$$E = \frac{4,000 \times (3 \times 12)^3 \times 3}{3 \times 0.401 \times 3} = 14,500,000 \text{ 呎/平方吋}$$

(B) 不等横断面ノ突桁 Eヲ不變ナリトセバ(21),

(22) 兩式ヨリ

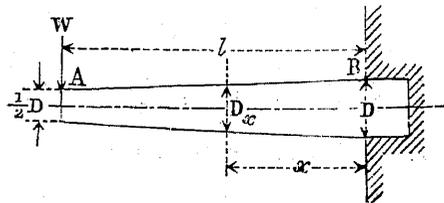
$$i = \frac{1}{E} \int \frac{M}{I} dx, \quad y = \frac{1}{E} \iint \frac{M}{I} dx dx$$

I 及 M ラ x ノ函數トシテ表ハスコトヲ得バ容易ニ

i 及 y ラ見出スヲ得ベキナリ.

例題 圓形横断面ノ突桁ガ放端ニ於テ W ナル集中荷重ヲ受タルトキ放端ノ傾斜角及撓度ヲ求ム. 但横断面ノ直徑ハ第 29 圖ノ如ク D ヨリ  $\frac{1}{2}D$  迄均等ニ減少スルモノトス.

第 29 圖



$$D_x = D \left(1 - \frac{x}{2l}\right) = \frac{D}{2l} (2l - x)$$

固定端 B 及 B ヨリ x ナル距離ニ於ケル断面ノ中立軸ニ對スル慣性率ヲ夫々  $I_0$  及  $I_x$  トスレバ

$$I_0 = \frac{\pi D^4}{64}, \quad I_x = \frac{\pi D^4}{64} \left(1 - \frac{x}{2l}\right)^4 = \frac{I_0}{16l^4} (2l - x)^4$$

$$\begin{aligned} \therefore i_A &= \frac{1}{E} \int \frac{M}{I} dx = \frac{1}{E} \int \frac{-W(l-x)}{\frac{I_0}{16l^4} (2l-x)^4} dx = -\frac{16WL^4}{EI_0} \int \frac{l-x}{(2l-x)^4} dx \\ &= -\frac{16WL^4}{EI_0} \int \left[ \frac{-l}{(2l-x)^4} + \frac{1}{(2l-x)^3} \right] dx \\ &= -\frac{16WL^4}{EI_0} \left[ -\frac{1}{3} \cdot \frac{l}{(2l-x)^3} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{(2l-x)^2} + C \right] \end{aligned}$$

○ノ積分常數ニシテ B 點 (x=0) 於テハ i=0 ナルニエ

$$0 = -\frac{16WL^4}{EI_0} \left[ -\frac{1}{24l^3} + \frac{1}{8l^2} + C \right], \quad \text{即チ } C = -\frac{1}{12l^2}$$

$$i_x = -\frac{16WL^4}{EI_0} \left[ -\frac{1}{3} \cdot \frac{l}{(2l-x)^3} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{(2l-x)^2} - \frac{1}{12l^2} \right]$$

$$\therefore i_A = -\frac{16WL^4}{EI_0} \left[ -\frac{1}{3} \cdot \frac{l}{(2l-x)^3} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{(2l-x)^2} - \frac{1}{12l^2} \right]_{x=l}$$

即チ  $i_A = -\frac{4}{3} \cdot \frac{WL^2}{EI_0}$

$$\begin{aligned} y_x &= \int i_x dx = -\frac{16WL^4}{EI_0} \int \left[ -\frac{1}{3} \cdot \frac{l}{(2l-x)^3} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{(2l-x)^2} - \frac{1}{12l^2} \right] dx \\ &= -\frac{16WL^4}{EI_0} \left[ -\frac{1}{6} \cdot \frac{l}{(2l-x)^2} + \frac{1}{2(2l-x)} - \frac{x}{12l^2} + C \right] \end{aligned}$$

x=0 = 對シテ y=0 ナルニエ積分常數ハ  $C = -\frac{5}{24l}$  ナリ.

$$\therefore y_x = -\frac{16WL^4}{EI_0} \left[ -\frac{1}{6} \cdot \frac{l}{(2l-x)^2} + \frac{1}{2(2l-x)} - \frac{x}{12l^2} - \frac{5}{24l} \right]$$

$$y_A = -\frac{16WL^4}{EI_0} \left[ -\frac{1}{6} \cdot \frac{l}{(2l-x)^2} + \frac{1}{2(2l-x)} - \frac{x}{12l^2} - \frac{5}{24l} \right]_{x=l}$$

即チ  $y_A = -\frac{2}{3} \cdot \frac{WL^3}{EI_0}$

27. 均等又ハ不等横断面ノ單桁 (Beams of Uniform or Variable Cross-Section)

(A) 均等横断面ノ單桁

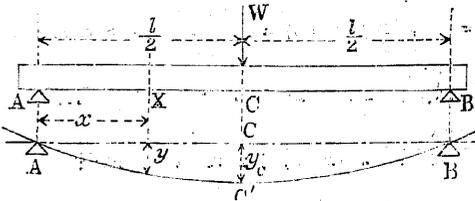
(1) 集中荷重 W を桁ノ中央點ニ加フル場合 第 30 圖

30 圖ニ於テ左支端 A を原點トスレバ

$$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{M_x}{EI} = \frac{W}{2EI} \cdot x,$$

$$i_x = \int \frac{d^2y}{dx^2} \cdot dx = \frac{W}{2EI} \left[ \frac{1}{2}x^2 + C \right].$$

第 30 圖



中央點  $(x = \frac{l}{2})$ ニ於テハ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナルユエ積分常數

ハ  $C = -\frac{1}{8}l^2$  ナリ。故ニ A ト C トノ間ニ於テハ

$$i_x = \frac{W}{2EI} \left[ \frac{1}{2}x^2 - \frac{1}{8}l^2 \right].$$

兩支端ニ於テハ

$$i_A = -i_B = \frac{W}{2EI} \left[ \frac{1}{2}x^2 - \frac{1}{8}l^2 \right]_{x=0} = -\frac{Wl^2}{16EI} \dots (30)$$

又

$$y_x = \int i_x \cdot dx = \frac{W}{2EI} \left[ \frac{x^3}{6} - \frac{l^2x}{8} + C \right].$$

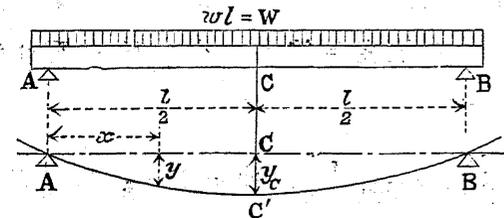
原點ニ於テハ  $x=y=0$  ナルユエ常數ハ零ナリ。

$$\therefore y_x = \frac{W}{2EI} \left[ \frac{x^3}{6} - \frac{l^2x}{8} \right].$$

$$y_c = \frac{W}{2EI} \left[ \frac{x^3}{6} - \frac{l^2x}{8} \right]_{x=\frac{l}{2}} = -\frac{Wl^3}{48EI} \dots (31)$$

(2) 單位延長ニ付 w ナル等布荷重ヲ加フル場合

第 31 圖



$$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{M_x}{EI} = \frac{w}{2EI} (lx - x^2),$$

$$i_x = \int \frac{d^2y}{dx^2} \cdot dx = \frac{w}{2EI} \left[ \frac{lx^2}{2} - \frac{x^3}{3} + C \right].$$

中央點  $(x = \frac{l}{2})$ ニ於テハ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナルユエ積分常數

ハ  $C = -\frac{l^3}{12}$  ナリ。

$$\therefore i_x = \frac{w}{2EI} \left[ \frac{lx^2}{2} - \frac{x^3}{3} - \frac{l^3}{12} \right].$$

$$i_A = -i_B = \frac{w}{2EI} \left[ \frac{lx^2}{2} - \frac{x^3}{3} - \frac{l^3}{12} \right]_{x=0} = -\frac{wl^3}{24EI} = -\frac{Wl^3}{24EI} \dots (32)$$

$$又 y_x = \int i_x \cdot dx = \frac{w}{2EI} \left[ \frac{lx^3}{6} - \frac{x^4}{12} - \frac{l^3x}{12} + C \right].$$

$x=0$ ニ對シテ  $y=0$  ナルヲ以テ常數ハ零ナリ。

$$\therefore y_x = \frac{w}{2EI} \left[ \frac{lx^3}{6} - \frac{x^4}{12} - \frac{l^2x}{12} \right]$$

$$y_c = \frac{w}{2EI} \left[ \frac{lx^3}{6} - \frac{x^4}{12} - \frac{l^2x}{12} \right]_{x=l/2} = -\frac{5wl^4}{384EI} = -\frac{5Wl^3}{384EI} \dots (33)$$

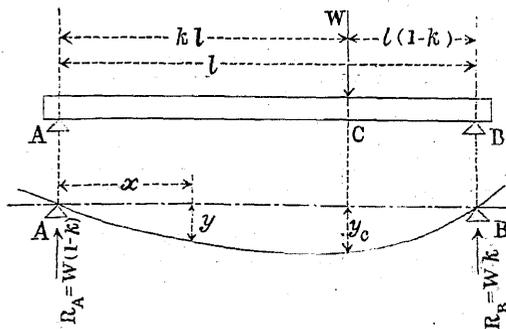
若シ桁ノ中央點ヲ支柱ニテ支ヘテ兩支端ト同一高サニアラシメバ中央點ノ撓度ハ零トナル。換言スレバ支柱ノ反力ヨリ生ズル上向キ撓度ハ荷重ヨリ生ズル下向キ撓度ニ等シ。今支柱ノ上向キ反力ヲ P トスレバ

$$\frac{Pl^3}{48EI} = \frac{5}{384} \frac{wl^4}{EI}, \text{ 即チ } P = \frac{5}{8} wl = \frac{5}{8} W$$

トナリ支柱ハ全荷重ノ  $\frac{5}{8}$  ヲ受ケ各支端ハ全荷重ノ  $\frac{3}{16}$  ヲ受クベシ。

(3) 任意ノ一點ニ集中荷重 W ヲ加フル場合 支端 A ヲ原點トスレバ AC 間ハ

第 32 圖



$$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{1}{EI} R_A x \dots (a)$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{1}{EI} \left( \frac{1}{2} R_A x^2 + C_1 \right) \dots (b)$$

$$y = \frac{1}{EI} \left( \frac{1}{6} R_A x^3 + C_1 x + C_2 \right) \dots (c)$$

CB 間ハ

$$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{1}{EI} [R_A x - W(x - kl)] \dots (a')$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{1}{EI} \left( \frac{1}{2} R_A x^2 - \frac{1}{2} W x^2 + W kl x + C_3 \right) \dots (b')$$

$$y = \frac{1}{EI} \left( \frac{1}{6} R_A x^3 - \frac{1}{6} W x^3 + \frac{1}{2} W kl x^2 + C_3 x + C_4 \right) \dots (c')$$

上式ニ於テ積分常數  $C_1, C_2, C_3$  及  $C_4$  ヲ定メバ荷重ノ働點 C ノ左右兩側ニ於ケル彈曲線ノ方程式ガ得ラレベシ。

(c) 式ニ於テ  $x=0$  ニ對シテハ  $y=0$  ナルユエ  $C_2=0$  ナリ。又 (c') 式ニ於テ  $x=l$  ニ對シテハ  $y=0$  ナルヲ以テ

$$0 = \frac{1}{6} R_A l^3 - \frac{1}{6} W l^3 + \frac{1}{2} W kl^2 + C_3 l + C_4 \dots (d)$$

彈曲線ハ C 點ニ於テ共通切線ヲ有スルユエ  $x=kl$  ニ對シテハ (b) = (b') ナリ。

$$\therefore \frac{1}{2} \cdot R_A \cdot k^2 l^2 + C_1 = \frac{1}{2} \cdot R_A \cdot k^2 l^2 + \frac{1}{2} \cdot W \cdot k^2 l^2 + C_3,$$

即チ  $C_1 = \frac{1}{2} \cdot W \cdot k^2 l^2 + C_3 \dots \dots \dots (e)$

又  $x = kl =$  對シテ  $(c) = (c')$  ナルニヨリ

$$\frac{1}{6} \cdot R_A \cdot k^3 l^3 + C_1 kl = \frac{1}{6} \cdot R_A \cdot k^3 l^3 + \frac{1}{3} \cdot W \cdot k^3 l^3 + C_3 \cdot kl + C_4,$$

$$\therefore C_1 \cdot kl = \frac{1}{3} \cdot W \cdot k^3 l^3 + C_3 \cdot kl + C_4 \dots \dots \dots (f)$$

(d), (e) 及 (f) 式ヨリ常數  $C_1, C_3$  及  $C_4$  ヲ定ムレバ

$$C_1 = -\frac{1}{6} W l^2 (2k - 3k^2 + k^3),$$

$$C_3 = -\frac{1}{6} W l^2 (k^3 + 2k),$$

$$C_4 = \frac{1}{6} W k^3 l^3.$$

(b) 式ヨリ

$$i_c = \frac{1}{EI} \left[ \frac{1}{2} W (1-k)x^2 - \frac{1}{6} W l^2 (2k - 3k^2 + k^3) \right]_{x=kl}$$

$$= -\frac{W l^2}{3EI} (2k^3 - 3k^2 + k) \dots \dots \dots (34)$$

荷重ヨリ左側ニ於ケル彈曲線ノ方程式ハ(c)式ヨリ

$$y = \frac{W}{6EI} \left[ (1-k)x^3 - (2k - 3k^2 + k^3) l^2 x \right] \dots \dots \dots (35)$$

C 點ニ於ケル撓度ハ

$$y_c = \left[ (35) \text{ 式} \right]_{x=kl} = -\frac{W k^2 l^3 (1-k)^2}{3EI} \dots \dots \dots (36)$$

撓度ハ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナル點ニ於テ最大ニシテ此點ハ左支端 A ヨリ  $\frac{l}{\sqrt{3}} \cdot \sqrt{k(2-k)}$  ノ距離ニアリ. 何トナレバ(35)式ヨリ

$$\frac{dy}{dx} = \frac{W}{2EI} \left[ (1-k)x^2 - \frac{l^2}{3} (2k - 3k^2 + k^3) \right] = 0,$$

$$x^2 = \frac{l}{3} k l (2-k), \quad \text{即チ} \quad x = \frac{l}{\sqrt{3}} \cdot \sqrt{k(2-k)} \dots \dots \dots (37)$$

$k > \frac{1}{2}$  ナルトキハ最大撓度ハ荷重ト左支端トノ間ノ點ニ起リ其値ハ(35), (37)兩式ヨリ

$$\text{最大 } y = -\frac{W l^3}{9 \sqrt{3} EI} (1-k)(2k - k^2)^{\frac{3}{2}} \dots \dots \dots (38)$$

若シ  $k < \frac{1}{2}$  ナラバ最大撓度ハ荷重ト右支端トノ間ノ點ニ起ルユエ荷重ト右支端トノ間ノ彈曲線方程式ヲ用キザルベカラズ.

一ツノ集中荷重ヨリ生ズル撓度ハ荷重ガ支間ノ中央ニアルトキ其點ニ於テ極大ニシテ(31)式ハ此値ヲ與フルモノナリ.

徑間ニ數多ノ集中荷重ガ働クトキ或荷重ノ働點又ハ他ノ點ニ於ケル撓度ヲ知ラントセバ以上與ヘタル公式ヲ適當ニ使用シテ各荷重ヨリ生ズル撓度ヲ求メ夫等ヲ合計スレバ可ナリ.

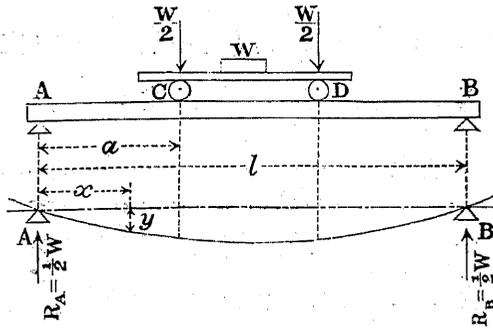
(4) ニツノ等大ノ集中荷重ヲ對稱位置ニ加ヘタル場合 左支端 A ヲ原點トスレバ AC 間ハ

$$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{1}{EI} \cdot \frac{W}{2} \cdot x \dots\dots\dots (a)$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{1}{EI} \left( \frac{W}{4} \cdot x^2 + C_1 \right) \dots\dots\dots (b)$$

$$y = \frac{1}{EI} \left( \frac{W}{12} x^3 + C_1 x + C_2 \right) \dots\dots\dots (c)$$

第 33 圖



CD 間ハ

$$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{1}{EI} \cdot \frac{W}{2} \cdot a \dots\dots\dots (a')$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{1}{EI} \left( \frac{Wax}{2} + C_3 \right) \dots\dots\dots (b')$$

$$y = \frac{1}{EI} \left( \frac{Wax^2}{4} + C_3 x + C_4 \right) \dots\dots\dots (c')$$

働點 C = 於テハ (b) = (b') ナルユエ

$$\frac{Wa^2}{4} + C_1 = \frac{Wax^2}{4} + C_3, \quad \text{即チ} \quad C_1 = \frac{Wax^2}{4} + C_3$$

而シテ中央點 = 於テ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナルニヨリ (b') 式ヨリ

$C_3 = -\frac{Wal}{4}$ , 從テ  $C_1 = \frac{Wa^2}{4} - \frac{Wal}{4}$  ヲ得. 次ニ(c)式ニ

於テ  $x=0$  = 對シテ  $y=0$  ナルユエ  $C_2=0$  ナリ. 又働點 C = 於テハ (c) = (c') ナルヲ以テ

$$\frac{Wa^3}{12} + \frac{Wa^3}{4} - \frac{Wax^2}{4} = \frac{Wax^2}{4} - \frac{Wax^2}{4} + C_4, \quad \text{即チ} \quad C_4 = \frac{Wa^3}{12}$$

依テ AC 間 = 於テハ

$$y = \frac{1}{EI} \left( \frac{Wx^3}{12} + \frac{Wa^2x}{4} - \frac{Waxx}{4} \right),$$

即チ 
$$y = \frac{W}{12EI} \left[ x^3 + 3ax(a-l) \right] \dots\dots\dots (39)$$

CD 間 = 於テハ

$$y = \frac{1}{EI} \left( \frac{Wax^2}{4} - \frac{Waxx}{4} + \frac{Wa^3}{12} \right),$$

即チ 
$$y = \frac{W}{12EI} \left[ a^3 + 3ax(x-l) \right] \dots\dots\dots (40)$$

中央點 = 於テハ

$$\text{最大 } y = \frac{W}{12EI} \left[ a^3 + 3ax(x-l) \right]_{x=\frac{l}{2}} = \frac{Wa}{EI} \left( \frac{a^2}{12} - \frac{l^2}{16} \right) \dots\dots (41)$$

此式ハ二荷重間ノ距離ノ大小ニ拘ハラズ適用シ得ルユエ二荷重ガ無限ニ接近シテ相合スル場合即チ二荷重ノ和ニ等シキ Wガ支間ノ中央ニアルトキハ (41) 式ノ aヲ  $\frac{l}{2}$  トスレバ可ナリ.

$$\text{最大 } y = \left[ (41) \text{ 式} \right]_{a=\frac{l}{2}} = \frac{Wl}{EI} \left( \frac{l^2}{96} - \frac{l^2}{32} \right) = -\frac{Wl^3}{48EI}$$

之ハ(31)式ト全々同一ナリ

例題 1. 幅3呎, 高サ2呎, 支間10呎ノ木桁ヲ兩端ニテ支ヘ左支端ヨリ6呎ノ距離ニ45斤ノ集中荷重ヲ加フルトキハ其中央點及荷重ノ働點ニ於ケル撓度如何。但 E=1,500,000 斤/平方吋トス。

(35)式ニ於テ  $W=45$  斤,  $I=\frac{3 \times 2^3}{12}=2$  吋<sup>4</sup>,  $l=\frac{3}{5}$  吋

$x=5 \times 12=60$  吋又ハ  $6 \times 12=72$  吋,

$l=10 \times 12=120$  吋.

桁ノ中央點ニ於テハ

$$y_{\frac{l}{2}} = \frac{45}{6 \times 1,500,000 \times 2} \left[ \left(1 - \frac{3}{5}\right) \times 60^3 - \left\{2 \times \frac{3}{5} - 3 \times \left(\frac{3}{5}\right)^2 + \left(\frac{3}{5}\right)^3\right\} \times 120^2 \times 60 \right] = -\frac{50,976}{100,000} = -0.51 \text{ 吋.}$$

荷重ノ働點ニ於テハ

$$y_{\frac{3}{5}l} = \frac{45}{6 \times 1,500,000 \times 2} \left[ \left(1 - \frac{3}{5}\right) \times 72^3 - \left\{2 \times \frac{3}{5} - 3 \times \left(\frac{3}{5}\right)^2 + \left(\frac{3}{5}\right)^3\right\} \times 120^2 \times 72 \right] = -\frac{49,766}{100,000} = -0.498 \text{ 吋.}$$

例題 2. 幅6呎, 高サ8呎, 支間12呎ノ木桁ヲ兩端ニテ支ヘ兩支端ヨリ夫々4呎隔リテ等大ノ二荷重800斤ヲ加フルトキ其荷重ノ働點ニ於ケル撓度並ニ最大撓度ヲ求ム。但 E=1,200,000 斤/平方吋トス。

(39)式ニ於テ  $W=800 \times 2=1,600$  斤,  $I=\frac{6 \times 8^3}{12}=256$  吋<sup>4</sup>,

$x=4 \times 12=48$  吋,  $l=12 \times 12=144$  吋.

荷重下ノ點ニ於テハ

$$y_{\frac{1}{3}l} = \frac{1,600}{12 \times 1,200,000 \times 256} \left[ 48^3 + 3 \times 48^2 (48 - 144) \right] = -\frac{6}{25} = -0.24 \text{ 吋.}$$

(41)式ヨリ最大撓度ヲ求ムルコト次ノ如シ。

$$y_{\frac{1}{3}l} = \frac{1,600 \times 48}{1,200,000 \times 256} \left( \frac{48^3}{12} - \frac{144^2}{16} \right) = -\frac{276}{1,000} = -0.276 \text{ 吋.}$$

(B) 不等横断面ノ單桁 此場合ノ問題ハ (21), (22) 兩式ヲ適用シテ解クヲ得。今矩形横断面ノ等強單桁ヲ考フルニ幅  $b$  ヲ常數, 高サ  $d$  ヲ變數,  $d$  ノ最大値ヲ  $D$  トシ此断面ニ於ケル彎曲率ヲ  $M_0$ , 断面係數ヲ  $Z_0$ , 任意断面ニ於ケル断面係數ヲ  $Z$  トスレバ

$$S = \frac{M}{Z} = \frac{M_0}{Z_0}, \quad \frac{Z_0}{Z} = \frac{M_0}{M}, \quad \frac{D^2}{d^2} = \frac{M_0}{M},$$

即チ  $\frac{1}{d} = \frac{1}{D} \sqrt{\frac{M_0}{M}}$

但  $Z = \frac{1}{6} b d^2, \quad Z_0 = \frac{1}{6} b D^2.$

$$\therefore \frac{d^2 y}{dx^2} = \frac{M}{EI} = \frac{2S}{E d} = \frac{2S}{E D} \sqrt{\frac{M_0}{M}} \dots \dots \dots (42)$$

$$i = \int \frac{d^2 y}{dx^2} dx = \frac{2S \sqrt{M_0}}{E D} \int \frac{1}{\sqrt{M}} dx \dots \dots \dots (43)$$

例題 一定ノ幅ヲ有スル等強單桁ガ單位延長ニ付テナル等布荷重ヲ受クルトキ兩支端ニ於ケル傾斜角及中央點ノ撓度ヲ求ム。

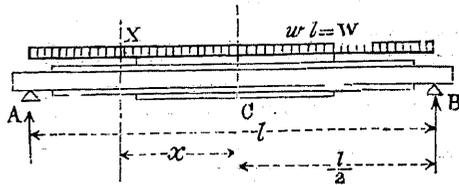
第34圖ニ於テ中央點Cヲ原點トスレバ

$$M = \frac{wl}{2} \left( \frac{l}{2} - x \right) = \frac{w}{2} \left( \frac{l}{2} - x \right)^2 = \frac{w}{2} \left[ \left( \frac{l}{2} \right)^2 - x^2 \right]$$

$$M_0 = \frac{1}{8} w l^2, \quad \frac{M}{M_0} = \frac{4}{l^2} \left( \frac{l^2}{4} - x^2 \right)$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{2S \sqrt{M_0}}{E D} \int_0^{\frac{l}{2}} \frac{dx}{\sqrt{M}} = \frac{S l}{E D} \int_0^{\frac{l}{2}} \frac{dx}{\sqrt{\frac{l^2}{4} - x^2}} = \frac{S l}{E D} \left[ \sin^{-1} \frac{x}{\frac{l}{2}} \right]_0^{\frac{l}{2}}$$

第34圖



$$\therefore i_A = i_B = \frac{Sl}{ED} [\sin^{-1}(1) - \sin^{-1}(0)] = \frac{\pi}{2} \frac{S}{E} \frac{l}{D}$$

又ハ

$$i_A = i_B = \frac{\pi}{4} \frac{M_0 l^2}{EI_0} = \frac{\pi}{32} \frac{wl^3}{EI_0} = \frac{\pi}{32} \frac{Wl^3}{EI_0}$$

$$\begin{aligned} y_c &= \int_0^{\frac{l}{2}} \int_0^x \frac{d^2y}{dx^2} dx \cdot dx = \frac{Sl}{ED} \int_0^{\frac{l}{2}} \int_0^x \frac{dx}{\sqrt{\frac{l^2}{4} - x^2}} dx \\ &= \frac{Sl}{ED} \int_0^{\frac{l}{2}} \left[ \sin^{-1} \frac{x}{\frac{l}{2}} \right]_0^x dx = \frac{Sl}{ED} \int_0^{\frac{l}{2}} \left[ \sin^{-1} \frac{x}{\frac{l}{2}} - \sin^{-1}(0) \right] dx \\ &= \frac{Sl}{ED} \int_0^{\frac{l}{2}} \sin^{-1} \left( \frac{x}{\frac{l}{2}} \right) dx = \frac{Sl}{ED} \left[ x \sin^{-1} \left( \frac{x}{\frac{l}{2}} \right) - \int x \frac{dx}{\sqrt{\frac{l^2}{4} - x^2}} \right]_0^{\frac{l}{2}} \\ &= \frac{Sl}{ED} \left[ x \sin^{-1} \left( \frac{x}{\frac{l}{2}} \right) + \left( \frac{1}{4} l^2 - x^2 \right)^{\frac{1}{2}} \right]_0^{\frac{l}{2}} \\ &= \frac{Sl}{ED} \left[ \left( \frac{l}{2} \sin^{-1}(1) + 0 \right) - \left( 0 + \frac{l}{2} \right) \right] = \frac{Sl}{ED} \left( \frac{\pi}{2} \frac{l}{2} - \frac{l}{2} \right) = \frac{1}{2} \left( \frac{\pi}{2} - 1 \right) \frac{Sl^2}{ED} \end{aligned}$$

又ハ

$$y_c = \frac{1}{4} \left( \frac{\pi}{2} - 1 \right) \frac{M_0 l^2}{EI_0} = \frac{1}{32} \left( \frac{\pi}{2} - 1 \right) \frac{wl^4}{EI_0} = \frac{1}{32} \left( \frac{\pi}{2} - 1 \right) \frac{Wl^4}{EI_0}$$

以上ノ解法ニ於テ*i*及*y*ガ正トナリシハ桁ノ中央點ヲ原點トセシメヨル。

28. 剪斷力ヨリ生ズル撓度 (Deflection due to Shearing) 鉛直剪斷力ヨリ生ズル撓度ハ彎曲率ヨリ生

ズル撓度ト同様ニシテ近似的ニ之ヲ求ムルヲ得。

桁ノ單位延長ニ付キ應剪變形ヲ  $\theta$ , 應剪力ヨリ生ズル撓度ヲ  $y'$ , 歪係數ヲ  $G$  トスレバ中立面ノ細微長ヲ  $dx$  ノ變形ハ

$$dy' = \theta \cdot dx = \frac{S_x}{G} \cdot dx$$

第三章第22節ニヨリ矩形斷面桁ノ中立面ニ於ケル單位應剪力ハ  $S_x = \frac{V}{2I} \cdot c^2$  ナルユエ

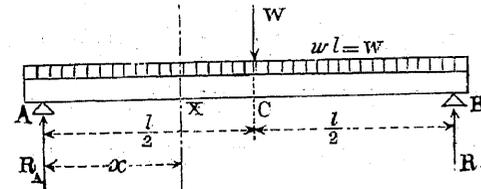
$$dy' = \frac{V \cdot c^2}{2IG} \cdot dx$$

但  $c$  ハ中立面ヨリ縁維迄ノ距離ナリ。

$$\therefore y' = \frac{c^2}{2IG} \int V \cdot dx \dots \dots \dots (44)$$

例題 第35圖ノ如ク單桁ガ等布荷重  $wl$  及其中央點  $C = W$  ナル集中荷重ヲ受クル場合

第35圖



$$\begin{aligned} y' &= \frac{c^2}{2IG} \int_0^x (R_A - wx) dx = \frac{c^2}{2IG} \left[ \frac{x}{2} (W' + wl) - \frac{wx^2}{2} \right] \\ y' &= \frac{c^2}{2IG} \left[ \frac{x}{2} (W' + wl) - \frac{wx^2}{2} \right]_0^{\frac{l}{2}} = \frac{c^2}{8IG} \left( Wl + \frac{wl^2}{2} \right) \end{aligned}$$

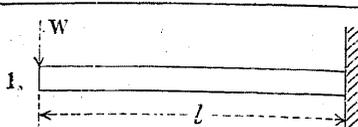
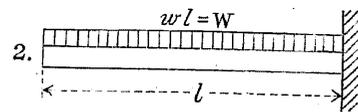
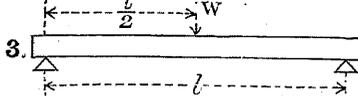
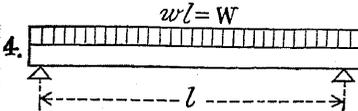
鉛直剪斷力ガ桁ノ撓度ニ及ボス影響ハ彎曲率ノソレニ比シテ小ナルガ故ニ通常之ヲ省略ス。尙剪

斷力ヨリ生ズル撓度ニ就テハ第九章第63節ニ於テ論ズベシ

29. 比較強サ及剛性 (Comparative Strength and Stiffness) 張力又ハ壓力ヲ受クル棒狀體ノ強サハ單位應力ガ一定ノ値ヨリ超過スルコトナクシテ之ガ支へ得ル荷重ノ大小ニヨリテ計ルヲ得。之ト同様ニ桁ノ強サモ亦彎曲率ノ最大ナル横斷面ニ於ケル線維應力ガ一定ノ値ヨリ超過スルコトナクシテ其桁ガ支へ得ル荷重ノ大小ニヨリテ計ルヲ得。又棒狀體ノ單位縱變形ガ一定ノ値ヨリ超過スルコトナクシテ之ガ支へ得ル荷重ノ大小ニヨリテ其剛性ヲ計ルト同様ニ桁ノ最大撓度ガ一定ノ値ヨリ超過スルコトナクシテ桁ガ支へ得ル荷重ノ大小ニヨリテ其剛性ヲ計ルヲ得。

表ニ記セル四種ノ桁ノ比較強サハ 1, 2, 4, 8 ナル數ニテ表ハサル。即チ桁ノ材料ガ同一ニシテ等長且等大ナラバ第二種ノ桁ハ第一種ノ桁ニ比シ二倍ノ強サヲ有シ第三種ノ桁ハ四倍第四種ノ桁ハ八倍ノ強サヲ有ス。一般ニ云ヘバ

桁ノ強サハ S 及 I ニ正比例シ l 及 t ニ反比例ス。矩形横斷面桁ノ強サハ高サノ自乗及幅ニ正比例シ長サニ反比例ス。

桁ノ種類	最大彎曲率 M.	單位應力 S ヲ生ズル荷重 W.	最大撓度 Δ.	最大撓度 Δ ヲ生ズル荷重 W.
	$-Wl$	1. $\frac{SI}{cl}$	$-\frac{Wl^3}{3EI}$	3. $\frac{EI}{l^3} \Delta$
	$-\frac{Wl}{2}$	2. $\frac{SI}{cl}$	$-\frac{Wl^3}{8EI}$	8. $\frac{EI}{l^3} \Delta$
	$\frac{Wl}{4}$	4. $\frac{SI}{cl}$	$-\frac{Wl^3}{48EI}$	48. $\frac{EI}{l^3} \Delta$
	$\frac{Wl}{8}$	8. $\frac{SI}{cl}$	$-\frac{5Wl^3}{384EI}$	76 $\frac{4}{5} \frac{EI}{l^3} \Delta$
一般ノ式		$\alpha \frac{SI}{cl}$		$\beta \frac{EI}{l^3} \Delta$

是ニヨリテ見レバ矩形横斷面ノ材片ヲ桁トシテ使用スルトキ何故ニ長キ邊ヲ鉛直ニ置クベキカ其理自ラ明カナルベシ。

又四種ノ桁ノ比較剛性ハ 3, 8, 48, 76  $\frac{4}{5}$  ナル數ニテ表ハサル。即チ同一材料、等長且等大ナラバ第二種ノ桁ハ第一種ノ桁ニ比シ  $2\frac{2}{3}$  倍ノ剛性ヲ有シ、第三種ノ桁ハ 16 倍、第四種ノ桁ハ  $25\frac{3}{5}$  倍ノ剛性ヲ有ス。一般ニ云ヘバ

桁ノ剛性ハ E 及 I ニ正比例シ l ノ三乗ニ反比例

ス。矩形断面桁ノ剛性ハ高さノ三乗及幅ニ正比例シ長サノ三乗ニ反比例ス。

一定ノ荷重ヨリ生ズル單位應力  $S$  ト最大撓度  $\Delta$  トノ關係ヲ知ラントセバ上表ノ最下列ニ與ヘタル  $W$  ノ二式ヲ等値ノモノトスベシ。

$$\alpha \frac{SI}{cl} = \beta \frac{EI}{l^3} \Delta, \quad \frac{S}{\Delta} = \frac{\beta \cdot E \cdot c}{\alpha \cdot l^2} \dots \dots \dots (45)$$

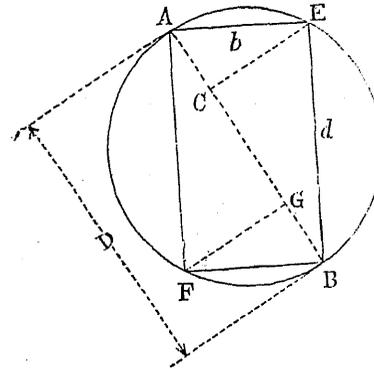
$W = \frac{\beta \cdot E \cdot I}{l^3} \Delta$  ナル式ヲ書換フレバ  $W = \frac{\beta \cdot E \cdot I}{l^2} \left( \frac{\Delta}{l} \right)$  トナルユエ  $\frac{\Delta}{l}$  ハ與ヘラレタル荷重ニ對シ桁ノ剛性ヲ計ルベキ準度ナリ。而シテ材料ニヨリテ  $\Delta$  ノ値ニ限度アリテ鋼桁ノ許容撓度ハ約  $\frac{l}{600}$  乃至  $\frac{l}{1,200}$  即チ  $\frac{\Delta}{l} = \frac{1}{600}$  乃至  $\frac{1}{1,200}$ 、木材桁ニアリテハ  $\frac{\Delta}{l} = \frac{1}{400}$  乃至  $\frac{1}{600}$  ナリ。桁ノ高さヲ  $d$  トスレバ  $c = k \cdot d$  ナルユエ (45) 式ヨリ

$$\frac{l}{d} = \frac{\beta \cdot E}{\alpha \cdot S} \cdot k \left( \frac{\Delta}{l} \right) \dots \dots \dots (46)$$

$k$  ハ 1 ヨリ小ナル數ニシテ之ハ横断面ノ形狀ニヨリテ定マルモノナリ。  $\frac{\Delta}{l}$  ニ相當ノ値ヲ代入スレバ桁ノ支間ト高さトノ比ヲ適當ニ定ムルヲ得。

矩形断面ノ桁ニアリテハ  $W = \frac{\beta \cdot E \cdot b d^3 \cdot \Delta}{12 l^3}$  ナルヲ以テ  $b d^3$  ガ最大ナル如キ断面ノ桁ニ於テ剛性が最大ナリ。今此條件ヲ満足スベキ桁ヲ丸太材ヨリ切取ル方法ヲ示サントス。第 36 圖ニ於テ

第 36 圖



$$b d^3 = \sqrt{D^2 - d^2} \cdot d^3.$$

之ヲ  $d$  = 就テ微分シテ第一次微分係數ヲ零ト置ケバ所要ノ  $D$  ト  $d$  トノ割合ヲ知ルヲ得。

$$3d^2 \sqrt{D^2 - d^2} - \frac{d^4}{\sqrt{D^2 - d^2}} = 0,$$

即チ

$$d = \frac{\sqrt{3}}{2} D, \quad b = \sqrt{D^2 - d^2} = \frac{1}{2} D,$$

$$b : d = 1 : \sqrt{3} \approx 1 : 1.732$$

第 36 圖ニ於テ  $\triangle ACE$  ト  $\triangle BFA$  トハ相似ナルユエ

$$AC = \frac{b^2}{D} = \frac{D}{4}.$$

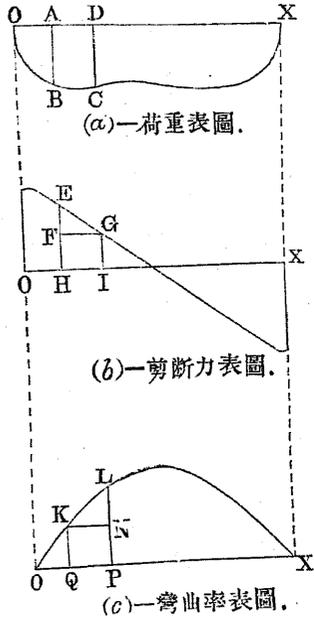
夫故ニ直径  $AB$  ナ四等分シテ其分割點  $C$  及  $G$  ヨリ  $AB$  = 垂直ニ  $CE$  及  $GF$  ナ引キ此等ガ圓周ヲ切ル點  $E, F$  ト  $A, B$  トヲ連結シテ得タル矩形ハ即チ求ムル所ノ横断面形ナリ。

### 30. 圖式解法

#### (I) 圖式積分法 (Graphic Integration)

(1) 定義 荷重、剪斷力及彎曲率表圖相互ノ關係ハ次ノ如ク表ハスヲ得。即チ彎曲率表圖ノ任意二断面ニ於ケル二ツノ縦距ノ差ハ剪斷力表圖ニ於テ夫等二断面間ノ面積ヲ表ハス。又剪斷力表圖ノ夫等二断面ニ於ケル縦距ノ差ハ荷重表圖ニ於テ夫等二断面間ノ面積ヲ表ハス。例ヘバ第 37 圖ニ於テ彎曲率表圖 (c) ノ  $LN$  ハ剪斷力表圖 (b) ノ面積  $EHIG$  ヲ表ハシ剪斷力表圖ノ  $EF$  ハ荷重表圖 (a) ノ面積  $ABCD$

第 37 圖



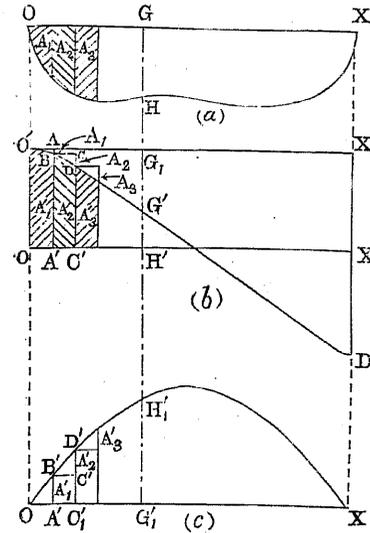
ヲ表ハス。

凡テーツノ曲線アリテ其  
 縦距ガ他ノ與ヘラレタル曲  
 線ト一定線トニテ界サレタ  
 ル面積ノ或一部分ヲ表ハス  
 トキハ其曲線ヲ名付ケテ第  
 一次積分曲線 (First Integrated  
 Curve) ト謂フ。此定義ニヨレ  
 バ彎曲率表線 (Moment Curve)  
 ハ剪斷力表線 (Shear Curve)  
 ノ第一次積分曲線ニシテ剪  
 斷力表線ハ荷重表線 (Load  
 Curve) ノ第一次積分曲線ナ

リ [次ノ(2)参照] 彎曲率表線ハ荷重表線ノ第一次積  
 分曲線ノ第一次積分曲線ナルヲ以テ之ヲ第二次積  
 分曲線 (Second Integrated Curve) ト謂フ。即チ第二次  
 積分曲線ノ縦距ハ第一次積分曲線ト一定線トニテ  
 界サレタル面積ノ或一部分ヲ表ハス。同様ニ第二  
 次積分曲線ノ積分曲線ヲ第三次積分曲線 (Third Inte-  
 grated Curve) ト謂フ。

(2) 積分曲線ヲ求ムル方法 第一方法 第 38 圖  
 (a) = 與ヘタル曲線ノ第一次及第二次積分曲線ヲ求

第 38 圖



メントス。

第一次積分曲線ヲ求  
 ムルニハ先ヅ (a) 圖ノ面  
 積ヲ適宜ニ分割シテ各  
 面積ヲ測ルベシ。 (b) 圖  
 ニ示ス如ク隨意ニ選ミ  
 タル軸 O'X' ヨリ或縮尺  
 ヲ以テ面積  $A_1 =$  等シク  
 $AB$  ヲ取り、次ニ面積  $A_2$   
 $=$  等シク  $CD$  ヲ取り、此  
 ノ如クシテ順次ニ得タ  
 ル點 B, D 等ヲ連結セル連續曲線 O'G'D' ハ第一次積  
 分曲線ナリ。而シテ任意ノ縦距  $G_1G_1'$  ハ (a) 圖ニ於テ  
 左端ヨリ断面 GH 迄ノ間ノ面積ヲ表ハスモノナリ。

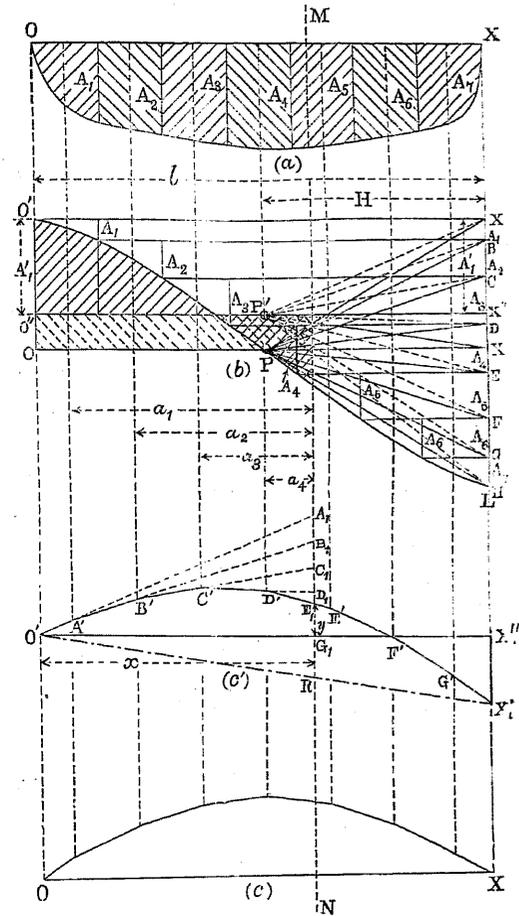
問題ヲ解クニ當リテハ (b) 圖ノ  $OO'$  ニテ示ス如ク  
 常ニ面積ニ加ヘラルベキ常數アリ。是レ積分常數  
 ニシテ之ハ通常問題ノ條件ニ依リテ定ムルヲ得ベ  
 ク之ガ零ナル場合アリ。剪斷力表線ニアリテハ此  
 常數ハ左支端ニ於ケル鉛直剪斷力ニシテ彎曲率表  
 線ニアリテハ左支端ニ於ケル彎曲率ナリ。常數ニ  
 等シク  $OO'$  ヲ取リテ  $OX$  軸ヲ引ケバ積分曲線ニ對ス  
 ル眞ノ據線 (True Reference Line) ハ  $OX$  線ニシテ曲線

(b)ニテ表ハス函數ノ眞値ハ斷面GHニ於テハH'G'ナリ。然ラバ積分曲線圖ニ於テ測ルベキ面積ハ曲線トOX軸トニテ界サレタル面積ナリトス。

第二次積分曲線ヲ求ムルニハ(b)圖ニ示ス如ク曲線O'G'D'ト軸OXトノ間ノ面積ヲ適宜ニ分割シ或縮尺ヲ以テ任意ニ選ミタル軸OXヨリ面積A<sub>1</sub>'ニ等シク縦距A'B'ヲ取り面積A<sub>2</sub>'ニ等シクC'D'ヲ取ルベシ。以下之ニ準ズ[(c)圖]然ラバ縦距G'H'ハ(b)圖ニ於テ原點ヨリ斷面G'H'迄ノ間ノ面積ヲ表ハスベシ。(c)圖ニ於テハ積分常數ヲ零ト假定セリ。

第二方法 第一方法ニヨルトキハ積分常數ヲ求メザルベカラズ。從テ場合ニヨリテハ次ニ述ブルガ如キ方法ヲ使用スルヲ便トス。第一方法ト同様ニ第39圖(b)ノ第一次積分曲線ヲ畫キ面積A<sub>1</sub>, A<sub>2</sub>等ヲ鉛直軸X'L上ニ投射スベシ。但O'X'ハ任意ニ選ミタル軸ナリ。若シO''X''ノ如キ他ノ軸ニ對スル積分曲線ヲ得ントセバ常數O'O''ヲ假定シ其軸上ニ極P'ヲ取ルベシ。此場合ニ極距Hノ單位及縮尺ハOX軸ニ沿ヒテ測リタル距離ノソレト同一ナリトス。次ニ放射線P'X', P'B, P'C等ヲ引キ(c)圖ノO'點ヨリ始メテ(b)圖ノP'X'ニ並行ニO'A'ヲ引クベシ。之ガ(a)圖ノ面積A<sub>1</sub>ノ平均縱距(Mean Ordinate)ノ延長線ヲ

第39圖



切ル點ヲA'トシ此點ヲ通シテ(b)圖ノP'Bニ並行ニA'B'ヲ引クベシ。索多邊形O'A'B'-E'-X'ハ順次此方法ヲ續ケテ得タルモノニシテ(c)圖ノ水平軸O'X''ヨリ測リタル縱距ハ(b)圖ニ於ケル曲線ト軸O'X'ニ

トニテ圍マレタル面積ヲ表ハス。即チ或斷面 MN  
ヲ考フレバ(c')圖ノ  $y$  ハ(b)圖ニ於テ原點ヨリ其斷面  
迄ノ面積ヲ表ハス。其證明次ノ如シ。

(b)圖ノ  $\triangle P'X'X''$  ト(c')圖ノ  $\triangle O'A_1G_1$  トハ相似ナル  
ユエ(b)圖ノ積分常數  $O'O''$  ヲ  $A_1'$  トスレバ  $\frac{A_1'}{H} = \frac{A_1G_1}{x}$  ;  
相似三角形  $P'X'B$  及  $A'A_1B_1$  ヨリ  $\frac{A_1}{H} = \frac{A_1B_1}{a_1}$  ; 相似三角  
形  $P'BC$  及  $B'B_1C_1$  ヨリ  $\frac{A_2}{H} = \frac{B_1C_1}{a_2}$  ; 相似三角形  $P'CD$  及  
 $C'C_1D_1$  ヨリ  $\frac{A_3}{H} = \frac{C_1D_1}{a_3}$  ; 相似三角形  $P'DE$  及  $D'D_1E_1$  ヨ  
リ  $\frac{A_4}{H} = \frac{D_1E_1}{a_4}$  ヲ得。即チ

$$A_1'x = H(A_1G_1), \quad A_1a_1 = H(A_1B_1), \quad A_2a_2 = H(B_1C_1),$$

$$A_3a_3 = H(C_1D_1), \quad A_4a_4 = H(D_1E_1),$$

$$\therefore A_1'x - A_1a_1 - A_2a_2 - A_3a_3 - A_4a_4 = H(A_1G_1 -$$

$$A_1B_1 - B_1C_1 - C_1D_1 - D_1E_1),$$

$$\text{即チ} \quad A_1'x - \Sigma A.a = H.y.$$

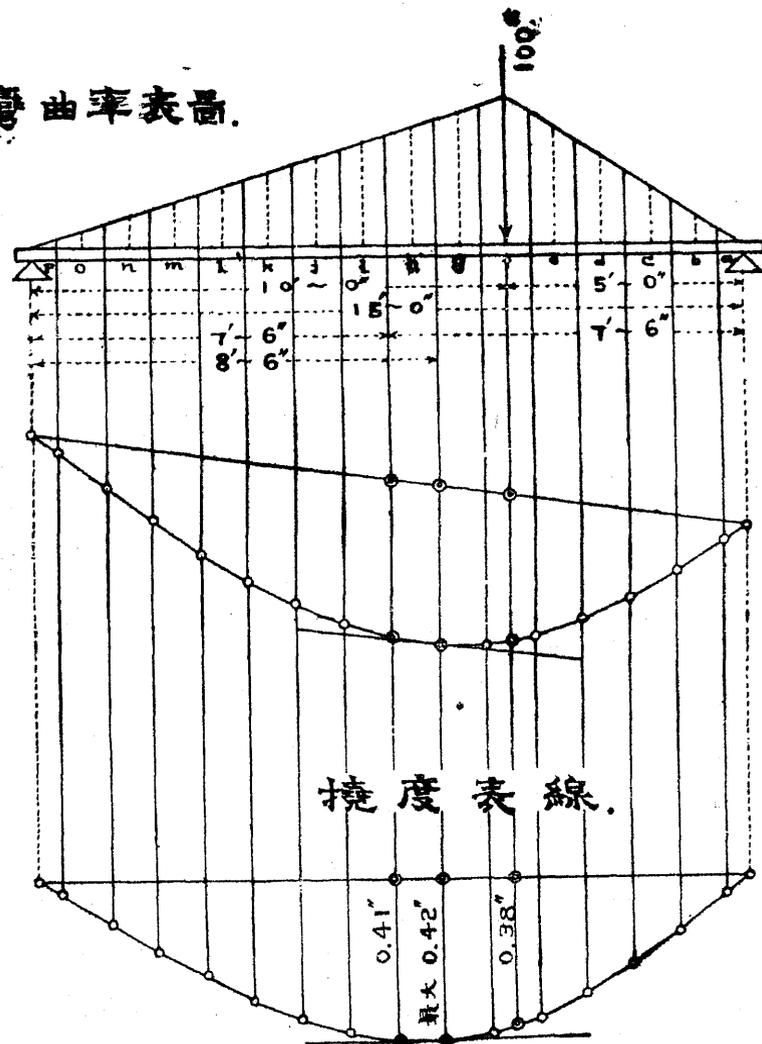
$(A_1'x - \Sigma A.a)$  ハ(b)圖ニ於テ實線ニテ陰ヲ附シタル  
部分ノ面積ノ代數和ヲ表ハスヲ以テ  $H.y$  ハ原點ヨ  
リ斷面迄ノ間ニテ軸ト曲線トニテ圍マレタル面積  
ニ等シ。從テ(c')ハ(b)ノ第一次積分曲線ニシテ(a)ノ  
第二次積分曲線ナリ。

以上ノ解法ニ於テハ積分常數ヲ假定セシユエ眞  
ノ積分曲線ヲ得ルニハ(c')曲線ニ對シテ補正ヲ要ス。

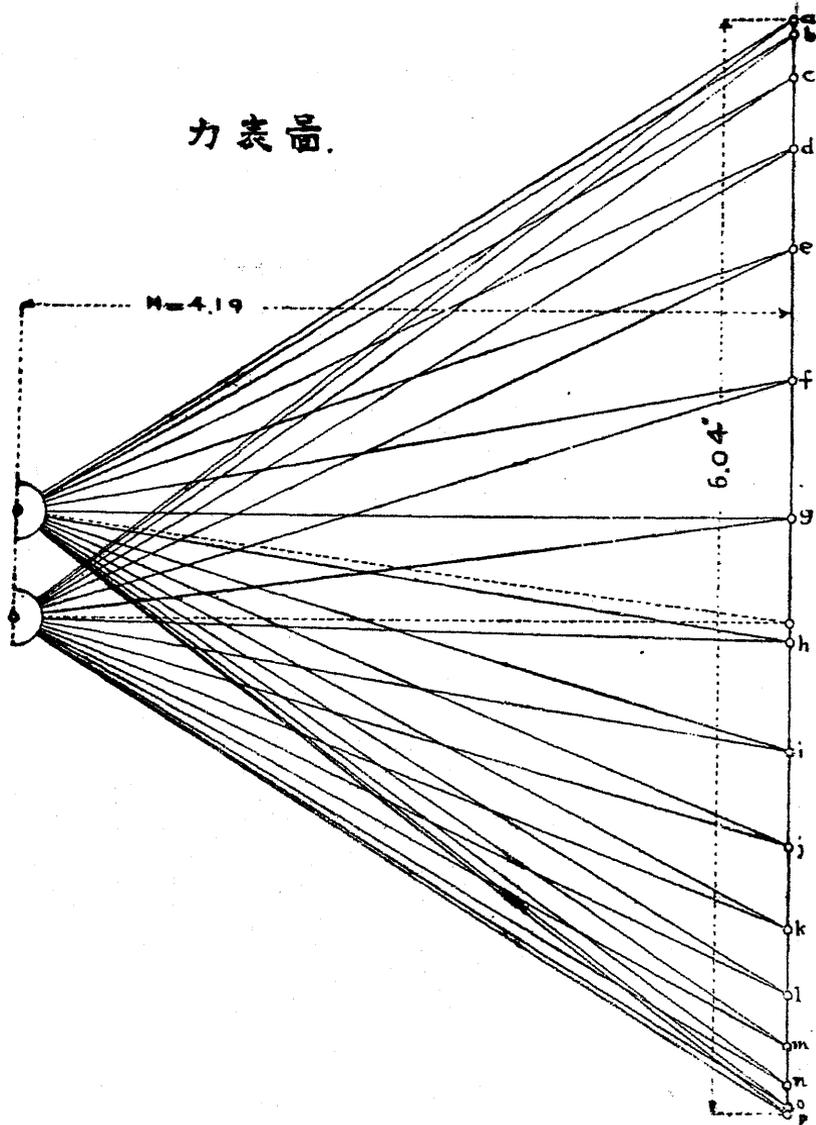
# 撓度圖式解法

附圖 I.

彎曲率表番



力表番



條件:

木材允許 — 徑間 15 呎, 直徑 4 吋,  
 彈性係數  $E = 2,000,000$  呎每平方吋,  
 集中荷重 = 100 呎.

尺度定方:

最大彎曲率 = 4,000 呎吋.

彎曲率表番面積 =  $\frac{4,000 \times 15 \times 12}{2} = 360,000$  呎吋<sup>2</sup>.

∴ 彎曲率表番面積尺度 1 吋 =  $\frac{360,000}{6.04} \approx 60,000$  呎吋<sup>2</sup>.

$I = \frac{\pi r^4}{4} = \frac{3.1416 \times 2^4}{4} = 12.5664$  吋<sup>4</sup>.

$E I = 2,000,000 \times 12.5664 = 25,132,720$  呎吋<sup>2</sup>.

$n = 100$ .

$H = \frac{25,132,720}{100 \times 60,000} = 4.19$

$\frac{m}{n} = \frac{48}{100} = 0.48$ .

∴ 撓度尺度 1 吋 = 0.48 吋.

尺度:  $\left\{ \begin{array}{l} \text{線尺度 1 吋} = 48 \text{ 吋.} \\ \text{彎曲率表番面積尺度 1 吋} = 60,000 \text{ 呎吋}^2 \\ \text{撓度尺度 1 吋} = 0.48 \text{ 吋.} \end{array} \right.$

上記ノ方法ニヨリテ彎曲率表圖ノ第一次積分曲線即チ荷重表圖ノ第三次積分曲線ヲ畫クヲ得ベシ。是レ彈曲線ニシテ其縱距ハ撓度ヲ與フベキナリ。

先ツ彎曲率表圖ノ面積ニ等シキ大サノ荷重ガ表圖ノ如キ配布ニテ桁ニ加ハルモノト見做シ、表圖面積ヲ適宜ノ數ノ細長面ニ分割シ(多クノ數ニ分割スル程精密ナル結果ヲ得)、各部分ノ面積ニ等シキ荷重ガ各細長面ノ中心ヲ通シテ引キタル線(通常中央鉛直線ヲ取ル)ヲ働線トシテ桁ニ働クモノト假定スベシ。極距ヲ乘積  $E.I$  ニ等シク取り普通ノ方法ニ依リテ索多邊形ヲ畫クベシ。然ラバ此索多邊形ノ縱距ハ各點ノ撓度ヲ表ハスベキナリ。何トナレバ其多邊形ノ縱距ハ  $y_0$  ト極距トノ乘積ヲ表ハシ之ヲ乘積  $E.I$  ニテ除シタルモノガ撓度  $y_0$  ナレバナリ。桁ガ水平ノ位置ニアルトキハ撓度表線ノ閉線ガ水平ナルベク假令上述ノ如クニシテ得タル索多邊形ノ閉線ガ傾斜スルトモ其多邊形ヲ利用シテ眞ノ撓度表線ヲ畫クコト容易ナリ(附圖 I)。

實際ノ場合ニ於テハ眞ノ撓度ハ甚小ナルユエ極距ヲ  $\frac{E.I}{n}$  ニ取リテ撓度表線ノ縱距ヲ増大スルヲ便トス。此ノ如クニシテ得タル縱距ハ眞ノ長サノ  $n$  倍タルベキナリ。又横距ガ實際ノ長サノ  $\frac{1}{m}$  ノ縮尺

ニテ表ハサル、ナラバ縦距ノ眞ノ長サハ表圖上ニテ測リタル長サニ  $\frac{m}{n}$  ヲ乗ジタルモノナリ。

(3) 積分常數 第39圖ニ於テ(b)曲線ト或一定線トノ間ノ面積又ハ(c)曲線ノ縦距ニテ如何ナル量ガ表ハサル、トモ(b)及(c)兩圖ニ於テ軸上ノ或二點ニ於ケル縦距ノ値ハ問題ノ條件ヨリ既知ナルカ又ハ其値ヲ知り得ベシ。而シテ此ノ如キ二點ハ桁ノ場合ニハ放端支端又ハ中央點ナリトス。

曲線(a),(b)ヨリ常數ヲ定ムル能ハザルトキハ曲線(c)ヲ利用スルヲ得。(b)圖ノ假定常數  $A_1'$  ニ對シテ曲線(c)ガ左端ニ於テ零、右端ニ於テ負値  $X_1''X_1'$  ヲ示セルハ(b)圖ニ於テ負ノ面積ガ正ノ面積ヨリ  $X_1''X_1'$  丈超過セルコトヲ表ハスモノナリ。單桁ニ於ケル彎曲率表線ノ如ク各端ニ於ケル縦距ガ零ナルトキハ曲線ハ  $X_1''$  點ニテ終ルベキナリ。之ガ爲メニハ曲線(b)ニ於ケル負ノ面積ヲ減ジ正ノ面積ヲ増サハルベカラズ。即チ據軸(Reference Axis)ヲ下方ニ移シテ常數  $A_1'$  ヲ増ザハルベカラズ。

(b)圖ニ於ケル正負兩面積ヲシテ等シカラシムベキ常數ヲ見出スニハ(c)圖ノ索多邊形ノ閉線  $O'X_1'$  ニ並行ニ  $P'X$  ヲ引キ  $X$  ヲ通シテ水平軸  $OX$  ヲ引ケバ可ナリ。斯クシテ得タル  $XX' = OO'$  ハ常數ノ眞值ナリ。

其證明次ノ如シ。

(b)圖ノ正負兩面積ヲ等シカラシムルニハ正ノ面積ガ増加スル量  $O'X''XO = l(X''X)$  ト(c)圖ニ於ケル  $X_1''X_1'$  ト  $H$  トノ乘積トガ等シカラザルベカラズ。然ルニ(b)圖ノ  $\triangle P'X''X$  ト(c)圖ノ  $\triangle O'X_1''X_1'$  トハ相似ナルユエ

$$\frac{H}{X''X} = \frac{l}{X_1''X_1'}, \quad \text{即チ } H(X_1''X_1') = l(X''X).$$

眞ノ曲線ノ縦距ハ(c)圖ニ於ケル二軸  $O'X_1''$ ,  $O'X_1'$  間ノ縦距ヲ原ノ曲線ノ縦距ニ加減シタルモノナリ。何トナレバ(b)圖ノ  $\triangle P'X''X$  ト(c)圖ノ  $\triangle O'G_1R$  トハ相似ナルユエ

$$\frac{H}{X''X} = \frac{e}{G_1R} \quad \text{即チ } H(G_1R) = e(X''X).$$

即チ(c)圖ノ縦距  $(\overline{G_1R})$  ニ極距ヲ乗ジタルモノハ(b)圖ニ於テ破線ニテ陰ヲ附シタル部分ノ面積ニ等シ。

眞ノ曲線ハ縦距ノ眞值ヲ水平軸ヨリ測リ若クハ(b)圖ノ軸  $OX$  上ニ新シキ極  $P$  ヲ取リテ之ヲ畫クヲ得。(c)圖ハ新シキ極  $P$  ヲ用キ(c)圖ト同様ニシテ畫キタルモノナリ。

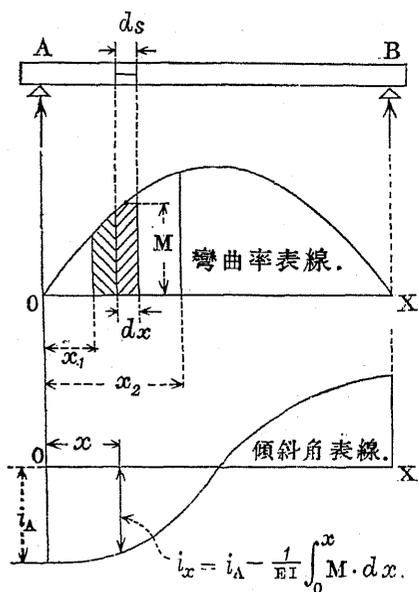
(II) 傾斜角表線(Slope Curve) 傾斜角表線又ハ  $i$  表線トハ其縦距ガ桁ノ各點ニ於ケル傾斜角ノ値ヲ表ハス曲線ノ名稱ナリ。原點ヨリ  $\omega_1$ ,  $\omega_2$  ナル距離

ニ於テ中立面上ノ二點間ノ傾斜角ノ變化ハ

$$i_2 - i_1 = \frac{1}{EI} \int_{x_1}^{x_2} M \cdot dx$$

ニシテ此關係ヨリ圖式的ニ桁ノ  $i$  表線ヲ定ムルヲ得.

第40圖



第40圖ニ示ス如ク

$M \cdot dx$  ハ彎曲率表圖ニ於ケル細長面積ニ等シク任意ノ二斷面間ノ面積ハ

$$\int_{x_1}^{x_2} M \cdot dx$$

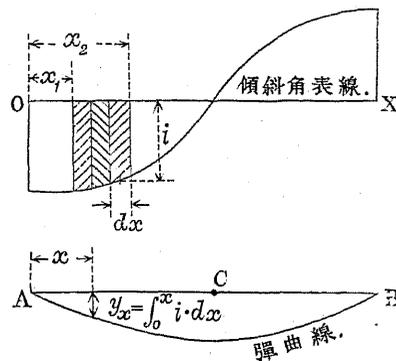
ナリ. 依テ桁ノ任意二斷面間ノ彈曲線傾斜角ノ變化ヲ知ルニハ彎曲率表圖ニ於ケル其二斷面間ノ面積ヲ乘積  $EI$  ニテ除セ

バ可ナリ.

若シ  $E$  ガ常數ニシテ  $I$  ガ變數ナレバ彎曲率表圖ノ縱距ヲ  $I$  ニテ除シ之ヲ新ラシキ縱距トシテ  $\frac{M}{I}$  曲線ヲ畫クベシ. 但  $I$  ハ彎曲率表圖ニ於テ縱距ヲ測リタル斷面ノ慣性能率ナリトス.

(III) 撓度表線 (Deflection Curve) 之ハ彈曲線ニシテ任意ノ點ニ於ケル縱距ガ其點ノ撓度ヲ表ハスモ

第41圖



ノナリ. 第41圖ニ示セル細長面積ハ  $i \cdot dx$  ヲ表ハシ

$$\int_{x_1}^{x_2} i \cdot dx$$

ハ原點ヨリ  $x_1, x_2$  ナル距離ニ於ケル二斷面間ノ面積ナリ. 而シテ原點ヨリ  $x$  ナル距

離ニアル點ノ撓度ハ

$$y_x = \int_0^x i \cdot dx$$

ナルヲ以テ撓度表線圖ニ於テ  $x_1, x_2$  ナル距離ニ於ケル二點ノ撓度ヲ夫々  $y_1, y_2$  トスレバ

$$y_2 - y_1 = \int_{x_1}^{x_2} i \cdot dx$$

然レバ傾斜角表線圖ニ於テ二斷面間ノ面積ハ彈曲線表圖ニ於テ之ニ相當スル二點ノ縱距ノ差即チ撓度ノ差ヲ表ハスベシ.

又彎曲率表圖面積ノ第一次率ト撓度トノ關係ハ次ノ如ク表ハスヲ得(第42圖).

第25節 (20式ヨリ)

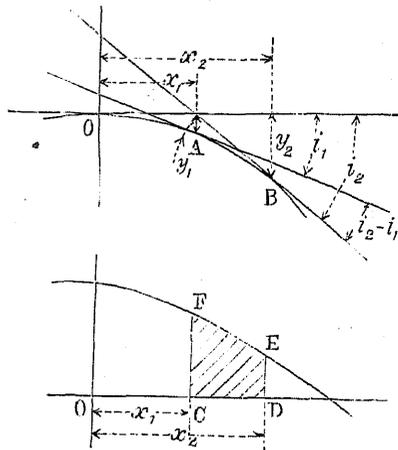
$$x \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = \frac{M}{EI} \cdot x$$

之ヲ部分積分法ニヨリ積分界限  $x=x_1, x=x_2$  ノ間ニ積分スレバ

$$\left[ x \cdot \frac{dy}{dx} - y \right]_{x=x_1}^{x=x_2} = \frac{1}{EI} \int_{x_1}^{x_2} M \cdot x \cdot dx,$$

$$(x_2 \cdot i_2 - y_2) - (x_1 \cdot i_1 - y_1) = \frac{1}{EI} \int_{x_1}^{x_2} M \cdot x \cdot dx.$$

第42圖



積分ノ各界限ニ於テ  $x$  或ハ  $\frac{dy}{dx}$  ガ零ナルガ爲メニ  $x \cdot \frac{dy}{dx} = 0$  トナラバ

$$\left[ x \cdot \frac{dy}{dx} - y \right]_{x=x_1}^{x=x_2} \quad \text{ハ} \quad -(y_2 - y_1)$$

トナル。然ラバ

$$\frac{1}{EI} \int_{x_1}^{x_2} M \cdot x \cdot dx$$

ハ二點間ノ桁ノ撓度ノ變化ヲ與フ。而シテ  $\int_{x_1}^{x_2} M \cdot x \cdot dx$  ハ彎曲率表圖ニ於テ二點  $x=x_1, x=x_2$  間ノ面積ノ原點ニ對スル第一次率ヲ表ハス。此面積ヲ  $A$  トシ原點ヨリ其中心迄ノ距離ヲ  $\bar{x}$  トスレバ  $\int_{x_1}^{x_2} M \cdot x \cdot dx$  ハ  $A \cdot \bar{x}$  ニテ表ハスヲ得。故ニ積分ノ二界限ニ於テ  $x \cdot \frac{dy}{dx}$  ガ零ナルトキハ

$$-(y_2 - y_1) = \frac{1}{EI} \int_{x_1}^{x_2} M \cdot x \cdot dx = \frac{A \cdot \bar{x}}{EI}$$

ナリ。若シ積分下界限ガ零ニシテ且原點ニ於テ  $y$  ガ零ナラバ

$$\left[ x \cdot \frac{dy}{dx} - y \right]_0^x = x \cdot i_x - y_x = \frac{1}{EI} \int_0^x M \cdot x \cdot dx.$$

之ハ  $x$  點ニ於ケル切線ノ鉛直投射線ト其點ニ於ケル撓度トノ差ヲ表ハス。此式ヲ書換フレバ

$$y_x = x \cdot i_x - \frac{1}{EI} \int_0^x M \cdot x \cdot dx = x \cdot i_x - \frac{A \cdot \bar{x}}{EI} \dots \dots \dots (47)$$

是レ原點ヨリ  $x$  ナル距離ニ於ケル點ノ撓度ヲ與フル式ニシテ彎曲率  $M$  ハ正又ハ負ナリ。

例題 1. 放端ニ於テ集中荷重  $W$  ナ受ケタル突桁。

放端ヲ原點トスレバ  $x=0$  ニ對シテ  $x \cdot \frac{dy}{dx} = 0$ 、又固定端ニ於テハ  $x=l, \frac{dy}{dx} = 0$  ナルニエ  $x \cdot \frac{dy}{dx} = 0$  ナリ。然ルニ此場合ニ  $M$  ハ負ナルニヨリ (47) 式ヨリ (放端ヲ原點トス)

$$y_i = \frac{A \cdot \bar{x}}{EI} = \frac{1}{EI} \left( \frac{Wl^2}{2} \times \frac{2}{3} \right) = \frac{Wl^3}{3EI}$$

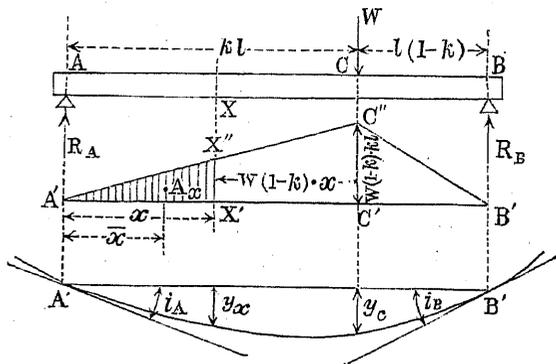
例題 2. 左支端ヨリ  $kl$  ナル距離ニ於テ集中荷重  $W$  ナ受ケル  
単桁(第四章第27節参照).

左支端  $A$  ナ原点トスレバ

$$\left[ x \cdot \frac{dy}{dx} - y \right]_0^l = l \cdot i_B = \frac{1}{EI} \int_0^l M \cdot x \cdot dx = \frac{A \cdot \bar{x}}{EI}$$

$$\therefore i_B = \frac{A \cdot \bar{x}}{EI}$$

第43圖



但  $A \cdot \bar{x}$  ハ原点  $A$  ニ對スル彎曲率表圖面積ノ第一次率ナリ. 同様ニ右支端  $B$  ナ原点トスレバ左支端ニ於ケル傾斜角  $i_A$  ノ値ハ  $\frac{A(l-\bar{x})}{EI}$  ナリ. 而シテ  $i_A$  ト  $i_B$  トハ符號ヲ異ニス.

今原点ヨリ  $x$  ナル距離ニ於ケル點  $X$  ト  $A$  トノ間ノ彎曲率表圖ノ面積ヲ  $A_x$  トスレバ

$$i_x = -i_A + \frac{A_x}{EI}$$

此値ヲ(47)式ニ代入スレバ

$$y_x = -x \cdot i_A + \frac{x \cdot A_x}{EI} - \frac{A_x \cdot \bar{x}}{EI}$$

$$\therefore y_x = -x \cdot i_A + \frac{A_x(x-\bar{x})}{EI} \tag{47a}$$

此式ニ於テ  $A_x(x-\bar{x})$  ノ  $X$  點ニ對スル  $A_x$  ノ第一次率ヲ

第43圖ニ於テ  $i_A$  ノ値ハ第27節ノ公式ニヨリ

$$i_A = \frac{1}{EI} \left[ \frac{1}{2} W(1-k)x^2 - \frac{1}{6} Wl^2(2k-3k^2+k^3) \right]_{x=0}$$

$$= -\frac{Wl^2(2k-3k^2+k^3)}{6EI} = -\frac{Wl^2 \cdot k(1-k)(2-k)}{6EI}$$

$$i_x = -i_A + \frac{1}{EI} (\text{面積 } A'X'X'') = -i_A + \frac{1}{EI} \left[ W(1-k)x \cdot \frac{x}{2} \right]$$

$$= -\frac{W(1-k)}{EI} \left[ \frac{kl^2(2-k)}{6} - \frac{x^2}{2} \right]$$

AC間ニ於テハ(47a)式ニヨリ

$$y_x = -x \cdot i_A + \frac{W(1-k)x}{EI} \cdot \frac{x}{2} = -\frac{W(1-k)x}{EI} \left[ \frac{kl^2(2-k)}{6} - \frac{x^2}{2} \right]$$

$x=kl$  ナルトキハ

$$y_c = -\frac{Wk^2 l^3 (1-k)^2}{3EI}$$

此等ハ第27節ニ於テ與ヘタル公式ト一致ス.

若シ  $k = \frac{1}{2}$  即チ  $W$  ガ単桁ノ中央點ニアルトキハ

$$y_c = -\frac{Wl^3}{3EI} \left[ k^2(1-k)^2 \right]_{k=\frac{1}{2}} = -\frac{Wl^3}{48EI}$$

此場合ニ左支端ヲ原点トシ桁ノ半長ト  $\frac{W}{2}$  トヲ取リテ考フレバ積分下界限ガ零ニシテ且原点ニ於テ  $y$  ガ零ナリ, 又積分上界限  $x = \frac{l}{2}$  ニ對シテ  $\frac{dy}{dx}$  ガ零ニシテ  $M$  ハ正ナルニエ(47)式ヨリ

$$y_{\frac{l}{2}} = -\frac{A \cdot \bar{x}}{EI} = -\frac{1}{EI} \left[ \frac{Wl}{4} \cdot \frac{l}{4} \cdot \frac{2}{3} \cdot \frac{l}{2} \right] = -\frac{Wl^3}{96EI}$$

$$\therefore \text{眞ノ中央點撓度 } y_{\frac{l}{2}} = -\frac{Wl^3}{96EI} \times 2 = -\frac{Wl^3}{48EI}$$

(IV) 曲線相互ノ關係及曲線ニ用フべき單位 (Relations between Curves and Units for Curves) 今桁ノ任意二

斷面ヲ取リテ曲線間ニ成立スル關係ヲ摘記スレバ

(第一)鉛直剪斷力ノ増加ハ荷重表圖ニ於ケル夫等二斷面間ノ面積ニ等シ.

(第二)彎曲率ノ増加ハ剪斷力表圖ニ於ケル夫等二斷面間ノ面積ニ等シ.

(第三)傾斜角ノ増加ハ彎曲率表圖ニ於ケル夫等二斷面間ノ面積ヲ乘積  $EI$  ニテ除シタルモノニ等シ.

(第四)撓度ノ増加ハ傾斜角表線圖ニ於ケル夫等二斷面間ノ面積ニ等シ.

依テ積分常數ヲ定メテ曲線ト據軸トニテ圍マレタル面積ヲ測レバ桁ノ彈曲線ニ關スル問題ヲ解クコト容易ナリ.

次ニ  $E$  ヲ 1 噸毎平方吋,  $I$  ヲ 1 吋<sup>4</sup>,  $X$  軸即チ支間ニ沿ヒテ測リタル長サノ  $m$  吋ヲ 1 吋ニテ表ハストキハ曲線ノ縱距ニ用フベキ縮尺ハ次ノ如シ.

荷重表圖: 1 吋 =  $w$  噸毎吋, 面積 1 平方吋 =  $w \cdot m$  噸.

剪斷力表圖: 荷重表圖ノ面積  $n$  平方吋ヲ 1 吋ニテ表ハセバ

1 吋 =  $n \cdot w \cdot m$  噸, 面積 1 平方吋 =  $n \cdot w \cdot m^2$  噸吋.

彎曲率表圖: 剪斷力表圖ノ面積  $p$  平方吋ヲ 1 吋ニテ表ハセバ

1 吋 =  $p \cdot n \cdot w \cdot m^2$  噸吋, 面積 1 平方吋 =  $p \cdot n \cdot w \cdot m^3$  噸吋<sup>2</sup>.

傾斜角表線圖: 彎曲率表圖ノ面積  $q$  平方吋ヲ  $EI$  ニテ除シタル商ヲ 1 吋ニテ表ハセバ

1 吋 =  $\frac{q \cdot p \cdot n \cdot w \cdot m^3}{EI}$  弧度, 面積 1 平方吋 =  $\frac{q \cdot p \cdot n \cdot w \cdot m^4}{EI}$  吋.

撓度表線圖: 傾斜角表線圖ノ面積  $r$  平方吋ヲ 1 吋ニテ表ハセバ

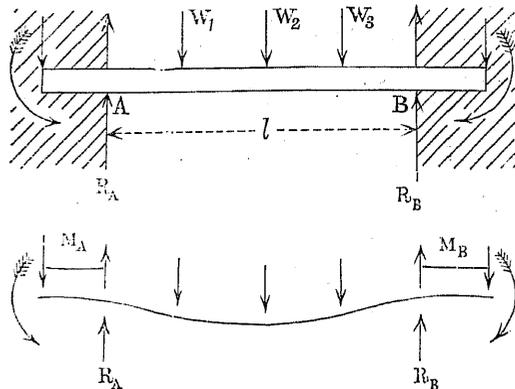
1 吋 =  $\frac{r \cdot p \cdot q \cdot n \cdot w \cdot m^4}{EI}$  吋.

圖式積分法第二方法ニ就テ剪斷力表線圖ニ於ケル縱距縮尺(橫距單位ハ總テノ表圖ニ於テ同一ナリトス)ヲ 1 吋 = 100 吋トシ極距  $H$  ヲ 24 吋トシテ彎曲率表圖ヲ畫ケバ此表圖ノ縱距縮尺ハ 1 吋 =  $24 \times 100 = 2,400$  吋吋ナリ. 次ニ極距ヲ 20 吋ニ取リテ傾斜角表線圖ヲ畫ケバ其縱距縮尺ハ 1 吋 =  $\frac{20 \times 2,400}{EI}$  弧度トナル. 然レバ  $E = 1,500,000$  噸/平方吋,  $I = 1$  吋<sup>4</sup> トスレバ 1 吋 =  $\frac{20 \times 2,400}{1,500,000 \times 1} = 0.032$  弧度ナリ. 又極距ヲ  $31\frac{1}{4}$  吋トシテ彈曲線圖ヲ畫ケバ其縱距縮尺ハ 1 吋 =  $0.032 \times 31\frac{1}{4} = 1$  吋ナリ.

## 第五章 固定桁及連續桁 (Built-In and Continuous Beams)

31. 固定桁ノ一般解説 固定桁トハ荷重ガ加ハルトキ兩端ニ於テ桁ノ傾斜ガ變ビザル様充分ニ控制セラレタルモノヲ謂フ。固定端ノ高サハ通常同一ニシテ各端ガ充分ニ固定セラル、トキハ桁端ノ傾斜角ハ零ナリ。如斯ニ桁ヲ固定スレバ最大單位應力及撓度ハ減少シ從而桁ノ強サ及剛性ヲ増ス。此種ノ桁ガ荷重ヲ受クルトキハ支端固定ノ爲メニ兩端ニ於テ固定力率(Fixing Moment)ガ起リ桁ノ中央部ハ下方ニ凸面ヲ呈シ兩端ハ上方ニ凸面ヲ呈スベシ。然ラバ彎曲率ガ零ナル二點アルベキナリ。此點ヲ反曲點(Point of Inflection)ト謂フ。

第44圖



固定桁ニ關スル問題ヲ解クニハ各端ニ於テ桁ト壁トノ間ニ働ク未知ノ外力ヲ第44圖ニ示ス如ク  $R_A$ ,  $R_B$  ナル鉛直反力ト各端ニ於テ彈曲線ヲ水平ニ保ツニ足ルベキ偶力トニ置換ヘテ考フベシ此偶力率  $M_A$ ,  $M_B$  ハ所謂固定力率ニシテ鉛直反力ハ各端ノ剪斷力ニ等シ而シテ  $R_A$ ,  $R_B$  ノ和ハ平衡條件ニヨリテ桁上ノ全荷重ニ等シ。配布荷重ノ場合ニハ上述ノ方法ヲ用ヒズトモ公式  $EI \frac{d^4 y}{dx^4} = -w$  ヲ積分シテ問題ヲ解クヲ得。今二種ノ解法ノ例ヲ示サン。

(1) 固定桁ガ等布荷重  $w$  ヲ受クル場合。

$$EI \frac{d^4 y}{dx^4} = -w, \quad EI \frac{d^3 y}{dx^3} = -wx + C_1,$$

$$EI \frac{d^2 y}{dx^2} = -\frac{1}{2}wx^2 + C_1x + C_2,$$

$$EI \frac{dy}{dx} = -\frac{1}{6}wx^3 + \frac{1}{2}C_1x^2 + C_2x + C_3,$$

桁ノ一端ヲ原點トセバ  $x=0$ ,  $x=l$  ノ點ニ於テ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナルユエ

$$C_3 = 0, \quad -\frac{1}{6}wl^2 + \frac{1}{2}C_1l + C_2 = 0, \quad \text{即チ} \quad C_2 = \frac{1}{6}wl^2 - \frac{1}{2}C_1l.$$

$$\therefore EI \frac{dy}{dx} = -\frac{1}{6}wx^3 + \frac{1}{2}C_1x^2 + \frac{1}{6}wl^2x - \frac{1}{2}C_1lx$$

$$EI \cdot y = -\frac{1}{24}wx^4 + \frac{1}{6}C_1x^3 + \frac{1}{12}wl^2x^2 - \frac{1}{4}C_1lx^2 + C_4.$$

$x=0, x=l$  の値 = 對シ  $y=0$  ナルユエ

$$C_1=0, \quad -\frac{1}{24}wl + \frac{1}{6}C_1 + \frac{1}{12}wl - \frac{1}{4}C_1=0,$$

即チ  $C_1 = \frac{1}{2}wl$ , 又  $C_2 = \frac{1}{6}wl^2 - \frac{1}{4}wl^2 = -\frac{1}{12}wl^2$ .

常數  $C_1, C_2$  の値ヲ上式ニ代入セバ

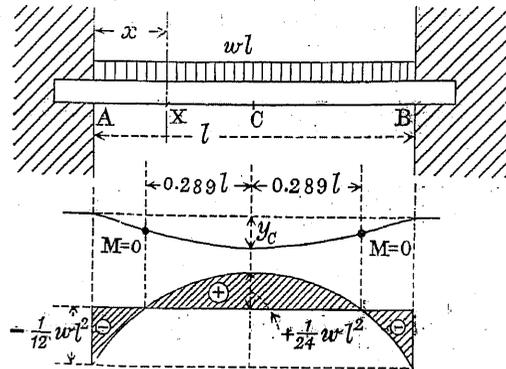
$$\text{剪斷力 } V = EI \cdot \frac{d^3y}{dx^3} = w\left(\frac{1}{2}l - x\right),$$

$$\text{彎曲率 } M = EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{1}{12}w(6x^2 - 6lx + l^2).$$

反曲點ニ於テハ  $M=0$  ナルヲ以テ  $6x^2 - 6lx + l^2 = 0$ ,

$$\therefore x = \frac{l}{2} \pm 0.289l.$$

第 45 圖



$$\text{又 } M_A = M_B = -\frac{1}{12}w \left[ 6x^2 - 6lx + l^2 \right]_{x=0}^{x=l} = -\frac{1}{12}wl^2.$$

$$\text{傾斜角 } i = -\frac{w}{12EI} (2x^3 - 3lx^2 + l^2x).$$

$i$  ハ  $x=0, x=l, x=\frac{l}{2}$  ナル點ニ於テ零ナリ.

$$\text{撓度 } y = -\frac{w}{24EI} x^2(l-x)^2.$$

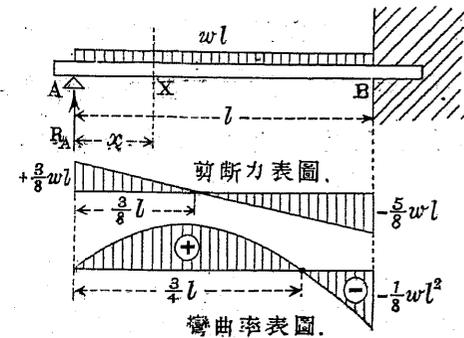
桁ノ中央點ニ於テハ

$$y_c = -\frac{w}{24EI} \left[ x^2(l-x)^2 \right]_{x=\frac{l}{2}} = -\frac{1}{384} \cdot \frac{wl^4}{EI}.$$

是ニ由テ見レバ撓度ハ同ジ桁ガ兩端ニテ支ヘラレテ同大ノ等布荷重ヲ受クルトキノ撓度ノ五分ノ一ナリ. 又最大彎曲率ノ比ハ  $\frac{wl^2}{8} : \frac{1}{12}wl^2$  即チ 3:2 ナルニヨリ横斷面ガ同ジナラバ最大單位彎曲應力モ亦 3:2 ノ比トナルベシ.

(2) 一固定端、一支端ヲ有スル水平桁ガ等布荷重  $w$  ヲ受ケタル場合 左支端 A ヲ原點トセバ

第 46 圖



$$EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = R_A \cdot x - \frac{1}{2}wx^2.$$

$$EI \frac{dy}{dx} = \frac{1}{2} R_A x^2 - \frac{1}{6} w x^3 + C_1$$

B 點 = 於テハ  $x=l$ ,  $\frac{dy}{dx}=0$  ナルニテ

$$C_1 = \frac{1}{6} w l^3 - \frac{1}{2} R_A l^2$$

$$EI y = \frac{1}{6} R_A x^3 - \frac{1}{24} w x^4 + \frac{1}{6} w l^3 x - \frac{1}{2} R_A l^2 x + C_2$$

A 點 = 於テハ  $x=y=0$  ナルヲ以テ  $C_2=0$  ナリ

$$\therefore 24EI y = 4R_A(x^3 - 3l^2x) - w(x^4 - 4l^3x)$$

此式 = 於テ  $x=l$  ナレバ  $y=0$  ナルニテ

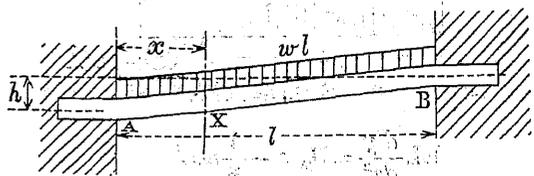
$$-3R_A l^3 + 3w l^4 = 0, \therefore R_A = \frac{3}{8} w l. \quad (\text{第 26 節 參照})$$

反曲點 = 於テハ  $M=0$  ナルニヨリ

$$M = \frac{3}{8} w l x - \frac{1}{2} w x^2 = 0, \therefore x = \frac{3}{4} l$$

(3) 固定桁ガ等布荷重  $w$  ヲ受ケテ一端ガ沈下スル  
場合 今固定桁ノ左端 A ガ右端 B ヨリ  $h$  丈ケ下ヲ  
タルトス(第 47 圖) A 點ヲ原點トシ其點ニ於ケル固  
定力率及鉛直反カヲ夫々  $M_A$  及  $R_A$  トスレバ

第 47 圖



$$EI \frac{d^2y}{dx^2} = M_A + R_A x - \frac{1}{2} w x^2$$

$$EI \frac{dy}{dx} = M_A x + \frac{1}{2} R_A x^2 - \frac{1}{6} w x^3 + C_1$$

$$EI y = \frac{1}{2} M_A x^2 + \frac{1}{6} R_A x^3 - \frac{1}{24} w x^4 + C_1 x + C_2$$

原點 = 於テハ  $\frac{dy}{dx}=0, y=0$  ナルニテ  $C_1=0, C_2=0$  ヲ得

又  $x=l$  ノ點 = 於テハ  $\frac{dy}{dx}=0, y=h$  ナルニヨリ

$$EI h = \frac{1}{2} M_A l^2 + \frac{1}{6} R_A l^3 - \frac{1}{24} w l^4$$

$$0 = M_A l + \frac{1}{2} R_A l^2 - \frac{1}{6} w l^3$$

此二式ヲ解キテ

$$R_A = \frac{1}{2} w l - \frac{12EI}{l^3} h, \quad M_A = -\frac{1}{12} w l^2 + \frac{6EI}{l^2} h$$

$h=0$  ナレバ

$$R_A = \frac{1}{2} w l, \quad M_A = -\frac{1}{12} w l^2$$

是レ兩端ノ高サガ同ジキ場合ノ  $R_A, M_A$  ノ値ナリ。

$$R_B = w l - R_A = \frac{1}{2} w l + \frac{12EI}{l^3} h$$

$$M_B = \left[ M_A + R_A x - \frac{1}{2} w x^2 \right]_{x=l} = M_A + R_A l - \frac{1}{2} w l^2$$

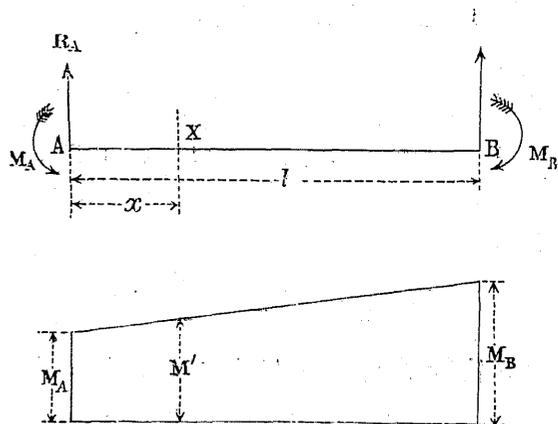
$$= -\frac{1}{12} w l^2 - \frac{6EI}{l^3} h$$

是ニ由テ見レバ B 端ニ於ケル反カハ常ニ正、固定

力率ハ常ニ負ナレドモ A 端ニ於テハ  $h$  ノ大小ニヨリテ  $R_A, M_A$  ハ其符號ヲ變ズ.

32. 固定端ガ彎曲率表圖ニ及ボス影響 (Effect of Fixed Ends on Bending-Moment Diagram) 今固定力率ノミ働クモノトスレバ桁ハ彎曲シテ上方ニ凸面ヲ生ズベシ. 此場合ニ任意斷面ノ彎曲率ヲ求ムルニハ兩端ニ張出部ヲ有シ二點ニテ支ヘラレタル一ツノ桁ト見做シ且張出部ガ受クル荷重ハ固定力率ト等

第 48 圖



シキ彎曲率ヲ支點ニ生ズベキ大サノモノナリト見做セバ其解法容易ナリ.  $M_A = M_B$  ナラバ之ガ爲メニ生ズル彎曲率ハ徑間全長ニ亙リテ同大ナリ. 若シ  $M_A, M_B$  ガ不等ナラバ第 48 圖ノ如ク其變化ハ直線ニテ表ハサル、ユエ A ヨリ  $x$  ナル距離ニ於テ固定

力率ヨリ生ズル彎曲率ハ

$$M' = M_A + \frac{x}{l}(M_B - M_A) \dots \dots \dots (48)$$

固定桁ノ任意斷面ニ於ケル實際ノ彎曲率ハ兩端ニテ支ヘラレタル單桁ト見做シタル場合ノ其斷面ノ彎曲率ト  $M'$  トノ代數和ナリ.

以上ノ關係ハ又次ノ如クニシテ知ルヲ得. 第 48 圖ニ於テ  $R_A, R_B$  ハ壁ノ面ニ働ク鉛直反力ナリ. 今單位延長ニ付キ荷重ヲ  $w$  トシ A ヲ原點トスレバ

$$\frac{d^2M}{dx^2} = -w, \quad V = \frac{dM}{dx} = -\int_0^x w \cdot dx + R_A$$

此式ニ於テ  $R_A$  ハ  $x=0$  ノ點ニ於ケル  $V$  ノ値ナリ. 之ヲ積分スレバ

$$M = -\int_0^x \int_0^x w \cdot dx \cdot dx + R_A \cdot x + M_A$$

式中  $M_A$  ハ  $x=0$  ノ點ニ於ケル  $M$  ノ値ナリ. 而シテ  $x=l$  ノ點ニ於テハ  $M$  ハ  $M_B$  ナルユエ

$$M_B = -\int_0^l \int_0^l w \cdot dx \cdot dx + R_A \cdot l + M_A$$

$$V_A \text{ 又ハ } R_A = \frac{M_B - M_A}{l} + \frac{1}{l} \int_0^l \int_0^l w \cdot dx \cdot dx \dots \dots \dots (49)$$

$\frac{1}{l} \int_0^l \int_0^l w \cdot dx \cdot dx$  ハ  $M_A = M_B$  又ハ  $M_A = M_B = 0$  ナル場合ノ  $R_A$  ノ値ナリ. (49) 式ノ  $R_A$  ノ値ヲ上記  $M$  ノ式ニ代入スレバ

$$M = M_A + \frac{x}{l}(M_B - M_A) + \frac{x}{l} \int_0^l w \cdot dx \cdot dx - \int_0^x \int_0^x w \cdot dx \cdot dx \dots (50)$$

$M_A = M_B = 0$  ナラバ、即チ單桁ノ場合ニハ

$$M = \frac{x}{l} \int_0^l w \cdot dx \cdot dx - \int_0^x \int_0^x w \cdot dx \cdot dx \dots (50_a)$$

固定桁ノ彎曲線ノ微分方程式ハ

$$EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = M + M' = M + M_A + \frac{x}{l}(M_B - M_A) \\ = M + \frac{l-x}{l} \cdot M_A + \frac{x}{l} \cdot M_B \dots (50_b)$$

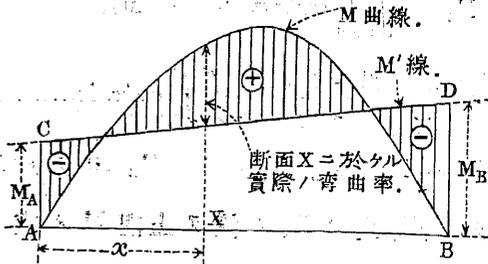
此式ニ於テ

$M$  = 單桁ト見做シタル場合ノ或断面ノ彎曲率 [(50<sub>a</sub>)式]

$M'$  = 固定力率ノタメニ同一断面ニ起ル彎曲率 [(48)式]

$M$ ト $M'$ トハ符號ヲ異ニスルモノナレバ、ツノ基線ノ同シ側ニ此等ノ値ヲ取リテ表圖ヲ作レバ $M$ 曲

第 49 圖



線ノ縱距ト $M'$ 線ノ縱距トノ差ハ或断面ニ於ケル實際ノ彎曲率ヲ表ハスベシ

33. 對稱的ニ荷重ヲ受ケタル固定桁 均等横斷

面ノ固定桁ガ對稱的ニ荷重ヲ受クルトキハ兩端ノ固定力率ハ明カニ相等シ。從テ固定力率ノ爲メニ起ル彎曲率ハ何レノ断面ニ於テモ同大ナリ。然レバ第49圖ノ梯形ABDCハ矩形トナル。

桁端ガ水平ニ固定セラレ、トキハ兩支端間ノ傾斜角ノ全變化ハ零ナルベキヲ以テ $E$ 及 $I$ ガ常數ナラバ

$$\int_0^l (M + M') dx = 0, \quad -\int_0^l M' dx = \int_0^l M dx,$$

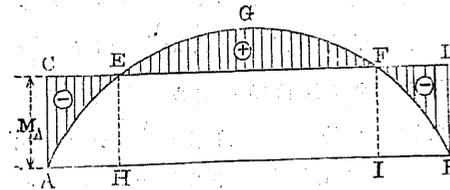
即チ 
$$-M' = \frac{1}{l} \int_0^l M dx.$$

$M$ 曲線ノ面積ヲ $A$ 、 $M'$ 線ノ面積ヲ $A'$ トスレバ

$$A + A' = 0,$$

$\int_0^l (M + M') dx$ ハ彎曲率表圖ノ面積ニシテ之ガ零ナル

第 50 圖



以上ハ $M_A$ ヲ高サトセル矩形ABDCノ面積ト單桁ニ對スル彎曲率表圖ノ面積トハ同一ニシテ

Aナルベシ。而シテM'ノ定値M<sub>A</sub>ハ $-\frac{1}{l} \int_0^l M \cdot dx$ ニシテ之ヲ表ハス縦距ハ $-\frac{A}{l}$ ナリ。依テ對稱的荷重ヲ受ケタル固定桁ニ對シ彎曲率表圖ヲ作ラントセバ第50圖ノ如ク先ヅ單桁ト見做シタル場合ノ表圖AEGFBヲ畫キ此ノ表圖ノ縦距ヨリ總テ平均縦距 $\frac{A}{l}$ 丈ケ減ジ基線ABヲM<sub>A</sub>丈高ムベシ。H及Iハ反曲點ニシテ彎曲率ガ零ナル點ナリ。而シテ面積AEC, BDFノ和ハ面積EGFニ等シクシテ符號相反ス。下向キ鉛直荷重ニ向ツテハ下向キ傾斜角ハAH間ハ増加シH點ニ於テハ面積AECニ正比例ス。Hヨリ徑間ノ中央迄ハ傾斜角ハ減少シAヨリ測リテ彎曲率表圖ノ正負面積ガ相等シクシテ差引零トナルトキ即チ徑間ノ中央點ニ於テ傾斜角ハ零トナル。

例題 1. 固定桁ガ等布荷重ヲ受クル場合。拋物線ト基線トニテ圍マレタル面積Aハ矩形面積ノ三分ノ二ナリ。即チ

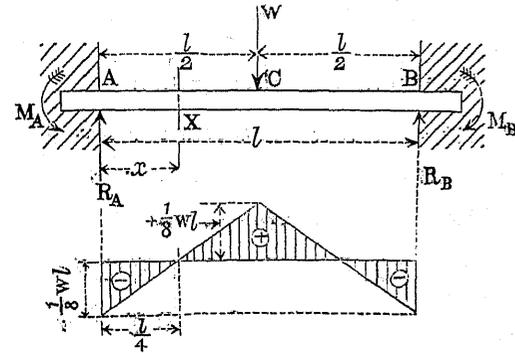
$$\frac{2}{3} \times \frac{1}{8} wl^2 \times l = \frac{1}{12} wl^3.$$

然ラバ平均彎曲率 $\frac{1}{12} wl^2$ 丈ケ基線ヲ移動セシムレバ第45圖ト全ク同一ノ表圖ヲ得ベシ。

例題 2. 固定桁ガ其中央點ニ於テ一ツノ集中荷重ヲ受クル場合。彎曲率表圖ニ就テM線ノ平均ノ高サハ $\frac{1}{2} \times \frac{Wl}{4}$ 即チ $\frac{Wl}{8}$ ナルユエ表圖ハ第51圖ノ如クナリ反曲點ハ明カニ各端ヨリ $\frac{l}{4}$ ノ距離ニ在リテ兩端ト中央點トニ於ケル彎曲率ハ $\frac{Wl}{8}$ ナリ。第四章第30節例題2ニヨリテ荷重ノ働點即チ中央點ニ於ケル撓

度ハ

第51圖



$$y_0 = \frac{1}{EI} \left[ -\left(\frac{1}{2} \cdot \frac{Wl}{8} \cdot \frac{l}{4}\right) \left(\frac{l}{2} - \frac{1}{3} \cdot \frac{l}{4}\right) + \left(\frac{1}{2} \cdot \frac{Wl}{8} \cdot \frac{l}{4}\right) \left(\frac{1}{3} \cdot \frac{l}{4}\right) \right] = -\frac{Wl^3}{192EI}$$

又直接積分法ニ依リテ此問題ヲ解ケベ次ノ如シ

$$EI \frac{d^2y}{dx^2} = M_A + \frac{1}{2} Wx, \quad EI \frac{dy}{dx} = M_A x + \frac{1}{4} Wx^2$$

原點Aニ於テハ $x=0, \frac{dy}{dx}=0$ ナルユエ積分常數ハ零ナリ。而シ

テO點ニ於テハ $x=\frac{l}{2}, \frac{dy}{dx}=0$ ナルヲ以テ

$$0 = M_A \cdot \frac{l}{2} + \frac{1}{4} W \left(\frac{l}{2}\right)^2 \quad \text{即チ} \quad M_A = -\frac{1}{8} Wl,$$

$$\therefore EI \frac{dy}{dx} = -\frac{1}{8} Wlx + \frac{1}{4} Wx^2.$$

$$EI y = -\frac{1}{16} Wlx^2 + \frac{1}{12} Wx^3.$$

A點ニ於テハ $x=0, y=0$ ナルヲ以テ此場合ノ積分常數ハ零ナリ。

$$M = EI \frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{1}{8} Wl + \frac{1}{2} Wx.$$

然レバMハ

$$-\frac{1}{8} Wl + \frac{1}{2} Wx = 0, \quad \text{即チ} \quad x = \frac{l}{4}$$

ナル點ニ於テ零ナリ。

$$\frac{dy}{dx} = \frac{Wx}{8EI}(2x-l), \quad y = \frac{Wx^2}{48EI}(4x-3l).$$

最大撓度ハ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナル點即チ  $x = \frac{l}{2}$  ナル點ニ起リ其値ハ

$$y_e = \frac{Wl^3}{48EI} \left[ x^2(4x-3l) \right]_{x=\frac{l}{2}} = -\frac{Wl^3}{192EI}$$

單桁ガ其中央點ニ於テ同大ノ集中荷重ヲ受クルトキハ其最大撓度ハ此値ノ四倍ニシテ  $-\frac{Wl^3}{48EI}$  ナリ。然レバ此場合ノ固定桁ノ剛性ハ單桁ノ夫レノ四倍ナリ。

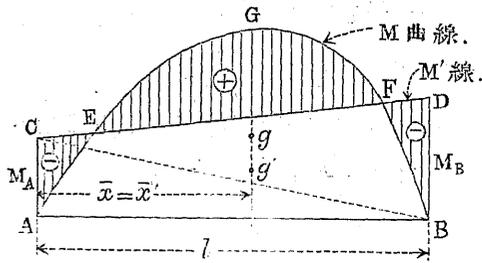
34. 不對稱的ニ荷重ヲ受ケタル固定桁 兩支端ガ水平ニ固定セラレ且 E 及 I ガ常數ナルトキハ

$$\int_0^l (M+M')dx = \int_0^l \left[ M + \left\{ M_A + (M_B - M_A) \frac{x}{l} \right\} \right] dx = 0,$$

$$A + A' = 0.$$

荷重ガ不對稱的ニ加ハル以上ハ  $M_B, M_A$  ハ不等ナルヲ以テ  $M'$  表圖ハ梯形トナル。從テ  $A + A' = 0$  ナル關係ノミニテハ  $M_A, M_B$  ヲ定ムルコト難シ。第52圖ニ於テ A ヲ原點トスレバ

第52圖



$$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{M+M'}{EI}, \quad x \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = \frac{M+M'}{EI} \cdot x,$$

$$\begin{aligned} \left[ x \frac{dy}{dx} - y \right]_0^l &= \frac{1}{EI} \int_0^l (M+M')x \cdot dx \\ &= \frac{1}{EI} \left( \int_0^l M \cdot x \cdot dx + \int_0^l M' \cdot x \cdot dx \right), \end{aligned}$$

即チ

$$\left[ x \frac{dy}{dx} - y \right]_0^l = \frac{1}{EI} (A \cdot \bar{x} + A' \cdot \bar{x}').$$

此式ニ於テ  $\bar{x}$  及  $\bar{x}'$  ハ原點ヨリ夫々面積 A 及 A' ノ中心ニ至ル距離ナリトス。而シテ兩積分界限  $x=0, x=l$  ニ於テ  $\frac{dy}{dx}$  ハ零且  $y=0$  ナルユエ  $\left[ x \frac{dy}{dx} - y \right]_0^l$  ハ零トナル。然ラバ

$$\int_0^l M \cdot x \cdot dx + \int_0^l M' \cdot x \cdot dx = A \bar{x} + A' \bar{x}' = 0.$$

$A \cdot \bar{x} = -A' \cdot \bar{x}'$  ニシテ且  $A = -A'$  ナル以上ハ A ノ中心 g ト A' ノ中心 g' トハ同一鉛直線上ニ在リ。

$$-A' = -\frac{M_A + M_B}{2} l = A, \quad \text{即チ } M_A + M_B = -\frac{2A}{l} \dots (a)$$

$$A' \cdot \bar{x}' = \left( \frac{1}{2} M_A \cdot l \cdot \frac{1}{3} l \right) + \left( \frac{1}{2} M_B \cdot l \cdot \frac{2}{3} l \right) = -\frac{l^2}{6} (M_A + 2M_B),$$

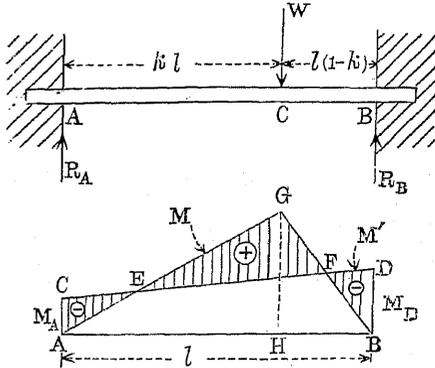
$$A \cdot \bar{x} = -\frac{l^2}{6} (M_A + 2M_B), \quad \text{即チ } M_A + 2M_B = -\frac{6A \cdot \bar{x}}{l^2} \dots (b)$$

(a), (b) 二式ヨリ

$$\left. \begin{aligned} M_A &= -\frac{4A}{l} + \frac{6A \cdot \bar{x}}{l^2}, & \text{又ハ } & -\frac{2A}{l} \left( 2 - \frac{3\bar{x}}{l} \right), \\ M_B &= +\frac{2A}{l} - \frac{6A \cdot \bar{x}}{l^2}, & \text{又ハ } & -\frac{2A}{l} \left( \frac{3\bar{x}}{l} - 1 \right), \end{aligned} \right\} \dots (51)$$

例題 左端ヨリ  $kl$  ナル距離ニ於テーツノ集中荷重  $W$  ナ受テ  
 タル固定桁。但  $k < 1$  トス。

第 53 圖



$$A\bar{x} = \left[ \frac{1}{2}kl \cdot W(1-k)kl \cdot \frac{2}{3}kl \right] + \left[ \left\{ \frac{1}{2} \cdot l(1-k)W(1-k)kl \right\} \times \right.$$

$$\left. \left\{ kl + \frac{1}{3}l(1-k) \right\} \right] = \frac{W}{6}kl^2(1-k^2),$$

$$A = \frac{1}{2}W(1-k)kl \cdot l = \frac{1}{2}Wkl^2(1-k),$$

$$M_A = -\frac{4A}{l} + \frac{6A \cdot A\bar{x}}{l^2} = -Wkl(1-k)^2$$

$$M_B = +\frac{2A}{l} - \frac{6A \cdot A\bar{x}}{l^2} = -Wkl^2(1-k).$$

Bヲ力率原點トスレバ

$$-Wl(1-k) + R_A l - Wkl(1-k)^2 = -Wkl^2(1-k),$$

即チ

$$R_A = W(1-3k^2+2k^3),$$

$$R_B = W - R_A = Wkl^2(3-2k).$$

AC間ニ於テハ

$$M = W(1-k)x, \quad M+M' = M + \left\{ M_A + (M_B - M_A) \frac{x}{l} \right\}$$

$$= W(1-k) \left[ (1+k-2k^2)x - kl(1-k) \right].$$

$(M+M')$  ハ  $x = \frac{kl}{1+2k}$  ナル點ニ於テ零トナル。是レ反曲點 E ノ位  
 置ナリ。

次ニ CB 間ニ於テハ

$$M = Wk(l-x), \quad M+M' = Wk \left[ (l-x) + x(1-k)(1-2k) - l(1-k)^2 \right].$$

此  $(M+M')$  ハ  $x = \frac{(2-k)l}{3-2k}$  ナル點ニ於テ零トナル。是レ反曲點 F ノ  
 位置ナリ。

AC 間ノ傾斜角ハ

$$i_x = \frac{W}{EI} \int_0^x (M+M') dx = \frac{W(1-k)}{EI} \int_0^x \left[ (1+k-2k^2)x - kl(1-k) \right] dx$$

$$= \frac{W(1-k)}{2EI} \left[ (1+k-2k^2)x^2 - 2kl(1-k)x \right].$$

此傾斜角ハ  $x = \frac{2kl}{1+2k}$  即チ A ヨリ反曲點 E 迄ノ距離ノ二倍ノ點  
 ニ於テ零トナル。是レ最大撓度ノ起ル點ナリ。而シテ  $k=1$  ナレ  
 バ  $x = \frac{2}{3}l$  ナルヲ以テ固定桁ノ最大撓度ハ常ニ徑間ヲ三分シタル  
 中央ノ一區分ニ起ルヲ知ルベシ。

Wノ働點 Cニ於テハ

$$i_c = \frac{W(1-k)}{2EI} \left[ (1+k-2k^2)x^2 - 2kl(1-k)x \right]_{x=kl}$$

$$= \frac{Wkl^2(1-k)^2(2k-1)}{2EI}.$$

AC 間ノ撓度ハ

$$y = \int_0^x i_x dx = -\frac{W(1-k)}{2EI} \int_0^x \left[ (1+k-2k^2)x^2 - 2kl(1-k)x \right] dx$$

$$= -\frac{W(1-k)^2}{6EI} \left[ (1+2k)x^3 - 3klx^2 \right].$$

Wノ働點 Cニ於テハ

$$y_c = \frac{W(1-k)^2}{6EI} \left[ (1+2k)x^3 - 3klx^2 \right]_{x=kl} = -\frac{Wkl^3(1-k)^2}{3EI}.$$

コレハ單桁ノ場合ノ  $y_c$  ノ  $kl(1-k)$  倍ナリ。

$$\text{最大 } y = \frac{W(1-k)^2}{6EI} \left[ (1+2k)x^3 - 3klx^2 \right]_{x = \frac{2kl}{1+2k}} = -\frac{2Wkl^3(1-k)^2}{3(1+2k)^2 EI}$$

此問題ヲ直接積分法ニヨリテ解ケバ次ノ如シ。

荷重 W ノ 左側 AC 間ニ於テハ

$$EI \frac{d^2y}{dx^2} = M_A + R_A \cdot x, \dots\dots\dots (a)$$

$$EI \frac{dy}{dx} = M_A \cdot x + \frac{1}{2} R_A \cdot x^2 + C_1, \dots\dots\dots (b)$$

$$EI \cdot y = \frac{1}{2} M_A \cdot x^2 + \frac{1}{6} R_A \cdot x^3 + C_1 \cdot x + C_2, \dots\dots\dots (c)$$

荷重 ノ 右側 CB 間ニ於テハ

$$EI \frac{d^2y}{dx^2} = M_A + R_A \cdot x - W(x - kl), \dots\dots\dots (a')$$

$$EI \frac{dy}{dx} = M_A \cdot x + \frac{1}{2} R_A \cdot x^2 - \frac{1}{2} W \cdot x^2 + Wkl \cdot x + C_3, \dots\dots\dots (b')$$

$$EI \cdot y = \frac{1}{2} M_A \cdot x^2 + \frac{1}{6} R_A \cdot x^3 - \frac{1}{6} W \cdot x^3 + \frac{1}{2} Wkl \cdot x^2 + C_3 \cdot x + C_4, \dots\dots\dots (c')$$

(b) 式ニ於テ x=0 ナレバ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナルニ  $C_1 = 0$  ナ得。又 (c) 式ニ於テ x=0ニ對シ y=0 ナルヲ以テ  $C_2 = 0$  ナリ。O 點ニ於テハ x=klニシテ (b)=(b') 及 (c)=(c') ナリ。然ラバ

$$M_A \cdot kl + \frac{1}{2} R_A \cdot k^2 l^2 = M_A \cdot kl + \frac{1}{2} R_A \cdot k^2 l^2 - \frac{1}{2} W \cdot k^2 l^2 + W \cdot k^2 l^2 + C_3,$$

即チ  $C_3 = -\frac{1}{2} W k^2 l^2.$

$$\frac{1}{2} M_A \cdot k^2 l^2 + \frac{1}{6} R_A \cdot k^3 l^2 = \frac{1}{2} M_A \cdot k^2 l^2 + \frac{1}{6} R_A \cdot k^3 l^2 - \frac{1}{6} W \cdot k^3 l^2 + \frac{1}{2} W \cdot k^3 l^2 - \frac{1}{2} W \cdot k^3 l^2 + C_4,$$

即チ  $C_4 = \frac{1}{6} W \cdot k^3 l^2.$

(b') 式ニ於テ x=l ナレバ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナルニ

$$0 = M_A \cdot l + \frac{1}{2} R_A \cdot l^2 - \frac{1}{2} W \cdot l^2 + W \cdot kl^2 - \frac{1}{2} W \cdot kl^2,$$

即チ  $M_A = \frac{1}{2} W l + \frac{1}{2} W \cdot kl - \frac{1}{2} R_A \cdot l - W \cdot kl, \dots\dots\dots (d)$

B 點ニ於テハ x=l, y=0 ナルニ (c') 式ヨリ

$$0 = \frac{1}{2} M_A \cdot l^2 + \frac{1}{6} R_A \cdot l^3 - \frac{1}{6} W \cdot l^3 + \frac{1}{2} W \cdot kl^2 - \frac{1}{2} W \cdot kl^2 + \frac{1}{6} W \cdot kl^2,$$

即チ  $M_A = \frac{1}{3} W l + W \cdot kl - \frac{1}{3} R_A \cdot l - W \cdot kl - \frac{1}{3} W \cdot kl, \dots\dots\dots (e)$

(d) 及 (e) 二式ヨリ

$$R_A = W(1 - 3k^2 + 2k^3), \quad R_B = W - R_A = Wk^2(3 - 2k),$$

$$M_A = -Wkl(1 - k)^2,$$

$$-Wkl(1 - k^2) - Wl(1 - k) + W(1 - 3k^2 + 2k^3)l = M_B,$$

即チ  $M_B = -Wk^2l(1 - k).$

若シ桁ノ兩端ガ水平ニ固定セラレ且其横斷面不均等ナルトキハ

$$\int_0^l \frac{d^2y}{dx^2} \cdot dx = \frac{1}{E} \int_0^l \left( \frac{M + M'}{I} \right) dx = \frac{1}{E} \int_0^l \left[ \frac{M}{I} + \frac{1}{I} \left\{ M_A + (M_B - M_A) \frac{x}{l} \right\} \right] dx = 0,$$

即チ  $\int_0^l \frac{M}{I} \cdot dx + M_A \int_0^l \frac{dx}{I} + \frac{(M_B - M_A)}{l} \int_0^l \frac{x}{I} \cdot dx = 0.$

又

$$\frac{1}{E} \int_0^l \left( \frac{M + M'}{I} \right) x \cdot dx = \frac{1}{E} \int_0^l \left[ \frac{M}{I} + \frac{1}{I} \left\{ M_A + (M_B - M_A) \frac{x}{l} \right\} \right] x \cdot dx = 0,$$

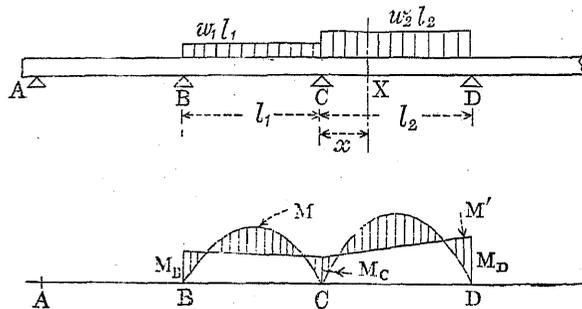
即チ  $\int_0^l \frac{M \cdot x}{I} \cdot dx + M_A \int_0^l \frac{x}{I} \cdot dx + \frac{(M_B - M_A)}{l} \int_0^l \frac{x^2}{I} \cdot dx = 0.$

如斯ニ彎曲率表圖ニ於ケル  $\frac{M}{I}$  曲線及  $\frac{M'}{I}$  線ト基線トニテ圍マレタル面積ハ等シクシテ其中心ハ同

一直線上ニアリ。然レドモ  $\frac{M'}{I}$  線ハ一般ニ直線ニアラズ。M 及 I ガ  $x$  ノ既知函數ナレバ上記二式ノ積分ニヨリ二ツノ條件方程式ヲ得ベク從テ  $M_A$  及  $M_B$  ヲ定ムルヲ得ベシ。

35 連續桁 (Continuous Beam) — 三力率ノ定理 (Theorem of Three Moments) 連續桁ハ三ツ以上ノ支點ヲ有スルモノニシテ固定桁ノ兩端ニ於ケルガ如ク中間ノ支點ニ於テ彎曲率ヲ生ズ。

第 54 圖



第 54 圖ニ於テ  $l_1, l_2$  ヲ相隣レル二支間トシ等布荷重ヲ夫々  $w_1, w_2$  トスレバ第 32 節ノ理論ニヨリ各支間ニ對シテ次ノ關係ヲ得。

$$EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = M + M'$$

C ヲ原點トセバ支間 CD ニ於テハ

$$EI \cdot \frac{d^2y}{dx^2} = \frac{w_2 l_2}{2} \cdot x - \frac{w_2 x^2}{2} + M_C + (M_D - M_C) \frac{x}{l_2}$$

$$EI \cdot \frac{dy}{dx} = \frac{w_2 l_2}{4} \cdot x^2 - \frac{w_2}{6} \cdot x^3 + M_C \cdot x + (M_D - M_C) \frac{x^2}{2l_2} + EI i_C$$

但  $i_C$  ハ  $x=0$  即チ C 點ニ於ケル  $\frac{dy}{dx}$  ノ値ナリ。

$$EI \cdot y = \frac{w_2 l_2}{12} \cdot x^3 - \frac{w_2}{24} \cdot x^4 + \frac{M_C}{2} \cdot x^2 + (M_D - M_C) \frac{x^3}{6l_2} + EI i_C \cdot x$$

$x=0$  ニ對シテ  $y$  ハ零ナルユエ積分常數ハ零ナリ。

$x=l_2$  即チ D 點ニ於テモ亦  $y=0$  ナリ。依テ

$$EI i_C = -\frac{w_2 l_2^3}{24} - \frac{M_C l_2}{2} - \frac{(M_D - M_C) l_2}{6}$$

$$\therefore 6EI i_C = -\frac{w_2 l_2^3}{4} - 2M_C l_2 - M_D l_2 \dots \dots \dots (a)$$

又 C ヲ原點トシ之ヨリ左方ニ測リタル  $x$  ヲ正トセバ上記同様ニ支間 BC ニ對シテ次ノ關係ヲ得。

$$-6EI i_C = -\frac{w_1 l_1^3}{4} - 2M_C l_1 - M_B l_1 \dots \dots \dots (b)$$

(a), (b) 二式ヲ加フレバ

$$M_B l_1 + 2M_C (l_1 + l_2) + M_D l_2 = -\frac{1}{4} (w_1 l_1^3 + w_2 l_2^3) \dots \dots \dots (52)$$

之ハくらべいよん氏三力率ノ定理 (Clapeyron's Theorem of Three Moments) ニシテ連續三支點ノ彎曲率ト荷重トノ關係ヲ表ハスモノナリ。支點ガ  $n$  個アレバ支間ノ數ハ  $(n-1)$  ニシテ  $(n-2)$  組ノ連續二支間ニ對シ (52) 式ノ如キ  $(n-2)$  丈ノ方程式ガ得ラル。然ルニ  $n$  個ノ支點ニ於ケル彎曲率ヲ求ムルニハ尙

二ツノ方程式ヲ要ス而シテ此等ハ桁ノ兩端ノ状態ニ依リテ定ムルヲ得。例ヘバ兩端ガ單ニ支ヘラル、トキハ各支端ニ於ケル彎曲率ハ零ナルヲ以テ所要ノ二條件式ヲ得ルコト容易ナリ。

若シ第54圖ノBCガ末端ノ支間ニシテB端ガ水平ニ固定セラル、トキハ $i_B=0$ ニシテ此支間ニ於テハ

$$2M_B + M_C = -\frac{1}{4}wl^2.$$

各支點ノ彎曲率ヲ知レバ諸支點ヲ原點トシテ外力ノ力率ヲ取リテ支點ノ反力ヲ見出スヲ得。又ハ第32節(49)式ニヨリB點ニ極接近シテ其右側ノ剪斷力ハ

$$V_B = -\frac{M_B - M_C}{l} + \frac{wl}{2}.$$

此ノ如ク一支點ニ極接近シテ其左右兩側ニ於ケル斷面ノ剪斷力ヲ求ムレバ此等ノ代數的差ハ其支點ノ反力ナリ。

例題 1. 三ツノ等長支間ヲ有スル連續桁ガ等布荷重ヲ受ル場合。

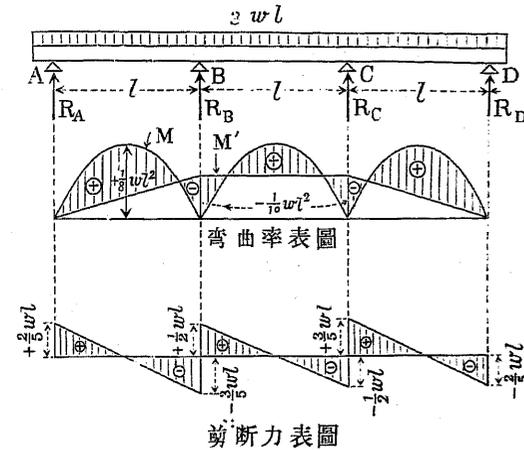
桁ガ兩端A, Dニ於テ單ニ支ヘラル、トキハ

$$M_A = 0, \quad M_D = 0.$$

又等布荷重ヲ受クルトキハ明カニ

$$M_B = M_C$$

第 55 圖



ナリ。今ABC, BCDナル部分ニ(52)式ヲ適用スレバ

$$0 + 4M_B \cdot l + M_C \cdot l = -\frac{1}{2}wl^2,$$

$$M_B \cdot l + 4M_C \cdot l + 0 = -\frac{1}{2}wl^2.$$

此二式ヲ解キテ

$$M_B = M_C = -\frac{wl^2}{10}.$$

Bヲ力率ノ原點トセバ

$$R_A \cdot l - \frac{wl^2}{2} = -\frac{wl^2}{10}, \quad \therefore R_A = \frac{2}{5}wl.$$

又ハ

$$V_A = R_A = -\frac{wl}{10} + \frac{wl}{2} = \frac{2}{5}wl.$$

而シテ

$$R_A = R_D, \quad R_B = R_C.$$

Cヲ力率ノ原點トスレバ

$$\frac{2}{5}wl \cdot 2l + R_B \cdot l - 2wl^2 = -\frac{wl^2}{10}, \quad \text{即チ } R_B = \frac{11}{10}wl.$$

$$V_B = -0 + \frac{wl}{2} = \frac{1}{2}wl.$$

支點Bニ極接近シテ其左側ノ剪斷力ヲ $V_B'$ トスレバ

$$V_B' = \frac{2}{5}wl - wl = -\frac{3}{5}wl, \quad \therefore R_B = \frac{1}{2}wl + \frac{3}{5}wl = \frac{11}{10}wl.$$

支間 AB = 於ケル一點ノ彎曲率ハ(原點 A)

$$M_x = M + M' = \frac{wl}{2} \cdot x - \frac{wx^2}{2} - \frac{wl}{10} \cdot x = -\frac{wx}{2} \left( x - \frac{4}{5}l \right).$$

支間 BC = 於ケル一點ノ彎曲率ハ(原點 B)

$$M_x = M + M' = \frac{wl}{2} \cdot x - \frac{wx^2}{2} - \frac{wl^2}{10} = -\frac{w}{2} \left( x^2 - lx + \frac{1}{5}l^2 \right).$$

例題 2. 中間支點ノ反力ヲ求ムル別法.

例題 1 = 於テハ  $R_B = R_C$  ナルヲ以テ AD ナ一ツノ單桁ト見做シ之ニ二ツノ等大給直荷重  $R_B, R_C$  ナ上向キニ加ヘタリトスレバ第四章第 27 節 (39) 式ハ B, C 二點ノ上向キ撓度ヲ與フベシ. (39) 式ニ於テ  $\frac{W}{2}$  ナ  $R_B, a$  ナ  $l, l$  ナ  $3l$  = テ置換フレバ

$$y_B = -\frac{5}{6} \frac{R_B l^3}{EI}$$

ヲ得. 而シテ之ハ上向キ撓度ナルニヨリ符號ヲ變ジテ

$$y_B = \frac{5}{6} \frac{R_B l^3}{EI}.$$

次ニ單桁 AD ガ等布荷重  $3wl$  ナ受クルトキハ左支端 A ヨリ  $l$  ナ距離ニアル B 點ノ下向キ撓度ハ第四章第 27 節ノ公式ニヨリ

$$y_B = \frac{w}{24EI} \left[ x(6lx^2 - x^3 - 27l^3) \right]_{x=l} = -\frac{11}{12} \frac{wl^4}{EI}.$$

然ルニ中間支點 = 於テハ撓度ハ零ナルベキヲ以テ

$$\frac{5}{6} \frac{R_B l^3}{EI} - \frac{11}{12} \frac{wl^4}{EI} = 0, \quad \therefore R_B = \frac{11}{10}wl.$$

例題 3. 三支間 30 呎, 40 呎及 20 呎ヨリ成レル連續桁ガ夫々 2

噸, 1 噸及 3 噸毎呎ナル等布荷重ヲ受クル場合.

(52) 式ヨリ

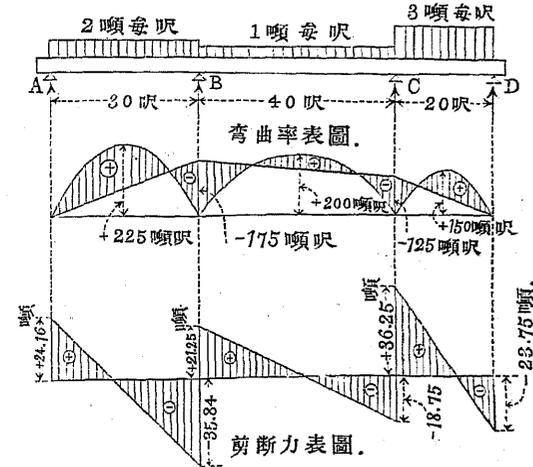
$$0 + 140M_B + 40M_C = -\frac{1}{4} \left( 2 \times 30^3 + 1 \times 40^3 \right),$$

$$\therefore 140M_B + 40M_C = -29,500 \text{ 噸呎.}$$

又

$$4M_B + 120M_C + 0 = -\frac{1}{4} (1 \times 40^3 + 3 \times 20^3).$$

第 56 圖



$$\therefore 40M_B + 120M_C = -22,000 \text{ 噸呎.}$$

此二式ヲ解キテ

$$M_B = -175 \text{ 噸呎, } M_C = -125 \text{ 噸呎.}$$

B ナ力率ノ原點トスレバ

$$R_A \times 30 - 60 \times \frac{30}{2} = -175, \quad \therefore R_A = 24.16 \text{ 噸.}$$

C ナ力率ノ原點トスレバ

$$24.16 \times 70 + R_B \times 40 - 60 \times 55 - 40 \times 20 = -125, \quad \therefore R_B = 57.09 \text{ 噸.}$$

$$-R_D \times 20 + 60 \times 10 = 125, \quad \therefore R_D = 23.75 \text{ 噸.}$$

$$R_C = (2 \times 30 + 1 \times 40 + 3 \times 20) - (24.16 + 57.09 + 23.75) = 55 \text{ 噸.}$$

36. 不對稱的ニ荷重ヲ受ケタル連續桁 第 57 圖

ニ於テ ADB 及 BEC ハ二ツノ連續支間 AB, BC ヲ夫々單桁ト見做シテ得タル彎曲率表圖ナリ. 面積 ADB ヲ  $A_1$  トシ支點 A ヨリ其中心迄ノ距離ヲ  $\bar{x}_1$  ト

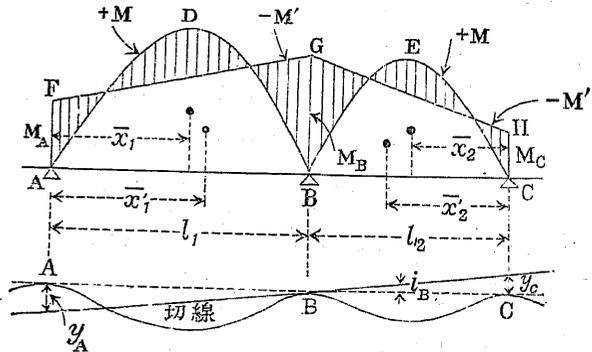
スレバ A 點 = 對スル面率ハ  $A_1 \bar{x}_1$  ナリ. 又面積 BEC  
ヲ  $A_2$  トシ支點 C ヨリ其中心迄ノ距離ヲ  $\bar{x}_2$  トスレ  
バ C 點 = 對スル  $A_2$  ノ面率ハ  $A_2 \bar{x}_2$  ナリ. 梯形 AFGB,  
BGHC ハ固定力率ヨリ生ズル彎曲率表圖ニシテ此  
等ノ面積ヲ夫々  $A_1', A_2'$  トシ A 點及 C 點ヨリ  $A_1'$  及  
 $A_2'$  ノ中心迄ノ距離ヲ夫々  $\bar{x}_1', \bar{x}_2'$  トス.

A ヲ原點トシ B ノ方ニ測リタル  $x$  ヲ正トスレバ  
支點 A, B ガ同一高サニアルナラバ

$$\begin{aligned} \left(x \frac{dy}{dx} - y\right)_{x=0}^{x=l_1} &= l_1 i_B = \frac{1}{EI} \int_0^{l_1} (M + M') x dx \\ &= \frac{1}{EI} (A_1 \bar{x}_1 + A_1' \bar{x}_1') \dots \dots \dots (a) \end{aligned}$$

此式 = 於テ  $i_B$  ハ B 點 = 於ケル傾斜角  $\left(\frac{dy}{dx}\right)$  ヲ表ハ  
ス(第四章第30節參照)

第57圖



次 = C ヲ原點トシ B ノ方ニ測リタル  $x$  ヲ正トス

レバ支點 C, B ガ同一高サニアルナラバ

$$\left(x \frac{dy}{dx} - y\right)_{x=0}^{x=l_2} = l_2 i_B = \frac{1}{EI} (A_2 \bar{x}_2 + A_2' \bar{x}_2') \dots \dots \dots (b)$$

第57圖 = 於テ

$$\frac{y_A}{l_1} = \frac{-y_C}{l_2}, \quad \therefore \frac{A_1 \bar{x}_1 + A_1' \bar{x}_1'}{l_1} = -\frac{A_2 \bar{x}_2 + A_2' \bar{x}_2'}{l_2} \dots \dots \dots (c)$$

而シテ(第34節ヨリ)

$$A_1' \bar{x}_1' = \frac{l_1^2}{6} (M_A + 2M_B), \quad A_2' \bar{x}_2' = \frac{l_2^2}{6} (M_C + 2M_B).$$

之ヲ(c)式ニ代入スレバ

$$\begin{aligned} \frac{1}{6} M_A l_1 + \frac{1}{3} M_B (l_1 + l_2) + \frac{1}{6} M_C l_2 &= -\frac{A_1 \bar{x}_1}{l_1} - \frac{A_2 \bar{x}_2}{l_2}, \\ \therefore M_A l_1 + 2M_B (l_1 + l_2) + M_C l_2 &= -\frac{6A_1 \bar{x}_1}{l_1} - \frac{6A_2 \bar{x}_2}{l_2} \dots \dots \dots (53) \end{aligned}$$

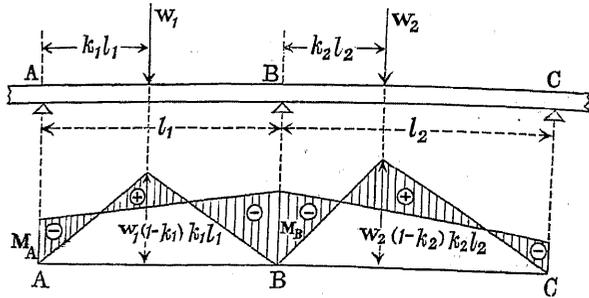
是レ三力率定理ノ一般公式ニシテ連續桁ガ任意  
ノ荷重ヲ受クル場合ニ適用セラル. 之ヲ前節ノ等  
布荷重ノ場合ニ適用スレバ

$$\begin{aligned} A_1 &= \frac{2}{3} \cdot \frac{w_1 l_1^2}{8} \cdot l_1, \quad \bar{x}_1 = \frac{1}{2} l_1, \quad \frac{6A_1 \bar{x}_1}{l_1} = \frac{1}{4} w_1 l_1^3, \\ A_2 &= \frac{2}{3} \cdot \frac{w_2 l_2^2}{8} \cdot l_2, \quad \bar{x}_2 = \frac{1}{2} l_2, \quad \frac{6A_2 \bar{x}_2}{l_2} = \frac{1}{4} w_2 l_2^3. \\ \therefore M_A l_1 + 2M_B (l_1 + l_2) + M_C l_2 &= -\frac{1}{4} w_1 l_1^3 - \frac{1}{4} w_2 l_2^3. \end{aligned}$$

第58圖ノ如ク  $W_1, W_2$  ナル集中荷重ヲ夫々支間  $l_1, l_2$

ニ加フレバ

第 58 圖



$$A_1 \cdot \bar{x}_1 = \frac{1}{2} \cdot W_1(1-k_1) \cdot k_1^2 l_1^2 \times \frac{2}{3} k_1 l_1 + \frac{1}{2} W_1(1-k_1) \cdot k_1 l_1 \cdot l_1(1-k_1) \times$$

$$\left\{ k_1 l_1 + \frac{1}{3} l_1(1-k_1) \right\} = \frac{1}{6} W_1(k_1 - k_1^3) l_1^3,$$

$$\frac{6A_1 \cdot \bar{x}_1}{l_1} = W_1 l_1^2 (k_1 - k_1^3),$$

同様 =  $A_2 \cdot \bar{x}_2 = \frac{1}{6} W_2 l_2^3 (2k_2 - 3k_2^2 + k_2^3),$

$$\frac{6A_2 \cdot \bar{x}_2}{l_2} = W_2 l_2^2 (2k_2 - 3k_2^2 + k_2^3).$$

$$\therefore M_A l_1 + 2M_B(l_1 + l_2) + M_C l_2 = -W_1 l_1^2 (k_1 - k_1^3) - W_2 l_2^2 (2k_2 - 3k_2^2 + k_2^3).$$

數個ノ集中荷重ガ加ハレバ

$$M_A l_1 + 2M_B(l_1 + l_2) + M_C l_2 = -\sum W_1 l_1^2 (k_1 - k_1^3) - \sum W_2 l_2^2 (2k_2 - 3k_2^2 + k_2^3) \dots (54)$$

若シ AB ガ末端ノ徑間ニシテ A 端ガ水平ニ固定セラル、ナラバ

$$\left\{ \infty \frac{dy}{dx} - y \right\}_0^{l_1} = \frac{A_1(l_1 - \bar{x}_1) + A_1'(l_1 - \bar{x}_1')}{EI} = 0.$$

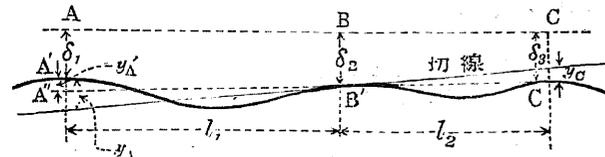
而シテ  $A_1'(l_1 - \bar{x}_1') = \frac{l_1^2}{6} (M_B + 2M_A),$

$$\therefore A_1(l_1 - \bar{x}_1) + \frac{1}{6} l_1^2 (M_B + 2M_A) = 0,$$

$$2M_A + M_B = -\frac{6A_1(l_1 - \bar{x}_1)}{l_1^2}.$$

次ニ支點ノ高サニ變動ヲ來タセシトキ之ガ桁ニ及ボス影響ニ就テ考ヘントス。

第 59 圖



支點ノ原位置 A, B, C ヨリ夫々  $\delta_1, \delta_2, \delta_3$  丈ケ沈下シテ A', B', C' ナル位置ヲ取リタリトセバ(第 59 圖) B' ト C' トヲ連ネタル直線 A'B'C' ヨリ A' 迄ノ縦距  $y_A'$  ハ其影響ヲ表ハスベシ。相似三角形ノ關係ヨリ

$$\frac{(y_A' + \delta_1) - \delta_2}{l_1} = \frac{\delta_2 - \delta_3}{l_2}, \text{ 即チ } y_A' = (\delta_2 - \delta_3) \frac{l_1}{l_2} + \delta_2 - \delta_1.$$

又

$$\frac{y_A - y_A'}{l_1} = -\frac{y_C}{l_2}.$$

$$\therefore \frac{\frac{1}{EI}(A_1 \bar{x}_1 + A_1' \bar{x}_1') - \left[ (\delta_2 - \delta_3) \frac{l_1}{l_2} + \delta_2 - \delta_1 \right]}{l_1} = - \frac{\frac{1}{EI}(A_2 \bar{x}_2 + A_2' \bar{x}_2')}{l_2}$$

$$M_A \cdot l_1 + 2M_B(l_1 + l_2) + M_C \cdot l_2 = - \frac{6A_1 \bar{x}_1}{l_1} - \frac{6A_2 \bar{x}_2}{l_2} - 6EI \left( \frac{\delta_1 - \delta_2}{l_1} + \frac{\delta_3 - \delta_2}{l_2} \right) \dots (55)$$

例へば二支間ノ長サ等シクシテ其兩端ニ於テ支ヘラレタル連續桁ノ支點ノ高サガ變ジタリトシ  $l_1 = l_2 = l$ ,  $(\delta_1 - \delta_2) = (\delta_3 - \delta_2) = -\delta$ ,  $w_1 = w_2 = w$  トスレバ  $M_A = M_C = 0$  ナルガユエニ

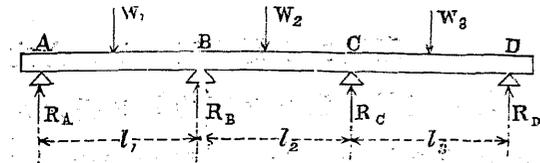
$$2M_B \cdot 2l = -2 \times \frac{1}{4} wl^3 + \frac{12EI\delta}{l}, \therefore M_B = -\frac{1}{8} wl^2 + \frac{3EI\delta}{l^2}$$

然ラバ中央支點ニ於ケル負ノ彎曲率ハ支點沈下ノタメニ減少シ  $\delta$  ガ  $\frac{1}{24EI} wl^3$  ニ達スレバ  $M_B$  ハ零トナル。若シ  $\delta > \frac{1}{24EI} wl^3$  ナレバ  $M_B$  ハ符號ヲ變ジテ正トナル。斯ク支點ノ高サノ僅少ナル變動ガ支點ノ彎曲率從テ桁ノ應力ニ重大ナル影響ヲ及ボスコトハ連續桁ノ一大缺點ナリトス。

らるるそん氏解法(G. Wilson's Method) 之ハ連續桁ヲ一ツノ單桁ト見做シテ荷重ヨリ生ズル中間支點ニ相當スル點ノ下向キ撓度ヲ見出シ又中間支點ノ

反力ノミヨリ生ズル上向キ撓度ヲ求メ此等ノ撓度ヲ等値ノモノトシテ支點ノ反力ヲ見出す方法ナリ。尤モ兩支端反力ハ別ニ一支端ニ對スル總テノ外力ノ力率ヲ取リテ定メザルベカラズ。

第60圖



第60圖ノ三徑間連續桁ヲADナル單桁ト見做シタル場合ニ荷重ヨリ生ズルB及C點ノ撓度ヲ夫々  $y_B, y_C$  トス又B點ニ上向キニ單位荷重ヲ加ヘタル場合ニB及C點ニ起ル上向キ撓度ヲ  $\delta_B, \delta_C$  トシ次ニC點ニ上向キニ單位荷重ヲ加ヘタルトキノB及C點ノ上向キ撓度ヲ  $\delta_B', \delta_C'$  トス。然ルトキハ

$$y_B = (R_B \times \delta_B) + (R_C \times \delta_B) \dots \dots \dots (a)$$

$$y_C = (R_B \times \delta_C) + (R_C \times \delta_C) \dots \dots \dots (b)$$

單桁ADノ中間點Bニ一ツノ集中荷重ヲ加フルトキCニ起ル撓度トCニ同一集中荷重ヲ加フルトキBニ起ル撓度トガ相等シキコトハ第四章第27節ニ與ヘタル公式ニヨリテ容易ニ知ルヲ得ベク從テ上式ニ於テ  $\delta_C = \delta_B$  ナルヲ知ルベシ。

(a), (b) 兩式ヲ解キテ  $R_B, R_C$  ヲ求メ得ベク  $R_A$  ハ  $D$ ニ對スル力率方程式ヨリ得ラルベキナリ。

### 第六章 合成應力

(Combined Stresses)

37. 應張力又ハ應壓力ト彎曲應力トノ合成 桁ガ彎曲率ノ外ニ其軸ニ沿ヒテ張力  $P$  ヲ受クルトキハ斷面積  $A$ ニ於テ  $P$  ヲ生ズル單位應力ハ  $\frac{P}{A}$  ナルヲ以テ抵抗力率公式ヨリ得ラル、單位應力ヲ  $S_b$  トスレバ

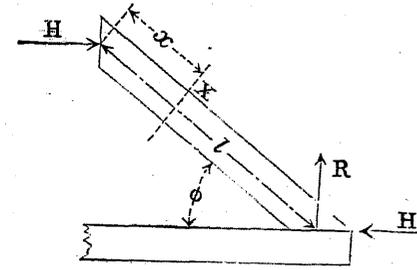
$$S_b + \frac{P}{A} = \text{彎曲率及張力ヨリ生ズル單位應張力}$$

$$S_b - \frac{P}{A} = \text{彎曲率及張力ヨリ生ズル單位應壓力}$$

若シ  $P$  ガ壓力ナレバ全ク之ト同様ニシテ合成應力ヲ見出スヲ得 尤モ桁ノ長サガ斷面ノ最小幅ノ約10倍以上ナルトキハ之ヲ長柱ト見做シテ單位應力  $\frac{P}{A}$  ヲ求ムベシ(次章參照)

屋根合掌ノ如キハ軸力ト彎曲率トノ作用ヲ受クル桁ノ一例ナリ。今矩形斷面合掌ノ幅ヲ  $b$ , 高サヲ  $d$ , 長サヲ  $l$ , 單位延長ノ等布荷重ヲ  $w$  及傾斜角ヲ  $\phi$  トス(第61圖) 下端ヲ力率ノ原點トスレバ

第61圖



$$H \cdot l \sin \phi - w l \cdot \frac{1}{2} l \cos \phi = 0, \therefore \text{水平反力 } H = \frac{1}{2} w l \cot \phi.$$

合掌ノ上端ヨリ  $x$  ナル距離ニ於ケル斷面ノ單位彎曲應力ヲ  $S_b$  トスレバ

$$S_b = \frac{6M}{bd^2} = \frac{6(H \cdot x \sin \phi - \frac{1}{2} w x^2 \cdot \cos \phi)}{bd^2},$$

$$\frac{P}{A} = \frac{(H \cdot \cos \phi + w x \cdot \sin \phi)}{bd},$$

$$\text{合成單位應壓力 } S = S_b + \frac{P}{A} = \frac{3w \cos \phi}{bd^2} (lx - x^2) + \frac{wl \cot \phi \cdot \cos \phi}{2bd} + \frac{wx \cdot \sin \phi}{bd},$$

$$\frac{dS}{dx} = \frac{3w \cos \phi}{bd^2} (l - 2x) + \frac{w \sin \phi}{bd} = 0.$$

之ヲ解キテ得ラル、 $x$  ヲ  $x_0$  ニテ表ハセバ

$$x_0 = \frac{1}{2} l + \frac{1}{6} d \tan \phi$$

然ラバ合掌ノ上端ヨリ  $x_0$  ナル距離ニアル斷面ニ於

テ S ハ最大ナリ. 此  $\alpha_0$  ノ値ヲ上式ニ代入スレバ

$$\text{最大 } S = \frac{3w^2 \cdot \cos\phi}{4bd^2} + \frac{wl \cdot \operatorname{cosec}\phi}{2bd} + \frac{w \cdot \sin\phi \cdot \tan\phi}{12b} \dots (56)$$

等布荷重ヲ受クル合掌ノ大サハ(56)式ニヨリテ之ヲ定ムルヲ得.

第61圖ニ於テ長サ  $\alpha$  ノ間ニ働ク全荷重ヲ W トスレバ上述ノ理由ニヨリ断面 X ニ於ケル合成單位應力ハ一般ニ次ノ如シ.

$$S_x = \frac{M \cdot c}{I} + \frac{W \cdot \sin\phi}{A} + \frac{H \cdot \cos\phi}{A} \dots (56a)$$

合掌ガ其中央點ニ於テ一ツノ集中荷重ヲ受クルトキハ最大應壓力及最大彎曲應力ハ中央ノ断面ニ起ルベキヲ以テ最大合成應力ヲ求ムルコト容易ナリ.

以上ノ式ハ精確ナルモノニアラザレドモ普通ノ場合ニハ之ヲ適用シテ可ナリ.

例題 茲ニ一ツノ木材小屋組アリテ支間40呎, 高サ15呎, ニツノ合掌ハ等大ニシテ其幅4吋ナリ. 合掌ガ中央點ニ於テ450呎ノ荷重ヲ受クルトキ其高サヲ求ム. 但シ作用強度ヲ700呎/平方吋トス.

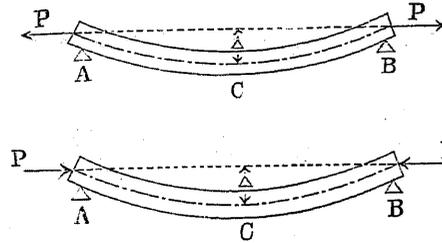
$$H = \frac{1}{2} \times 450 \times \frac{20}{15} = 300 \text{ 呎}, \quad \frac{H \cdot \cos\phi}{A} = \frac{300 \times \frac{4}{5}}{4d} = \frac{60}{d}$$
$$\frac{6M}{bd^2} = \frac{6 \times 300 \times \frac{15}{2} \times 12}{4d^2} = \frac{3,375 \times 12}{d^2}, \quad \frac{W \sin\phi}{A} = \frac{450 \times \frac{3}{5}}{4d} = \frac{67.5}{d}$$

$$\therefore 700 = \frac{67.5}{d} + \frac{60}{d} + \frac{40,500}{d^2}$$

$$7d^2 - 1,275d - 40,500 = 0 \quad \therefore d = 7.6''$$

若シ P ナル張力又ハ壓力ガ彎曲率ニ及ボス影響大ナレバ次ノ解法ニ依ルベシ.

第62圖



第62圖ノ如ク等布荷重ヲ受クル單桁ニ於テ P ヲ軸ニ沿ヒテ働ク張力又ハ壓力, M ヲ鉛直荷重ノミヨリ生ズル

最大彎曲率,  $M_1$  ヲ其断面ニ於ケル彎曲率,  $\Delta$  ヲ其断面ノ撓度トスレバ P ガ壓力ナルカ又ハ張力ナルカニヨリテ  $M_1 = M \pm P \cdot \Delta$  ナリ. 而シテ  $M_1$  ヲヨリ生ズル最大單位彎曲應力ハ

$$S_b = \frac{M_1 \cdot c}{I} = \frac{(M \pm P \cdot \Delta) \cdot c}{I}$$

桁ガ單ニ鉛直荷重ヲ受ケテ彎曲スル場合ヨリ推論スレバ  $\Delta$  ハ次式ニテ表ハサルベシ.

$$\Delta = \frac{\alpha}{\beta} \cdot \frac{S_b \cdot l^2}{E \cdot c}$$

$$\therefore S_b = \frac{M \cdot c}{I} \pm \frac{\alpha}{\beta} \cdot \frac{Pl^2}{EI} \cdot S_b$$

$$S_b = \frac{\frac{M \cdot c}{I}}{1 \mp \frac{\alpha}{\beta} \cdot \frac{Pl^2}{EI}} = \frac{M \cdot c}{I \mp \frac{\alpha}{\beta} \cdot \frac{Pl^2}{E}} \dots (57)$$

最大單位應壓力  $S = S_0 + \frac{P}{A}$

P ガ 壓 力 ナ ル ト キ ハ (57) 式 = 於 テ 負 ノ 符 號 ヲ 取 リ,  
張 力 ナ ル ト キ ハ 正 ノ 符 號 ヲ 取 ル ベ シ. 又  $\alpha, \beta$  ハ 桁  
ノ 兩 端 ノ 狀 態 並 = 荷 重 ノ 種 類 = ヨ リ テ 異 ナ ル モ ノ  
= シ テ (第 四 章 第 9 節 參 照)

單 桁 ガ 等 布 荷 重 ヲ 受 ク ル ト キ ...  $\frac{\alpha}{\beta} = \frac{8}{384} = \frac{1}{9.6}$

單 桁 ガ 中 央 點 = 於 テ 集 中 荷 重 ヲ

受 ク ル ト キ .....  $\frac{\alpha}{\beta} = \frac{4}{48} = \frac{1}{12}$

$\Delta$  ガ 小 ナ レ バ 桁 ガ 單 = 鉛 直 荷 重 ノ ミ 受 ク ル 場 合 ノ  
 $\alpha, \beta$  ノ 値 ヲ 用 フ ル モ 其 誤 差 ハ 小 ナ ル ヲ 實 用 上 差  
支 ナ シ.

例 題 厚 サ 1 吋, 高 サ 8 吋, 長 サ 18 呎 ノ 建 築 用 鋼 眼 鉚 (Eyebars) ガ  
81,000 呎 ノ 軸 張 力 ヲ 受 ク ル ト キ 自 己 重 量 ヨ リ 生 ズ ル 彎 曲 應 力 ト  
直 應 力 ト ノ 合 成 應 力 ヲ 求 ム. 但  $E = 29,000,000$  呎/平 方 吋 ト ス.

眼 鉚 ノ 重 量 =  $\frac{1 \times 8}{12} \times 1 \times 490 \times 18 = 490$  呎.

最 大 彎 曲 率 =  $\frac{1}{8} \times 490 \times 18 \times 12 = 13,230$  呎/吋.

$e = 4$  吋,  $I = \frac{1}{12} \times 1 \times 8^3 = 42.67$  吋<sup>4</sup>,  $\frac{\alpha}{\beta} = \frac{1}{9.6}$ ,

$P = 80,000$  呎,  $l = 18 \times 12 = 216$  吋,

$\frac{\alpha}{\beta} \frac{Pl^2}{EI} = \frac{80,000 \times 216^2}{9.6 \times 29,000,000 \times 42.67} = 0.314$ ,

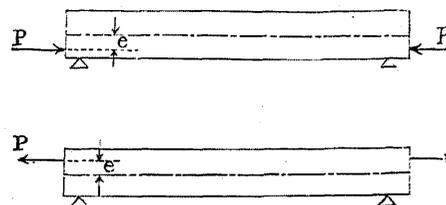
$\frac{M.c}{I} = \frac{13,230 \times 4}{42.67} = 1,240$  呎/平 方 吋,

$S_0 = \frac{1,240}{1.314} = 944$  呎/平 方 吋,  $\frac{P}{A} = \frac{80,000}{8} = 10,000$  呎/平 方 吋.

∴ 合 成 單 位 應 張 力  $S = 944 + 10,000 = 10,944$  呎/平 方 吋.

38. 兩 端 ニ 於 テ 軸 ノ 方 向 = 偏 心 外 力 ヲ 受 ケ タ ル  
桁 第 63 圖 ノ 如 ク P ガ 偏 心 力 ナ ル ト キ ハ 力 率  $P.e$  ノ

第 63 圖



爲  $M =$  鉛 直 荷 重  $\times$

リ 生 ズ ル 撓 度 ヲ 減  
ズ ベ シ. 此 場 合 =

桁 ノ 中 央 斷 面 ノ 中  
立 軸 = 對 ス ル P ノ

力 率  $P.e$  ト 此 斷 面 = 於 ケ ル 鉛 直 荷 重 ノ 彎 曲 率  $M$  ト  
ガ 等 値 ナ ル 様 = P ノ 働 點 ヲ 定 ム レ バ 中 央 斷 面 = 於  
ケ ル 彎 曲 應 力 ハ 零 = シ テ 斷 面 ノ 應 壓 力 又 ハ 應 張 力  
ノ 配 布 ハ 均 等 ナ リ.

例 題 1. 鋼 橋 橋 ノ 上 弦 材 ノ 長 サ 30 呎 = シ テ 斷 面 ハ 二 個 ノ 溝  
形 鋼 ト 一 枚 ノ 鋼 板 ト ヨ リ 成 リ 其 全 斷 面 積 ハ 20.5 平 方 吋, 慣 性 能  
率 ハ 742 吋<sup>4</sup> ナ リ. 之 ガ 末 端 = 於 テ 168,000 呎 ノ 壓 力 ヲ 受 ク ル ト キ  
中 央 斷 面 = 於 ケ ル 應 壓 力 ノ 配 布 ナ シ テ 均 等 ナ ラ シ ム ベ キ 偏 心  
距 ヲ 求 ム.

弦 材 ノ 重 量 =  $\frac{20.5}{12} \times 490 \times 30 = 2,090$  呎.

此 部 材 ナ 單 桁 ト 見 做 セ バ 自 己 重 量 ヨ リ 生 ズ ル 最 大 彎 曲 率 ハ

$M = \frac{1}{8} Wl = \frac{1}{8} \times 2,090 \times 30 \times 12 = 94,000$  呎/吋.

∴  $e = \frac{94,000}{168,000} = 0.56$  吋.

中央断面 = 於ケル單位應壓力 =  $\frac{168,000}{20.5} = 8,200$  斤/平方吋.

此解法ハ重量ヲ同フセル桁 = 對シテハ同一結果ヲ與フルニエ之ハ精確ナル方法ニアラザルコト勿論ナリ.

今偏心壓力ガ加ヘラル、前ニ桁ノ撓度ガ $\Delta$ ナリシト考フレバ壓力 $P$ ニ對シテハ $e > \Delta$ ナルベキヲ以テ

$$\left. \begin{aligned} P(e - \Delta) &= M, \therefore e = \frac{M}{P} + \Delta. \\ P(e + \Delta) &= M, \therefore e = \frac{M}{P} - \Delta. \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (58)$$

此式ガ與フル $e$ ノ値ハ $P, e = M$ ヨリ得ラル、値ヨリモ信賴スルニ足ルモノナリ.

例題 2. (58)式ニヨル例題 1ノ解法.

$$\Delta = \frac{5Wl^3}{384EI} = \frac{5 \times 2,090 \times 30^3 \times 12^3}{384 \times 29,000,000 \times 742} = 0.06 \text{ 吋,}$$

$$\frac{M}{P} = 0.56 \text{ 吋.}$$

$$\therefore e = 0.56 + 0.06 = 0.62 \text{ 吋.}$$

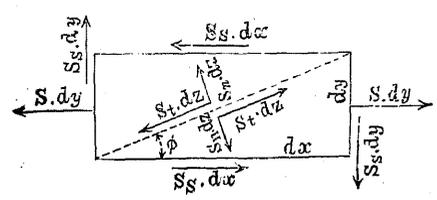
若シ $P = 168,000$  斤ガ張力ナレバ

$$e = 0.56 - 0.06 = 0.50 \text{ 吋.}$$

39. 應剪力ト軸應力トノ合成 Aナル斷面積ヲ有スル棒狀體ガ其軸ニ沿ヒテ $P$ ナル張力又ハ壓力ヲ受クルトキハ單位軸應力ハ $S = \frac{P}{A}$ ナリ. 若シ剪斷力 $V$ ガ軸ニ直角ニ働ケバ單位應剪力ハ $S_s = \frac{V}{A}$ ナ

リ. 但断面ニ於ケル應剪力ノ配布ハ均等ナリトス. 今 $S$ 及 $S_s$ ガ同時ニ働クトキ其合成ニヨリテ生ズル最大單位應力ヲ求メントス. 次ノ所論ハ $S$ ガ應張力ナルト應壓力ナルトヲ問ハズ等シク適用スルヲ得.

第 64 圖



第 64 圖ノ如ク棒狀體ヨリ細微ナル直並行六面體ヲ切取り其長サヲ $dx$ 、高サヲ $dy$ 、對角線ヲ $dz$ トシ且紙面

ニ垂直ナル幅ヲ單位トシ六面體ノ面ハ夫々棒狀體ノ軸ニ並行及垂直ナリトス. 張力 $S, dy$ ハ六面體ヲ軸ノ方向ニ引裂ントシ剪斷力 $S_s, dy$ ハ之ヲ廻轉セントス而シテ此廻轉ニ抵抗スルハ $dx$ ノ方向ニ働ク剪斷力 $S_s, dx$ ナリ. 此等ノ力ヲ對角線 $dz$ ニ垂直ナル分力ト並行ナル分力トニ分テバ前者ハ對角線ニ垂直ナル應張力 $S_n, dz$ トナリ後者ハ對角線ニ沿ヒテ働ク應剪力 $S_t, dz$ トナル. 但 $S_n$ ハ對角線ニ垂直ナル單位應張力ニシテ $S_s$ ハ對角線ノ方向ノ單位應剪力ナリトス.

$dz$ ガ $dx$ トナス角ヲ $\phi$ トスレバ

$$S_n, dz = S, dy \cdot \sin \phi + S_s, dx \cdot \sin \phi + S_s, dy \cdot \cos \phi,$$

$$S_t dz = S dy \cos\phi + S_s dx \cos\phi - S_s dy \sin\phi,$$

$$dx = dz \cos\phi, \quad dy = dz \sin\phi.$$

$$\therefore S_n = S \sin^2\phi + S_s (\sin\phi \cos\phi + \cos\phi \sin\phi)$$

$$= \frac{1}{2} S (1 - \cos 2\phi) + S_s \sin 2\phi,$$

$$S_t = S \sin\phi \cos\phi + S_s (\cos^2\phi - \sin^2\phi) = \frac{1}{2} S \sin 2\phi + S_s \cos 2\phi.$$

$$\frac{dS_n}{d\phi} = 0 \quad \Rightarrow \quad \cot 2\phi = -\frac{1}{2} S / S_s \dots\dots\dots (a)$$

$$\frac{dS_t}{d\phi} = 0 \quad \Rightarrow \quad \tan 2\phi = +\frac{1}{2} S / S_s \dots\dots\dots (b)$$

然ラバ  $S_n$  ハ (a) 式ノ値ニ對シテ最大又ハ最小ニシテ

$S_t$  ハ (b) 式ノ値ニ對シテ最大ナリ。

(a) 式ヨリ

$$\sin 2\phi = \frac{S_s}{\left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}}, \quad \cos 2\phi = \frac{\frac{1}{2}S}{\left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}}$$

然ルニ (a) 式ノ右邊ノ符號ハ負ナルユエ  $\sin 2\phi$  又ハ  $\cos 2\phi$  ノ中孰レカーツハ正ニシテ他ハ負ナルベキナリ。今  $\cos 2\phi$  フ負トスレバ

$$S_n = \frac{1}{2} S + \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}.$$

$\sin 2\phi$  フ負トスレバ

$$S_n = \frac{1}{2} S - \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}.$$

次ニ (b) 式ヨリ

$$\sin 2\phi = \frac{\frac{1}{2}S}{\left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}}, \quad \cos 2\phi = \frac{S_s}{\left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}}$$

$$S_t = \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}.$$

$$\therefore \left. \begin{aligned} \text{最大 } S_n &= \frac{1}{2} S + \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}} \\ \text{最大 } S_t &= \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (59)$$

若シ  $S$  ガ應張力ナレバ

$$\text{最大單位應張力 } S_n = \frac{1}{2} S + \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}$$

$$\text{最大單位應壓力 } S_n = \frac{1}{2} S - \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}$$

$S$  ガ應壓力ナレバ

$$\text{最大單位應壓力 } S_n = \frac{1}{2} S + \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}$$

$$\text{最大單位應張力 } S_n = \frac{1}{2} S - \left[S_s^2 + \left(\frac{1}{2}S\right)^2\right]^{\frac{1}{2}}$$

$S_s = 0$  即チ單純ナル張力又ハ壓力ノ場合ニハ

$$\text{最大 } S_n = \frac{1}{2} S + \frac{1}{2} S = S, \quad \cot 2\phi = -\frac{1}{2} S / 0 = -\infty,$$

從テ  $\phi = 0$  ナリ。然ラバ

$$S_n = \left[\frac{1}{2} S (1 - \cos 2\phi) + S_s \sin 2\phi\right]_{\phi=0} = 0.$$

上式ヨリ  $\phi = 0$  ナル面即チ軸ノ方向ナル面ニ於ケル

應力ハ零即チ最小  $S_n$  ハ零ナリ。又最大  $S_t$  ハ  $\frac{1}{2}S =$   
 シテ  $\tan 2\phi = +\infty$  從テ  $\phi = 45^\circ$  或ハ  $135^\circ$  ナリ。是レ應  
 剪力最大ナル面ガ張力又ハ壓力ノ方向トナス角ハ  
 $45^\circ$  ナルコトヲ表ハス。

例題 直徑 1 吋ノ締釦ガ其軸ノ方向ニ 5,000 斤ノ張力及軸ニ  
 直角ニ 3,000 斤ノ剪斷力ヲ受クルトキ最大合成應力ヲ求ム。

$$S = \frac{5,000}{0.7854} = 6,366 \text{ 斤/平方吋}, S_s = \frac{3,000}{0.7854} = 3,820 \text{ 斤/平方吋}$$

$$\left[ S_s^2 + \left( \frac{1}{2}S \right)^2 \right]^{\frac{1}{2}} = \left( 3,820^2 + 3,183^2 \right)^{\frac{1}{2}} = 4,972 \text{ 斤/平方吋}$$

∴ 最大單位應張力  $S_n = 3,183 + 4,972 = +8,155$  斤/平方吋

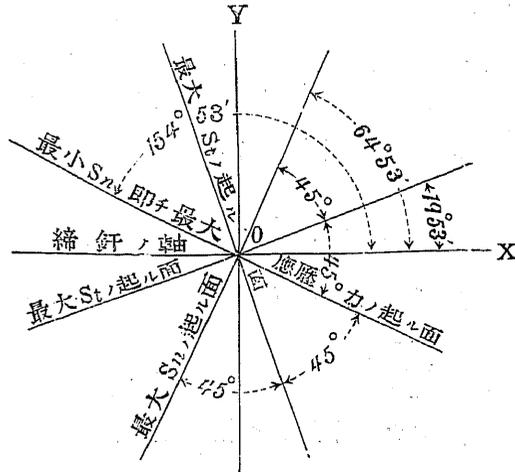
最大單位應壓力  $S_n = 3,183 - 4,972 = -1,789$  斤/平方吋

最大單位應剪力  $S_s = 4,972$  斤/平方吋

此等最大應力ガ締釦ノ軸トナス角ハ次ノ如シ。

$$\cot 2\phi = -\frac{3,183}{3,820} = -0.833, \quad -\cos 2\phi = \cos(18^\circ - 2\phi)$$

第 65 圖



$$+\sin 2\phi = \sin(18^\circ - 2\phi), \quad \cot(18^\circ - 2\phi) = 0.833.$$

$$\therefore 180^\circ - 2\phi = 50^\circ 14', \quad \phi = 64^\circ 53'.$$

$$\text{又} \quad +\cos 2\phi = \cos(360^\circ - 2\phi), \quad -\sin 2\phi = \sin(36^\circ - 2\phi),$$

$$\cot(360^\circ - 2\phi) = 0.833.$$

$$\therefore 360^\circ - 2\phi = 50^\circ 14', \quad \text{即チ} \quad \phi = 154^\circ 53'.$$

此ノ如ク最大  $S_n$  ト最小  $S_n$  トノ面ハ互ニ直角ナリ

$$\text{次ニ} \quad \tan 2\phi = \frac{1}{2}S/S_s = +0.833,$$

$$\therefore 2\phi = 39^\circ 16', \quad \phi = 19^\circ 53'.$$

然ルニ之ト直角ノ方向ニ同大ノ應剪力ガ起ルニエ

$$\phi = 19^\circ 53' \quad \text{又ハ} \quad \phi = 19^\circ 53' + 90^\circ = 109^\circ 53'.$$

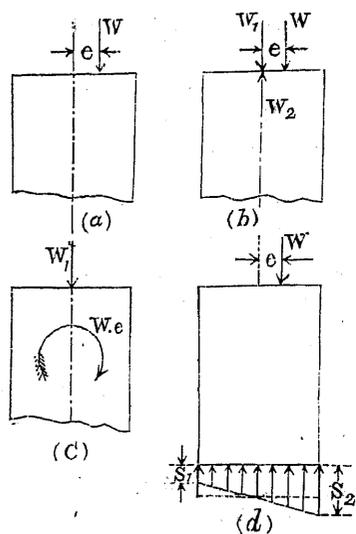
是ニ由テ見レバ最大應張力及最大應壓力ガ働ク面ノ方向ハ最  
 大應剪力ガ働ク面ノ方向ニテ二等分セラル。

#### 40. 横断面ノ核心 (Core of Section) 第二章第 13 節

ニ於テ述ベシ如ク偏心壓力ヲ受クル短キ棒狀體ノ  
 横断面ニアリテハ應壓力ノ配布均等ナラズシテ偏  
 心距ガ増加スレバ遂ニハ壓力ノ働點ト反對ノ側ニ  
 應張力ヲ生ズルニ至ルベシ。凡テ壓力ノ働線ガ斷  
 面ノ或範圍内ニアレバ断面ニ於ケル應力ハ總テ同  
 性ナレドモ壓力ガ其範圍外ニ働クトキハ異性ノ應  
 力ヲ生ジ断面内ノ一部分ニハ應張力ヲ生ズベシ。  
 此範圍ハ同性應力ニ對スル偏心距ノ限界ヲ示スモ  
 ノナレバ之ヲ横断面ノ核心ト謂フ。

第 66 圖ニ於テ壓力  $W$  ノ偏心距ヲ  $e$  トシ棒狀體ノ  
 軸ニ沿ヒテ大サ  $W$  ニ等シクシテ方向相反セル二力

第9圖



$W_1, W_2$ ヲ加フレバ((b)圖)  
 $W$ ト $W_2$ トガーツノ偶力  
 ヲ形ヅクルユエ $W$ ヲ偶  
 力( $W, W_2$ )ト軸ニ沿ヒテ  
 働ク壓力( $W_1=W$ )トニ  
 テ置換フルヲ得((c)圖)  
 然ラバ軸力 $W$ ヨリ生ズ  
 ル單位應力ハ $\frac{W}{A}$ ニシ  
 テ偶力率 $W.e$ ヨリ生ズ  
 ル單位應力ハ  
 $\frac{M.c}{I} = \frac{W.e.c}{I} = \frac{W.e.c}{A.k^2}$ ナリ

但 $A$ ハ斷面積, $c$ ハ斷面ノ中立軸ヨリ縁維迄ノ距離,  
 $I$ 及 $k$ ハ夫々其軸ニ對スル斷面ノ慣性能率及環動  
 半徑ナリトス. 夫故ニ((d)圖ノ如ク

$$\left. \begin{aligned} \text{最大單位應力 } S_2 &= \frac{W}{A} + \frac{W.e.c}{I} = \frac{W}{A} \left( 1 + \frac{e.c}{k^2} \right) \\ \text{最小單位應力 } S_1 &= \frac{W}{A} - \frac{W.e.c}{I} = \frac{W}{A} \left( 1 - \frac{e.c}{k^2} \right) \end{aligned} \right\} \dots\dots (60)$$

$e$ ガ増セバ $S_2$ ハ増加シ $S_1$ ハ減少ス. 從テ $e$ ガ或限  
 界ヲ超過スレバ $S_1$ ハ符號ヲ變ズベシ. 而シテ $S_1$ ヲ  
 零ニナスベキ $e_1$ ノ値ハ次ノ如シ,

$$S_1 = \frac{W}{A} \left( 1 - \frac{e_1.c}{k^2} \right) = 0, \text{ 即チ } e_1 = \frac{k^2}{c}$$

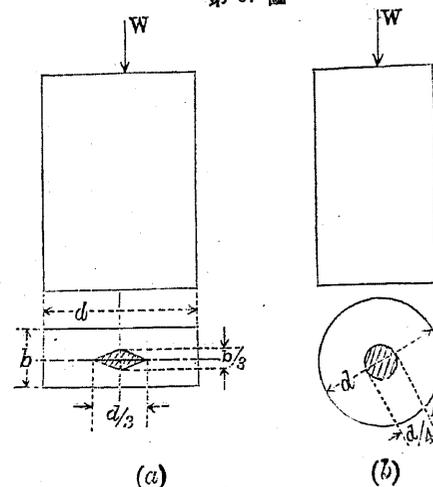
今矩形斷面ノ幅ヲ $b$ ,長サヲ $d$ トスレバ $b = 並行$   
 ナル中立軸ニ對シテハ

$$k^2 = \frac{I}{A} = \frac{bd^3}{12bd} = \frac{d^2}{12}, \quad c = \frac{d}{2}$$

$$\therefore e_1 = \frac{\frac{1}{12}d^2}{\frac{1}{2}d} = \frac{1}{6}d$$

然ラバ $W$ ノ働點ガ $\frac{1}{3}d$ 及 $\frac{1}{3}b$ ヲ對角線トセル菱形  
 内ニアル以上ハ斷面ニ於ケル應力ハ總テ同性ナリ  
 (第67圖(a))

第67圖



圓形斷面ノ場合ニハ

$$k^2 = \frac{\pi d^4}{64} \div \frac{\pi d^2}{4} = \frac{d^2}{16}, \quad c = \frac{d}{2}$$

$$\therefore e_1 = \frac{\frac{1}{16}d^2}{\frac{1}{2}d} = \frac{1}{8}d.$$

。然ラバWノ働點ガ $\frac{d}{4}$ ヲ直徑トセル同心圓内ニアル  
以上ハ斷面ニ生ズル應力ハ總テ同性ナリ(第67圖(b)).  
此ノ如キ面積ハ所謂橫斷面ノ核心即チ同性應力ノ  
範圍ナリ。(卷末補遺I參照)

## 第 七 章 長 柱

(Columns or Struts)

41. 定義 壓力ヲ受クル材ノ長サガ其斷面ノ最  
小幅ノ約10倍ヨリ大ナレバ之ヲ長柱ト稱ス。之ヨ  
リ短キモノハ壓力ヲ受ケテ單ニ收縮スルノミナレ  
ドモ長柱ハ之ガ爲メニ彎曲シ其作用複雑ナリ。

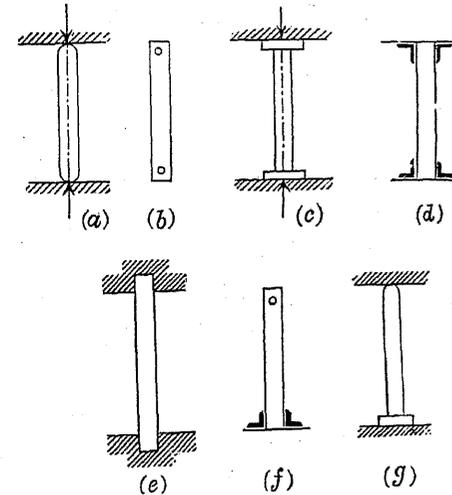
長柱ノ長サト最小環動半徑トノ比ヲ徑長比(Slen-  
derness Ratio)ト稱ス。之ガ約25ヨリ小ナレバ短柱  
トシ之ヨリ大ナレバ長柱トス。一般ニ諸構造物ニ  
使用セラル、長柱ノ徑長比ハ50乃至150ナリトス。  
短キ柱ト長柱トノ區劃ハ判然セルモノニアラズシ  
テ實驗ノ結果ヲ基トシテ定メタルモノニ過ギズ。

長柱ノ軸トハ橫斷面ノ中心ヲ連結セル線ヲ謂フ。  
從テ長柱ガ眞直ナレバ軸ハ直線ナレドモ長柱ガ彎

曲セルトキノ軸ハ彈曲線ナリ。

長柱兩端ノ構造ハ其強サニ大ナル影響ヲ及ボス。  
第68圖(a),(b)ニ示セルハ圓端(Round Ends)及鉸端(Hinged  
Ends)ニシテ軸ノ方向ハ兩端ニ於テ自由ニ變ジ得ベ

第 68 圖



ク(d)及(e)圖ハ固定端(Fixed Ends)ヲ表ハシ軸ノ方向  
ハ兩端ニ於テ不變ナリ。又(f)圖ハ一鉸端一固定端  
(One End Hinged and the Other Fixed), (g)圖ハ一圓端一  
平端(One End Round and the Other Flat)ノ場合ヲ表ハ  
スモノナリ。

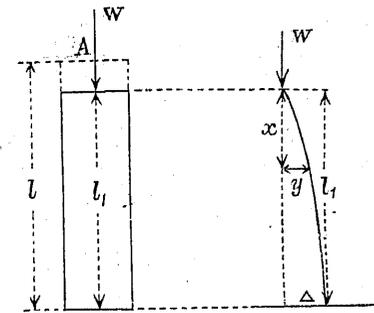
兩端固定ノ長柱強サハ兩圓端長柱ノ強サヨリモ  
大ニシテ一圓端一固定端長柱ノ強サハ兩者ノ中間

ニ位ス。又(c)圖ノ如キ平端長柱ノ強サハ其長サ短ケレバ固定端長柱ノ強サト略ボ同一ナルドモ長サガ増セバ鉸端長柱ノ強サト略ボ同一ナルコトハ實驗上認メラル、所ナリ。

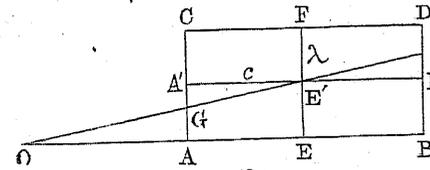
42. 理想的長柱ニ關スル理論 理想的長柱 (Ideal Columns) トハ完全ナル齋等質ニシテ各部分ノ彈性係數ガ同ジク、断面ハ均等ニシテ完全ナル直線軸ヲ有シ、荷重ガ正サシク軸ニ沿ヒテ加ヘラル、柱ナリ。此ノ如キ長柱ハ荷重ヲ受クルモ彎曲スルコトナク、單ニ荷重ニ依リテ壓縮セラル、ノミナリ。然レバ單位應力  $\frac{W}{A}$  ガ材料ノ彈性限度  $S_e$  ニ達スル迄荷重ヲ加フルヲ得ベシ。實驗ノ結果ニヨルニ理想的長柱ニ軸壓力ヲ加ヘ更ニ之ニ横ヨリ外力ヲ加ヘテ少シク彎曲セシメ其横外力ヲ除去シテ軸力ノミトスルトキ其軸力ガ或限度以內ナレバ舊ニ復スルト雖モ若シ軸力ガ其限度ニ達スルトキハ柱ハ彎曲シタル儘平衡ヲ保ツモノナリ。今此ノ如キ限度荷重ノ大サヲ見出サントス。但長柱自己重量ノ影響ハ算入セザルモノトス。今軸力ノ爲メニ柱長  $l$  ガ  $l_1$  トナリタリトセバ

$$l_1 = l \left( 1 - \frac{W}{A \cdot E} \right) \dots \dots \dots (a)$$

第69圖



(a)



(b)

壓縮セラレタル長柱ニ水平力ヲ加ヘテ少シク彎曲セシメタル後其力ヲ除去セシトキ全く舊位ニ復セズシテ第69圖(a)ノ如キ位置ヲ取リテ平衡ヲ保チタリト想像セヨ。軸ノ放端ヲ原點トシテ彈曲線中ノ一點ノ正座標ヲ  $x, y$  ト

スレバ其點ニ於ケル彎曲率ハ  $M = W \cdot y$  ナリ。

第69圖(b)ニ於テ AB, CD ヲ荷重 W ヲ加フル前ノ相隣レル二断面トシ其距離 EF ヲ  $dx$ , W ヲ加ヘタルトキノ軸ノ壓縮 E'F ヲ  $\lambda$  トスレバ

$$W \text{ ヲリ生ズル單位應力} = \frac{W}{A}, \quad \lambda = \frac{W \cdot dx}{A \cdot E}$$

(a)圖ノ如ク長柱ガ左方ニ彎曲スレバ軸ヨリ  $c$  ナル距離ニアル内側ノ纖維ノ單位應力ハ  $\left( \frac{W}{A} + \frac{M \cdot c}{I} \right)$  ナルヲ以テ此纖維ノ壓縮ハ

$$CG = \lambda' = \frac{W \cdot dx}{A \cdot E} + \frac{M \cdot c \cdot dx}{I \cdot E}, \quad A'G = \lambda' - \lambda = \frac{M \cdot c \cdot dx}{I \cdot E}$$

彈曲線ノ曲度半徑OEヲγトスレバ

$$\frac{\gamma}{dx-\lambda} = \frac{c}{A'G}, \text{ 即チ } \frac{\gamma}{dx\left(1-\frac{W}{AE}\right)} = \frac{c}{\frac{M.c.dx}{IE}}$$

$$\text{又ハ } \frac{\gamma}{dx \cdot \frac{l_1}{l}} = \frac{c}{\frac{M.c.dx}{IE}}, \therefore \frac{EI}{\gamma} = \frac{l}{l_1} \cdot M.$$

此場合ニMハ負ニシテ  $\frac{1}{\gamma} = \frac{d^2y}{dx^2}$  (第四章第25節参照)

ナルユエ

$$EI \frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{l}{l_1} \cdot M, \text{ 又ハ } -\frac{l}{l_1} \cdot W \cdot y \dots \dots \dots (b)$$

此式ノ兩邊ニ2dyヲ乘ジテ積分スレバ

$$EI \left(\frac{dy}{dx}\right)^2 = -\frac{lWy^2}{l_1} + C.$$

撓度ノ最大ナル點即チ  $y = \Delta$ ニ對シテ  $\frac{dy}{dx} = 0$ ナルユエ  $C = \frac{lW\Delta^2}{l_1}$ ヲ得.

$$\therefore dx = \sqrt{\frac{l_1 EI}{lW}} \cdot \frac{dy}{\sqrt{\Delta^2 - y^2}}$$

尙一度積分スレバ

$$x = \sqrt{\frac{l_1 EI}{lW}} \cdot \sin^{-1} \frac{y}{\Delta} + C'$$

$y=0$ ニ對シテ  $x=0$ ナルユエ  $C'=0$ ナリ.

$$\therefore y = \Delta \cdot \sin \left\{ x \sqrt{\frac{lW}{l_1 EI}} \right\} \dots \dots \dots (c)$$

(i) 一端ハ放端ニシテ他端ニ於テ固定サレタル長

柱 此場合ニハ(c)式ニ於テ  $x=l_1$ ナルトキ  $y=\Delta$ ナルユエ

$$l_1 \sqrt{\frac{lW}{l_1 EI}} = \frac{\pi}{2}$$

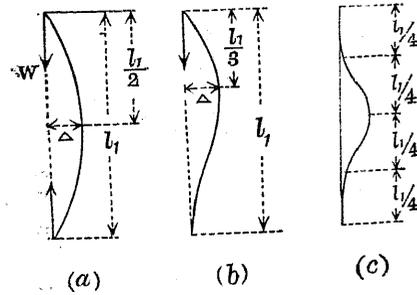
最小環動半徑即チ彎曲ノ起ル面ニ於ケル環動半徑ヲkトスレバ

$$I = A \cdot k^2, \quad \frac{W}{A} = \frac{\pi^2 E k^2}{4 l_1}$$

(ii) 圓端ヲ有スル長柱(第70圖(a)) 此場合ニハ  $y=\Delta$ ニ對シテ  $x = \frac{l_1}{2}$ ナルユエ(c)式ヨリ

$$\frac{W}{A} = \frac{\pi^2 E k^2}{l_1}$$

第70圖



(iii) 一圓端一固定端ヲ有スル長柱(第70圖(b)) 此場合ニハ  $y=\Delta$ ニ對シテ(c)式中ノ  $x$ ハ  $\frac{l_1}{3}$ ナルベキナリ. 然ラバ

$$\frac{W}{A} = \frac{9\pi^2 E k^2}{4 l_1}$$

(iv) 兩端固定ノ長柱(第70圖(c)) 此場合ニハ(c)式ニ於テ  $y=\Delta$ ニ對シテ  $x = \frac{1}{4} l_1$ ナルベキナリ. 然ラバ

$$\frac{W}{A} = \frac{4\pi^2 E k^2}{l_1}$$

以上四ツノ場合ハ次ノ式ニテ之ヲ表ハスヲ得.

$$\frac{W}{A} = \frac{n^2 E k^2}{l_1} \dots\dots\dots (d)$$

一端固定, 他端放端.	二圓端.	一端固定, 他端圓端.	二固定端.
$n = \frac{\pi}{2},$	$\pi,$	$\frac{3}{2}\pi,$	$2\pi.$

43. おいらあ氏公式 (Euler's Formula) 前節(a)式

$$l_1 = l \left( 1 - \frac{W}{AE} \right)$$

ニ於テ  $\frac{W}{A}$  ハ 弾性限度  $S_e$  ヨリ 超過スル能ハザルニ  
エ  $\frac{W}{AE}$  ハ 1 ニ比シテ省略シ得ル程ニ小ナル分數ナ  
リ. 依テ  $l_1$  ノ代リニ  $l$  ヲ用フルモ 實用上 差支ナシ.  
然ラバ 前節(d)式ヨリ次式ヲ得.

$$\frac{W}{A} = \frac{n^2 E k^2}{l^2} \dots\dots\dots (61)$$

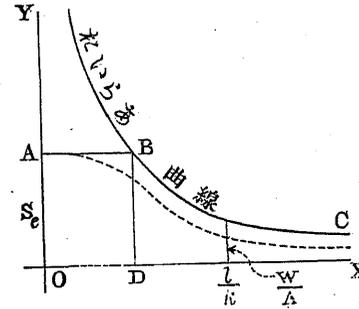
之ヲおいらあ氏ノ長柱公式ト謂フ. 此公式ニ直壓  
力ノ影響( $l-l_1$ )ヲ算入セザルハ理論上缺點タルヲ免  
レズ. 長柱ニ關スル理論ハ現今尙不満足ニシテ諸  
公式ハ數多ノ學者ガ各自假定ニ基キテ案出シタル  
モノナルガおいらあ氏公式ノ如キハ一般ニ用キラ  
ル、モノ、一ナリ.

ふんどらあ氏 (T. C. Fidler) ノ 實驗ニ據ルニ  $\frac{W}{A}$  ガ  
 $\frac{n^2 E k^2}{l^2}$  ヨリ少シニテモ超過スレバ長柱ガ少量ノ障

害ヲ受クルトキ甚シク彎曲シ或ハ破壊スルコトア  
リ. 依テ(61)式ガ與フル  $W$  ノ 値ヲ以テ理想的長柱  
ニ對スル限度ノ荷重ト見做スヲ得.

44. 理想的の曲線ト實際曲線 X軸=沿ヒテ  $\frac{l}{k}$  ノ

第 71 圖



値ヲ取り(61)式ガ與フル  
 $\frac{W}{A}$  ノ 値ヲ縦距ニ取レバ  
第71圖ノ如キおいらあ氏  
公式ノ曲線BCヲ得. 然ラ  
バ  $\frac{l}{k}$  ノ 或 値ニ對スル限度  
ノ 單位應力ヲ知ラントセ  
バ 其  $\frac{l}{k}$  ニ相當スル點ニ於  
ケル曲線ノ縦距ヲ測レバ可ナリ.

若シ單位應力  $\frac{W}{A}$  ガ 弾性限度  $S_e$  ニ等シクナレバ

$$\frac{l}{k} = \overline{OD} = \sqrt{\frac{n^2 E}{S_e}}$$

ニシテ  $\frac{l}{k}$  ガ 此 値ヨリモ小ナル間ニ 弾性限度  $S_e$  迄荷  
重ヲ加フルヲ得. 然ラバ AB 間ハ直線ニシテ ABC  
線ノ縦距ハ  $\frac{l}{k}$  ノ 或 値ニ對シ理想的長柱ノ限度ノ單  
位應力ヲ與フルモノナリ,

實用長柱ニアリテハ理想的長柱ノ條件ガ實現セ  
ラレザルヲ以テ理想的長柱ニ關スル結論ガ直ニ實

用長柱ニ適用セラレザルコト勿論ナリ。實用長柱ニハ完全ナル齊等質ノモノナク、完全ナル直線軸ヲ有スルモノナク又正シク軸外力ヲ受クルモノナク多少理想的條件ト相違ス。此相違ハ長柱ガ荷重ヲ受クルトキ之ニ撓ミヲ生ズル原因トナルベシ。然ラバ短キ實用柱ニ限リ彈性限度  $S_c$  迄荷重ヲ加フルヲ得ベク實用長柱ニ對シテハ單位應力ハ常ニ第71圖ノ表圖ガ與フル値ヨリモ小ナリ。依テ實用長柱ニ對スル實際曲線ハ第71圖ノ點線ニテ表ハス如クA點ニ於テAB線ニ又無窮大距離ニ於テBC曲線ニ切觸スル一ツノ曲線ナルベシ。而シテ實用長柱ト理想的長柱トノ相違ハ個々ノ長柱ニ就テ差等アルユエ實際曲線ハ各々ノ長柱ニ對シテ異ナルベキナリ。從テ總テノ長柱ニ對シテ實際ノ結果ヲ與フル如キ一ツノ曲線ヲ理論的ニ求ムルコト不可能ニシテ實驗ニヨリテ得タル結果ノ平均ヲ基トシテ之ヲ定ムルノ外ナシ。

先ニ與ヘシ  $n$  ノ理論的値ハ摩擦ヲ無視シテ得タルモノナリ。又固定端ト雖モ完全ナル固定ニアラズ。從テ  $n$  ノ實用的値ト理論的値トノ間ニ差異アルハ勿論ナリ。

$n$  ノ實用的値。

二圓端。 一固定端一圓端。 二固定端。

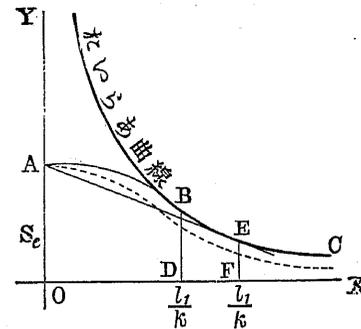
$$\pi\sqrt{\frac{5}{3}}=4.053 \quad \frac{5\pi}{2\sqrt{3}}=4.524 \quad \pi\sqrt{\frac{5}{2}}=4.964$$

おいらあ氏公式ニ此實用的値ヲ使用シテ得ラル、平均單位限度應力ハ  $\frac{l}{k}$  ガ甚大ナル場合ニハ頗ル精確ナルモノナリ。

45. 實用長柱公式 實用長柱ニ於ケル  $\frac{W}{A}$  ノ値

ハ第71圖ABCノ線ヨリモ寧ロ第72圖ニ示ス如クA點ヲ通リテおいらあ氏曲線BCニ切觸スル一ツノ曲線ガ與フル値ニ近キコトハ實驗上認メラル、事柄ニシテ實用公式ハ之ニヨリテ

第72圖



得タルモノナリ。

(1) 直線公式 (Straight Line Formula) 之ハ實用公式中多ク用キラル、モノ、一ニシテじよんそん氏 (T. H. Johnson) ノ公式ナリ。今第72圖ノ如クA點ヲ通リテおいらあ氏曲線ニ切觸スル直線AEヲ引ケバ此方程式ハ

$$y = S_c + b \cdot x \dots\dots\dots (a)$$

いらい氏曲線 EC の方程式ハ

$$y = \frac{n^2 E}{\omega^2} \dots\dots\dots (b)$$

直線 AE と曲線 EC との切觸點 E = 於テハ (a), (b) 二式ノ微分係數ハ相等シ。即チ

$$b = -\frac{2n^2 E}{\omega^3} = -\frac{2n^2 E l^3}{l_1^3} \dots\dots\dots (c)$$

又 E 點 = 於テハ縦距ハ共通ナルユエ

$$S_c + b \cdot x = \frac{n^2 E}{\omega^2}, \text{ 即チ } S_c + \frac{b \cdot l_1}{k} = \frac{n^2 E l^2}{l_1^2} \dots\dots\dots (d)$$

(c) 式ノ b ノ値ヲ (d) 式 = 代入スレバ

$$S_c - \frac{2n^2 E l^2}{l_1^2} = \frac{n^2 E l^2}{l_1^2}, \text{ 即チ } S_c = \frac{3n^2 E l^2}{l_1^2}$$

夫故 =  $\frac{l}{k}$  ノ制限ノ値ハ次ノ如シ

$$\frac{l_1}{k} = n \sqrt{\frac{3E}{S_c}}$$

之ヲ (c) 式 = 代入スレバ

$$b = -\frac{2S_c \sqrt{S_c}}{3n \sqrt{3E}}$$

此値ヲ (a) 式 = 代入スレバ

$$\left. \begin{aligned} y &= S_c - \frac{2S_c \sqrt{S_c}}{3n \sqrt{3E}} x, \text{ 又ハ } \frac{W}{A} = S_c - \frac{2S_c \sqrt{S_c}}{3n \sqrt{3E}} \frac{l}{k} \\ \frac{W}{A} &= S_c - C \cdot \frac{l}{k} \end{aligned} \right\} \dots\dots (62)$$

但  $\frac{l}{k} < n \sqrt{\frac{3E}{S_c}}$ ,  $k$  = 横断面ノ最小環動半徑,

$$C = \frac{2S_c \sqrt{S_c}}{3n \sqrt{3E}} \text{ 即チ 常數}$$

(62) 式 = 於テ y ハ x ノ一次函數ナルガ故ニ之ヲ直線公式ト謂フ。若シ  $\frac{l}{k} > n \sqrt{\frac{3E}{S_c}}$  ナレバいらい氏公式ヲ用フベシ。

長柱ノ種類.  $S_c$ . C.  $\frac{l}{k}$  ノ制限値. 建築用鋼:

兩固定端.....	52,500 斤/平方吋	179 斤/平方吋	195
一固定端, 一圓端...	52,500	220	159
兩圓端.....	52,500	284	123

鍊鐵:

兩固定端.....	42,000	128	218
一固定端, 一圓端 ..	42,000	157	178
兩圓端 .....	42,000	203	138

鑄鐵:

兩固定端.....	80,000	438	122
一固定端, 一圓端 ..	80,000	537	93
兩圓端.....	80,000	693	77

木材:

兩固定端.....	5,400	28	128
-----------	-------	----	-----

注意 設計ノ際ニハ上記  $S_c$  及 C ノ値ヲ適當ノ安

全率ニテ除スベシ。又我國ノ木材ニ就テハ長柱實驗ヨリ得タルモノナキ故上記木材ニ對スル常數ハ精確ナルモノニアラズ。

(62)式中實驗的常數ハ  $S_e$ ,  $E$  及  $n$  ニシテ此公式ハ使用甚便利ナリ。尤モ直線  $AE$  ハ  $A$  點ニ於テ水平ナラザルユエ  $\frac{l}{k}$  ノ小ナル値ニ對シテハ直線公式ガ與フル  $\frac{W}{A}$  ノ値ハ實驗上得ラル、値ヨリモ餘程小ナリ。

(2) 拋物線公式 (Parabola Formula) 之ハじよんそん氏 (J. B. Johnson) ノ公式ニシテ第72圖ノ曲線  $AB$  ハ  $B$  點ニ於テあいらあ氏曲線ニ切觸スルーツノ拋物線ナリト假定ス。即チ曲線  $AB$  ノ方程式ハ

$$y = S_e + b \cdot x^2 \dots\dots\dots (a)$$

式中  $b$  ハ二線切觸ノ條件ニヨリ定ムベキナリ。又  $x=0$  ニ對シテハ  $y$  ハ  $S_e$  ニ等シク  $A$  點ニ於テ切線ハ水平ナリ。あいらあ氏公式ヨリ

$$y = \frac{n^2 E}{x^2} \dots\dots\dots (b)$$

二曲線ノ切觸點  $B$  ニ於テハ (a), (b) 二式ノ微分係數ハ相等シキユエ

$$2bx = -\frac{2n^2 E}{x^3}, \text{ 即チ } b = -\frac{n^2 E k^4}{l^4} \dots\dots\dots (c)$$

又  $B$  點ニ於テ二曲線ハ共通ノ縦距ヲ有スルユエ

$$\frac{n^2 E k^2}{l^2} = S_e + \frac{b \cdot l^2}{k^2} = S_e - \frac{n^2 E k^2}{l^2},$$

$$\therefore S_e = \frac{2n^2 E k^2}{l^2}.$$

依テ  $\frac{l}{k}$  ノ制限ノ値ハ次ノ如シ。

$$\frac{l_1}{k} = n \sqrt{\frac{2E}{S_e}}.$$

之ヲ (c) 式ニ代入スレバ

$$b = -\frac{S_e^2}{4n^2 E}.$$

此値ヲ (a) 式ノ  $b$  ニ代入スレバ

$$\left. \begin{aligned} y &= S_e - \frac{S_e^2}{4n^2 E} \cdot x^2, \text{ 又ハ } \frac{W}{A} = S_e - \frac{S_e^2}{4n^2 E} \cdot \frac{l^2}{k^2}, \\ \frac{W}{A} &= S_e - C \cdot \frac{l^2}{k^2}. \end{aligned} \right\} \dots\dots (63)$$

但  $\frac{l}{k} < n \sqrt{\frac{2E}{S_e}}$ ,  $k$  = 横斷面ノ最小環動半徑,

$$C = \frac{S_e^2}{4n^2 E} \text{ 即チ常數}$$

(63) 式ニ於テ  $y$  ハ  $x$  ノ二次函數ナルガ故ニ之ヲ拋物線公式ト謂フ。若シ  $\frac{l}{k}$  ガ限度  $n \sqrt{\frac{2E}{S_e}}$  ヲ超過スレバあいらあ氏公式ヲ用フベシ。

(63) 式ハ (62) 式ト同様ニ使用上便利ナリ。尤モ切線ガ  $A$  點ニ於テ水平ナルユエ (63) 式ハ概シテ (62) 式ヨリモ精確ナル結果ヲ與フ。

軟鋼:

$$\text{兩圓端} \dots \frac{l}{k} \leq 150, \quad \frac{W}{A} = 42,000 - 0.97 \left( \frac{l}{k} \right)^2 \text{ 噸/平方吋,}$$

$$\frac{l}{k} > 150, \quad \frac{W}{A} = 456,000,000 / \left( \frac{l}{k} \right)^2$$

$$\text{兩固定端} \dots \frac{l}{k} \leq 190, \quad \frac{W}{A} = 42,000 - 0.62 \left( \frac{l}{k} \right)^2,$$

$$\frac{l}{k} > 190, \quad \frac{W}{A} = 712,000,000 / \left( \frac{l}{k} \right)^2$$

鍊鐵:

$$\text{兩圓端} \dots \frac{l}{k} \leq 170, \quad \frac{W}{A} = 34,000 - 0.67 \left( \frac{l}{k} \right)^2,$$

$$\frac{l}{k} > 170, \quad \frac{W}{A} = 432,000,000 / \left( \frac{l}{k} \right)^2$$

$$\text{兩固定端} \dots \frac{l}{k} \leq 210, \quad \frac{W}{A} = 34,000 - 0.43 \left( \frac{l}{k} \right)^2,$$

$$\frac{l}{k} > 210, \quad \frac{W}{A} = 675,000,000 / \left( \frac{l}{k} \right)^2$$

鑄鐵:

$$\text{兩圓端} \dots \frac{l}{k} \leq 70, \quad \frac{W}{A} = 60,000 - 6.25 \left( \frac{l}{k} \right)^2,$$

$$\frac{l}{k} > 70, \quad \frac{W}{A} = 144,000,000 / \left( \frac{l}{k} \right)^2$$

$$\text{兩固定端} \dots \frac{l}{k} \leq 120, \quad \frac{W}{A} = 60,000 - 2.25 \left( \frac{l}{k} \right)^2,$$

$$\frac{l}{k} > 120, \quad \frac{W}{A} = 400,000,000 / \left( \frac{l}{k} \right)^2$$

木材:

$$\text{兩固定端} \dots \frac{l}{k} \leq 60, \quad \frac{W}{A} = 3,500 - 0.8 \left( \frac{l}{k} \right)^2$$

注意 木材長柱公式中  $h$  ハ横斷面ノ最小邊ナリ。  
又設計ノ際ニハ適當ノ安全率ヲ使用ス。

(62) 及 (63) 二式ハ第72圖ニ示ス如ク E 又ハ B 點ニ於テおいらあ氏曲線ニ切觸スル線ヲ表ハシ夫々限度ノ長サ以上ノ長柱ハ理想的條件ヲ滿タスモノトセシモ此假定ハ正當ナラズ。限度ノ長サ以上ノ長柱ニ對シテ兩式ガ與フル  $\frac{W}{A}$  ノ値ハおいらあ氏公式ガ與フル  $\frac{W}{A}$  ノ値ヨリモ小ナレドモ之ニ近キコトハ實驗上認メラル、所ナリ。然ラバ該假定ハ實用上差支ナキモノト考フルヲ得ベシ。

上述ノ論議ヨリ推定スレバ第72圖ノ點線曲線ノ如クニ A 點ヲ通り此點ニ於テ水平切線ヲ有シ且おいらあ氏曲線ヨリモ幾分下方ニ位シ無窮大距離ニ於テおいらあ氏曲線ニ切觸スル曲線ガ實際ノ  $\frac{W}{A}$  ノ値ヲ與フベシ。

(3) らんきん氏公式 (Rankine's Formula) 此公式ヲ表示スル曲線ハ第72圖ニ於テ點線ニテ表ハセル曲線ニ類似ノモノニシテ之ハ任意ノ斷面ニ於ケル最大單位應力ガ單位直應壓力ト彎曲率ヨリ生ズル單位

應壓力トノ合成ナリト假定シテ得タルモノナリ。  
 今最大撓度ヲ $\Delta$ トセバ最大彎曲率ハ $W\Delta$ ニシテ斷  
 面ノ中立軸(彎曲ノ起ル面ニ垂直ナル軸)ヨリ $c$ ナル  
 距離ニアル緣維ノ單位彎曲應壓力ハ $\frac{W\Delta \cdot c}{I} = \frac{W\Delta \cdot c}{Ak^2}$   
 ナリ。又單位直應壓力ハ $\frac{W}{A}$ ナリ。然ラバ限度ノ  
 單位應力ハ

$$\frac{W}{A} + \frac{W\Delta \cdot c}{Ak^2} = S_e \quad \therefore \frac{W}{A} = \frac{S_e}{1 + \frac{\Delta \cdot c}{k^2}} \dots\dots (a)$$

長柱ノ彎曲ガ桁ノ彎曲ト同様ナリト見做セバ(第  
 四章第29節(45)式參照)

$$\Delta = \phi \cdot \frac{l^2}{c}, \quad \text{即チ} \quad \frac{\Delta \cdot c}{k^2} = \frac{\phi \cdot l^2}{k^2} \dots\dots (b)$$

此値ヲ(a)式ニ代入スレバ

$$\frac{W}{A} = \frac{S_e}{1 + \phi \left(\frac{l}{k}\right)^2} \dots\dots (64)$$

此ニ於テ $k$ ハ斷面ノ最小環動半徑ニシテ $\phi$ ハ材質  
 及兩端ノ構造ニ依テ定マル實驗的常數ナリ。(64)式  
 ガらんきん氏公式ニシテ $\frac{l}{k}$ ノ總テノ値ニ對シテ適  
 用スルヲ得。而シテ此公式ニハ理論上缺點アレド  
 モ實用公式トシテ廣ク用キラル、モノ、一ナリ。(64)  
 式中ノ $\frac{l}{k}$ ヲ零トスレバ $\frac{W}{A} = S_e$ 、 $\frac{l}{k}$ ヲ無窮大トスレ

バ $\frac{W}{A} = 0$ トナリ此式ハ第72圖ニ於テ點線ニテ表ハ  
 セル曲線ノ條件ト一致スルヲ見ルベシ。

	鑄鐵	鍊鐵	中鋼	木材
兩固定端.....	$\phi = \frac{1}{5,000}$	$\phi = \frac{1}{36,000}$	$\phi = \frac{1}{25,000}$	$\phi = \frac{1}{3,000}$
一固定端 一四端.....	$\frac{1.78}{5,000}$	$\frac{1.78}{36,000}$	$\frac{1.78}{25,000}$	$\frac{1.78}{3,000}$
兩圓端.....	$\frac{4}{5,000}$	$\frac{4}{36,000}$	$\frac{4}{25,000}$	$\frac{4}{3,000}$

(64)式ヲ用キテ長柱ヲ設計スルニハ $S_e$ ノ代リニ  
 材料ノ作用抗壓強度ヲ取ルベキナリ之ヲ $S_e$ トスレ

$$\frac{W}{A} = \frac{S_e}{1 + \phi \left(\frac{l}{k}\right)^2} \dots\dots (64_a)$$

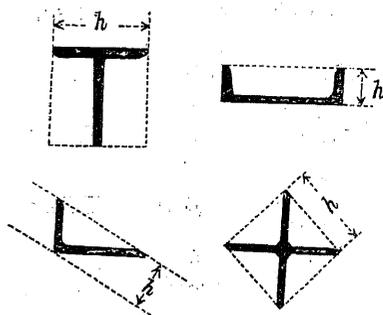
(4)ごるどん氏公式 (Gordon's Formula) (64)式ノ $k$   
 ハ斷面ノ最小邊ノ函數ナルユエ次ノ如ク書スルヲ  
 得。

$$\frac{W}{A} = \frac{S_e}{1 + \psi \left(\frac{l}{h}\right)^2} \dots\dots (65)$$

此ニ於テ $\psi$ ハ實驗的常數ニシテ $h$ ハ斷面ヲ圍メル  
 矩形ノ最小邊ナリ。例ヘバ第73圖ノ如ク。

(65)式ガごるどん氏ノ長柱公式ニシテ(64)式ト同  
 様ニ $\frac{l}{k}$ ノ總テノ値ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得。

第 73 圖



$S_e$  听/平方吋.

$\psi$ .

鑄鐵: 兩固定端

矩形斷面.....	80,000	$\frac{1}{450}$
圓形斷面.....	80,000	$\frac{1}{400}$
中空矩形斷面.....	80,000	$\frac{1}{500}$
中空圓形斷面.....	80,000	$\frac{1}{600}$

鍊鐵: 兩固定端

矩形斷面.....	36,000	$\frac{1}{3,000}$
圓形斷面.....	36,000	$\frac{1}{2,250}$
厚キ中空圓形斷面.....	36,000	$\frac{1}{5,500}$

中鋼: 兩固定端

矩形斷面.....	67,200	$\frac{1}{2,000}$
-----------	--------	-------------------

圓形斷面.....	67,200	$\frac{1}{1,400}$
中空圓形斷面.....	67,200	$\frac{1}{2,500}$
木材: 兩固定端.....	7,200	$\frac{1}{250}$

注意 兩圓端ノ場合ニハ $\psi$ ヲ $4\psi$ トシ、一圓端一固定端ノ場合ニハ $1.78\psi$ トスベシ。

(65)式ヲ用キテ長柱ヲ設計スルニハ(64)式ニ於ケルト同様ニ $S_e$ ノ代リニ作用抗壓強度ヲ用フベシ。

(64), (65)兩式ノ中現今普通ニ使用セラル、ハ(64)式ナリ。

(5)リつたあ氏公式 (Ritter's Formula) 第72圖ノ曲線 AB ノ方程式ガらんきん氏公式ト同形ナリトセ

$$y = \frac{S_e}{1 + b \cdot x^2}$$

此式ニ於テ $b$ ハ常數ニシテリつたあ氏ハ之ヲ全ク實驗的常數トセズシテ直線公式及拋物線公式ニ於ケルト同様ニ二曲線切觸ノ條件ニヨリテ定メタリ。

前述ノ如ク長柱ノ長サノ如何ニ拘ハラズ適用シ得ベキ曲線ハ $x$ 即チ $\frac{l}{k}$ ガ無窮大ナルトキおいらあ氏曲線ト一致シ $x = \frac{l}{k} = 0$ ナルトキ $y = \frac{W}{A}$ ハ $S_e$ ナルベキナリ。然ラバ上記方程式ガ此條件ヲ満足スル

爲ニハ常數  $b$  ハ  $\frac{l}{k}$  ノ値ガ大ナルトキらんさん氏公式ガ與フル  $\frac{W}{A}$  トおいらあ氏公式ガ與フル  $\frac{W}{A}$  トヲ同ジクナス如キ値ナルヲ要ス。即チ

$$\frac{W}{A} = n^2 E \left(\frac{k}{l}\right)^2 = \frac{S_c}{1 + b \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

$\frac{l}{k}$  ノ値ガ大ナルトキハ此式ノ分母ノ 1 ハ  $b \left(\frac{l}{k}\right)^2$  = 比較シテ省略シ得ルヲ以テ

$$\frac{n^2 E}{\left(\frac{l}{k}\right)^2} = \frac{S_c}{b \left(\frac{l}{k}\right)^2}, \text{ 即チ } b = \frac{S_c}{n^2 E}$$

$$\therefore \frac{W}{A} = \frac{S_c}{1 + \frac{S_c}{n^2 E} \left(\frac{l}{k}\right)^2} \dots \dots \dots (66)$$

是レりつたあ氏公式ニシテ之ハらんさん氏公式ト同様ニ第72圖ニ於テ點線ニテ表ハシタル曲線ノ條件ト一致ス。而シテ常數ヲ定ムル條件ヨリ見レバ(66)式ガ表示スル曲線ハ他ノ曲線ヨリモ眞値ニ近キモノヲ與フベシ。

(66)式中ノ  $n$  ノ値ハ他ノ公式ニ於ケルト同一ナリ。又長柱設計ノ際ニハらんさん氏公式ニ於ケルト同様ニ  $S_c$  ノ代リニ作用抗壓強度ヲ使用スベシ。

鑄鐵:

$$\text{兩圓端} \dots \dots \dots \frac{W}{A} = \frac{60,000}{1 + \frac{1}{2,400} \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

$$\text{兩固定端} \dots \dots \dots \frac{W}{A} = \frac{60,000}{1 + \frac{1}{6,666} \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

鍊鐵:

$$\text{兩圓端} \dots \dots \dots \frac{W}{A} = \frac{34,000}{1 + \frac{1}{12,700} \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

$$\text{兩固定端} \dots \dots \dots \frac{W}{A} = \frac{34,000}{1 + \frac{1}{20,000} \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

中鋼:

$$\text{兩圓端} \dots \dots \dots \frac{W}{A} = \frac{42,000}{1 + \frac{1}{10,825} \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

$$\text{兩固定端} \dots \dots \dots \frac{W}{A} = \frac{42,000}{1 + \frac{1}{17,000} \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

木材:

$$\text{兩固定端} \dots \dots \dots \frac{W}{A} = \frac{3,500}{1 + \frac{1}{1,090} \left(\frac{l}{k}\right)^2}$$

此ニ於テ  $k$  ハ斷面ノ最小環動半徑ニシテ  $h$  ハ斷面ノ最小邊ナリトス。

(6) 安全率 靜荷重ニ對シテハ

鍊鐵又ハ鋼長柱.....4.

鑄鐵長柱.....6.

木材長柱.....6乃至8.

動荷重ニ對シテハ

鍊鐵又ハ鋼長柱..... $4 + \frac{l}{20h}$ .

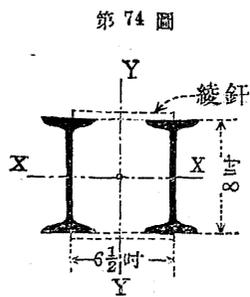
鑄鐵長柱..... $7 + \frac{l}{20h}$ .

木材長柱.....(6乃至8) +  $\frac{l}{20h}$ .

但  $l$  ハ長柱ノ長サ(吋)ニシテ  $h$  ハ斷面ノ周邊ヲ包圍スル矩形ノ最小邊(吋)ナリトス。動荷重ニ對シテハ上式ヨリ得ラル、整數ヲ以テ安全率トナスベシ。

46. 長柱ニ關スル三問題

問題 I. 一ツノ長柱ガ或荷重ニ對シテ安全ナルヤ否ヤヲ知ルコト。



第74圖

例題 茲ニ第74圖ノ如ク高サ8吋、長サ20呎、長サ一呎ニ付キ重量18唵ノI字形鋼ヲ綾釘(Lattice Bars)ニテ連結シテ中心距離ヲ  $6\frac{1}{2}$  吋ニ保テル兩圓端長柱アリ、之ガ軸ニ沿ヒテ 80,000 唵ノ荷重ヲ受クルトキ長柱ニ誘起セラル、單位應力ヲ求ム。

らんきん氏公式ヲ用フレバ

$W = 80,000$  唵,  $A = 2 \times 5.33 = 10.66$  平方吋,

$\phi = \frac{4}{25,000}$ ,  $l = 20 \times 12 = 240$  吋.

此場合ニハ  $I_x < I_y$  ニシテ  $I_x = 2 \times 56.9 = 113.8$  吋<sup>4</sup>ナルニエ

$k = \sqrt{\frac{I_x}{A}} = \sqrt{\frac{113.8}{10.66}} = 3.27$  吋.

$\therefore$  單位應壓力  $S = \frac{80,000}{10.66} \left[ 1 + \frac{4}{25,000} \left( \frac{240}{3.27} \right)^2 \right] = 7,500 \times 1.88 = 14,000$  唵/平方吋.

之ハ安全限度以內ノ單位應力ナルヲ以テ長柱ハ與ヘラレタル荷重ヲ安全ニ支フルヲ得。

問題 II. 一ツノ長柱ガ支ヘ得ル安全荷重。

例題 茲ニ兩圓端木材長柱アリ、其長サ10呎、斷面6吋 $\times$ 8吋ナルトキ之ガ支ヘ得ル最大荷重及安全荷重ヲ求ム。

先ヅおいらあ氏公式ヲ用キ  $E = 1,500,000$  唵/平方吋,  $\pi^2 = 10$  トセバ

$I = \frac{8 \times 6^3}{12} = 144$  吋<sup>4</sup>,  $A = 48$  平方吋,  $k^2 = \frac{144}{48} = 3$  吋<sup>2</sup>,  $l = 120$  吋.

$\therefore$  最大荷重  $W = \frac{\pi^2 E A k^2}{l^2} = \frac{10 \times 1,500,000 \times 48 \times 3}{120 \times 120} = 150,000$  唵.

次ニらんきん氏公式ヲ用キ  $S = 7,200$  唵/平方吋トスレバ

$W = \frac{48 \times 7,200}{1 + \frac{4}{3,000} \cdot \frac{120^2}{3}} = 46,700$  唵.

安全率ヲ6ニ取レバ

安全荷重 =  $\frac{46,700}{6} = 7,780$  唵.

是ニ由テ見レバおいらあ氏公式ガ與フル荷重ハらんきん氏公式ガ與フル荷重ノ約三倍ナルニエらんきん氏公式ノ安全率6ハおいらあ氏公式ノ安全率約18ニ相當ス。

問題 III. 長柱ノ設計 木材長柱ノ斷面ハ通例正方形又ハ圓形ニシテ斷面ガ大ナルトキハ材ヲ組合セテ中空斷面ニナスコトアリ。鑄鐵長柱ノ斷面ハ中空圓形ナルヲ常トス。1900年頃迄ハ種々ノ形

ノ鍊鐵長柱ガ使用セラレシモ現今諸構造物ニ使用セラル、長柱ハ主トシテ建築用鋼溝形釘(Channels), 角釘(Angles)及鋸ノ類ヲ釘綴シテ作り場合ニヨリテハI字形鋼ヲ用フルコトアリ。正方形又ハ圓形断面ノ長柱ニ於テハ之ガ彎曲セントスル傾向ハ断面ノ中立軸ノ方向ニ依テ異ナルコトナケレドモ断面ガ矩形ナレバ彎曲ノ起ル面ハ明カニ断面ノ長邊ニ垂直ナリ。一般ニ言ヘバ彎曲ノ起ル面ハ最小慣性能率ノ軸ニ垂直ナリ。而シテ長柱ガ彎曲スレバ之ニ桁ニ於ケルト同様ナル彎曲應力ヲ生ズルヲ以テ長柱ノ断面ニ於テモ亦桁ニ於ケルガ如ク最小慣性能率ノ軸ヨリ遠ザカレル部分ノ面積ヲ大ナラシムベキナリ。依テ長柱ヲ設計スルニハ軸ヨリ遠ザカリタル部分ノ斷面積ヲ大ナラシメ且互ニ直角ヲナセルニツノ中立軸ニ對スル慣性能率ガ殆ド等シク若クハ等シクナル様ニ断面形ヲ定ムルヲ可トス。又長柱ガ軸ニ沿ヒテ荷重ヲ受クルトキハ所要斷面積ガ荷重ヲ作用強度ニテ除シテ得ラル、短柱ノ斷面積ヨリモ大ナルベキハ勿論ナリ。

以上ノ事柄ヲ勘考シテ先ヅ断面形ヲ假定シ單位應壓力ヲ算出スベシ。之ガ作用抗壓強度ト一致スルナラバ假定断面ハ與ヘラレタル條件ニ適合スル

モノナリ。若シ兩者ノ差大ナルトキハ新ニ断面ヲ假定シテ満足ナル結果ヲ得ル迄計算ヲ繰返スベシ。

断面ノ一邊ヲ未知量トシA及kヲ此未知量ニテ表ハスヲ得バ長柱公式ヨリ得タル方程式ヲ解キテ容易ニ断面ヲ定ムルヲ得。

例題 1. 茲ニ兩端ニテ固定セラレタル長サ18呎ノ鑄鐵中空正方形断面ノ長柱アリ。之ガ60,000 呎ノ荷重ヲ安全ニ支フルニハ其断面ノ大サ如何。但作用抗壓強度ヲ15,000 呎/平方吋トス。

短柱ノ所要斷面積ハ  $\frac{60,000}{15,000} = 4$  平方吋ナルニヨリ長柱ノ斷面積ヲ約6平方吋ト假定シ中空矩形断面ノ外側ノ寸法ヲ6吋×6吋、内側ノ寸法ヲ  $5\frac{1}{2}$ 吋× $5\frac{1}{2}$ 吋トスレバ

$$A = 36 - 30.25 = 5.75 \text{ 平方吋}, \quad l = 18 \times 12 = 216 \text{ 吋}$$

$$k^2 = 5.52 \text{ 吋}^2.$$

らんきん氏公式ヲ用フレバ

$$\phi = \frac{1}{5,000}, \quad \left(\frac{l}{k}\right)^2 = 8,452.$$

$$\therefore \text{單位應壓力} = \frac{60,000}{5.75} \left(1 + \frac{8,452}{5,000}\right) = \frac{60,000 \times 2.69}{5.75}$$

$$= 28,100 \text{ 呎/平方吋}.$$

之ハ與ヘラレタル作用抗壓強度ノ1.8倍ナルヲ以テ假定セル断面ヲ増サマルベカラズ。今断面ノ外側ノ寸法ヲ6吋×6吋、内側ノ寸法ヲ5吋×5吋トスレバ

$$A = 11 \text{ 平方吋}, \quad k^2 = 5.08 \text{ 吋}^2, \quad \left(\frac{l}{k}\right)^2 = 9,184.$$

$$\therefore \text{單位應壓力} = \frac{60,000}{11} \left(1 + \frac{9,184}{5,000}\right) = \frac{60,000 \times 2.84}{11}$$

$$= 15,590 \text{ 呎/平方吋}.$$

之ハ與ヘラレタル作用抗壓強度ニ近キ値ナルニテ假定断面ハ

殆ど所要條件ヲ満足スルモノナリ。

一般ニ條件ヲ満足スベキ斷面ハ多數アルベキヲ以テ其中ニテ使用上最モ有利ナル形ヲ選定スベキナリ。

例題 2. 柱ニ長サ10呎、一端ハ固定セラレ他端ハ圓端ナル正方形斷面ノ木材長柱アリ。之ヲシテ5,000 呎ノ荷重ヲ安全ニ受ケシムルニハ一邊ノ長サヲ幾何ニナスベキカ。但作用抗壓強度ヲ800/平方吋トス。

正方形ノ一邊ヲ $x$ トスレバ

$$A=x^2, k=\sqrt{\frac{x^4}{12}+x^2}=\frac{x}{\sqrt{12}} \text{ 吋}, l=120 \text{ 吋},$$

らんきん氏公式ヲ用フレバ、

$$\frac{5,000}{x^2} = \frac{800}{1 + \frac{1.78 \times 120^2 \times 12}{3,000 \times x^2}} = \frac{800x^2}{x^2 + 102.5}$$

$$8x^4 - 50x^2 - 5,125 = 0, \quad x^2 = 28.6$$

$$\therefore x = 5.4 \text{ 吋}.$$

次ニおいらあ氏公式ヲ用キテ安全率10トシ $n^2 = \frac{9\pi^2}{4}$ ,  $E=1,500,000$  呎/平方吋トスレバ

$$5,000 \times 10 = \frac{2.25 \times 9.87 \times 1,500,000 \times x^2}{\frac{120^2 \times 12}{x^2}} = 192x^4,$$

$$x^4 = 260, \quad \therefore x = 4 \text{ 吋}.$$

此長柱ノ徑長比ハ約100ナルニモおいらあ氏公式ガ與フル値ハ實用公式ガ與フル値程ニ信賴スル能ハズ。

#### 47. 偏心荷重ヲ受クル長柱 らんきん氏公式

$$\frac{W}{A} = \frac{S}{1 + \phi \left(\frac{l}{k}\right)^2} \quad \text{又ハ} \quad S = \frac{W}{A} \left[ 1 + \phi \left(\frac{l}{k}\right)^2 \right]$$

ニ於テ $\frac{W}{A}$ ハ軸荷重 $W$ ヨリ生ズル單位應壓力ニシ

テ $\frac{W}{A} \cdot \phi \left(\frac{l}{k}\right)^2$ ハ彎曲率ヨリ生ズル單位應壓力ナリ。

若シ荷重 $W$ ガ $e$ ナル偏心距ヲ以テ働ケバ此偏心ノ爲ニ生ズル單位應壓力ハ $\frac{W}{A} \cdot \frac{e \cdot c}{k^2}$ ナリ(第六章第40節

參照)然ラバ長柱ニ誘起セラル、全應力ノ近似値ハ次ノ如シ。

$$S = \frac{W}{A} + \frac{W}{A} \cdot \phi \left(\frac{l}{k}\right)^2 + \frac{W}{A} \cdot \frac{e \cdot c}{k^2} = \frac{W}{A} \left[ 1 + \phi \left(\frac{l}{k}\right)^2 + \frac{e \cdot c}{k^2} \right] \dots (67)$$

數個ノ荷重ガ $e_1, e_2, e_3$ 等ノ偏心距ヲ以テ長柱ニ働クトキハ總代荷重ヲ(67)式ノ $W$ トシ又長柱ノ軸ヨリ總代荷重迄ノ距離ヲ $e$ トスベシ。

例題 柱ニ長サ12呎6吋、直徑4吋、兩圓端ノ鑄鐵長柱アリ。之ニ7,000 呎ノ荷重ガ $1\frac{1}{2}$ 吋ノ偏心距ヲ以テ働クトキ誘起セラル、最大單位應壓力ヲ求ム。

(67)式ニ於テ

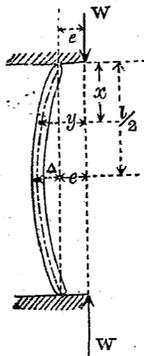
$$k = \sqrt{\frac{I}{A}} = \sqrt{\frac{\pi \cdot 4^4}{64 \times \frac{\pi}{4} \cdot 4}} = 1 \text{ 吋}, l = 150 \text{ 吋}, A = 12.57 \text{ 平方吋}.$$

$$\therefore S = \frac{7,000}{12.57} \left[ 1 + \frac{4}{5,000} \left(\frac{150}{1}\right)^2 + \frac{1.5 \times 2}{1} \right]$$

$$= \frac{7,000}{12.57} (1 + 18 + 3) = 12,300 \text{ 呎/平方吋}$$

徑長比ガ約100以上ナルトキハ(67)式ガ與フル單位應壓力ハ小ニ過グ是レ兩端ヲ除キ其他ノ斷面ニ於テハ總テ撓度ノ爲ニ荷重ノ偏心距ヲ増加スレバナリ。夫故ニ徑長比ノ大ナル長柱ニ對シテハ次ノ方法ニヨルヲ可トス。

第 75 圖



第 75 圖ノ兩圓端長柱ニ於テ荷重 \$W\$ ノ偏心距ヲ \$e\$, 長柱ノ原位置ヨリ測リタル最大撓度ヲ \$\Delta\$ トスレバ

最大撓度ノ點ニ於ケル荷重ノ全偏心距 \$= e\_1 = e + \Delta\$.

最大撓度ノ起ル點ニ於ケル斷面ノ最大單位應壓力ハ

$$S = \frac{W}{A} \left[ 1 + \frac{e_1 \cdot c}{k^2} \right] = \frac{W}{A} \left[ 1 + \frac{c(e + \Delta)}{k^2} \right] \dots (68)$$

此式ヲ用キテ \$S\$ ヲ求ムルニハ \$e\_1\$ ノ値ヲ知ラザルベカラズ.

偕おいらあ氏公式ガ與フル軸荷重ヲ \$W\_e\$ トシ \$W\$ ノ代リニ \$W\_e\$ ヲ加フルトモ最大撓度 \$\Delta\$ ノ値ニ變化ナシト想像セバ長柱ハ偏心荷重 \$W\$ 又ハ軸荷重 \$W\_e\$ ノ下ニ平衡ニアルユエ

$$W_e \Delta = W(e + \Delta), \text{ 即チ } \Delta = \frac{W_e e}{W_e - W}$$

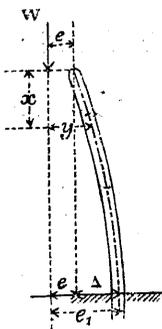
$$e_1 = e + \Delta = e + \frac{W_e e}{W_e - W} = \frac{W_e e}{W_e - W} \left. \dots (68_a) \right\}$$

$$S = \frac{W}{A} \left[ 1 + \frac{c \cdot W_e e}{(W_e - W) k^2} \right]$$

此式ハおいらあ氏公式ヲ適用シ得ル程度ノ長サノ長柱ガ偏心荷重ヲ受クル場合ニ使用セラル. 尤モ

長柱ノ中央ニ於ケル彎曲率ノミ考ヘ他ノ斷面ニ於ケル彎曲率ヲ考ヘザリシ故此式ガ與フル撓度ハ小ニ過グ. 今之ヨリモ正確ナル解法ヲ示サントス.

第 76 圖ノ如ク上端ハ放端ニシテ下端ニ於テ鉛直ニ固定セラレタル長柱ヲ考フ.



今上端ニ於テ荷重ノ働點ヲ座標原點トシテ \$x\$ ヲ鉛直ニ, \$y\$ ヲ水平ニ測レバ  
 $-W \cdot y =$  彈曲線中ノ一點ニ對スル彎曲率.

$$EI \frac{d^2 y}{dx^2} = -W \cdot y.$$

之ヲ積分スレバ

$$EI \left( \frac{dy}{dx} \right)^2 = -W \cdot y^2 + C.$$

$$y = e_1 \text{ ニ對シテ } \frac{dy}{dx} = 0 \text{ ナルユエ}$$

$$-W \cdot e_1^2 + C = 0, \therefore \text{ 積分常數 } C = W \cdot e_1^2.$$

$$EI \left( \frac{dy}{dx} \right)^2 = W(e_1^2 - y^2), \text{ 又ハ } \frac{dx}{dy} = \left( \frac{EI}{W} \right)^{\frac{1}{2}} (e_1^2 - y^2)^{-\frac{1}{2}}$$

之ヲ積分スレバ

$$x = \left( \frac{EI}{W} \right)^{\frac{1}{2}} \sin^{-1} \frac{y}{e_1} + C'.$$

$$x = 0 \text{ ニ對シテ } y = e \text{ ナルユエ}$$

$$0 = \left( \frac{EI}{W} \right)^{\frac{1}{2}} \sin^{-1} \frac{e}{e_1} + C',$$

$$\therefore \text{積分常數 } C' = -\left(\frac{EI}{W}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot \sin^{-1} \frac{e}{e_1}$$

$$w = \left(\frac{EI}{W}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot \sin^{-1} \frac{y}{e_1} - \left(\frac{EI}{W}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot \sin^{-1} \frac{e}{e_1}$$

$$\therefore \sin^{-1} \frac{y}{e_1} = \left(\frac{W}{EI}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot w + \sin^{-1} \frac{e}{e_1}$$

是レ彈曲線ノ方程式ナリ。此式ヨリ全偏心距  $e_1$  フ  
求ムルニハ  $y=e_1, w=l$  ト置クベシ。然ラバ

$$\sin^{-1} \frac{e_1}{e_1} = \left(\frac{W}{EI}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot l + \sin^{-1} \frac{e}{e_1}$$

即チ

$$e = e_1 \cdot \sin \left[ \frac{\pi}{2} - \left(\frac{W}{EI}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot l \right]$$

$$e_1 \cdot \cos \left(\frac{W}{EI}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot l = e, \quad e_1 = e \cdot \sec \left(\frac{W}{EI}\right)^{\frac{1}{2}} \cdot l$$

$\left(\frac{W \cdot l^2}{EI}\right)^{\frac{1}{2}}$  フ  $\theta$  (弧度法ニテ測リタル角)ニテ表ハセバ

$$\sec \theta = 1 + \frac{1}{2} \cdot \theta^2 + \frac{5}{24} \cdot \theta^4 + \frac{61}{720} \cdot \theta^6 + \frac{277}{8,064} \cdot \theta^8 + \dots$$

$$\therefore e_1 = e \cdot \sec \theta = e(1 + 0.5\theta^2 + 0.208\theta^4 + 0.0847\theta^6 + \dots) \dots (68_s)$$

兩圓端長柱ナレバ  $\theta$  即チ  $\left(\frac{W \cdot l^2}{EI}\right)^{\frac{1}{2}}$  中ノ  $l$  フ  $\frac{1}{2}l$  ニ、  
一固定端一圓端長柱ナレバ  $l$  フ  $\frac{1}{3}l$  ニ又兩固定端長  
柱ナレバ  $l$  フ  $\frac{1}{4}l$  トスベシ。

(68), (68\_s) 兩式ヨリ

$$S = \frac{W}{A} \left[ 1 + \frac{c \cdot e_1}{k^2} \right] = \frac{W}{A} \left[ 1 + \frac{c \cdot e}{k^2} \cdot \sec \theta \right]$$

$$= \frac{W}{A} + \frac{W}{A} \cdot \frac{c \cdot e}{k^2} (1 + 0.5\theta^2 + 0.208\theta^4 + \dots) \dots (68_e)$$

一固定端一放端.....  $\theta^2 = \frac{W \cdot l^2}{EI} = \frac{W \cdot l^2}{E A k^2} = \frac{W}{AE} \left(\frac{l}{k}\right)^2$

兩圓端.....  $\theta^2 = \frac{1}{4} \frac{W}{AE} \left(\frac{l}{k}\right)^2$

一固定端一圓端.....  $\theta^2 = \frac{1}{9} \frac{W}{AE} \left(\frac{l}{k}\right)^2$

兩固定端.....  $\theta^2 = \frac{1}{16} \frac{W}{AE} \left(\frac{l}{k}\right)^2$

單位應力  $S$  フ求ムルニ當リ  $\sec \theta$  フ展開シタル級  
數ハ  $\theta$  ガ  $\frac{\pi}{2}$  ヨリ小ナルニアラザレバ之ヲ用フル能  
ハズ。若シ  $\theta = \frac{\pi}{2}$  ナレバ單位應力  $\frac{W}{A}$  ハおいらあ氏  
公式ガ與フル  $\frac{W}{A}$  トナル。例ヘバ  $\theta^2 = \frac{W}{AE} \left(\frac{l}{k}\right)^2$  ニ於  
テ  $\theta^2$  フ  $\frac{\pi^2}{4}$  ト置ケバ

$$\frac{W}{A} = \frac{1}{4} \frac{\pi^2 \cdot E \cdot k^2}{l^2}$$

ヲ得。是レ一固定端一放端ノ場合ノおいらあ氏公  
式ナリ。

又  $\sec \theta$  ノ眞値ニ近キ値ハ次式ニヨリテ之ヲ求ム  
ルヲ得。

$$\sec\theta = \frac{12 + \theta^2}{12 - 5\theta^2}$$

例題 兩圓端鋼長柱ニ於テ  $l=192$  吋,  $e=1.01$  吋,  $c=4.45$  吋,  $k=3$  吋,  $E=30,000,000$  斤/平方吋,  $\frac{W}{A}=10,000$  斤/平方吋トス.

$$\theta^2 = \frac{1}{4} \frac{W}{AE} \left(\frac{l}{k}\right)^2 = \frac{1}{4} \times \frac{10,000}{30,000,000} \times \left(\frac{192}{3}\right)^2 = 0.3413$$

(68<sub>b</sub>)ヨリ

$$S = 10,000 + 10,000 \times \frac{4.45 \times 1.01}{9} (1 + 0.5 \times 0.3413 + 0.208 \times 0.3413^2 + \dots)$$

$$\approx 16,000 \text{ 斤/平方吋.}$$

是ニ由テ見レバ平均單位應力 10,000 斤/平方吋ガ偏心荷重ノ爲ニ増加スルコト約 6 割ナリ.

又ハ (68<sub>b</sub>) 式ニ  $\theta^2=0.3413$  及  $e=1.01$  ナ代入スレバ  $e_1 \approx 1.2$  吋ヲ得. 然ラバ (68) 式ヨリ

$$S = 10,000 \left[ 1 + \frac{4.45 \times 1.2}{9} \right] \approx 16,000 \text{ 斤/平方吋.}$$

若シ此長柱ノ長サガ二倍即チ 384 吋ナレバ

$$\theta^2 = \frac{1}{4} \times \frac{10,000}{30,000,000} \times \left(\frac{384}{3}\right)^2 = 1.3653,$$

即チ

$$\theta = \sqrt{1.3653} = 1.168, \quad \frac{180 \times \theta}{\pi} = 66.8945 = 66^\circ 54'$$

$$\sec\theta = 2.549$$

$$\therefore \text{全偏心距 } e_1 = 2.549 \cdot e = 2.574 \text{ 吋.}$$

$$S = 10,000 \left( 1 + \frac{c \cdot e_1}{k^2} \right) = 10,000 (1 + 1.273) = 22,700 \text{ 斤/平方吋.}$$

此ノ如ク長柱ノ長サノ増加ガ單位應力ニ及ボス影響大ナリ.

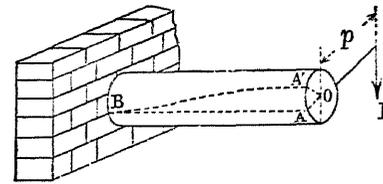
(68<sub>c</sub>) 式ニ於テ單位應力  $S$  ガ與ヘラレテ直接ニ  $\frac{W}{A}$  ヲ算出スルハ不便ニシテ順次試算ヲナサハルベカラズ. 即チ與ヘラレタル  $S$  ノ値ト同一ノ値ガ得ラ

ル、迄  $\frac{W}{A}$  ノ値ヲ種々ニ變ジテ (68<sub>c</sub>) 式ニ代入スルヲ要ス. 此場合ニ若シ長柱ノ長サ小ナレバ  $\sec\theta$  ヲ 1, 長柱ノ長サ大ナレバ  $\sec\theta$  ヲ  $1\frac{1}{2}$  又ハ 2 ト假定シテ最初ノ試算ヲナセバ多クノ場合ニ於テ便利ナリトス.

## 第八章 扭力 (Torsion)

48. 扭力ノ現象 一ツノ棒狀體ニ外力ヲ加ヘテ

第 77 圖



其軸ノ周リニ轉扭スル

トキ之ニ生ズル應力ヲ

應扭力 (Torsional Stresses)

ト謂フ. 矩形横斷面ヲ

有スル棒狀體ノ一端ヲ

固定シ他端ニ外力ヲ加ヘテ扭レバ棒狀體ノ隅線

(Corner Lines) ハ螺旋狀ヲ呈ス. 此場合ニ扭力ガ小ナ

レバ扭角 (Angle of Twist) ハ其力ノ大サニ正比例シ外

力ヲ除去スルトキ原形ニ復スベシ. 然レドモ材料

ノ彈性限度ヲ超過スルニ至レバ扭角ハ外力ノ増加

スル割合ヨリモ一層急ニ増加シ外力ヲ除去スルト

モ全ク原形ニ復セズシテ恒久變形ヲ呈ス. 此以上

ニ扭力ヲ増加スレバ變形ハ急激ニ増大シ遂ニ破壊

スベシ.

第77圖ノ如ク水平軸 (Horizontal Shaft) ノ一端ヲ固定シ其軸線 (Axis of Shaft) ニ直角ナル挺子 (Lever) ニ荷重  $P$  ヲ吊懸スレバ  $P \cdot p$  ナル扭力率 (Twisting Moment) ノ爲ニ軸ハ變形シ荷重ヲ加フル前ニ其面上ニ引キタル直線  $AB$  ハ螺線  $A'B'$  トナル。此場合ニ半徑  $OA$  ハ  $\angle AOA'$  丈移動シテ  $OA'$  ナル位置ヲ取リタリトセバ扭角  $\angle AOA'$  ハ明カニ軸ノ長サニ正比例スレドモ  $\angle ABA'$  ハ軸ノ長サニ無關係ナリ。

數個ノ扭力ガーツノ軸ニ作用スルトキ其扭力率ハ常ニ單一ノ合成扭力率ニテ表ハスヲ得。

正座標軸ノ横軸ニ沿ヒテ扭角ヲ取り、縦軸ニ沿ヒテ扭力率ヲ取レバ第一章第4節ニ於テ説明セシ應力ト變形トノ關係表圖ト同様ノ表圖ヲ得。而シテ此曲線ハ材料ノ彈性限度ニ達スル迄ハ直線ニシテ此限度ヲ超過セバ急ニ變化シ座標横軸ト殆ド並行スルニ至ル。

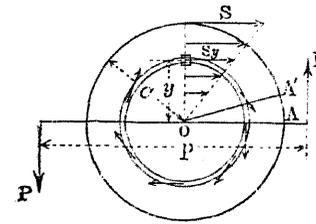
棒狀體ガ張力ヲ受クルトキ其全伸張ニヨリテ材料ノ延性ヲ比較スルヲ得ルト同様ニ棒狀體ガ扭力ヲ受クルトキ扭角ノ大小ニヨリテ材料ノ延性ヲ比較スルヲ得。

扭力ニヨリテ軸ニ誘起セラル、應力ハ應剪力ナリヲ以テ各断面ト之ニ相隣レル断面トノ間ニ剪斷

作用ガ起ラントスル傾向アリ。圓軸ニアリテハ断面中ノ一 點ニ於ケル應剪力ノ方向ハ断面ノ中心ト其點トヲ連結スル半徑ニ垂直ニシテ此等總テノ應剪力ノ力率和ハ扭力率ニ等シカラザルベカラズ。而シテ實驗ニ徴スルニ圓軸ニアリテハ單位應剪力ガ材料ノ彈性限度ヲ超過セザル限リハ半徑  $OA$  ガ  $OA'$  ナル位置ヲ取リタルトキ(第77圖)矢張直線ナレドモ正方形断面又ハ矩形断面軸ニアリテハ断面ノ中心ト隅トヲ結付クル線ハ變形後ハ直線ナラズ。

#### 49. 抵抗扭力率公式 (Torsion Formula) 圓キ棒狀體

第 78 圖



ガ扭力ヲ受クルトキ其断面ニ於ケル應力ガ彈性限度以内ナラバ桁ニ於ケルト同様ノ法則ガ成立ス。即チ第78圖ニ於テ偶力  $P \cdot p$  ノ爲ニ半徑  $OA$  ガ  $OA'$  ナル位置ヲ取ル

トキ之ガ矢張直線トシテ存スルナラバ纖維ノ變形ハ断面ノ中心  $O$  ヨリ其纖維迄ノ距離ニ正比例ス。從テ單位應剪力ハ断面ノ中心ヨリノ距離ニ正比例スベキナリ。而シテ靜力學平衡ノ條件ニヨリ此等應剪力ノ力率和ハ扭力率ニ等シカラザルベカラズ。

今圓形断面ノ半徑ヲ  $r$  トシ断面ノ周邊ニ生ズル

最大單位應剪力ヲ  $S$  トスレバ

$S \cdot \frac{y}{c}$  = 棒狀體ノ軸ヨリ  $y$  ナル距離ニ於ケル單位應剪力.

$\frac{S}{c} \cdot y \cdot dA$  = 細微面積  $dA$  = 作用スル全應剪力.

$\frac{S}{c} \cdot y^2 \cdot dA$  = 棒狀體ノ軸線ニ對スル應剪力  $\frac{S}{c} \cdot y \cdot dA$  ノ力率.

$\therefore \frac{S}{c} \int y^2 dA$  = 抵抗應剪力率.

$\int y^2 dA$  ハ斷面ノ極慣性能率ニシテ之ヲ  $J$  ニテ表ハセバ

$$\frac{S \cdot J}{c} = P \cdot p, \text{ 又ハ } S = \frac{P \cdot p \cdot c}{J} \dots \dots \dots (69)$$

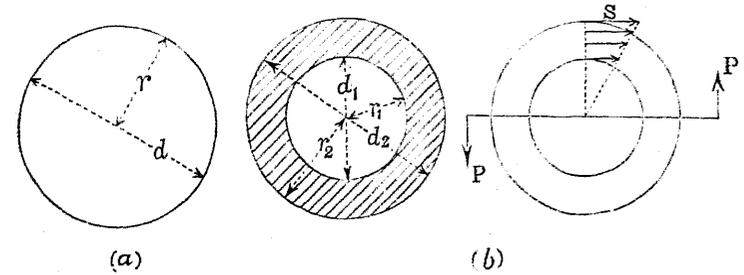
是レ單位應剪力ト扭力率トノ關係ヲ表ハス基本公式ニシテ之ヲ抵抗扭力率公式ト謂フ.

(69)式ト桁ノ抵抗力率公式  $M = \frac{S \cdot I}{c}$  トヲ比較スルニ後者ニ於ケル  $c$  ハ斷面ノ中立軸ヨリ縁維迄ノ距離ニシテ(69)式ノ  $c$  ハ圓キ棒狀體ノ半徑ナリ. 後者ノ  $S$  ハ單位應張力又ハ單位應壓力ニシテ斷面ニ垂直ニ働キ, (69)式ノ  $S$  ハ單位應剪力ニシテ斷面ニ沿ヒテ働キ且ツ半徑ニ垂直ナリ. 又後者ノ  $M$  ハ外力ノ彎曲率ニシテ(69)式ノ  $P \cdot p$  ハ外力ノ扭力率ナリ.

圓軸ノ大サト作用抗剪強度トガ與ヘラル、トキ

ハ(69)式ニヨリテ軸ガ安全ニ耐ヘ得ル扭力率ヲ求ムルヲ得. 又與ヘラレタル作用抗剪強度ト扭力率トニ對シテ軸ノ大サヲ定ムルヲ得.

第79圖



圓軸ノ場合(第79圖(a))

$$J = \frac{\pi d^4}{32} = \frac{\pi r^4}{2}, \quad P \cdot p = \frac{S \cdot \pi r^4}{2 \cdot r} = \frac{S \cdot \pi r^3}{2} = \frac{S \cdot \pi d^3}{16},$$

$$S = \frac{16P \cdot p}{\pi d^3} \dots \dots \dots (69_a)$$

中空圓軸ノ場合(第79圖(b))

$$J = \frac{\pi(r_2^4 - r_1^4)}{2}, \quad P \cdot p = \frac{S \cdot \pi(r_2^4 - r_1^4)}{2r_2} = \frac{S \cdot \pi(d_2^4 - d_1^4)}{16d_2},$$

$$S = \frac{16P \cdot p \cdot d_2}{\pi(d_2^4 - d_1^4)} \dots \dots \dots (69_b)$$

(69)式ハ圓軸ノ破壊スル場合ニハ正シク適用セラレザルユエ此場合ニ(69)ガ與フル  $S$  ノ値ハ材料ノ破壊抗剪強度ト一致セザルコト明カナリ.

凡テ金屬ノ剪斷力ニ對スル彈性限度ハ壓力又ハ

張力 = 對スル彈性限度ヨリモ小ニシテ一般 = (69)式ガ與フル破壊單位應剪力ノ約三分ノ一ナリトス。

例題 圓軸ノ軸線ヨリ 27 吋隔テ、90 呎ノ力ヲ加ヘテ此軸ヲ扭ルトキ之ニ誘起セラレシ最大單位應剪力ハ 2,000 呎/平方吋ナリシト云フ。今軸線ヨリ 21 吋及 36 吋ノ距離ニ於テ 40 呎ナルニ力ヲ加フルトキ軸ニ誘起セラル、單位應剪力ハ幾何ナリカ。

$$\frac{J}{c} = \frac{P \cdot p}{S} = \frac{90 \times 27}{2,000} = 1.215 \text{ 吋}^3,$$

$$1.215 = \frac{40(21+36)}{S} = \frac{2,230}{S}$$

$$\therefore S = \frac{2,230}{1.215} = 1,830 \text{ 呎/平方吋}$$

50. 軸ニ依テ傳達サル、動力 (Power transmitted by Shaft) 發動機ヨリ動力ヲ他ニ傳フル一ツノ方法ハ調革 (Belt)ヲ經テ動力ヲ軸ニ傳ヘ夫ニ依テ働ヲナスベキ場所迄動力ヲ傳達スルニアリ。渦輪水車 (Turbine Wheel) ノ軸ノ如キハ水ニテ生ジタル動力ヲ直接ニ發電機或ハ他ノ機械ニ傳フ。又汽船ニ於テハ軸ハ機關ノ動力ヲ直接ニ螺旋推進機 (Screw Propeller) ニ傳フ。

今軸ニ依テ H 馬力ノ傳送ヲナストキ之ニ作用スル扭力率ヲ見出サントス。軸ニ取付ケタル滑車ノ半徑ヲ p 吋、調革ニ依テ滑車ノ周邊ニ加ヘラル、接カ (Tangential Force) ヲ P 呎、軸並ニ滑車ノ一分間ノ回轉數ヲ n トスレバ一回轉ニ對シテ P ナル力ハ  $2\pi \cdot p$

ナル長サノ間抵抗ニ打勝ツユエ軸ヲ經テ傳達サル、働ハ  $P \times 2\pi \cdot p$  ニシテ n 回轉ニテ傳達サル、働ハ  $2\pi \cdot n \cdot P \cdot p$  吋呎毎分ナリ。而シテ一馬力ハ  $33,000 \times 12 = 396,000$  吋呎毎分ナルニヨリ

$$2\pi \cdot n \cdot P \cdot p = 396,000 H,$$

$$\text{即チ } P \cdot p = \frac{396,000 H}{2\pi \cdot n} = \frac{63,030 H}{n} \dots\dots\dots (70)$$

斯ク扭力率  $P \cdot p$  ハ傳送馬力ニ正比例シ回轉速度ニ反比例ス。

(69<sub>a</sub>) 式 = (70) 式ノ  $P \cdot p$  ノ値ヲ代入スレバ

$$S = \frac{321,000 H}{n d^3}, \text{ 又ハ } d = 68.5 \left( \frac{H}{n \cdot S} \right)^{\frac{1}{3}} \dots\dots\dots (71)$$

此ニ於テ d ノ單位ハ吋、S ノ單位ハ呎毎平方吋ナリ。此式ヨリ見レバ圓軸ノ周邊ニ於ケル單位應剪力ハ傳送動力ニ正比例シ軸ノ回轉速度及直徑ノ三乗ニ反比例ス。

中空圓軸ノ内徑ヲ  $d_1$ 、外徑ヲ  $d_2$  トスレバ (69) 及 (70) 二式ヨリ

$$\frac{\pi(d_2^4 - d_1^4)S}{16d_2} = \frac{63,030 H}{n},$$

$$\therefore \frac{S(d_2^4 - d_1^4)}{d_2} = \frac{321,000 H}{n} \dots\dots\dots (71_a)$$

中空軸ノ斷面積ハ扭力率ニ抵抗スルニ最モ有効ナ

ル部分ニ集中セルヲ以テ圓軸ヨリモ中空軸ヲ用フ  
ルヲ經濟的トス。

圓軸ト中空軸トノ斷面積ガ等シケレバ  $d^2$  ハ  
 $(d_2^2 - d_1^2) =$  等シ。然レバ (71) 及 (71<sub>a</sub>) 二式ヨリ

$$\frac{\text{中空軸ノ強サ}}{\text{同一斷面積ヲ有スル圓軸ノ強サ}} = \frac{d_2^4 - d_1^4}{d^3}$$

$$= \frac{(d_2^2 + d_1^2)d^2}{d^3} = \frac{d_2^2 + d_1^2}{d_2 \cdot d}$$

例ヘバ  $d=12$  吋,  $d_2=20$  吋トスレバ

$$d^2 = d_2^2 - d_1^2, \quad d_1 = \sqrt{20^2 - 12^2} = 16 \text{ 吋}$$

從テ兩軸強サノ比ハ  $\frac{656}{240} = 2.73$  即チ中空軸ノ強サハ  
同一斷面積ヲ有スル圓軸ノ強サノ 2.73 倍ナリ。

作用抗剪強度

鑄鐵.....	4,500 听/平方吋
鍊鐵.....	9,000    ,,
鋼.....	13,500   ,,

例題 1. 茲ニ直徑 3 吋ノ鑄鐵軸アリ。之ガ一分間 10 回轉ニテ  
傳送スル馬力ヲ求ム。但最大單位應剪力ハ 4,500 听每平方吋ナ  
リトス。

(71) 式ヨリ

$$\frac{S \cdot n \cdot d^3}{321,000} = H, \quad \text{即チ} \quad \frac{4,500 \times 10 \times 3^3}{321,000} = H.$$

$$\therefore H = 3.8$$

例題 2. 一分間 80 回轉ニテ 500 馬力ヲ傳フベキ鍊鐵圓軸ノ直  
徑ヲ求ム。但單位應剪力ハ 9,000 听每平方吋ヲ超過セザルモノ  
トス。

(71) 式ヨリ

$$d^3 = \frac{321,000 \times 500}{80 \times 9,000}, \quad d = 6 \text{ 吋}$$

51. 軸ノ扭 (Twist of Shaft) 扭力率ノ爲ニ圓軸ノ一  
端ニ於テ半徑ガ移動スル角即チ扭角ハ單位應剪力  
ガ彈性限度以內ナレバ (69) 式ニヨリテ之ヲ知ルヲ得。

今 J ヲ斷面ノ極慣性能率, c ヲ軸線ヨリ縁維迄ノ  
距離, S ヲ軸線ヨリ c ナル距離ニ於ケル單位應剪力,  
G ヲ材料ノ歪係數, l ヲ軸ノ長サ及  $\phi$  ヲ軸ノ一端ガ  
他端ニ對シテ扭ラル、角ヲ弧度ニテ表ハセルモノ  
(第 77 圖,  $\angle AOA'$ ) トスレバ

弧  $AA' = c \cdot \phi$  (第 77 圖),  $\frac{c \cdot \phi}{l} =$  單位變形,

$$G = \frac{S}{\frac{c \cdot \phi}{l}} = \frac{S \cdot l}{c \cdot \phi}$$

$$\therefore G = \frac{\frac{P \cdot p \cdot c}{J} \cdot l}{c \cdot \phi} = \frac{P \cdot p \cdot l}{J \cdot \phi} \quad \dots \dots \dots (72)$$

又ハ  $\phi = \frac{P \cdot p \cdot l}{G \cdot J}$

$\phi$  ヲ度數ニテ表ハセバ

$$\frac{\pi \phi^\circ}{180} = \frac{P \cdot p \cdot l}{G \cdot J}, \quad \phi^\circ = 57.3 \frac{P \cdot p \cdot l}{G \cdot J}$$

又ハ  $G = 57.3 \frac{P \cdot n \cdot l}{J \cdot \phi^2}$

次ニ軸ガ一分間ニn回轉ヲナシテ傳送スル馬力ヲHトスレバ(70), (72) 二式ヨリ

$$\frac{\pi \phi^2}{180} = \frac{63,030 \frac{H \cdot l}{n}}{G \cdot J} \quad \phi^2 = \frac{3,610,000 H \cdot l}{n \cdot G \cdot J} \dots\dots (72_2)$$

此ニ於テ l ハ吋ニテ, J ハ吋<sup>4</sup>ニテ, G ハ呟毎平方吋ニテ表ハスモノトス。

例題 1. 長サ 125 呎, 外徑 17 吋, 内徑 11 吋ノ鋼軸ガ一分間 50 回轉ニテ 16,000 馬力ヲ傳フルトキ其扭角ヲ求ム。

(72<sub>2</sub>) 式ニ於テ H=16,000, l=1,500 吋, n=50, J=6,765 吋<sup>4</sup>,

G=12,000,000 呟/平方吋ナルユエ

$$\phi^2 = \frac{3,610,000 \times 16,000 \times 1,500}{50 \times 12,000,000 \times 6,765} = 21.4 \text{ 度}$$

又軸ノ表面ニ於テ軸線ニ並行ニ引キタル直線ガ扭ラル、角ハ(第 77 圖, ∠ABA')

$$\frac{c \cdot \phi^2}{l} = \frac{\frac{17}{2} \times 21.4}{1,500} = 0.12 \text{ 度}$$

例題 2. 茲ニ長サ 5 呎, 直徑 2 吋ノ鍊鐵軸アリ。軸線ヨリ 6 吋ノ距離ニ於テ 5,000 呟ノ外力ヲ加フルトキ扭角ハ 7 度ニシテ外力ヲ除去スルトキ原形ニ復セリト云フ。歪係數如何。

$$G = 57.3 \frac{P \cdot n \cdot l}{J \cdot \phi^2} = \frac{57.3 \times (5,000 \times 6) \times (5 \times 12)}{\frac{22 \times 2^4}{7 \times 32} \times 7}$$

= 9,380,000 呟/平方吋。

52. 軸ノ強サ及剛性 軸ノ強サハ之ガ耐ヘ得ル扭力率ノ大小ニ依テ計ルモノナレバ諸軸ノ強サハ

$\frac{S \cdot J}{c}$  ノ値ニ正比例ス。例ヘバ二ツノ軸ノ材質ガ同ジクシテ一ツノ軸ノ直徑ガ他ノ軸ノ直徑ノ二倍ナレバ前者ノ断面係數  $\frac{J}{c}$  ハ後者ノ  $\frac{J}{c}$  ノ八倍ナルユエ兩軸強サノ比ハ 8:1 ナリ。

今斷面積ノ等シキ中空圓軸ト圓軸トノ強サヲ比較セントス。中空圓軸ノ外徑ヲ  $d_2$ , 内徑ヲ  $d_1$ , 圓軸ノ直徑ヲ  $d$  トスレバ斷面積 A ガ等シキ爲ニハ  $d^2 = d_2^2 - d_1^2$  ナリ。而シテ中空圓軸ニアリテハ

$$\frac{J}{c} = \frac{\pi(d_2^4 - d_1^4)}{16d_2} = \frac{\frac{1}{4}A(d_2^2 + d_1^2)}{d_2}$$

圓軸ニアリテハ

$$\frac{J}{c} = \frac{\pi d^4}{16d} = \frac{1}{4}A \cdot d = \frac{1}{4}A(d_2^2 - d_1^2)^{\frac{1}{2}}$$

$$\therefore \frac{\text{中空圓軸ノ強サ}}{\text{圓軸ノ強サ}} = \frac{d_2^2 + d_1^2}{d_2(d_2^2 - d_1^2)^{\frac{1}{2}}} = \frac{m^2 + 1}{m(m^2 - 1)^{\frac{1}{2}}}$$

但 m ハ  $\frac{d_2}{d_1}$  ヲ表ハスモノトス。若シ  $d_2 = 2d_1$  ナレバ兩軸強サノ比ハ 1.44 即チ中空圓軸ハ圓軸ヨリ強キコト四割四分ナリ。

軸ノ剛性ハ扭角ガ一定ノ値ヨリ超過スルコトナクシテ之ガ耐ヘ得ル扭力率ノ大小ニ依テ計ル。而シテ扭力率ハ J ノ値ニ正比例スルヲ以テ軸ノ剛性ハ其極慣性能率ニ正比例ス。上記ノ條件ノ下ニ中

中空圓軸ト圓軸トノ剛性ヲ比較スルニ

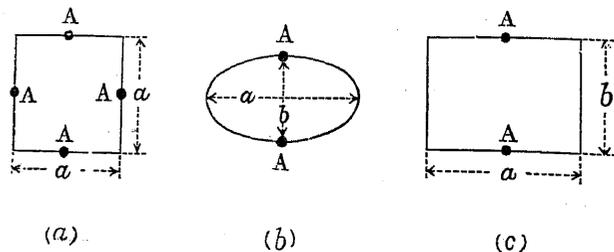
$$\frac{\text{中空圓軸ノ剛性}}{\text{圓軸ノ剛性}} = \frac{\frac{\pi}{32}(d_2^4 - d_1^4)}{\frac{\pi}{32}d^4} = \frac{\frac{1}{8}A(d_2^2 + d_1^2)}{\frac{1}{8}Ad^2}$$

$$= \frac{d_2^2 + d_1^2}{d_2^2 - d_1^2} = \frac{m^2 + 1}{m^2 - 1}$$

若シ  $m=2$  ナレバ兩軸剛性ノ比ハ 1.67 即チ中空圓軸ノ剛性ハ圓軸ノ剛性ヨリ大ナルコト六割七分ナリ。

53. 断面圓形ナラザル軸 此種ノ軸ガ扭力ヲ受ケルトキノ一般現象ハ圓軸ニ於ケルト同様ナレドモ断面ノ應剪力配布ハ之ト異ナルヲ以テ前節ニ與ヘシ諸公式ヲ適用スル能ハズ。實驗ニヨルニ二ツノ對稱軸ヲ有スル断面ニアリテハ短キ方ノ軸ノ兩端ニ於テ纖維ノ扭歪(Distorsion)ハ最大ニシテ此等ノ點ニ於テ單位應力ハ最大ナリ。又矩形断面軸ノ隅線ニ沿ヒテハ應剪力ハ零ナリ。本書ニ於テハ此等ノ場合ノ論議ヲ省キ只其結果ノミ記スコト、セリ。

第 80 圖



(i) 正方形断面ノ軸.  $P.p = 0.20Sa^2.S$

第 80 圖 (a) = 示セル邊ノ中央點ニ於テ單位應力  $S$  ハ最大ナリ。

(ii) 楕圓断面ノ軸.  $P.p = \frac{\pi}{16}ab^2.S$

第 80 圖 (b) = 示セル短軸ノ兩端  $A$  = 於テ  $S$  ノ値ハ最大ナリ。

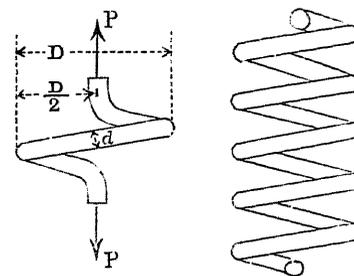
(iii) 矩形断面ノ軸.  $P.p = \left(\frac{a^2b^2}{3a+1.8b}\right)S$

第 80 圖 (c) = 示セル長邊ノ中央點  $A$  = 於テ  $S$  ノ値ハ最大ナリ。めりまん氏 (Merriman) 公式

$$P.p = \frac{2}{9}ab^2.S$$

54. 蔓卷彈機 (Helical Spring) 之ハ線軸ガ螺旋狀ヲナス様ニ線ヲ圓嚙ニ捲キテ得タルモノナリ。第 81 圖

第 81 圖



圖ニ於テ  $P$  ナル張力又ハ壓力ノ働線ハ總テノ卷環ノ中心ヲ通ルモノトシ線ノ直徑ヲ  $d$ 、卷環ノ直徑ヲ  $D$  トス。今一個ノ卷環ヲ考フルニ彈機ノ卷環ガ密ニシテ且

$D$  ガ  $d$  = 比シテ大ナルトキハ卷環ノ面ハ外力  $P$  ノ働線ニ殆ド垂直ナルベシ。此場合ニ線ヲ扭ラント

スル扭力率ハ  $P \cdot \frac{D}{2}$  ニシテ録ノ断面係數ハ  $\frac{\pi d^3}{16}$  ナルニヨリ

$$\frac{P \cdot D}{2} = \frac{\pi d^3}{16} \cdot S, \therefore P = \frac{\pi d^3}{8D} \cdot S$$

是レ外力 P ト彈機ノ大サトノ關係ヲ表ハセル式ナリ。

一個ノ卷環ノ長サハ約  $\pi D$  ニシテ此卷環ノ録ガ小ナル角  $\phi$  丈扭ラル、トキ扭力率ガ O ヨリ  $\frac{P \cdot D}{2}$  迄均等ニ増スナラバ一個ノ卷環ヲ扭ルニ爲セル働ハ  $\frac{1}{2} \cdot \frac{P \cdot D}{2} \cdot \phi$  即チ  $\frac{P \cdot D}{4} \cdot \phi$  ナリ。但  $\phi$  ハ弧度ニテ表ハセル角ナリトス。又卷環一個ノ撓度ヲ  $\delta$  トセバ外力ガ O ヨリ P 迄均等ニ増加スルトキ  $\delta$  ナル撓度ヲ生ズルニ爲セル働ハ  $\frac{1}{2} P \delta$  ナリ。而シテ此等ノ働ハ同量ナルベキニヨリ

$$\frac{P \cdot D}{4} \cdot \phi = \frac{P}{2} \cdot \delta, \text{ 即チ } \phi = \frac{2\delta}{D}$$

(72) 式ヨリ

$$\phi = \frac{P \cdot p \cdot l}{G \cdot J} = \frac{\frac{P \cdot D}{2} \cdot \pi D}{G \cdot \frac{\pi d^4}{32}} = \frac{16PD^2}{Gd^4}$$

$$\therefore \frac{2\delta}{D} = \frac{16PD^2}{Gd^4}, \text{ 即チ } \delta = \frac{8PD^3}{Gd^4}$$

是レ外力 P ト一個ノ卷環ノ撓度トノ關係ヲ表ハセル式ナリ。

$$\text{又 } \phi = \frac{Sl}{c \cdot G} = \frac{2\delta}{D}, \quad \frac{S \cdot \pi D}{G \cdot \frac{d}{2}} = \frac{2\delta}{D}$$

$$\therefore \delta = \frac{S \cdot \pi D^2}{Gd}$$

此式ハ單位應力ト一ツノ卷環ノ撓度トノ關係ヲ表ハス。

扭力ヲ受クル棒狀體ノ強サガ其長サニ無關係ナルト同様ニ彈機ノ強サハ卷環ノ數ニ無關係ナリ。依テ卷環ノ數ヲ  $n$  トスレバ全撓度  $\Delta$  ハ一個ノ卷環ノ撓度ノ  $n$  倍ナルベキニヨリ

$$\Delta = \frac{8PD^3 \cdot n}{Gd^4}, \text{ 又ハ } \Delta = \frac{S \pi D^2 \cdot n}{Gd} \dots \dots \dots (73)$$

55. 彎曲率ト扭力率トノ合成 水平圓軸ニテ動力ノ傳送ヲナストキ軸ノ自己重量又ハ之ニ取付クル滑車等ノ重量ハ軸ニ彎曲率ヲ生ズ。今  $S_b$  ヲ抵抗力率公式ヨリ求メタル最大單位應力即チ  $S_b = \frac{32M}{\pi d^3}$ ,  $S_t$  ヲ抵抗扭力率公式ヨリ得タル單位應剪力即チ  $S_t = \frac{16P \cdot p}{\pi d^3}$  トスレバ第六章第 39 節 (59) 式ニヨリ

$$\left. \begin{aligned} \text{最大 } S_n &= \frac{1}{2} S_b + \sqrt{S_t^2 + (\frac{1}{2} S_b)^2} \\ \text{最大 } S_t &= \sqrt{S_t^2 + (\frac{1}{2} S_b)^2} \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (74)$$

此ニ於テ  $S_n$  ハ最大單位應壓力又ハ單位應張力ニシテ  $S_t$  ハ最大單位應剪力ナリ。彎曲率ト扭力トノ作用ヲ受クル軸ノ最大單位應力ハ抵抗力率公式又ハ抵抗扭力率公式ガ與フル値ヨリ餘程大ナルニヨリ

軸ノ直徑ヲ定ムルニ當テハ  $S_n$  ヲ作用抗張強度又ハ作用抗壓強度ニ、 $S_s$  ヲ作用抗剪強度ニ等シク取ルベシ。

(74)式ニ  $S_b$  及  $S_s$  ノ値ヲ代入スレバ

$$\left. \begin{aligned} S_n &= \frac{16}{\pi d^3} \left[ M + \sqrt{M^2 + (P.p)^2} \right], \\ S_n &= \frac{32}{\pi d^3} \left[ \frac{1}{2} (M + \sqrt{M^2 + (P.p)^2}) \right] \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (74_a)$$

此式中ノ  $\frac{1}{2}(M + \sqrt{M^2 + (P.p)^2})$  ヲ  $M_e$  ト置ケバ

$$S_n = \frac{32M_e}{\pi d^3}.$$

然ラバ  $M_e$  ハ扭力ヲ加フルコトナクシテ  $S_n$  ニ等シキ彎曲應力ヲ生ズベキ彎曲率ニ等値ナルガユエニ之ヲ等値彎曲率 (Equivalent Bending Moment) ト謂フ。

又 (74<sub>a</sub>) 式中ノ  $(M + \sqrt{M^2 + (P.p)^2})$  ヲ  $(P.p)_e$  ト置ケバ

$$S_n = \frac{16(P.p)_e}{\pi d^3}.$$

此  $(P.p)_e$  ハ彎曲率ヲ生ズル如キ外力ヲ加フルコトナクシテ  $S_n$  ニ等シキ應剪力ヲ生ズベキ扭力率ニ等値ナルガユエニ之ヲ等値扭力率 (Equivalent Twisting Moment) ト謂フ。

若シ中空圓軸ナレバ

$$S_n = \frac{16d_2}{\pi(d_2^4 - d_1^4)} \left[ M + \sqrt{M^2 + (P.p)^2} \right] \dots\dots\dots (74_b)$$

例題 茲ニ直徑3吋ノ水平鋼軸アリテ軸承間ノ距離12呎、滑車及調車ニ依テ軸ノ中央點ニ加ヘラル、荷重800斤ナリ。之ガ一分間120回轉ニテ40馬力ヲ傳送スルトキ軸ニ誘起セラル、最大單位應力ヲ求ム。

軸ガ軸承ニテ固定セラル、モノトセバ

$$S_b = \frac{M.c}{I} = \frac{\frac{1}{8}Wl \times \frac{d}{2}}{\frac{\pi d^4}{64}} = \frac{4Wl}{\pi d^3} = \frac{4 \times 800 \times 12 \times 12}{\pi \times 3^3}$$

= 5,400 斤/平方吋。

$$S_s = \frac{321,000E\theta}{\pi d^3} = \frac{321,000 \times 40}{120 \times 3^3} = 4,000 \text{ 斤/平方吋。}$$

軸ノ中央斷面ニ於ケル最大應張力又ハ應壓力ハ

$$S_n = \frac{5,400}{2} + \sqrt{\left(4,000\right)^2 + \left(\frac{5,400}{2}\right)^2} = 7,000 \text{ 斤/平方吋。}$$

如斯ニ  $S_n$  ガ  $S_b$  ヨリ大ナルコト四割一分ナリ。

次ニ最大應剪力ハ

$$S_s = \sqrt{(4,000)^2 + (2,700)^2} = 4,900 \text{ 斤/平方吋。}$$

依テ  $S_s$  ハ  $S_b$  ヨリ大ナルコト二割二分ナリ。

若シ軸ガ彎曲率及扭力率ノ外ニ軸線ニ沿ヒテ壓力又ハ張力ヲ受クルトキハ上記  $S_n$  ヲ求ムルニ先立テ彎曲率ヨリ生ズル單位應力  $S_b$  ト軸線ニ沿ヒテ働ク外力ヨリ生ズル單位應力トノ代數和ヲ求メ其値ヲ (74) 式中ノ  $S_b$  ノ値トナスベシ。

### 第 九 章 彈 復 働 及 働

#### (Resilience and Work)

##### 56. 外働ト内勢 (External Work and Internal Energy)

棒状體ガ漸加荷重  $P$  フ受ケテ其長サガ  $\Delta l$  丈變ジタリトセバ此變形ニ依テ爲セル働ハ平均外力  $\frac{1}{2}P$  ト  $\Delta l$  トノ相乗積  $\frac{1}{2}P \cdot \Delta l$  ナリ(第一章第9節參照)同様ニ桁ガ漸加荷重  $W$  フ受ケテ  $\Delta$  丈撓ムトキ  $W$  ノ爲セル働ハ  $\frac{1}{2}W \cdot \Delta$  ナリ。斯ク外力ノ爲セル働ヲ外働ト謂フ。

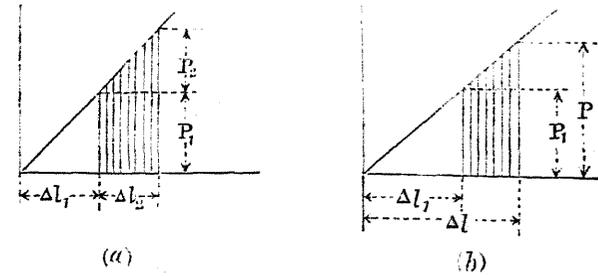
物體ガ外力ヲ受クルトキ其彈性ヲ害セラル、コトナク且其働ガ熱ヲ生ズルニ費サル、コトナケレバ外働ト等量ノ勢ガ物體內ニ貯ヘラルベシ。之ヲ内勢ト謂フ。而シテ此勢ハ外働ト等量ノ働ヲナシ得ルガユエニ之ヲ内能勢 (Internal Potential Energy) トモ謂フ。依テ材料ノ彈性限度以內ナラバ

$$\text{棒状體} = \text{貯ヘラル、内勢} = \frac{1}{2}P \cdot \Delta l,$$

$$\text{桁} = \text{貯ヘラル、内勢} = \frac{1}{2}W \cdot \Delta.$$

第(82)圖(a)ノ如ク  $P_1$  ノ爲ニ  $\Delta l_1$  丈變形セル棒状體ガ更ニ  $P_2$  ノ爲ニ  $\Delta l_2$  丈變形シタリトセバ棒状體ニ貯ヘラルタル全内勢ハ

第 82 圖



$$\frac{1}{2}(P_1 + P_2)(\Delta l_1 + \Delta l_2)$$

ナリ。次ニ  $P_2$  フ除去スル際貯ヘラルタル内勢ニテ爲シ得ベキ働ハ

$$\frac{1}{2}P_2 \cdot \Delta l_2 + P_1 \cdot \Delta l_1 = \frac{1}{2}(2P_1 + P_2) \Delta l_1$$

ニシテ第82圖(a)ノ陰ヲ附シタル部分ノ面積ハ此働ヲ表ハス。

第82圖(b)ノ如ク外力ガ  $P_1$  ヨリ  $P$  迄増加スルトキ  $P_1$  ニ對スル變形ヲ  $\Delta l_1$ 、 $P$  ニ對スル變形ヲ  $\Delta l$  トスレバ此場合ニ棒状體ニ貯ヘラル、内勢ノ増加ハ次ノ如シ。

$$\frac{1}{2}P \cdot \Delta l - \frac{1}{2}P_1 \cdot \Delta l_1.$$

同様ニ桁ノ受クル荷重ガ  $W_1$  ヨリ  $W$  迄増加シ之ニ對シテ撓度ハ  $\Delta_1$  ヨリ  $\Delta$  迄増加シタリトセバ荷重ノ増加ニ依テ桁ニ貯ヘラル、内勢ノ増加ハ次ノ如シ。

$$\frac{1}{2}W\Delta - \frac{1}{2}W_1\Delta_1$$

單位ノ長サ及單位ノ斷面積ヲ有スル棒狀體ヲ考  
フレバ上記ノ P ハ單位應力 S ニシテ變形 Δl ハ單位  
變形 ε ナリ。然ラバ單位容積ノ棒狀體ノ單位應力  
ヲ零ヨリ S 迄高ムルトキノ内勢ハ  $\frac{1}{2}S\epsilon$  ナリ。又單  
位容積ノ棒狀體ノ單位應力ヲ S<sub>1</sub>ヨリ S 迄高ムルト  
キノ内勢ハ  $(\frac{1}{2}S\epsilon - \frac{1}{2}S_1\epsilon_1)$  ナリ。

單位應力ガ材料ノ彈性限度ヲ超過スレバ上記ノ  
式ヲ適用スル能ハズ。而シテ破壊ニ要スル外働ハ  
棒狀體ノ單位應力ヲ彈性限度迄高メルニ要スル外  
働ニ比較シテ甚大ナリ。鍊鐵及鋼ニ於テ殊ニ然リ  
トス。第一章第 9 節第 9 圖ニ示セル曲線ト座標橫  
軸トノ間ノ面積ハ此ノ如キ外働ヲ測ルベキ準度ニ  
シテ鍊鐵及鋼ニアリテハ彈性限度以內ノ部分ノ表  
圖面積ハ之ヲ加算セズトモ可ナル程ニ小ナリ。

57. 棒狀體ノ彈復働 前節ニ述ベタル外働  $\frac{1}{2}P\Delta l$   
ハ内勢トシテ棒狀體ニ貯ヘラレ、外力ヲ除去スルト  
キ之ヲシテ原狀ニ復セシムル働ヲナスモノニシテ  
是レ所謂彈復働ナリ。今棒狀體ノ斷面積ヲ A, 平均  
單位應力ヲ S トスレバ P=AS, 又棒狀體ノ長サヲ l,  
彈性係數ヲ E トスレバ長サノ變化ハ  $\Delta l = (\frac{S}{E})l$  ナリ。

然ラバ棒狀體ノ彈復働 K ハ次ノ如シ。

$$K = \frac{1}{2}P\Delta l = \frac{1}{2}\left(\frac{S^2}{E}\right)Al \dots \dots \dots (75)$$

S ガ彈性限度 S<sub>e</sub> ナルトキハ  $\frac{1}{2}\left(\frac{S_e^2}{E}\right)$  ヲ材料ノ彈復働  
係數 (Modulus of Resilience) ト謂フ。

材料	彈復働係數 $\frac{1}{2}\frac{S_e^2}{E}$
鑄鐵	$\frac{1}{2} \cdot \frac{6,000^2}{12,000,000} = 1.5$ 吋听 立方吋
鍊鐵	$\frac{1}{2} \cdot \frac{25,000^2}{28,000,000} = 11.2$ " "
建築用鋼	$\frac{1}{2} \cdot \frac{30,000^2}{29,000,000} = 15.5$ " "
木材	$\frac{1}{2} \cdot \frac{3,000^2}{1,200,000} = 3.8$ " "

棒狀體ノ全彈復働ヲ求ムルニハ彈復働係數ニ棒  
狀體ノ容積ヲ乗ズレバ可ナリ。例ヘバ斷面積 6 平  
方吋、長サ 25 呎ナル建築用鋼棒狀體ノ彈復働ハ 27,900  
吋听又ハ 2,330 呎听ナルガ如シ。

彈復働ハ物體ノ内勢ノ大小ヲ度ル準度ニシテ彈  
復働係數ガ大ナル程内勢ヲ貯ヘ得ル能力大ナリ。

外力ガ P<sub>1</sub> ヨリ P 迄増加スルトキ之ニ對シテ單  
位應力ハ S<sub>1</sub> ヨリ S 迄増加スルモノトスレバ外力ガ  
P ヨリ P<sub>1</sub> ニ減ゼラル、トキ棒狀體ノ彈復働ハ (75)

式ヨリ

$$K = \frac{1}{2} \left( \frac{S^2}{E} \right) \cdot Al - \frac{1}{2} \left( \frac{S_1^2}{E} \right) \cdot Al = \frac{1}{2} \cdot \frac{S^2 - S_1^2}{E} \cdot Al.$$

此式ノ單位應力 S ハ材料ノ彈性限度以下ナルヲ要ス。

58. 桁ノ彈復働 突桁ガ放端ニ於テ又ハ單桁ガ中央點ニ於テ一ツノ集中荷重 W ヲ受ケテ Δ ナル撓度ヲ生ジタリトセバ外働ハ  $\frac{1}{2} W \cdot \Delta$  ナリ。但 W ハ漸加荷重ナリトス。然ラバ桁ノ彈復働ハ

$$K = \frac{1}{2} W \cdot \Delta$$

而シテ第四章第 29 節ニ於テ與ヘシ如ク

$$W = \frac{\alpha \cdot S \cdot I}{c \cdot l} = \frac{\alpha \cdot S \cdot A \cdot k^2}{c \cdot l}, \quad \Delta = \frac{\alpha \cdot S \cdot l^3}{\beta \cdot c \cdot E}$$

$$\alpha. \quad \beta. \quad \frac{\alpha^2}{\beta}$$

突桁ガ放端ニ於テ一ツノ集中荷重ヲ受クル場合 } ..... 1    3     $\frac{1}{3}$

單桁ガ中央點ニ於テ一ツノ集中荷重ヲ受クル場合 } ..... 4    48     $\frac{1}{3}$

$$K = \frac{1}{2} W \cdot \Delta = \left( \frac{\alpha^2}{\beta} \right) \left( \frac{k^2}{c} \right)^2 \frac{1}{2} \left( \frac{S^2}{E} \right) \cdot Al \dots \dots \dots (76)$$

斷面ガ矩形ナレバ  $\left( \frac{k^2}{c} \right)^2 = \frac{1}{3}$  ナルユエ

$$K = \frac{1}{9} \cdot \frac{1}{2} \left( \frac{S^2}{E} \right) \cdot Al$$

即チ矩形斷面桁ノ彈復働ハ軸力ヲ受クル棒狀體ノ彈復働ノ九分ノ一ナリ。

又斷面ガ圓形ナレバ  $\left( \frac{k^2}{c} \right)^2 = \frac{1}{4}$  ナルユエ

$$K = \frac{1}{12} \cdot \frac{1}{2} \left( \frac{S^2}{E} \right) \cdot Al$$

斯ク圓形斷面桁ノ彈復働ハ軸力ヲ受クル棒狀體ノ彈復働ノ十二分ノ一ナリ。

桁ガ單位延長ニ付 w ナル等布荷重ヲ受クル場合ヲ考フルニ dx ナル細微長サノ荷重ハ w \cdot dx ナリ。而シテ x ヲ横距トセル點ノ撓度ヲ y トスレバ漸加荷重 w \cdot dx ガ細微ノ長サ dx ニ爲セル外働ハ  $\frac{1}{2} w dx \cdot y$  ナルニヨリ

$$\text{等布荷重ノ全外働} = \frac{1}{2} w \int_0^l y \cdot dx$$

矩形斷面桁ノ強サハ高サノ自乗ニ、剛性ハ高サノ三乗ニ正比例スレドモ彈復働ハ斷面積ニ正比例スルヲ以テ斷面ノ短邊又ハ長邊孰レヲ鉛直ニ置クモ彈復働ハ同一ナリ。

單位應力ガ S<sub>1</sub> ヨリ S 迄變ズル場合ノ彈復働ヲ求ムルニハ (76) 式中ノ S<sup>2</sup> ヲ (S<sup>2</sup> - S<sub>1</sub><sup>2</sup>) ニテ置換フベシ。

例題 單位延長ニ付 w ナル等布荷重ヲ受クル矩形斷面突桁ノ彈復働ヲ求ム。

第四章第26節ヨリ  $y = \frac{w}{2EI} \left( \frac{1}{2} l^2 x^2 - \frac{1}{3} l x^3 + \frac{1}{12} x^4 \right)$

$$K = \frac{w^2}{4EI} \int_0^l \left( \frac{1}{2} l^2 x^2 - \frac{1}{3} l x^3 + \frac{1}{12} x^4 \right) dx = \frac{w^2 l^5}{40EI} = \frac{W^2 l^5}{40EI}$$

$$W = \frac{2.S.I}{c.l}, \quad I = A.k^2, \quad \left( \frac{k}{c} \right)^2 = \frac{1}{3}$$

$$\therefore K = \frac{1}{15} \cdot \frac{1}{2} \left( \frac{S^2}{E} \right) . Al$$

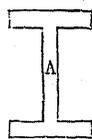
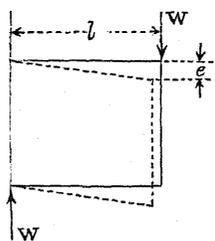
59. 剪斷力及扭力ニ因ル彈復働 第83圖ノ如クニ長サ  $l$  ニシテ斷面積  $A$  ナル I 字體ガ剪斷力ヲ受クルトキ應剪變形ヲ  $e$  トセバ

$$\text{漸加荷重 } W \text{ ガ爲セル外働} = \frac{1}{2} W.e,$$

$$W = A.S_s, \quad e = \left( \frac{S_s}{G} \right) l.$$

$$\therefore K = \frac{1}{2} W.e = \frac{1}{2} \left( \frac{S_s^2}{G} \right) . Al \dots \dots \dots (77)$$

第83圖



斯ク剪斷力ヲ受クル物體ノ彈復働モ亦單位應剪力  $S_s$  ノ自乘及容積ニ正比例ス。但  $S_s$  ハ剪斷力ニ對スル彈性限度以下ナルヲ

要ス。

例ヘバ斷面積  $A$ , 支間  $l$  ナル單桁ガ中央點ニ於テ一ツノ集中荷重  $W$  ヲ受クルトキハ (77) 式ヨリ

$$K = \frac{1}{2} \cdot \frac{\left( \frac{W}{2A} \right)^2}{G} . Al = \frac{W^2 l}{8AG}$$

次ニ圓軸ガ扭力ヲ受クル場合ヲ考フルニ斷面ノ細微面積  $dA$  ニ作用スル單位應剪力ヲ  $S_s$  トシ長サ  $l$  ニシテ對スル應剪變形ヲ  $e$  トスレバ長サ  $l$  ニシテ斷面  $dA$  ナル細微部分ニ對スル彈復働ハ

$$\frac{1}{2} S_s . dA \times e, \quad \text{且} \quad e = \left( \frac{S_s}{G} \right) l$$

$$\therefore dK = \frac{1}{2} S_s . dA \cdot \left( \frac{S_s}{G} \right) l = \frac{1}{2} \left( \frac{S_s^2}{G} \right) l . dA$$

軸ノ半徑ヲ  $c$  トシ斷面ノ周邊ニ生ズル最大單位應剪力ヲ  $S$  トスレバ軸線ヨリ  $y$  ナル距離ニ於ケル單位應剪力  $S_s$  ハ  $S \cdot \frac{y}{c}$  ナリ。

$$\therefore dK = \frac{1}{2} \cdot \frac{S^2}{G} \cdot \frac{dA \cdot y^2}{c^2} \cdot l$$

而シテ  $\int y^2 . dA = J, \quad J = A.k^2$

但  $k$  ハ斷面ノ極環動半徑ナリ。

$$\therefore K = \frac{1}{2} \cdot \frac{S^2}{G} \cdot \frac{J}{c^2} \cdot l = \frac{1}{2} \left( \frac{S^2}{G} \right) \left( \frac{k}{c} \right)^2 . Al \dots \dots \dots (77a)$$

60. 一ツノ集中荷重ノ働點ニ於ケル撓度 第三章第18節及第19節ニ於テ用キタルト同シ記號ニヨレバ

$\frac{S \cdot y}{c}$  = 断面ノ中立軸ヨリ  $y$  ナル距離ニ於ケル水平  
 單位應力,

$\left(\frac{S \cdot y}{c \cdot E}\right) dx$  = 單位應力  $\frac{S \cdot y}{c}$  ノ爲ニ生ズル長さ  $dx$  ノ  
 變化,

$\frac{1}{2} \left(\frac{S \cdot y}{c}\right) dA \cdot \left(\frac{S \cdot y}{c \cdot E}\right) dx$  = 細微斷面積  $dA$  ヲ有スル纖維  
 ノ働.

然ラバ断面ニ於ケル總テノ纖維ニ貯ヘラル、内勢ハ

$$dK = \int \frac{1}{2} \left(\frac{S \cdot y}{c}\right) dA \cdot \left(\frac{S \cdot y}{c \cdot E}\right) dx.$$

$$\int y^2 \cdot dA = \text{断面ノ慣性能率}, \quad \frac{S}{c} = \frac{M}{I}.$$

$$\therefore dK = \frac{M^2 \cdot dx}{2EI}, \quad K = \frac{1}{2} \int \frac{M^2}{EI} \cdot dx \dots \dots \dots (78)$$

次ニ桁ガーツノ集中荷重  $W$  ヲ受クルトキ荷重下  
 ノ撓度ヲ  $\Delta$  トスレバ漸加荷重  $W$  ノ爲セル外働

$\frac{1}{2} W \cdot \Delta$  ハ内勢  $K$  = 等シカルベキヲ以テ

$$\frac{1}{2} W \cdot \Delta = K, \quad W \cdot \Delta = \int \frac{M^2}{EI} \cdot dx \dots \dots \dots (78a)$$

例題 支間  $l$  ナル單桁ノ左支端ヨリ  $\frac{l}{4}$  ノ點ニ於テーツノ集中  
 荷重  $W$  ヲ加フルトキ荷重下ノ撓度ヲ求ム.

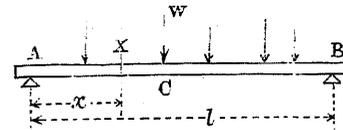
(78a) 式ヨリ

$$\begin{aligned} W \cdot \Delta &= \int_0^{\frac{l}{4}} \frac{\left(\frac{3}{4} W \cdot x\right)^2}{EI} \cdot dx + \int_{\frac{l}{4}}^l \frac{\left(\frac{1}{4} W \cdot x\right)^2}{EI} \cdot dx \\ &= \frac{9W^2}{48EI} \left[ x^3 \right]_0^{\frac{l}{4}} + \frac{W^2}{48EI} \left[ x^3 \right]_{\frac{l}{4}}^l = \frac{3W^2 l^3}{256EI} \end{aligned}$$

$$\therefore \Delta = \frac{3Wl^3}{256EI}.$$

61. 任意ノ點ニ於ケル桁ノ撓度 或荷重ヲ受ケ  
 タル桁ノ任意ノ點  $C$  ニ於ケル撓度ヲ求メントス.

第84圖



今撓度ヲ求メントスル點

$C$  =  $W$  ナル別ノ荷重ヲ加

ヘタリト想像セヨ. 總テ

ノ荷重 ( $W$  ヲモ含ム) ヲリ

生ズル  $C$  點ノ撓度ヲ  $y_1$  トスレバ  $W$  = ヲリテ爲セル  
 外働ハ  $\frac{1}{2} W \cdot y_1$  ナリ.  $A$  點ヨリ  $x$  ナル距離ニアル断面

$X$  ノ中立軸ヨリ  $c$  ナル距離ニ於ケル緣維ノ單位應  
 力ヲ  $S$  (總テノ荷重ヨリ生ズル單位應力) トセバ

$\left(\frac{S \cdot y}{c}\right) dA$  = 中立軸ヨリ  $y$  ナル距離ニ於テ細微斷面  
 積  $dA$  ヲ有スル纖維ノ應力.

断面  $X$  = 於テ荷重  $W$  ノミヨリ生ズル緣維ノ單位應  
 力ヲ  $S'$  トスレバ

$\frac{S' \cdot y}{c}$  = 中立軸ヨリ  $y$  ナル距離ニ於テ  $W$  ノミヨリ  
 生ズル纖維ノ單位應力.

此纖維ノ長さ  $dx$  ヲ考フルニ應力  $\frac{S' \cdot y}{c}$  = 基因スル長  
 サノ變化ハ

$$\frac{\frac{S' \cdot y}{c}}{E} \cdot dx = \frac{S' \cdot y}{c \cdot E} \cdot dx$$

$$\therefore \frac{1}{2} \left( \frac{S \cdot y}{c} \cdot dA \right) \cdot \left( \frac{S' \cdot y}{c \cdot E} \cdot dx \right) = \text{荷重 } W \text{ が纖維 } = \text{爲セル働}$$

依テ W = 因ル内勢ハ

$$dK = \frac{1}{2} \cdot \frac{S \cdot S'}{c^2 \cdot E} \cdot dx \int y^2 \cdot dA = \frac{1}{2} \cdot \frac{S \cdot S' \cdot I}{c^2 \cdot E} \cdot dx$$

總テノ荷重ヨリ生ズル断面ノ彎曲率ヲ M<sub>1</sub> トシ W ノミヨリ生ズル彎曲率ヲ M' トスレバ

$$\frac{S}{c} = \frac{M_1}{I}, \quad \frac{S'}{c} = \frac{M'}{I}, \quad dK = \frac{1}{2} \cdot \frac{M_1 \cdot M'}{EI} \cdot dx$$

$$\therefore K = \int_0^l \frac{M_1 \cdot M'}{2EI} \cdot dx = \frac{1}{2} \int_0^l \frac{M_1 \cdot M'}{EI} \cdot dx$$

之ハ W ノ外働 = 等シカルベキヲ以テ

$$\frac{1}{2} W \cdot y_1 = \frac{1}{2} \int_0^l \frac{M_1 \cdot M'}{EI} \cdot dx,$$

$$\therefore W \cdot y_1 = \int_0^l \frac{M_1 \cdot M'}{EI} \cdot dx \dots \dots \dots (79)$$

此式中撓度 y<sub>1</sub> ハ與ヘラレタル荷重ノミヨリ生ズル撓度 y ト W ノミヨリ生ズル撓度 y' トノ和ナリト考フルヲ得. 又右邊ノ M<sub>1</sub> ハ與ヘラレタル荷重ノミヨリ生ズル彎曲率 M ト W ノミヨリ生ズル彎曲率 M' トノ和ナリト考フルヲ得. 然ラバ (79) 式ハ次ノ如ク記スルヲ得.

$$W(y+y') = \int_0^l \frac{(M+M')M'}{EI} \cdot dx,$$

$$W \cdot y + W \cdot y' = \int_0^l \frac{M \cdot M'}{EI} \cdot dx + \int_0^l \frac{M'^2}{EI} \cdot dx,$$

然ル = (78<sub>a</sub>) 式ヨリ  $W \cdot y' = \int_0^l \frac{M'^2}{EI} \cdot dx$

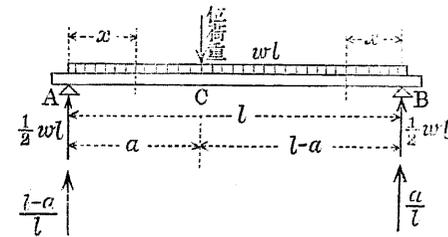
$$\therefore W \cdot y = \int_0^l \frac{M \cdot M'}{EI} \cdot dx \dots \dots \dots (79_a)$$

此ニ於テ M' ハ W = 正比例スルユエ W ガ單位荷重ナル場合ノ彎曲率ヲ m トスレバ次ノ一般式ヲ得.

$$y = \int_0^l \frac{M \cdot m}{EI} \cdot dx \dots \dots \dots (79_b)$$

例題 1. 第 85 圖ノ如ク均等横断面ノ單桁ガ等布荷重 w ナ受クルトキ C 點ノ撓度ヲ求ム.

第 85 圖

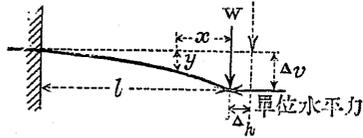


(79<sub>b</sub>) 式ヨリ

$$\begin{aligned} y_c &= \frac{1}{EI} \left[ \int_0^a \frac{w}{2} (lx-x^2) \cdot \left( \frac{l-a}{l} \cdot x \right) dx + \int_0^{l-a} \frac{w}{2} (lx-x^2) \cdot \left( \frac{a}{l} \cdot x \right) dx \right] \\ &= \frac{w}{2EI} \left[ (l-a) \int_0^a (lx^2-x^3) \cdot dx + a \int_0^{l-a} (lx^2-x^3) \cdot dx \right] \\ &= \frac{wa(l-a)}{24EI} (l^2+la-a^2). \end{aligned}$$

例題 2. 第 86 圖ノ如ク均等横断面ノ突桁ノ放端 = W ナル一ツノ集中荷重ヲ加フルトキ放端ノ水平變位ヲ求ム.

第 86 圖



$$EI \frac{d^2 y}{dx^2} = W \cdot x$$

$$EI \frac{dy}{dx} = \frac{1}{2} W x^2 + C$$

$x=l$  ナル 點 = 於 テ  $\frac{dy}{dx} = 0$  ナル

ニ エ 積 分 常 數  $C$  ハ  $-\frac{1}{2} W l^2$  ナリ

$$EI \frac{dy}{dx} = \frac{1}{2} W x^2 - \frac{1}{2} W l^2, \quad EI y = \frac{1}{6} W x^3 - \frac{1}{2} W l^2 x + C'$$

$x=0$  ナル 點 = 於 テ  $y = \Delta_v$  ナル ニ エ 積 分 常 數  $C'$  ハ  $EI \Delta_v$  ナリ

$$\therefore EI y = EI \Delta_v - \frac{1}{2} W l^2 x + \frac{1}{6} W x^3$$

而 シ テ  $\Delta_v = \frac{W l^3}{3EI}$  ナル ニ ヨリ

$$y = \frac{W l^3}{3EI} - \frac{1}{EI} \left( \frac{1}{2} W l^2 x - \frac{1}{6} W x^3 \right) = \Delta_v - \frac{2l^3 - 3l^2 x + x^3}{2l^3}$$

次 = 放 端 ノ 水 平 變 位 ナ  $\Delta_h$  ト シ 放 端 = 單 位 水 平 力 ナ 加 フ レ バ

$$m = \Delta_v - y, \quad M = W \cdot x$$

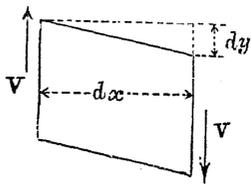
$$\therefore EI \Delta_h = W \int_0^l (\Delta_v - y) x \cdot dx = \frac{W \Delta_v}{2l^3} \int_0^l (3l^2 x^2 - x^3) dx$$

$$\Delta_h = \frac{2W \Delta_v l^2}{5EI} = \frac{6\Delta_v^2}{5l}$$

斯ク 放 端 ノ 水 平 變 位 ハ 鉛 直 變 位 即 チ 撓 度 = 比 シ テ 甚 小 ナリ

62. 鉛直剪斷力ヨリ生ズル桁ノ撓度 第87圖ノ

第 87 圖



如ク 鉛 直 剪 斷 力  $V$  ノ 爲 = 細 微

ノ 長 サ  $dx$  ガ 鉛 直 =  $dy$  丈 歪 ミ タ

リ ト セ バ 内 勢 ハ 長 サ  $dx$  = 付

$\frac{1}{2} V \cdot dy$  ナリ。 而 シ テ 斷 面 = 於

ケル 應 剪 力 ノ 配 布 ガ 均 等 ナラ

$$dy = \left( \frac{V}{A \cdot G} \right) dx$$

$$\therefore dK = \frac{1}{2} V \left( \frac{V}{A \cdot G} \cdot dx \right) = \frac{1}{2} \left( \frac{V^2}{A \cdot G} \right) dx,$$

$$K = \frac{1}{2} \int \frac{V^2}{A \cdot G} \cdot dx \dots \dots \dots (80)$$

桁ガ  $W$  ナル 一 ツ ノ 集 中 荷 重 ヲ 受 ク ル ト キ 其 働 點 ノ 撓 度 ヲ  $y$  ト ス レ バ 外 働 ハ  $\frac{1}{2} W \cdot y$  ナリ

$$\therefore \frac{1}{2} W \cdot y = \frac{1}{2} \int \frac{V^2}{A \cdot G} \cdot dx$$

$$W \cdot y = \int \frac{V^2}{A \cdot G} \cdot dx \dots \dots \dots (80a)$$

實 驗 ノ 結 果 = 據 レ バ 第 四 章 第 26 節 及 第 27 節 = 於 テ 求 メ タ ル 普 通 ノ 撓 度 公 式 ガ 與 フ ル 撓 度 ト 實 際 ノ 撓 度 ト ノ 間 = 差 異 アリ。 是 レ 普 通 ノ 撓 度 公 式 ヲ 求 ム ル = 當 リ 單 = 彎 曲 率 ノ 影 響 ノ ミ ヲ 考 ヘ 鉛 直 剪 斷 力 ノ 影 響 ヲ 省 略 セ シ = 因 ル モ ノ ニ シ テ 此 差 異 ハ 桁 ノ 支 間 小 ナ ル 程 増 大 ス。

次 = 鉛 直 剪 斷 力 ヲ 生 ズ ル 任 意 ノ 點 ノ 撓 度 ヲ 求 メ ン ト ス。 今 撓 度 ヲ 求 メ ン ト ス ル 點 = 於 テ 與 ヘ ラ レ タ ル 荷 重 ノ 外 =  $W$  ナ ル 別 ノ 荷 重 ヲ 加 ヘ タ リ ト 想 像 セ ヲ。 總 テ ノ 荷 重 ( $W$  ヲ モ 含 ム) ヲ 生 ズ ル 其 點 ノ 撓 度 ヲ  $y_1$  ト ス レ バ  $W =$  依 テ 爲 セ ル 外 働 ハ  $\frac{1}{2} W \cdot y_1$  ナリ。 又 總 テ ノ 荷 重 ヲ 生 ズ ル 鉛 直 剪 斷 力 ヲ  $V_1$  ト シ

Wノミヨリ生ズル鉛直剪斷力ヲV'トスレバV'ノ爲ニ長サdxニ生ズル應剪變形ハ $(\frac{V'}{A.G})dx$ ナルユエ荷重Wノミニ因ル内勢ハ

$$dK = \frac{1}{2} V_1 \left( \frac{V'}{A.G} \right) dx, \quad K = \frac{1}{2} \int \frac{V_1 V'}{A.G} dx$$

之ハWノ外働ニ等シカルベキヲ以テ

$$\frac{1}{2} W y_1 = \frac{1}{2} \int \frac{V_1 V'}{A.G} dx, \quad y_1 = \frac{1}{W} \int \frac{V_1 V'}{A.G} dx \dots (81)$$

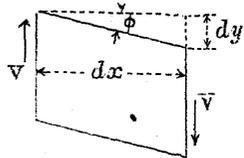
Wヲ單位荷重トセル場合ノ剪斷力ヲvトスレバ

$$y_1 = \int \frac{V_1 v}{A.G} dx \dots (81_a)$$

前節(79<sub>b</sub>)式ヲ求メタルト同様ニシテ與ヘラレタル荷重ヨリ生ズル鉛直剪斷力ヲV及撓度ヲyトスレバ次ノ一般式ヲ得

$$y = \int \frac{V.v}{A.G} dx \dots (81_b)$$

第83圖



又第83圖ニ於テ

$$\frac{dy}{dx} = \tan \phi, \quad dy = \left( \frac{V}{A.G} \right) dx,$$

$$\tan \phi = \frac{V}{A.G}, \quad \frac{dy}{dx} = \frac{V}{A.G},$$

$$\therefore A.G. \frac{dy}{dx} = V \dots (82)$$

是レ鉛直剪斷力ニ對スル彈曲線ノ一般微分方程式ナリ。

例題 1. 均等横断面ノ單桁ガ中央點ニ於テ荷重Wヲ受クルトキ鉛直剪斷力ヨリ生ズル荷重下ノ撓度ヲ求ム

(80<sub>a</sub>)式ヨリ

$$y_{\frac{1}{2}l} = \frac{1}{W} \cdot 2 \int_0^{\frac{1}{2}l} \left( \frac{1}{2} W \right) \frac{1}{A.G} dx = \frac{W.l}{4A.G}$$

$$\frac{\text{鉛直剪斷力ヨリ生ズル撓度}}{\text{彎曲率ヨリ生ズル撓度}} = \frac{\frac{W.l}{4A.G}}{\frac{W.l^3}{48EI}} = 12 \left( \frac{E}{G} \right) \left( \frac{k}{l} \right)^2$$

是ニ由テ見レバ桁ノ支間ガ小ナルニアラザレバ鉛直剪斷力ヨリ生ズル撓度ハ彎曲率ヨリ生ズル撓度ニ比シテ小ナルユエ剪斷力ノ影響ヘ之ヲ省略シテ可ナリ。

例題 2. 第89圖ノ如ク均等横断面ノ突桁ガ放端ヨリklナル距離ニ於テ荷重Wヲ受クルトキ鉛直剪斷力ヨリ生ズル放端ノ撓度ヲ求ム。

第89圖

$$V_{x < kl} = 0, \quad V_{x > kl} = -W, \quad v = -1.$$

(81<sub>b</sub>)式ヨリ

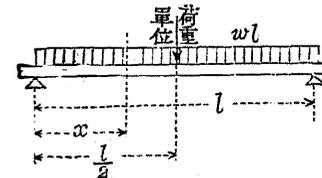
$$y_{x=0} = \frac{1}{A.G} \int_{kl}^l W dx = \frac{W(1-k)}{A.G}$$

此式ニ於テkヲ零トスレバ

$$y_{x=0} = \frac{W.l}{A.G}$$

是レ突桁ノ放端ニ荷重Wヲ加フル場合ノ放端ノ撓度ナリ。

第90圖



例題 3. 第90圖ニ示セル單桁ニ於テ鉛直剪斷力ニ對スル彈曲線及最大撓度ヲ求ム

$$V = \frac{1}{2} wl - wx,$$

$$A.G. \frac{dy}{dx} = \frac{1}{2} wl - wx.$$

$$A.G.y = \frac{1}{2}wlx - \frac{1}{2}wx^2 + C.$$

$x=0$  ナル點ニ於テハ  $y=0$  ナルニテ積分常數  $C$  ハ零ナリ.

$$\therefore A.G.y = \frac{1}{2}wx(l-x).$$

次ニ  $y$  ノ値ガ最大ナルベキ點ヲ求メシム

$$\frac{dy}{dx} = \frac{w}{2A.G}(l-2x) = 0, \quad x = \frac{1}{2}l$$

$$\therefore \text{最大撓度 } y_{\frac{1}{2}l} = \frac{w}{2A.G} \left[ x(l-x) \right]_{x=\frac{1}{2}l} = \frac{wl^2}{8A.G}.$$

此値ハ又 (81<sub>b</sub>) 式ヨリ求ムルヲ得. 即チ第90圖ニ示ス如ク支間ノ中央點ニ單位荷重ヲ加フレバ

$$\text{最大撓度 } y_{\frac{1}{2}l} = 2 \int_0^{\frac{1}{2}l} \frac{\left( \frac{1}{2}wl - wx \right) \frac{1}{2}}{A.G} dx = \frac{1}{A.G} \left[ \frac{1}{2}w(lx - x^2) \right]_0^{\frac{1}{2}l} = \frac{wl^2}{8A.G}.$$

63. 最小働ノ原理 或彈體ニ働ク外力ヲ  $P$  トシ其ノ方向ニ於ケル其働點ノ變位ヲ  $\delta$ , 外働ヲ  $W$ , 彈體ニ於ケル内働即チ内勢ヲ  $K$  トスレバ

$$W = K = \frac{1}{2}P.\delta$$

外力  $P$  ヲ  $P+dP$  ニ増加スルトキ之ニ因リテ生ズル外働  $W$  ノ増加ハ

$$dW = \frac{P+(P+dP)}{2} . d\delta = P.d\delta$$

$$\therefore \frac{dW}{dP} = P. \frac{d\delta}{dP}$$

又外力ガ  $P$  ナルトキト  $P+dP$  ナルトキトノ外働ノ差ヲ  $dW'$  トスレバ

$$dW' = \frac{1}{2}(P+dP)(\delta+d\delta) - \frac{1}{2}P.\delta$$

$$= \frac{1}{2}\delta.dP + \frac{1}{2}P.d\delta$$

$$\therefore \frac{dW'}{dP} = \frac{1}{2}\delta + \frac{1}{2}P. \frac{d\delta}{dP}$$

然ルニ

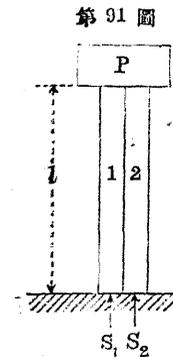
$$dW = dW' = dK$$

ナルベキヲ以テ

$$\frac{dW}{dP} = \frac{1}{2}\delta + \frac{1}{2} \cdot \frac{dW}{dP}, \quad \text{即チ} \quad \frac{dW}{dP} = \frac{dK}{dP} = \delta.$$

斯ク彈體ガ外力  $P$  ヲ受クルトキ其變形ニヨリテ生ズル  $P$  ノ働點ノ變位  $\delta$  ハ内働ヲ  $P$  ニ就テ微分シタル第一次微分係數ニ等シ.

之ヲカサチリアのら氏 (Castigliano) 定理ト謂ヒ, 材料力學ニ於テ應用廣クシテ靜力學ノ平衡條件ノミニテ解クコト能ハザル問題ハ之ニ依テ解クヲ得.



第91圖ノ如ク二個ノ同材短柱ニテ  $P$  ナル荷重ヲ支フルトキ反力ハ  $S_1$  及  $S_2 = (P - S_1)$  ナリ. 從テ短柱ニ於ケル應壓カハ又  $S_1$  及  $S_2 = (P - S_1)$  ナリ. 然ラバ短柱ニ於ケル内働ハ

$$K = \frac{S_1^2 l}{2A_1 E} + \frac{(P - S_1)^2 l}{2A_2 E}$$

此ニ於テ  $l$  ハ短柱ノ長サ,  $A_1$  及  $A_2$  ハ斷面積,  $E$  ハ彈性係數ナリ.

今短柱ノ壓縮ニ因ル荷重  $P$  ノ働點ノ變位ヲ  $\delta$  トスレバ上述ノ定理ニヨリ

$$\frac{dK}{dP} = \frac{(P - S_1)l}{A_2 E} = \delta \dots \dots \dots (a)$$

次ニ短柱ノ下端ガ不動ナラバ  $S_1$  又ハ  $S_2$  ガ爲ス働ハ零ナルニ因リ上述ノ定理ノ特別ノ場合トシテ  $S_1$  ニ就テ内働ヲ微分シタル第一次微分係數ハ零ナルベキナリ.

$$\therefore \frac{dK}{dS_1} = 0 = \frac{S_1 l}{A_1 E} - \frac{(P - S_1)l}{A_2 E}$$

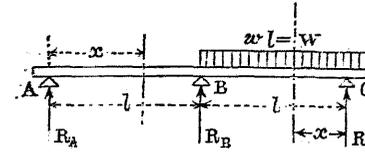
$$S_1 = \frac{A_1}{A_1 + A_2} P \dots \dots \dots (b)$$

斯クシテ得タル  $S_1$  ノ値ハ内働ヲ最小又ハ最大ニナスベキモノナリ. 而シテ第二次微分係數  $\frac{d^2 K}{dS_1^2}$  ハ正ナルユエ (b) 式ガ與フル  $S_1$  ノ値ハ内働ヲ最小ニナスモノナリ (上巻豫備數學參照).

上叙ノ論議ヨリ推定スルニ彈體ニ於ケル内働ハ外力ト平衡ヲ保ツニ必要ナル丈ノ最小ノモノナリ. 之ヲ最小働ノ原理ト謂フ.

例題 1. 第92圖ノ如キ均等横斷面ノ連續桁ニ於テ反力  $R_A, R_B$

第 92 圖



及  $R_c$  ナ求ム.

靜力學ノ平衡條件ニヨリ

$$R_A + R_B + R_C = W,$$

$$2R_A l + R_B l = \frac{1}{2} W l.$$

最小働ノ原理ニヨリ彎曲應

力ニ因ル内働ハ最小ナルベキナリ. 而シテ支間  $AB$  ニ於テハ  $M_x = R_A x$ , 支間  $BC$  ニ於テハ  $M_x = R_C x - \frac{1}{2} w x^2$  ナルガユエニ水平彎曲應力ニ因ル全内働ハ (78) 式ニヨリ

$$K = \int_0^l \frac{(R_A x)^2}{2EI} dx + \int_0^l \frac{(R_C x - \frac{1}{2} w x^2)^2}{2EI} dx$$

$$= \frac{R_A^2 l^3}{6EI} + \frac{1}{2EI} \left( \frac{R_C^2 l^3}{3} - \frac{R_C w l^4}{4} + \frac{w^2 l^5}{20} \right)$$

$$= \frac{l^3}{120EI} (20R_A^2 + 20R_C^2 - 15WR_C + 3W^2).$$

此式中ノ  $R_c =$

$$W - R_A - R_B = \left[ W - R_A - \left( \frac{1}{2} W - 2R_A \right) \right] = \frac{W}{2} + R_A$$

ヲ代入スレバ

$$K = \frac{l^3}{120EI} \left( 40R_A^2 + 5R_A W + \frac{W^2}{2} \right).$$

此ヲ最小ニナスベキ  $R_A$  ノ値ハ

$$\frac{dK}{dR_A} = \frac{l^3}{120EI} (80R_A + 5W) = 0, \quad R_A = -\frac{1}{16} W.$$

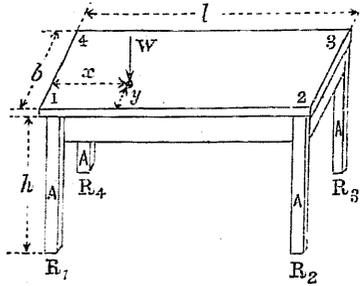
從テ

$$R_B = \frac{1}{2} W + 2 \times \frac{1}{16} W = +\frac{10}{16} W.$$

$$R_c = \frac{W}{2} - \frac{1}{16} W = +\frac{7}{16} W.$$

例題 2. 第93圖ノ如ク四脚ノ矩形卓子ガ荷重  $W$  ナ受クルトキ脚ノ高サ等シク且横斷面均等ナラバ脚ニ於ケル反力  $R_1, R_2, R_3$  及  $R_4$  ハ幾何ナルカ.

第 93 圖



静力学ノ平衡條件 = ヲリ

$$R_1 + R_2 + R_3 + R_4 = W.$$

1-2 線ヲ據軸トシテ力率ヲ

取レバ

$$-R_3 b - R_4 b + W y = 0.$$

1-4 線ヲ據軸トシテ力率ヲ

取レバ

$$-R_2 l - R_3 l + W x = 0.$$

此等ノ條件式ヨリ

$$R_1 = W - W \frac{x}{l} - R_4, \quad R_2 = W \frac{x}{l} - W \frac{y}{b} + R_4, \quad R_3 = W \frac{y}{b} - R_4.$$

今桌子ノ上板及桌子ヲ支フル床ガ剛體ナリトスレバ四個ノ脚  
ヲ壓縮スルニ爲セル働ハ(75)式ヨリ

$$\begin{aligned} K &= \frac{h}{2AE} [R_1^2 + R_2^2 + R_3^2 + R_4^2] \\ &= \frac{h}{2AE} \left[ W^2 \left(1 - \frac{x}{l}\right)^2 - 2W \left(1 - \frac{x}{l}\right) R_4 + W^2 \left(\frac{x}{l} - \frac{y}{b}\right)^2 \right. \\ &\quad \left. + 2W \left(\frac{x}{l} - \frac{y}{b}\right) R_4 + W^2 \frac{y^2}{b^2} - 2W \frac{y}{b} R_4 + 4R_4^2 \right]. \end{aligned}$$

此式ニ於テ變量ハ  $R_4$  ノミナルガ故ニ  $K$  ナ最小ニナスベキ  $R_4$  ノ  
値ハ  $\frac{dK}{dR_4} = 0$  ナ解キテ之ヲ求ムルヲ得。即チ

$$\begin{aligned} \frac{dK}{dR_4} = 0 &= \frac{h}{2AE} \left[ -2W \left(1 - \frac{x}{l}\right) + 2W \left(\frac{x}{l} - \frac{y}{b}\right) - 2W \frac{y}{b} + 8R_4 \right], \\ \therefore R_4 &= \frac{W}{4} - \frac{Wx}{2l} + \frac{Wy}{2b}. \end{aligned}$$

從テ

$$R_2 = -\frac{W}{4} + \frac{Wx}{2l} + \frac{Wy}{2b}, \quad R_3 = \frac{W}{4} + \frac{Wx}{2l} - \frac{Wy}{2b}.$$

$$R_1 = \frac{3W}{4} - \frac{Wx}{2l} - \frac{Wy}{2b}.$$

若シ  $W$  ガ桌子ノ中央ニアレバ  $x = \frac{l}{2}, y = \frac{b}{2}$  ナリ。

$$\therefore R_1 = R_2 = R_3 = R_4 = \frac{W}{4}$$

$W$  ガ  $l$  邊ノ中央ニアレバ  $x = \frac{l}{2}, y = 0$  ナルニエ

$$R_1 = R_2 = \frac{W}{2}, \quad R_3 = R_4 = 0.$$

$W$  ナ點 3 = 置ケバ  $x = l, y = b$  ナルニエ

$$R_1 = -\frac{W}{4}, \quad R_2 = R_4 = \frac{W}{4}, \quad R_3 = \frac{3W}{4}$$

トナリ一脚ノ反力ガ符號ヲ變ズ。然ラバ桌子ハ三個ノ脚ニテ  
支ヘラレ一脚ハ床ヨリ離ルベシ。

## 第十章 彈性論

### (Theory of Elasticity)

64. 總説 凡テ固體ノ分子ハ多少相互間ニ移動スルモノニシ  
テ之ニ對スル抵抗ハ移動ノ起ル状態ト物體ノ性質トニ依テ異  
ナルモノナリ。而シテ此抵抗ニ關スル物體ノ特性ガ所謂彈性  
ナリ。

物體中ノ一點ニ於ケル分子ノ變位ノ總和ガ其點ニ於ケル變  
形ニシテ、一點ニ於テ物體ノ分子ガ變形ニ抵抗スル力ハ即チ其  
點ニ於ケル應力ナリ。一ツノ物體ノ外面ニ外力ヲ加フレバ變  
形ヲ生ジ從テ應力ガ誘起セラル。此應力ト變形トハ外力ガ加  
ヘラル、方法ニ依テ性質ヲ異ニスルモノナリ。而シテ各應力  
ニハ夫々自己特有ノ變形ガ伴フ。例ヘバ應剪力ニハ應剪變形  
應張力ニハ應張變形、應壓力ニハ應壓變形ガ伴フガ如シ。

實驗ニ據ルニ變形ト應力トハ常ニ相應シテ連續的ニ且同方  
向ニ變ズルモノナルニエ應力ハ變形ノ連續函數ニテ表ハスヲ  
得。即チ應力ハ變形ノ上昇線ヨリ成トル一ツノ級數ニテ表ハ  
スヲ得。普通ノ場合ノ如クニ變形ガ甚小ナルトキハ指數ガ 1

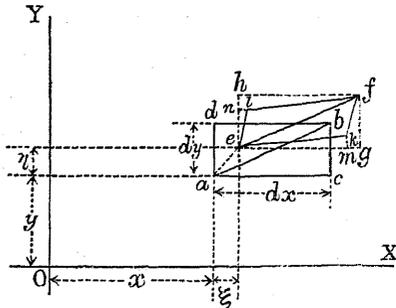


定ムルニハ  $\epsilon_x, \epsilon_y, \epsilon_z$  ナル三ツノ正變形 (Normal Strains) ト  $\gamma_{xy} = \gamma_{yx}$   
 $\gamma_{yz} = \gamma_{zy}, \gamma_{zx} = \gamma_{xz}$  ナル三ツノ應剪變形トヲ知レバ可ナリ。

65. 歪ノ項ニテ表ハセル變形 (Strains in Terms of Distortions)

今説明ヲ簡明ニナス爲 Z 軸ニ垂直ナル平面即チ Z 面ニ並行ナル變形ノミヲ考フルモノトス。第95圖ノ如ク細微ナル矩形  $abcd$

第95圖



ヲ想像シ一隅  $a$  ノ座標ヲ  $(x, y)$ , 他隅  $b$  ノ座標ヲ  $(x+dx, y+dy)$  トス。之ガ外力ヲ受ケテ  $a$  點ハ  $e$  點ニ,  $b$  點ハ  $f$  點迄移動シ從テ矩形  $abcd$  ハ菱形  $efkl$  トナリ  $(x, y)$  ハ  $(x+\xi, y+\eta)$  ニ,  $(x+dx, y+dy)$  ハ  $(x+\xi+dx+d\xi, y+\eta+dy+d\eta)$  ニナリタリトセバ前節ノ

所論ニヨリ

$$\epsilon_x = \frac{d\xi}{dx}, \quad \epsilon_y = \frac{d\eta}{dy}$$

又  $\gamma_{xy} = \gamma_{yx} = \tan(90^\circ - k\ell) = \tan(kem + len)$

$$\approx \tan kem + \tan len = \frac{km}{em} + \frac{ln}{en} = \frac{d\eta}{dx} + \frac{d\xi}{dy}$$

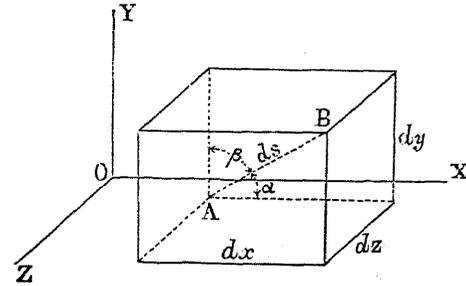
次ニ細微ナル直並行六面體ヲ取り其一隅ノ座標ヲ  $(x, y, z)$ , 他隅ノ座標ヲ  $(x+dx, y+dy, z+dz)$  トシ之ガ外力ヲ受ケテ  $(x, y, z)$  ハ  $(x+\xi, y+\eta, z+\zeta)$  ニ,  $(x+dx, y+dy, z+dz)$  ハ  $(x+\xi+dx+d\xi, y+\eta+dy+d\eta, z+\zeta+dz+d\zeta)$  ニナリタリトセバ上叙ノ所論ニヨリ

$$\epsilon_x = \frac{d\xi}{dx}, \quad \epsilon_y = \frac{d\eta}{dy}, \quad \epsilon_z = \frac{d\zeta}{dz}, \quad \gamma_{xy} = \gamma_{yx} = \frac{d\xi}{dy} + \frac{d\eta}{dx}$$

$$\gamma_{xz} = \gamma_{zx} = \frac{d\xi}{dz} + \frac{d\zeta}{dx}, \quad \gamma_{yz} = \gamma_{zy} = \frac{d\eta}{dz} + \frac{d\zeta}{dy}$$

66. 任意ノ方向ニ於ケル變形 茲ニ  $\epsilon_x, \epsilon_y, \epsilon_z, \gamma_{xy}, \gamma_{yz}, \gamma_{zx}$  ナル變形ガ與ヘラルトキ  $OX, OY, OZ$  ナル軸ト夫々  $\alpha, \beta, \gamma$  ナル角ヲナ

第96圖



セル方向ノ變形ヲ求メントス。第96圖ノ如ク細微ナル直並行六面體ヲ想像シ一隅  $A(x, y, z)$  ト他隅  $B(x+dx, y+dy, z+dz)$  トヲ連結スル對角線  $AB$  ヲ求ムル方向トシ此長サヲ  $ds$  トスレバ立體幾何學ニヨリ

$$\overline{ds}^2 = \overline{dx}^2 + \overline{dy}^2 + \overline{dz}^2 \dots \dots \dots (a)$$

$$\cos \alpha = \frac{dx}{ds}, \quad \cos \beta = \frac{dy}{ds}, \quad \cos \gamma = \frac{dz}{ds}$$

求ムル方向ノ變形ヲ  $\epsilon$  トスレバ變形後ノ對角線ノ長サハ  $ds(1+\epsilon)$  ナリ。而シテ歪ニハ小ナルユエ變形後ニ於テモ亦 (a) 式ト同様ノ關係ガ成立ツト見做スヲ得ベシ。然ラバ

$$\overline{ds}^2(1+\epsilon)^2 = (\overline{dx+d\xi})^2 + (\overline{dy+d\eta})^2 + (\overline{dz+d\zeta})^2$$

$$\overline{ds}^2 + 2\epsilon \overline{ds}^2 + \epsilon^2 \overline{ds}^2 = \overline{dx}^2 + \overline{dy}^2 + \overline{dz}^2 + 2(dx \cdot d\xi + dy \cdot d\eta + dz \cdot d\zeta) + \overline{d\xi}^2 + \overline{d\eta}^2 + \overline{d\zeta}^2 \dots \dots \dots (b)$$

(b) 式ヨリ (a) 式ヲ引ケバ

$$2\epsilon \overline{ds}^2 + \epsilon^2 \overline{ds}^2 = 2(dx \cdot d\xi + dy \cdot d\eta + dz \cdot d\zeta) + \overline{d\xi}^2 + \overline{d\eta}^2 + \overline{d\zeta}^2$$

$\epsilon^2 \overline{ds}^2, \overline{d\xi}^2, \overline{d\eta}^2, \overline{d\zeta}^2, \overline{d\eta}^2$  ハ他ノ項ニ比シテ甚小ナルユエ此等ノ項ヲ省略スレバ

$$2\epsilon \overline{ds}^2 = 2(dx \cdot d\xi + dy \cdot d\eta + dz \cdot d\zeta)$$

$$\therefore \epsilon ds = \frac{dx}{ds} \cdot d\xi + \frac{dy}{ds} \cdot d\eta + \frac{dz}{ds} \cdot d\zeta = d\xi \cdot \cos \alpha + d\eta \cdot \cos \beta + d\zeta \cdot \cos \gamma \dots \dots \dots (c)$$

$\xi, \eta, \zeta$  ハ  $x, y, z$  ノ函數ニシテ  $x$  ガ  $dx, y$  ガ  $dy, z$  ガ  $dz$  丈變化スルトキ  $\xi$  ノ變化  $d\xi$  ハ偏微分係數 (Partial Differential Coefficients)  $\frac{d\xi}{dx}, \frac{d\xi}{dy}, \frac{d\xi}{dz}$  ノ各々ニ夫々  $dx, dy, dz$  ヲ乗ジタルモノノ和ニ等シ。他ハ之ニ準ズ。即チ

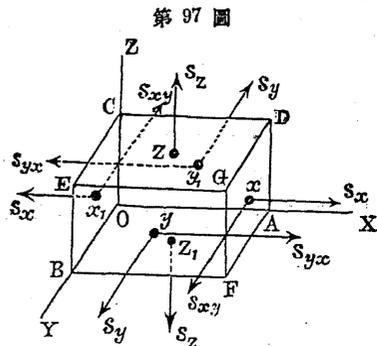
$$\left. \begin{aligned} d\xi &= \frac{d\xi}{dx} dx + \frac{d\xi}{dy} dy + \frac{d\xi}{dz} dz \\ d\eta &= \frac{d\eta}{dx} dx + \frac{d\eta}{dy} dy + \frac{d\eta}{dz} dz \\ d\zeta &= \frac{d\zeta}{dx} dx + \frac{d\zeta}{dy} dy + \frac{d\zeta}{dz} dz \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (d)$$

此値ヲ(c)式ニ代入スレバ

$$\begin{aligned} \epsilon &= \cos\alpha \left[ \frac{d\xi}{dx} \cos\alpha + \frac{d\xi}{dy} \cos\beta + \frac{d\xi}{dz} \cos\gamma \right] + \cos\beta \left[ \frac{d\eta}{dx} \cos\alpha \right. \\ &\quad \left. + \frac{d\eta}{dy} \cos\beta + \frac{d\eta}{dz} \cos\gamma \right] + \cos\gamma \left[ \frac{d\zeta}{dx} \cos\alpha + \frac{d\zeta}{dy} \cos\beta \right. \\ &\quad \left. + \frac{d\zeta}{dz} \cos\gamma \right] \\ \therefore \epsilon &= \frac{d\xi}{dx} \cos^2\alpha + \frac{d\eta}{dy} \cos^2\beta + \frac{d\zeta}{dz} \cos^2\gamma + \left( \frac{d\eta}{dz} + \frac{d\zeta}{dy} \right) \cos\beta \cos\gamma \\ &\quad + \left( \frac{d\xi}{dz} + \frac{d\zeta}{dx} \right) \cos\alpha \cos\gamma + \left( \frac{d\eta}{dx} + \frac{d\xi}{dy} \right) \cos\alpha \cos\beta \dots\dots\dots (83) \end{aligned}$$

又ハ 
$$\epsilon = \epsilon_x \cos^2\alpha + \epsilon_y \cos^2\beta + \epsilon_z \cos^2\gamma + \gamma_{yz} \cos\beta \cos\gamma + \gamma_{zx} \cos\alpha \cos\gamma + \gamma_{xy} \cos\alpha \cos\beta \dots\dots\dots (83_a)$$

67. 應力 凡テ外力ヲ受ケタル物體內ノ一點ヲ含ミテ一ツノ断面ヲ考フレバ其點ニ於テ此断面ニ作用スル應力ノ大サト方向トヲ知ルヲ得。假令物體ニ作用スル應力ガ複雑ナリトモ單純ナル應力ノ群ニ分ツテ得ベク從テ物體內ノ一點ニ於ケル應力ノ状態ヲ知ルコト難カラズ。



第97圖ノ如ク物體內ノ一點Oヲ原點トシテ三ツノ正座標軸ヲ假定シ且細微ナル直並行六面體ヲ想像スルニ此一ツノ面及之ト相對向セル面ニ作用スル應力ハ同ジト見做スヲ得。今各面ニ作

用スル應力ヲ次々軸ニ並行ナル分力ニ分解スレバ次ノ如シ。  
 $S_x = X$ 面ニ作用スル單位正應力 (Normal Unit-Stress),  
 $S_y = Y$ 面ニ作用スル單位正應力,  
 $S_z = Z$ 面ニ作用スル單位正應力,  
 $S_{xy} = X$ 面ニ於テOYノ方向ノ單位應剪力,  
 $S_{xz} = X$ 面ニ於テOZノ方向ノ單位應剪力,  
 $S_{yx} = Y$ 面ニ於テOXノ方向ノ單位應剪力,  
 $S_{yz} = Y$ 面ニ於テOZノ方向ノ單位應剪力,  
 $S_{zx} = Z$ 面ニ於テOXノ方向ノ單位應剪力,  
 $S_{zy} = Z$ 面ニ於テOYノ方向ノ單位應剪力。

用スル應力ヲ次々軸ニ並行ナル分力ニ分解スレバ次ノ如シ。

- $S_x = X$ 面ニ作用スル單位正應力 (Normal Unit-Stress),
- $S_y = Y$ 面ニ作用スル單位正應力,
- $S_z = Z$ 面ニ作用スル單位正應力,
- $S_{xy} = X$ 面ニ於テOYノ方向ノ單位應剪力,
- $S_{xz} = X$ 面ニ於テOZノ方向ノ單位應剪力,
- $S_{yx} = Y$ 面ニ於テOXノ方向ノ單位應剪力,
- $S_{yz} = Y$ 面ニ於テOZノ方向ノ單位應剪力,
- $S_{zx} = Z$ 面ニ於テOXノ方向ノ單位應剪力,
- $S_{zy} = Z$ 面ニ於テOYノ方向ノ單位應剪力。

第97圖ニ於テハ  $S_x, S_y, S_z, S_{xy}, S_{yz}$  ナル五ツノ應力ノミ記シ他ハ之ヲ省略セリ。

AFGD面ニ作用スル全正應力トOBEC面ニ作用スル全正應力トハ他ニ關係ナク相平均ス。他ノ正應力ニ於テモ亦然リトス。然ラバOZ軸ノ周リニ並行六面體ヲ回轉セントスルハAFGD面トOBEC面トニ働ク並行力ナリ。而シテ此並行力ノ大サハ等シクシテ方向相反ス此偶力率ヲ  $M_1$  トスレバ

$$M_1 = S_{xy} \times (\text{面積 AFGD}) \times x_1$$

ナリ。又FBEG面トCOAD面トニ作用スル並行力ハ等大ニシテ方向相反ス此偶力率ヲ  $M_2$  トスレバ

$$M_2 = S_{yz} \times (\text{面積 FBEG}) \times y_1$$

ナリ。然ルニ

$$M_1 = S_{xy}(FA)(z_1)(x_1), \quad M_2 = S_{yz}(FB)(z_1)(y_1).$$

並行六面體ガ平衡ニアルナラバ

$$M_1 = M_2, \quad \therefore S_{xy}(FA)(x_1) = S_{yz}(FB)(y_1).$$

此ニ於テ  $FB = x_1, FA = y_1$  ナルニエ

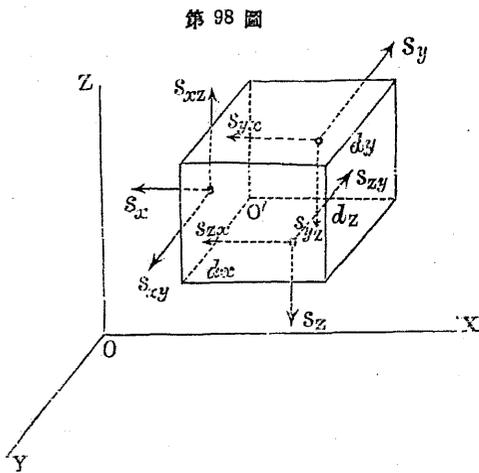
$$S_{xy} = S_{yz}$$

ヲ得。同様ニシテ

$$S_{xz} = S_{zy}, \quad S_{yz} = S_{xy}$$

是 = 由テ見レバ物體內ノ一點ニ作用スル應力ノ状態ヲ充分ニ定ムルニハ  $S_x, S_y, S_z$  ナル三ツノ正應力ト  $S_{xy}, S_{yz}, S_{zx}$  ナル三ツノ應剪力トヲ知レバ可ナリ.

68. 物體内部ノ平衡ニ關スル一般方程式 茲ニ  $dx, dy, dz$  ナ三邊トセル細微ナル



直並行六面體ヲ想像シ之ニ作用スル力ニ對シテ平衡條件ヲ適用シ以テ一般方程式ヲ求メントス. 第98圖ニ記セル記號ハ前節ニ於ケルト同一ナリ. 原点ニ最モ近キ面ニ働ク應力ヲ負トシ他ノ面ニ働ク

應力ヲ正トスレバ X 軸ノ方向ノ應力ハ次ノ如シ.

- 原点 O = 最モ近キ X 面 = 於テハ.....  $-S_x dy dz$ ,
- 原点 O ヨリ最モ遠ザカレル X 面 = 於テハ.....  $(S_x + \frac{dS_x}{dx} dx) dy dz$ ,
- 原点 O = 最モ近キ Z 面 = 於テハ.....  $-S_{zx} dy dx$ ,
- 原点 O ヨリ最モ遠ザカレル Z 面 = 於テハ.....  $(S_{zx} + \frac{dS_{zx}}{dz} dz) dy dx$ ,
- 原点 O = 最モ近キ Y 面 = 於テハ.....  $-S_{yz} dz dx$ ,
- 原点 O ヨリ最モ遠ザカレル Y 面 = 於テハ.....  $(S_{yz} + \frac{dS_{yz}}{dy} dy) dz dx$ .

並行六面體ガ平衡ニアルナラバ

$$(S_x + dS_x - S_x) dy dz + (S_{yz} + dS_{yz} - S_{yz}) dz dx + (S_{zx} + dS_{zx} - S_{zx}) dy dx = 0.$$

此方程式ノ各項ヲ  $dx dy dz$  = テ除セバ

$$\frac{dS_x}{dx} + \frac{dS_{yz}}{dy} + \frac{dS_{zx}}{dz} = 0 \dots\dots\dots (84)$$

同様ニシテ Y 及 Z 軸ノ方向ニ對シテ次ノ式ヲ得.

$$(S_y + dS_y - S_y) dx dz + (S_{xy} + dS_{xy} - S_{xy}) dy dz + (S_{xz} + dS_{xz} - S_{xz}) dy dx = 0,$$

$$\frac{dS_{xy}}{dx} + \frac{dS_y}{dy} + \frac{dS_{xz}}{dz} = 0 \dots\dots\dots (84_a)$$

$$(S_z + dS_z - S_z) dx dy + (S_{yz} + dS_{yz} - S_{yz}) dx dz + (S_{zx} + dS_{zx} - S_{zx}) dz dy = 0,$$

$$\frac{dS_{yz}}{dx} + \frac{dS_{yz}}{dy} + \frac{dS_z}{dz} = 0 \dots\dots\dots (84_b)$$

69. 應力ト變形トノ關係 材質齊等ニシテ且眞直ナル棒狀體ノ軸ニ沿ヒテ外力ヲ加フレバ

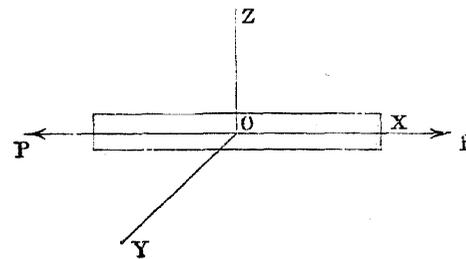
$$\text{縦變形 } \epsilon = \frac{S}{E}$$

ニシテ外力ノ働線ニ直角ナル方向ノ變形ハ

$$\epsilon_1 = -\frac{\epsilon}{m}, \text{ 又ハ } m = -\frac{\epsilon}{\epsilon_1}$$

ナリ. 此ニ於テ  $m$  ハ實驗的常数ニシテ是レ所謂ポアソンノ比

第99圖



ナリ. 此式ノ負ハ  $\epsilon$  ト  $\epsilon_1$  トハ反對ノモノナルコトヲ表ハス即チ  $\epsilon$  ガ伸張ナルトキハ  $\epsilon_1$  ハ壓縮ナリトス. 第99圖ノ如ク棒狀體中ノ一點 O ニ於テ三ツノ正座標軸ヲ假

定シ OX ヲ張力ノ方向トスレバ

$$S_x = \frac{P}{A}, \quad S_y = S_z = S_{xy} = S_{yz} = S_{zx} = 0.$$

但 A ハ棒狀體ノ斷面積ナリトス.

$$\epsilon_x = \frac{S_x}{E}, \quad \epsilon_y = \epsilon_z = -\frac{1}{m} \frac{S_x}{E} = -\frac{\epsilon_x}{m}, \quad \gamma_{xy} = \gamma_{yz} = \gamma_{zx} = 0,$$

$$\frac{S_{xy}}{\gamma_{xy}} = \frac{S_{yz}}{\gamma_{yz}} = \frac{S_{zx}}{\gamma_{zx}} = G (\text{歪係數}).$$

一般ニニツ又ハニツ以上ノ應力ガ物體ニ作用スルトキハ

$$\left. \begin{aligned} \epsilon_x &= \frac{S_x}{E} - \frac{1}{m} \frac{S_y}{E} - \frac{1}{m} \frac{S_z}{E}, & \gamma_{xy} &= \frac{S_{xy}}{G} \\ \epsilon_y &= \frac{S_y}{E} - \frac{1}{m} \frac{S_x}{E} - \frac{1}{m} \frac{S_z}{E}, & \gamma_{xz} &= \frac{S_{xz}}{G} \\ \epsilon_z &= \frac{S_z}{E} - \frac{1}{m} \frac{S_x}{E} - \frac{1}{m} \frac{S_y}{E}, & \gamma_{yz} &= \frac{S_{yz}}{G} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (85)$$

E, G, m ノ値ガ既知ナレバ此式ニヨリテ變形ヲ應力ノ項ニテ知ルヲ得。又 (85) 式ヨリ

$$E \cdot \epsilon_x = S_x - \frac{S_y + S_z}{m} \dots\dots\dots (a)$$

$$E \cdot \epsilon_y = S_y - \frac{S_x + S_z}{m} \dots\dots\dots (b)$$

$$E \cdot \epsilon_z = S_z - \frac{S_x + S_y}{m} \dots\dots\dots (c)$$

(a) 式ヨリ (b) 式ヲ引ケバ

$$E(\epsilon_x - \epsilon_y) = S_x \left(1 + \frac{1}{m}\right) - S_y \left(1 + \frac{1}{m}\right) = (S_x - S_y) \left(1 + \frac{1}{m}\right) \dots\dots\dots (a')$$

(c) 式ヲ書換フレバ

$$\frac{E \cdot \epsilon_x}{m} = \frac{S_x}{m} - \frac{S_x}{m^2} - \frac{S_y}{m^2} \dots\dots\dots (c')$$

(b) 及 (c') 兩式ヨリ式ヨリ

$$E \left( \frac{\epsilon_x}{m} + \epsilon_y \right) = -\frac{S_x}{m^2} - \frac{S_y}{m^2} - \frac{S_x}{m} + S_y \dots\dots\dots (b')$$

(a') 式ヨリ  $S_y = S_x - \frac{E \cdot m(\epsilon_x - \epsilon_y)}{m+1}$

此値ヲ (b') ニ代入スレバ

$$E \left( \frac{\epsilon_x}{m} + \epsilon_y \right) = -\frac{S_x}{m^2} - \frac{S_x}{m} + S_x - \frac{E \cdot m(\epsilon_x - \epsilon_y)}{m+1} - \frac{1}{m^2} \left[ S_x - \frac{E \cdot m(\epsilon_x - \epsilon_y)}{m+1} \right]$$

$$\frac{E}{m} (\epsilon_x + m \cdot \epsilon_y) = S_x \left( 1 - \frac{2}{m^2} - \frac{1}{m} \right) - \frac{E \cdot m(\epsilon_x - \epsilon_y)}{m+1} + \frac{E(\epsilon_x - \epsilon_y)}{m(m+1)}$$

$$S_x \left( \frac{m^2 - 2 - m}{m^2} \right) = \frac{E(m+1)(\epsilon_x + m \cdot \epsilon_y)}{m(m+1)} + \frac{m^2 E(\epsilon_x - \epsilon_y)}{m(m+1)} - \frac{E(\epsilon_x - \epsilon_y)}{m(m+1)}$$

$$\frac{(m+1)(m-2)}{m} \cdot S_x = E \cdot \frac{(m+1)\epsilon_x + (m+1)\epsilon_y + (m^2-1)\epsilon_x}{m+1}$$

$$\frac{(m+1)(m-2)}{m} \cdot S_x = E \left[ \epsilon_x + \epsilon_y + (m-1)\epsilon_x \right] = E \left[ \epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_x + (m-2)\epsilon_x \right]$$

$$\left. \begin{aligned} \therefore S_x &= \frac{m}{m+1} E \left[ \epsilon_x + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} \right] \\ \text{同様} &= \left. \begin{aligned} S_y &= \frac{m}{m+1} E \left[ \epsilon_y + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} \right] \\ S_z &= \frac{m}{m+1} E \left[ \epsilon_z + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} \right] \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (86) \\ S_{xy} &= G \cdot \gamma_{xy}, \quad S_{xz} = G \cdot \gamma_{xz}, \quad S_{yz} = G \cdot \gamma_{yz} \end{aligned}$$

第 65 節ヨリ

$$\left. \begin{aligned} S_{xy} &= G \left( \frac{d\xi}{dy} + \frac{d\eta}{dx} \right), & S_{xz} &= G \left( \frac{d\xi}{dz} + \frac{d\zeta}{dx} \right), \\ S_{yz} &= G \left( \frac{d\eta}{dz} + \frac{d\zeta}{dy} \right). \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (86a)$$

若シ應力ガ總テ一平面例ヘバ Z 面ニ並行ナレバ此面ニ垂直ナル分應力  $S_x$  ハ零ナルユエ (86) 式ニ於テ

$$\epsilon_x + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} = 0, \quad \text{即チ} \quad \epsilon_z = -\frac{\epsilon_x + \epsilon_y}{m-1}$$

$$\therefore S_x = \frac{m}{m+1} E \left[ \epsilon_x + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y}{m-2} + \frac{1}{m-2} \cdot \frac{-(\epsilon_x + \epsilon_y)}{m-1} \right] \\ = \frac{m}{m+1} E \left[ \epsilon_x + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y}{m-1} \right] \dots\dots\dots (86b)$$

又  $S_y = \frac{m}{m+1} E \left[ \epsilon_y + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y}{m-1} \right],$   
 $S_{xy} = G \cdot \gamma_{xy}$

鑄鐵、鍊鐵及鋼ノ彈性係數 E ハ之ニ加ハル荷重ガ過大ナラザル以上ハ張力及壓力ニ對シテ殆ド同値ナリ。

尤えあとはいむ氏 (Wertheim) ノ實驗ニ據ルニ眞鍮ニ對シテハ  $m=2.94$ , 鍊鐵ニ對シテハ  $m=3.64$  ナリ。現時普通ニ用キラル、 $m$  ノ値ハ 3 又ハ 4 ナリトス。

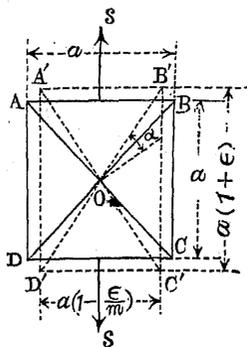
G ノ値ハ張力ニ對スル彈性係數ノ約  $\frac{2}{5}$  ナリ。彈性論ニ依レバ

$$G = \frac{1}{2} \frac{m}{m+1} E$$

ヲ得。之ガ證明次ノ如シ。

第 100 圖ノ如ク細微ナル正方形ヲ想像シ一邊ノ長サヲ  $a$  トシ

第 100 圖



AB 面 = 作用スル單純ナル單位正應力  
 ナ S トスレバ第一章第 8 節ニヨリ互ニ  
 直角ナル二面 BD, AC = 作用スル單位應  
 剪力  $S_x$  ハ等シクシテ  $\frac{1}{2}S$  ナリ。又 AD ナ  
 ル方向ノ變形ハ  $\epsilon = \frac{S}{E}$  ニシテ AB ナル方  
 向ノ變形ハ  $-\frac{\epsilon}{m}$  ナリ。從テ正方形ハ矩  
 形トナル。對角線ノ交角ト  $90^\circ$  トノ差  
 ナ  $\alpha$  トシ二面  $A'O'C'$ ,  $B'D'O'$  ニ於ケル應剪變  
 形ヲ  $\gamma$  トスレバ  $\gamma = \tan \alpha$  ナリ。

$$\angle A'D'B' + \angle D'A'O' = \angle D'O'C' = \frac{\pi}{2} - \alpha,$$

$$\angle A'D'B' = \angle D'A'O'.$$

$$\therefore \angle A'D'B' = \frac{\pi}{4} - \frac{\alpha}{2}.$$

$$\tan\left(\frac{\pi}{4} - \frac{\alpha}{2}\right) = \frac{1 - \tan \frac{\alpha}{2}}{1 + \tan \frac{\alpha}{2}} = \frac{A'B'}{A'D'} = \frac{1 - \frac{\epsilon}{m}}{1 + \epsilon}.$$

$\alpha$  ハ小ナルニエ

$$\frac{1 - \tan \frac{\alpha}{2}}{1 + \tan \frac{\alpha}{2}} \doteq 1 - 2 \tan \frac{\alpha}{2}, \quad \frac{1 - \frac{\epsilon}{m}}{1 + \epsilon} \doteq \left(1 - \frac{\epsilon}{m}\right).$$

然ラバ

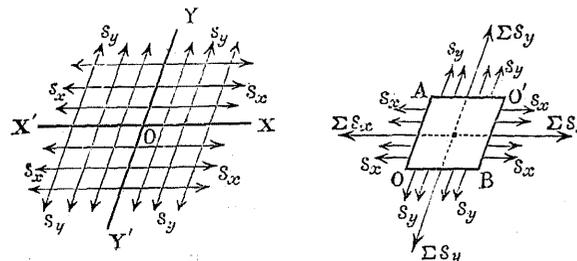
$$1 - 2 \tan \frac{\alpha}{2} = 1 - \left(1 + \frac{1}{m}\right)\epsilon, \quad 2 \tan \frac{\alpha}{2} = \frac{m+1}{m}\epsilon.$$

$$\gamma = \tan \alpha \doteq 2 \tan \frac{\alpha}{2} = \frac{m+1}{m}\epsilon.$$

$$\therefore \frac{S_x}{\gamma} = \frac{\frac{1}{2}S}{\frac{m+1}{m}\epsilon} = \frac{1}{2} \cdot \frac{m}{m+1} \left(\frac{S}{\epsilon}\right), \quad \text{即チ } G = \frac{1}{2} \cdot \frac{m}{m+1} \cdot E$$

70. 共軛應力 (Conjugate Stresses) 第 101 圖ニ於テ O ナ變形物體  
 内ノ一點トシ此點ヲ含ム面  $XOX'$  = 作用スル應力ヲ  $S_y$  トシ O 點  
 ナ通シテ  $S_x$  ノ方向ニ並行ニ第二ノ面  $YOY'$  ナ引クトキハ此面ニ

第 101 圖



働ク應力  $S_x$  ハ面  $XOX'$  ニ並行ナルベシ。其理由ハ次ノ如シ。

今 O 點ニ於テ各面ニ並行ナル面ニテ界サレタル細微並行六  
 面體  $OAO'B$  (第 101 圖ノ  $OAO'B$  ハ並行六面體ノ断面ヲ表ハスモノ  
 トス) ナ想像シテ之ガ平衡ヲ考フルニ  $AO'$  及  $OB$  ナル面ニ作用ス  
 ル應力ハ平衡スルニエ  $AO$  及  $O'B$  ナル面ニ作用スル應力ハ他ノ  
 面ニ作用スル應力ニ全ク關係ナク平衡スベキナリ。之ガ爲ニ  
 ハ面  $AO$  = 作用スル應力ノ合成ト面  $O'B$  = 作用スル應力ノ合成  
 トハ等大ニシテ方向相反シ且同一直線上ニアルヲ要ス。即チ  
 應力  $S_x$  ノ方向ハ  $XOX'$  = 並行ナルベキナリ。

如斯ニ一雙ノ應力アリテ各應力ガ他ノ應力ノ方向ニ並行ナ  
 ル面ニ作用スルトキハ此等ノ應力ヲ一雙ノ共軛應力 (A Pair of  
 Conjugate Stresses) ト謂フ。又夫等ノ應力ガ作用スル面ヲ共軛應力  
 面 (Planes of Conjugate Stresses) ト謂フ。

共軛應力ハ互ニ無關係ニ平衡ヲ保ツモノナレバ別々ニ考  
 ルヲ得ベク、此等ノ應力ハ同種類或ハ異種類即チ一雙ノ張力、一  
 雙ノ壓力又ハ張力ト壓力タルコトアルベシ。

一ツノ物體ニ三ツノ共軛應力ガ同時ニ作用スル場合ニハ各  
 應力ノ方向ハ他ノ二ツノ應力ガ働ク面ト交線ニ並行ナリ。例  
 ヘバ第 101 圖ニ於テ一雙ノ共軛應力面  $YOY'$  及  $XOX'$  ト或傾斜ヲナ  
 セル面ヲ働ク面トシ  $YOY'$  面ト  $XOX'$  面トノ交線ニ並行ナル應力ハ  
 他ノ二ツノ應力ノ各ト共軛ナリ。此場合ニ於テモ亦各面ニ作用

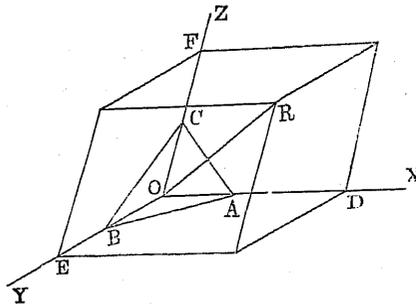
スル應力ノ大サ及其種類ハ互ニ關係ナキモノナリ。

71. 任意ノ方向ニ於ケル應力 (第一)三ツノ共軛應力ガ與ヘラレテ任意ノ第四ノ平面ニ働ク應力ヲ求ムルコト。

三ツノ共軛應力面ヲ XOY, YOZ, ZOX; 應力ノ方向ヲ OX, OY, OZ; 單位應力ヲ夫々  $S_x, S_y, S_z$  トス(第102圖)

第四ノ平面ニ並行ナル一ツノ面ト共軛應力面トニテ形成スル細微四面體 OABC ノ

第102圖



平衡ヲ考フルニ四ツノ三角面ニ作用スル應力ハ平衡スルニヨリ ABC 面ニ作用スル全應力ハ OBC, OCA, OAB ナル三面ニ作用スル全應力ノ合力ト等大ニシテ方向相反スベキナリ。

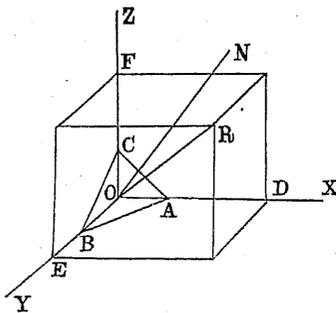
OD=面 OBC = 働ク全應力 =  $S_x$ (面積 OBC),

OE=面 OCA = 働ク全應力 =  $S_y$ (面積 OCA),

OF=面 OAB = 働ク全應力 =  $S_z$ (面積 OAB),

此等ノ値ヲ夫々 OX, OY, OZ 軸ニ沿ヒテ取リテ並行六面體 DEFR

第103圖



ヲ作レバ對角線 OR ハ第四ノ面 ABC = 働ク全應力ノ大サト方向トヲ表ハシ OR ナ面積 ABC ニテ除シタル商ハ其單位應力ナリ。

(第二)三ツノ正座標面ニ作用スル應力ガ與ヘラレテ任意ノ第四ノ平面ニ作用スル應力ヲ求ムルコト。

第103圖ニ於テ三ツノ應力面

XOY, YOZ, ZOX 及單位應力  $S_x, S_y, S_z, S_{xy}, S_{yz}, S_{zx}$  ガ與ヘラレテ第四ノ

平面ニ作用スル單位應力及其力向ヲ定メントス。今第四平面ニ引キタル垂直線 ON ガ OX, OY, OZ 軸トナス角ヲ夫々  $\alpha, \beta, \gamma$  トスレバ

$$\cos^2\alpha + \cos^2\beta + \cos^2\gamma = 1$$

ナリ。O 點ニ極接近シテ ON = 垂直 = ABC 面ヲ引ケバ之ガ第四ノ面トナルベキナリ。而シテ

面積 EOC = (面積 ABC)  $\cos\alpha$ , 面積 COA = (面積 ABC)  $\cos\beta$ ,

面積 AOB = (面積 ABC)  $\cos\gamma$ .

四面體 OABC ノ平衡ヲ考フルニ ABC 面ニ作用スル全應力ハ三ツノ面 EOC, COA, AOB = 作用スル全應力ノ合力ト等大ニシテ方向相反スベキナリ。第103圖ニ於テ

$$OD = S_x(\text{面積 EOC}) + S_{yz}(\text{面積 COA}) + S_{zx}(\text{面積 AOB}) \\ = (\text{面積 ABC})(S_x \cos\alpha + S_{yz} \cos\beta + S_{zx} \cos\gamma),$$

$$OE = S_y(\text{面積 COA}) + S_{xy}(\text{面積 EOC}) + S_{zy}(\text{面積 AOB}) \\ = (\text{面積 ABC})(S_y \cos\beta + S_{xy} \cos\alpha + S_{zy} \cos\gamma),$$

$$OF = S_z(\text{面積 AOB}) + S_{xz}(\text{面積 EOC}) + S_{yz}(\text{面積 COA}) \\ = (\text{面積 ABC})(S_z \cos\gamma + S_{xz} \cos\alpha + S_{yz} \cos\beta).$$

$$\text{合力 OR} = \sqrt{OD^2 + OE^2 + OF^2}.$$

$$\text{合力單位應力 } S = \frac{OR}{\text{面積 ABU}} = \frac{\sqrt{OD^2 + OE^2 + OF^2}}{\text{面積 ABC}}$$

$$= \sqrt{[(S_x \cos\alpha + S_{yz} \cos\beta + S_{zx} \cos\gamma)^2 + (S_y \cos\beta + S_{xy} \cos\alpha + S_{zy} \cos\gamma)^2 + (S_z \cos\gamma + S_{xz} \cos\alpha + S_{yz} \cos\beta)^2]}$$

$$= \sqrt{[S_x^2 \cos^2\alpha + S_y^2 \cos^2\beta + S_z^2 \cos^2\gamma + 2S_{xy} \cos\alpha \cos\beta + 2S_{yz} \cos\beta \cos\gamma + 2S_{zx} \cos\gamma \cos\alpha + 2S_{xy} S_{yz} \cos\alpha \cos\beta + 2S_{yz} S_{zx} \cos\beta \cos\gamma + 2S_{zx} S_{xy} \cos\gamma \cos\alpha]}$$

$$+ 2S_{xy} S_{yz} \cos\alpha \cos\beta + 2S_{yz} S_{zx} \cos\beta \cos\gamma + 2S_{zx} S_{xy} \cos\gamma \cos\alpha] \dots \dots \dots (87)$$

S ノ方向ハ OR ガ X, Y, Z 軸トナス角  $\alpha_r, \beta_r, \gamma_r$  = 依テ定ムル。而シテ

$$\cos \alpha_r = \frac{OD}{OR}, \quad \cos \beta_r = \frac{OE}{OR}, \quad \cos \gamma_r = \frac{OF}{OR}$$

OX, OY, OZ ナル方向ノSノ分應力ヲ夫々  $S_{nx}$ ,  $S_{ny}$ ,  $S_{nz}$  トスレバ

$$\left. \begin{aligned} \cos \alpha_r &= \frac{OD}{OR} = \frac{S_{nx}(\text{面積 } ABC)}{S(\text{面積 } ABC)} = \frac{S_{nx}}{S} \\ \cos \beta_r &= \frac{OE}{OR} = \frac{S_{ny}(\text{面積 } ABC)}{S(\text{面積 } ABC)} = \frac{S_{ny}}{S} \\ \cos \gamma_r &= \frac{OF}{OR} = \frac{S_{nz}(\text{面積 } ABC)}{S(\text{面積 } ABC)} = \frac{S_{nz}}{S} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (87a)$$

$$\left. \begin{aligned} S_{nx} &= S_x \cos \alpha + S_{xy} \cos \beta + S_{xz} \cos \gamma \\ S_{ny} &= S_y \cos \beta + S_{xy} \cos \alpha + S_{yz} \cos \gamma \\ S_{nz} &= S_z \cos \gamma + S_{xz} \cos \alpha + S_{yz} \cos \beta \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (87b)$$

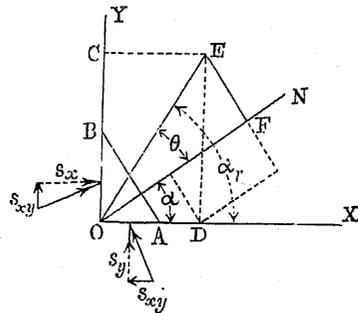
72. 一ツノ平面ニ並行ナル應力 之ハ前節ノ特別ノ場合ナリ。今應力ガ總テZ面ニ並行ナリトセバOZナル方向ノ應力ハ零ナルニエ

$$S_z = S_{xz} = S_{yz} = 0, \quad \beta = 90^\circ - \alpha.$$

(87) 式ヨリ

$$S = \sqrt{[S_x^2 \cos^2 \alpha + S_y^2 \sin^2 \alpha + S_{xy}^2 + 2(S_x + S_y)S_{xy} \cos \alpha \sin \alpha]} \dots\dots\dots (88)$$

第10i圖



トシ單位高サヲ有スル三角柱ノ平衡ヲ考フルニAO, LOナル面ニ作用スル全應力ノ合力ハ面ABニ作用スル全應力ト等大ニシテ方向相反スベシ。

之ハ又次ノ方法ニ依テ解クニトナ得。

第10i圖ノ如クX面ニ作用スル單位正應力ヲ  $S_x$ , Y面ニ作用スル單位正應力ヲ  $S_y$ , 單位應剪力ヲ  $S_{xy}$ , 應力ヲ求メントスル面ノ垂直線ヲON,  $\angle XON$ ヲ  $\alpha_r$ トス。ONニ垂直ニO點ニ極接近シテAB面ヲ引キ面ABOヲ底

面積OB=(面積AB)cos $\alpha$ , 面積OA=(面積AB)sin $\alpha$ .  
 $S_x$ (面積OB)=OB面ニ於テOXノ方向ニ働ク應力,  
 $S_{xy}$ (面積OB)=OB面ニ於テOYノ方向ニ働ク應力,  
 $S_y$ (面積OA)=OA面ニ於テOYノ方向ニ働ク應力,  
 $S_{xy}$ (面積OA)=OA面ニ於テOXノ方向ニ働ク應力.

依テ第10i圖ノ如クニ

$$OD = S_x(\text{面積 } OB) + S_{xy}(\text{面積 } OA) = \text{面積 } AB(S_x \cos \alpha + S_{xy} \sin \alpha),$$

$$OC = S_y(\text{面積 } OA) + S_{xy}(\text{面積 } OB) = \text{面積 } AB(S_y \sin \alpha + S_{xy} \cos \alpha)$$

ヲ取リテ合成スレバOEハAB面ニ作用スル全應力ヲ與ヘ(面積AB)ハ其單位應力ヲ與フベキナリ。

$$OE = \sqrt{OD^2 + OC^2} = (\text{面積 } AB) \sqrt{[S_x \cos \alpha + S_{xy} \sin \alpha]^2 + [S_y \sin \alpha + S_{xy} \cos \alpha]^2}$$

$$= (\text{面積 } AB) \sqrt{[S_x^2 \cos^2 \alpha + S_y^2 \sin^2 \alpha + 2S_{xy} \cos \alpha \sin \alpha (S_x + S_y) + S_{xy}^2]}$$

$$\text{單位應力 } S = \sqrt{[S_x^2 \cos^2 \alpha + S_y^2 \sin^2 \alpha + 2S_{xy}(S_x + S_y) \cos \alpha \sin \alpha + S_{xy}^2]}$$

$\angle XOE$ ヲ  $\alpha_r$ トスレバ

$$\cos \alpha_r = \frac{OD}{OE}, \quad \sin \alpha_r = \frac{OC}{OE}.$$

應力SヲAB面ニ垂直ナル單位分應力  $S_n$  ト之ニ並行ナル單位分應力  $S_t$  トニ分テバ

$$S_n = \frac{OF}{AB} = \frac{OD}{AB} \cos \alpha + \frac{OC}{AB} \sin \alpha$$

$$= S_x \cos^2 \alpha + S_y \sin^2 \alpha + 2S_{xy} \cos \alpha \sin \alpha \dots\dots\dots (88a)$$

$$S_t = \frac{EF}{AB} = \frac{OC}{AB} \cos \alpha - \frac{OD}{AB} \sin \alpha$$

$$= (S_y - S_x) \cos \alpha \sin \alpha + S_{xy} (\cos^2 \alpha - \sin^2 \alpha)$$

$$= \left( \frac{S_y - S_x}{2} \right) \sin 2\alpha + S_{xy} \cos 2\alpha \dots\dots\dots (83b)$$

AB面ニ作用スル應力ノ傾斜角  $\angle NOE$ ヲ  $\theta$ トスレバ

$$\tan \theta = \frac{EF}{OF} = \frac{S_t}{S_n}, \quad \theta = \tan^{-1} \frac{S_t}{S_n} \dots\dots\dots (88c)$$

73. 主要應力 (Principal Stresses) 一般ニ一ツノ面ニ作用スル應力ノ方向ガ其面ニ引キタル垂直線ト一致スル爲ニハ第71節

xy

$$\cos \alpha_r = \frac{S_{nx}}{S} = \cos \alpha, \quad \cos \beta_r = \frac{S_{ny}}{S} = \cos \beta, \quad \cos \gamma_r = \frac{S_{nz}}{S} = \cos \gamma.$$

又ハ  $S_{nx} = S \cdot \cos \alpha, \quad S_{ny} = S \cdot \cos \beta, \quad S_{nz} = S \cdot \cos \gamma.$

(87<sub>b</sub>) 式 = 此等ノ値ヲ代入スレバ

$$(S_x - S) \cos \alpha + S_{xy} \cos \beta + S_{xz} \cos \gamma = 0 \dots\dots\dots (a)$$

$$S_{xy} \cos \alpha + (S_y - S) \cos \beta + S_{yz} \cos \gamma = 0 \dots\dots\dots (b)$$

$$S_{xz} \cos \alpha + S_{yz} \cos \beta + (S_z - S) \cos \gamma = 0 \dots\dots\dots (c)$$

(b) 式ヨリ

$$\cos \beta = -\frac{S_{xy} \cos \alpha + S_{yz} \cos \gamma}{S_y - S}$$

(c) 式ヨリ

$$\cos \gamma = -\frac{S_{xz} \cos \alpha + S_{yz} \cos \beta}{S_z - S}$$

$$\therefore \cos \beta = -\frac{S_{xy} \cos \alpha}{S_y - S} + \frac{S_{yz} S_{xz} \cos \alpha + S_{yz}^2 \cos \beta}{(S_y - S)(S_z - S)}$$

即チ  $\cos \beta = \frac{S_{yz} S_{xz} - (S_z - S) S_{xy}}{(S_y - S)(S_z - S) - S_{xy}^2} \cos \alpha \dots\dots\dots (d)$

同様 = シテ

$$\cos \gamma = \frac{S_{yz} S_{xy} - (S_y - S) S_{xz}}{(S_z - S)(S_y - S) - S_{yz}^2} \cos \alpha \dots\dots\dots (e)$$

(d), (e) 兩式ノ値ヲ (a) 式 = 代入シテ各項ヲ  $\cos \alpha = \tau$  除セバ

$$(S_x - S)(S_y - S)(S_z - S) - S_{yz}^2(S_x - S) + S_{xy} S_{yz} S_{xz} - (S_z - S) S_{xy}^2 + S_{xz} S_{yz} S_{xy} - (S_y - S) S_{xz}^2 = 0,$$

即チ  $S^3 - (S_x + S_y + S_z) S^2 + (S_x S_y + S_y S_z + S_z S_x - S_{xy}^2 - S_{yz}^2 - S_{xz}^2) S - (2 S_{xy} S_{yz} S_{xz} + S_x S_y S_z - S_{yz}^2 S_x - S_{xz}^2 S_y - S_{xy}^2 S_z) = 0 \dots\dots\dots (39)$

是レ S ノ三次方程式ニシテ之ヲ解キテ S ノ三値ヲ得ベク其各ハ應力面ニ垂直ナルコトノ條件ヲ満スモノナリ。然ラバ變形物體内ニハ正應力ノミ作用スル三ツノ面アリテ三ツノ正應力ノ方向ハ共軛應力ノ性質ニ依リ互ニ直角ヲナスベシ。此ノ如キ共

軛正應力ヲ主要應力ト謂ヒ、夫等ノ方向ヲ應力ノ主要軸 (Principal Axes) ト謂フ。

今主要應力中ノ一ツノ單位應力ヲ S トセバ之ガ X, Y, Z 軸トナス角ノ關係ハ次ノ如シ。

(d), (e) 二式ヨリ

$$\frac{\cos \beta}{\cos \gamma} = \frac{S_{yz} S_{xz} - (S_z - S) S_{xy}}{S_{yz} S_{xy} - (S_y - S) S_{xz}} \dots\dots\dots (f)$$

(a), (b) 二式ヨリ

$$\cos \alpha = \frac{S_{yz} S_{xy} - (S_y - S) S_{xz}}{(S_x - S)(S_y - S) - S_{xz}^2} \cos \gamma,$$

$$\cos \beta = \frac{S_{xy} S_{xz} - (S_x - S) S_{yz}}{(S_x - S)(S_y - S) - S_{xy}^2} \cos \gamma,$$

$$\therefore \frac{\cos \alpha}{\cos \beta} = \frac{S_{yz} S_{xy} - (S_y - S) S_{xz}}{S_{xy} S_{xz} - (S_x - S) S_{yz}} \dots\dots\dots (g)$$

又 (a), (e) 二式ヨリ

$$\cos \alpha = \frac{S_{yz} S_{xz} - (S_z - S) S_{xy}}{(S_x - S)(S_z - S) - S_{xy}^2} \cos \beta,$$

$$\cos \gamma = \frac{S_{xy} S_{xz} - (S_x - S) S_{yz}}{(S_x - S)(S_z - S) - S_{xy}^2} \cos \beta.$$

$$\therefore \frac{\cos \alpha}{\cos \gamma} = \frac{S_{yz} S_{xz} - (S_z - S) S_{xy}}{S_{xy} S_{xz} - (S_x - S) S_{yz}} \dots\dots\dots (h)$$

(f), (g), (h) 三式ヨリ

$$\begin{aligned} \cos \alpha [S_{xy} S_{xz} - (S_x - S) S_{yz}] &= \cos \beta [S_{xy} S_{yz} - (S_y - S) S_{xz}] \\ &= \cos \gamma [S_{yz} S_{xz} - (S_z - S) S_{xy}] \dots\dots\dots (39a) \end{aligned}$$

74. 應力橢圓體 (Ellipsoid of Stresses) 茲ニ三ツノ主要應力ガ與ヘラレテ任意ノ方向ノ應力ヲ求メントス。

正座標軸 OX, OY, OZ ヲ應力ノ主要軸; 求ムル應力ノ働面ノ垂直線ガ OX, OY, OZ 軸トナス角ヲ夫々  $\alpha, \beta, \gamma$ ; 與ヘラレタル單位主要應力ヲ  $S_1, S_2, S_3$ ; 求ムル單位應力ヲ S トス。此場合ニハ應力面ハ總テ零ナルニエ第71節ニ於ケルト同様ニシテ次式ヲ得。

$$S_{nx} = S_1 \cos \alpha, \quad S_{ny} = S_2 \cos \beta, \quad S_{nz} = S_3 \cos \gamma,$$

$$S = \sqrt{S_{nx}^2 + S_{ny}^2 + S_{nz}^2} = \sqrt{S_1^2 \cos^2 \alpha + S_2^2 \cos^2 \beta + S_3^2 \cos^2 \gamma}.$$

S の方向が OX, OY, OZ 軸トナス角ヲ夫々  $\alpha_r, \beta_r, \gamma_r$  トスレバ

$$\cos\alpha_r = \frac{S_{nx}}{S}, \text{ 即チ } S_{nx} = S \cdot \cos\alpha_r,$$

$$\cos\beta_r = \frac{S_{ny}}{S}, \text{ 即チ } S_{ny} = S \cdot \cos\beta_r,$$

$$\cos\gamma_r = \frac{S_{nz}}{S} \text{ 即チ } S_{nz} = S \cdot \cos\gamma_r.$$

$$\therefore S \cdot \cos\alpha_r = S_1 \cdot \cos\alpha, \quad S \cdot \cos\beta_r = S_2 \cdot \cos\beta, \quad S \cdot \cos\gamma_r = S_3 \cdot \cos\gamma.$$

又ハ  $\frac{\cos\alpha}{S} = \frac{\cos\alpha_r}{S_1}, \quad \frac{\cos\beta}{S} = \frac{\cos\beta_r}{S_2}, \quad \frac{\cos\gamma}{S} = \frac{\cos\gamma_r}{S_3}.$

然ラバ  $\frac{\cos^2\alpha + \cos^2\beta + \cos^2\gamma}{S^2} = \frac{\cos^2\alpha_r}{S_1^2} + \frac{\cos^2\beta_r}{S_2^2} + \frac{\cos^2\gamma_r}{S_3^2}.$

$\cos^2\alpha + \cos^2\beta + \cos^2\gamma = 1$  ナルニエ

$$\frac{1}{S} = \sqrt{\frac{\cos^2\alpha_r}{S_1^2} + \frac{\cos^2\beta_r}{S_2^2} + \frac{\cos^2\gamma_r}{S_3^2}} \dots\dots\dots(90)$$

是レ  $S_1, S_2, S_3$  ナ半軸トセル楕圓體ノ方程式ニシテ S ハ任意ノ方向ノ直径ノ半分ヲ表ハス. 此ノ如クニ變形物體內ノ一點ニ於テ任意ノ方向ノ單位應力ハ楕圓體ノ半直径ニテ表ハサル、ガ故ニ此楕圓體ヲ應力楕圓體ト謂フ.

S ノ方向ト其應力面ノ垂直線トナス角  $\theta$  ハ次ノ三角公式ニ依テ知ルヲ得.

$$\begin{aligned} \cos\theta &= \cos\alpha \cdot \cos\alpha_r + \cos\beta \cdot \cos\beta_r + \cos\gamma \cdot \cos\gamma_r \\ &= S \left( \frac{\cos^2\alpha_r}{S_1} + \frac{\cos^2\beta_r}{S_2} + \frac{\cos^2\gamma_r}{S_3} \right) \\ &= S \left( \frac{\cos^2\alpha}{S^2} \cdot S_1 + \frac{\cos^2\beta}{S^2} \cdot S_2 + \frac{\cos^2\gamma}{S^2} \cdot S_3 \right) \\ &= \frac{1}{S} (S_1 \cos^2\alpha + S_2 \cos^2\beta + S_3 \cos^2\gamma) \dots\dots\dots(90a) \end{aligned}$$

S ノ種類ハ  $\cos\theta$  ノ符號ニ依テ定マルモノナリ.

75. 一ツノ平面ニ並行ナル主要應力 第72節第104圖ニ於テ與ヘラレタル面 AB = 正應力ノミ作用シ應剪力ガ零ナルコトアリ.

是レ AB 面 = 作用スル應力ノ方向 OE ト AB 面ノ垂直線トガ一致スルトキナリ. 此場合ニハ (88) 式ノ  $S_z$  ハ零ナリ. 即チ

$$\begin{aligned} S_z &= \left( \frac{S_y - S_x}{2} \right) \sin 2\alpha + S_{xy} \cdot \cos 2\alpha = 0, \\ \therefore \frac{\sin 2\alpha}{\cos 2\alpha} &= \frac{2S_{xy}}{S_x - S_y} = \tan 2\alpha \dots\dots\dots(91) \end{aligned}$$

此條件式ハ  $2\alpha$  及  $(2\alpha + 180^\circ)$  又ハ  $\alpha$  及  $(\alpha + 90^\circ)$  ナル二値ニテ満サル. 然ラバ應剪力ガ零ナルベキ平面ハ二ツアリテ此等ノ面ハ互ニ直角ヲナスベキナリ. 此ノ如キ二面ニ作用スル正應力ハ所謂主要應力ニシテ其働線ハ應力ノ主要軸ナリ.

(88) 式ノ S ノ値ヲ  $\alpha$  = 就テ微分シ之ヲ零ト置ケバ S ナ極大又ハ極小ニナスベキ  $\alpha$  ノ値ヲ得.

(88) 式ヨリ

$$\begin{aligned} \frac{d(S^2)}{d\alpha} &= -2S_x^2 \cdot \cos\alpha \cdot \sin\alpha + 2S_y^2 \cdot \sin\alpha \cdot \cos\alpha \\ &\quad + 2S_{xy}(S_x + S_y)(\cos^2\alpha - \sin^2\alpha) \\ &= 2(S_y^2 - S_x^2) \cos\alpha \cdot \sin\alpha + 2S_{xy}(S_x + S_y)(\cos^2\alpha - \sin^2\alpha) = 0, \\ \therefore \tan 2\alpha &= \frac{2S_{xy}}{S_x - S_y} \end{aligned}$$

是レ (91) 式ト全ク同一ナリ. 是ニ由テ見レバ主要應力ハ若ヘツツアル點ニ於ケル最大應力及最小應力ナリ. 而シテ孰レガ最大ナルカ最小ナルカハ第二次微分係數

$$\begin{aligned} \frac{d^2(S^2)}{d\alpha^2} &= 2(S_y^2 - S_x^2)(\cos^2\alpha - \sin^2\alpha) - 8S_{xy}(S_x + S_y)\cos\alpha \cdot \sin\alpha \\ &= \alpha \text{ ト } (\alpha + 90^\circ) \text{ トノ二値ヲ代入シ之ガ負ナルカ正ナルカニ依テ知ルヲ得.} \end{aligned}$$

76. 主要應力ノ決定  $\pi$  = 直角ヲナセル二平面ニ作用スル正應力  $S_x, S_y$  及應剪力  $S_{xy}$  ガ與ヘラレテ主要應力ヲ求メントス.

(91) 式ヨリ

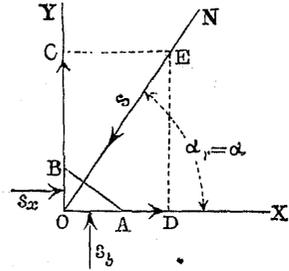
$$\tan 2\alpha = \frac{2S_{xy}}{S_x - S_y}, \quad 2\cos^2\alpha - 1 = \left( \frac{S_x - S_y}{S_x + S_y} \right) \cos\alpha \cdot \sin\alpha,$$



$$\therefore \left(\frac{x}{S_x}\right)^2 + \left(\frac{y}{S_y}\right)^2 = \cos^2\alpha + \sin^2\alpha = 1 \dots\dots\dots(93_0)$$

之ハ  $S_x, S_y$  ナ夫々短半軸,長半軸トセル楕圓(第103圖(b))ノ方程式

第106圖



ニシテ與ヘラレタル點ヲ含ム一平面ニ作用スル單位應力ハ楕圓ノ半直徑ニテ表ハサル、ガ故ニ之ヲ應力楕圓ト謂フ。

應力楕圓ハ應力楕圓體ノ特別ノ場合ニシテ(93\_0)式ハ又(90)式ヨリ求ムルコトヲ得。

特別ノ場合(第一)ニツノ主要應

力が等大ニシテ同性ナル場合(第106圖)

$$S = \sqrt{S_x^2 \cos^2\alpha + S_y^2 \sin^2\alpha} = S_x, \quad \cos\alpha_r = \frac{S_x \cos\alpha}{S} = \cos\alpha, \quad \sin\alpha_r = \sin\alpha.$$

是ニ由テ見レバ第三ノ面ABニ作用スル單位應力ハ與ヘラレタル單位主要應力ニ等シクシテAB面ニ垂直ナリ。即チ單位應力ハ總テ等大ニシテ方向ハ常ニ面ニ垂直ナリ。

(第二)ニツノ主要性力が等大ニシテ異性ナル場合 第107圖(a)

ノ如ク  $S_x = -S_y$  即チ  $S_x$  ナ應張力,  $S_y$  ナ應壓力トスレバ

$$S = S_x, \quad \cos\alpha_r = -\cos\alpha, \quad \sin\alpha_r = \sin\alpha.$$

$$\therefore \alpha_r = -\alpha.$$

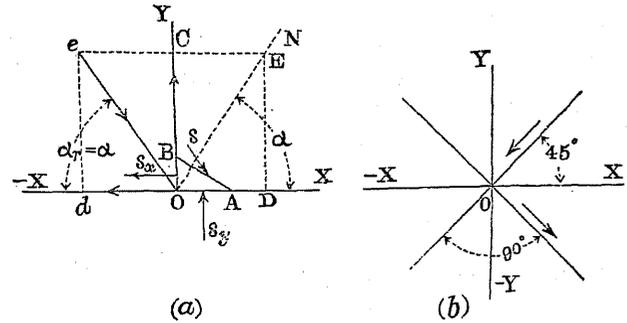
此ノ如クOX軸ト $\alpha$ ナル角ヲナセルONニ垂直ナルAB面ニ作用スル應力Sハ與ヘラレタル主要應力ト等大ナレドモONノ反對ノ側ニ於テOX軸ト $\alpha$ ナル角ヲナス。即チ應力Sノ傾斜角EOeハOY軸ニテ二等分セラル。

若シ $\angle dOe (= \angle OBA)$ ガ $\angle COe$ ヨリ小ナレバSハ $S_x$ ト同性ナルベク、 $\angle dOe$ ガ $\angle COe$ ヨリ大ナレバSハ $S_y$ ト同性ナルベキナリ。又Sノ方向Oeガ與ヘラレタル主要應力ト $45^\circ$ ノ傾斜ヲナストキ即チABニ並行ナルトキハSハ應剪力ナリ。

是ニ由テ見レバ互ニ直角ヲナセル一雙ノ平面ニ作用スル等

大ノ應張力ト應壓力( $S_x = -S_y$ )ハ與ヘラレタル面ト $45^\circ$ ノ傾斜ヲナシテ互ニ直角ヲナセル他ノ一雙ノ平面ニ作用スル等大ノ應剪力( $S = S_x = S_y$ )ニ等値ナリ(第107圖(b))

第107圖



一雙ノ主要應力が與ヘラレテ應剪力ノ最大ナルベキ面ノ位置ヲ知ルニハ(9')式ノ

$$S_t = (S_x - S_y) \cos\alpha \sin\alpha$$

ヲ最大ニナスベキ $\alpha$ ノ値ヲ求ムレバ可ナリ。此式ヲ $\alpha$ ニ就テ微分シタル微分係數ヲ零ト置ケバ次ノ値ヲ得。

$$\cos^2\alpha - \sin^2\alpha = 0, \quad \cos\alpha = \pm \sin\alpha. \quad \therefore \alpha = 45^\circ \text{ 又 } 135^\circ$$

別解法 (93)式ノSハ圖式解法ニ依テ容易ニ之ヲ見出スヲ得。今 $S_x, S_y$ ヲ共ニ單位應壓力且 $S_x < S_y$ トシ共ニ之ヲ正トスレバ

$$S_y = \frac{S_y + S_x}{2} + \frac{S_y - S_x}{2}, \quad S_x = \frac{S_y + S_x}{2} - \frac{S_y - S_x}{2}.$$

然ラバ一雙ノ主要應力  $S_x, S_y$  ハ等大且同性ナル一雙ノ應力  $\left(\frac{S_y + S_x}{2}\right), \left(\frac{S_y + S_x}{2}\right)$  ト等大ニシテ異性ナル一雙ノ應力  $\left(\frac{S_y - S_x}{2}\right), -\left(\frac{S_y - S_x}{2}\right)$  トヨリ成ルモノト見做スヲ得ル故 AB 面ニ作用スル合成應力ハ此等二雙ノ合成應力ヲ別々ニ見出シテ更ニ夫等ヲ合成スレバ可ナリ。

第一群ノ應力  $\left(\frac{S_y + S_x}{2}\right), \left(\frac{S_y + S_x}{2}\right)$  ノ合成單位應力ハ上記第一特

別ノ場合ノ所論ニ依リ  $(\frac{S_y + S_x}{2})$  ニシテ AB 面ニ垂直ナリ。又第二群ノ應力  $(\frac{S_y - S_x}{2})$ ,  $-(\frac{S_y - S_x}{2})$  ノ合成單位應力ハ第二特別ノ場合ノ所論ニ依リ  $(\frac{S_y - S_x}{2})$  ニシテ此方向ト AB 面ノ垂直線トノ間ノ角ハ OY 軸ニテ二等分セラル。依テ第105圖(b)ノ如ク AB 面ノ垂直線 ON 上ニ第一群ノ合成應力  $(\frac{S_y + S_x}{2})$  = 等シク OM ヲ取り次ニ  $\angle NMS$  = 等シク  $\angle SME$  ヲ定メテ第二群ノ合成應力  $(\frac{S_y - S_x}{2})$  = 等シク ME ヲ取り O ト E トヲ連結スレバ OE ハ明カニ求ムル合成應力ナリ。此解法ニ於テ ME ノ方向ヲ定ムルニハ次ノ如クスルヲ便トス。

M ヲ中心トシ MO ヲ半徑トセル圓弧ヲ畫キ之ガ OX, OY ヲ切ル點 P, Q ヲ連結スレバ POQ ハ半圓ナルガ故ニ三點 P, M, Q ハ一直線上ニアリテ PQ ハ圓ノ直徑ナリ。然レバ

$$\angle MOP = \angle MPO = \alpha$$

ナルニヨリ PQ 線ガ第二群ノ合成應力  $(\frac{S_y - S_x}{2})$  ノ方向ヲ表ハスニト明カナリ。

第105圖(b)ニ於テ

$$PE = PM + ME = \frac{S_y + S_x}{2} + \frac{S_y - S_x}{2} = S_y,$$

$$QE = MQ - ME = \frac{S_y + S_x}{2} - \frac{S_y - S_x}{2} = S_x,$$

$$\angle MOE = \theta = \text{求ムル應力 } S \text{ ノ傾斜角.}$$

若シ  $S_x, S_y$  ガ共ニ應張力ニシテ且  $S_x < S_y$  ナレバ共ニ之ヲ正トシ上記ノ如キニ群ニ分テ夫等ヲ合成スベシ(第108圖)。

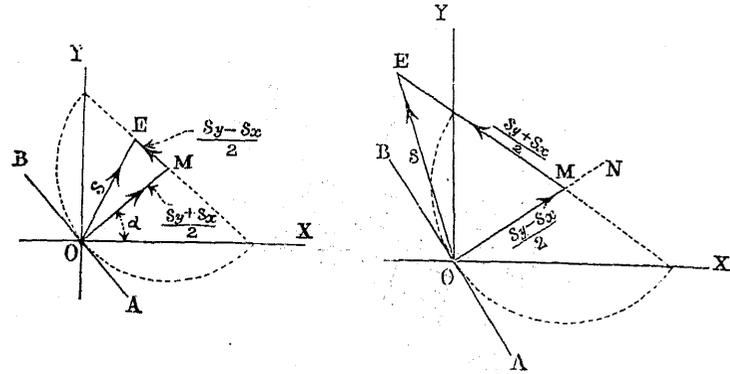
若シ  $S_x, S_y$  ガ不等且異性例ヘバ  $S_y$  ガ應張力,  $S_x$  ガ應壓力ニシテ  $S_x < S_y$  ナレバ  $S_y$  ヲ正トシ  $S_x$  ヲ負トシ次ノ如キニ群ニ分テ夫等ヲ合成スベシ(第109圖)。

$$S_y = \frac{S_y + (-S_x)}{2} + \frac{S_y - (-S_x)}{2} = \frac{S_y - S_x}{2} + \frac{S_y + S_x}{2},$$

$$S_x = \frac{S_y + (-S_x)}{2} - \frac{S_y - (-S_x)}{2} = \frac{S_y - S_x}{2} - \frac{S_y + S_x}{2}.$$

第108圖

第109圖



此場合ニハ  $OM < ME$  ニシテ

$$\text{第一群ノ合成應力} \dots\dots OM = \frac{S_y - S_x}{2},$$

$$\text{第二群ノ合成應力} \dots\dots ME = \frac{S_y + S_x}{2}.$$

次ニ最大傾斜角ヲ有スル應力ヲ知ルニハ  $\angle MOE$  ヲ最大ナラシムル  $\alpha$  ノ値ヲ定ムレバ可ナリ。第105圖(b)ニ於テ AB 面ノ位置ノ如何ニ拘ハラズ  $\triangle MEO$  ノ邊 OM ハ常ニ  $(\frac{S_y + S_x}{2})$ , ME ハ常ニ  $(\frac{S_y - S_x}{2})$  ニシテ長サ一定セリ。依テ M ヲ中心トシ ME ヲ半徑トセル圓ヲ畫キ O 點ヨリ此圓ニ切線ヲ引キテ其切點ヲ E トセバ OE ハ最大傾斜角ヲ有スル應力ヲ表ハスベシ。即チ  $\angle OEM = 90^\circ$  ノトキ應力 S ノ傾斜角  $\theta$  ハ最大ナリ。此値ヲ  $\phi$  トスレバ(第110圖)。

$$\left. \begin{aligned} \sin \phi &= \frac{S_y - S_x}{S_y + S_x}, & \phi &= \sin^{-1} \frac{S_y - S_x}{S_y + S_x} \end{aligned} \right\} \dots\dots (94)$$

之ヲ書換フレバ

$$\frac{S_x}{S_y} = \frac{1 - \sin \phi}{1 + \sin \phi}.$$

第110圖ニ於テ一雙ノ共軛應力ノ共通傾斜角  $\theta$  = 等シキ角ヲナシテ ORS ヲ引ケバ OR, OS ハ明カニ一雙ノ共軛應力ヲ表ハス。

此等ヲ  $S_r, S_s$  トスレバ



$$S^2 - S'^2 = 2 \left( \frac{S_y + S_x}{2} \right) (S \cos \theta - S' \cos \theta')$$

$$\frac{S_y + S_x}{2} = \frac{S^2 - S'^2}{2(S \cos \theta - S' \cos \theta')} \dots (c)$$

(c) 式ヨリ  $\frac{S_y + S_x}{2}$  ナ求ムレバ (a) 又ハ (b) 式ヨリ  $\frac{S_y - S_x}{2}$  ナ知ルヲ得。斯クシテ OM ト ME トヲ知レバ OM ノ値ヲ ON 上ニ取リテ  $\triangle OME$  ナ完結スベシ。次ニ  $\angle NME$  ノ二等分線 MS ナ引ケバ之ハ大ナル方ノ主要應力軸ニ並行ナルベキヲ以テ MS ニ並行ニ OY ナ引キ、OY ニ垂直ニ OX ナ引キ且 OY 上ニ

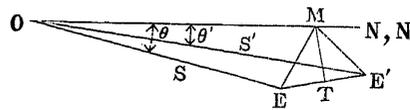
$$OG = S_y = OM + ME,$$

OX 上ニ

$$OF = S_x = OM - ME$$

ヲ取ルベシ。

第 112 圖



圖式解法 第 112 圖ノ如ク直線 ON ナ引キ  $\angle NOE = \theta$ 、 $\angle N'OE' = \theta'$ 、 $OE = S$ 、 $OE' = S'$  取リテ E ト E' トヲ連結シ

EE' 線ヲ垂直線 TM = テ二等分シテ ME、ME' ナ引ケバ

$$\frac{S_y + S_x}{2} = OM, \quad \frac{S_y - S_x}{2} = ME = ME'$$

$$\therefore S_x = OM - ME, \quad S_y = OM + ME.$$

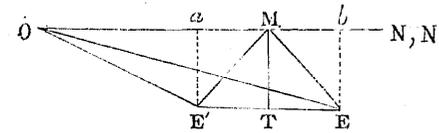
ON 及 ON' ガ OY 軸トナス角ハ夫々

$$90^\circ - \alpha = \frac{\angle NME}{2}, \quad 90^\circ - \alpha' = \frac{\angle N'ME'}{2}$$

第 112 圖ト第 105 圖 (b) トヲ比較考究スベシ。

特別ノ場合 與ヘラレタルニツノ面ガ互ニ直角ヲナス場合 此場合ニハ OE 及 OE' ノ接觸分應力ハ等シキユエ  $aE' = bE$  ナリ (第 113 圖)。從テ EE' ハ ON ニ並行ナリ。今  $Ob = S_n$ 、 $Oa = S'_n$ 、 $aE' = bE = S_x$  トスレバ

第 113 圖



$$\frac{S_y + S_x}{2} = OM = \frac{S_n + S'_n}{2},$$

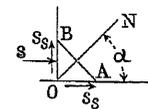
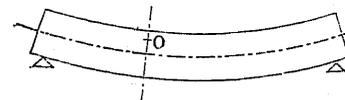
$$\frac{S_y - S_x}{2} = ME = \sqrt{Mb^2 + S_x^2} = \sqrt{\left(\frac{S_n - S'_n}{2}\right)^2 + S_x^2}$$

此等ノ關係式ヨリ  $S_x$  及  $S_y$  ナ定ムルヲ得。

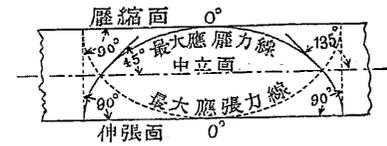
### 第十一章 彈性論及其他ノ應用

79. 桁ニ於ケル主要應力線 (Line of Principal Stress in Beams) 桁ノ一點ニ作用スル應力ハ水平直應力ト應剪力トニシテ此等ノ應力面ハ互ニ直角ヲナス。而シテ一ツノ面ニハ應剪力ノミ作用シ他ノ面ニハ直應力ト應剪力トガ作用スルニエ (第 114 圖 (a)) 主要應力ヲ見出スニハ (92<sub>b</sub>) 式ヲ用フレバ可ナリ。

第 114 圖



(a)

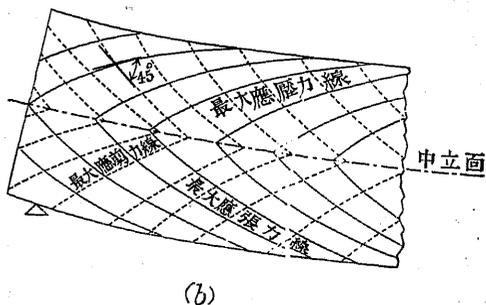
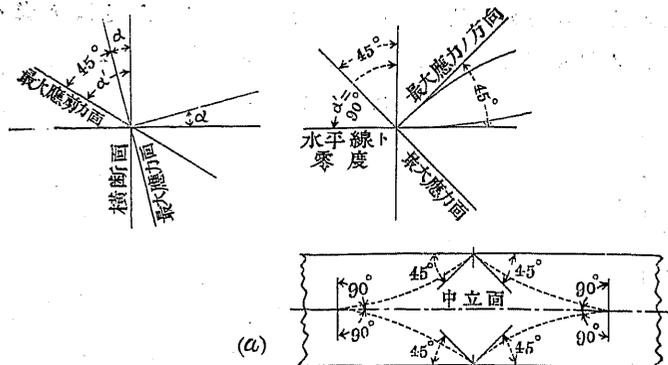


(b)

今單位水平直應力ヲ  $s$ ；單位應剪力ヲ  $s_s$  トス。但  $s$  ハ抵抗力率公式ヨリ求メ、 $s_s$  ハ第三章第 22 節 (18) 式ヨリ求ムベキナリ。主要應力ヲ  $s_1, s_2$  トスレバ



第 116 圖



次 = 最大單位應剪力ノ面ガ横斷面トナス角ヲ  $\alpha'$  トスレバ

$$\alpha' = \alpha + 45^\circ, \quad \tan 2\alpha' = \tan(2\alpha + 90^\circ) = -\cot 2\alpha = -\frac{s}{2s_s} \dots \dots \dots (b)$$

中立面 = 於テハ  $s = 0$  ナルニエ

$$\tan 2\alpha' = 0, \quad 2\alpha' = 0 \text{ 又ハ } 180^\circ, \quad \alpha' = 0 \text{ 又ハ } 90^\circ.$$

是 = 由テ見レバ最大應剪力線ハ中立面 = 切觸スベシ。又上下

ノ外面 = 於テハ  $s_s = 0$  ナルニエ

$$\tan 2\alpha' = \infty, \quad 2\alpha' = 90^\circ \text{ 又ハ } 270^\circ, \quad \alpha' = 45^\circ \text{ 又ハ } 135^\circ$$

= シテ此曲線ハ上下ノ外面 = 45°ノ傾斜ヲナスヲ知ルベシ。結局 (a), (b) 二式 = 依テ最大應力線ヲ描クヲ得。

例題 茲 = 斷面 9 吋  $\times$  20 吋, 長サ 20 呎ノ單桁アリ。之ガ 96 噸ハ

等布荷重ヲ受クルトキ左支端ヨリ 5 呎ノ距離ニアル斷面 = 於テ中立軸ヨリ上方 5 吋隔レル點ノ主要應力及其應力面ガ斷面トナス角ヲ求ム。

$$\text{彎曲率 } M = 48 \times 5 - \frac{96}{20} \times \frac{5^2}{2} = 180 \text{ 噸呎} = 2,160 \text{ 噸吋}$$

$$\frac{M.c}{I} = \frac{2,160 \times 10}{\frac{1}{12} \times 9 \times 20^3} = 3.6 \text{ 噸每平方吋}$$

= 與ヘラレタル斷面 = 於ケル縁維ノ單位應力。

$$s = 3.6 \times \frac{5}{10} = 1.8 \text{ 噸每平方吋}$$

= 與ヘラレタル點ノ水平單位應力。

第 117 圖

鉛直剪斷力  $V = 48 - 24 = 24$  噸,

$$\frac{24}{9 \times 20} = \frac{2}{15} \text{ 噸每平方吋}$$

= 斷面ノ平均單位應剪力,

$$\text{最大 } s_s = \frac{3}{2} \times \frac{2}{15} = 0.2 \text{ 噸每平方吋}.$$

考ヘツ、アル點 = 於ケル單位應剪力ハ

第三章第 22 節ヨリ

$$\frac{4 \times 0.2}{20^2} \left( \frac{20^2}{4} - 5^2 \right) = \frac{3}{4} \times 0.2 = 0.15 \text{ 噸每平方吋}$$

$$\therefore s_1 = \frac{1.8}{2} + \frac{1}{2} \sqrt{1.8^2 + 4 \times 0.15^2} = 0.9 + 0.91$$

= 1.81 噸每平方吋 (應壓力),

$$s_2 = 0.9 - 0.91 = -0.01 \text{ 噸每平方吋 (應張力)}$$

此場合 =  $s_1$  ハ與ヘラレタル點 = 於ケル最大主要應力ニシテ  $s_2$  ハ最小主要應力ナリ。

$$\text{又 } \tan 2\alpha = \frac{0.15 \times 2}{1.8} = 0.16, \quad 2\alpha = 9^\circ 28'$$

$$\therefore \alpha = 4^\circ 44'$$

之ハ最大主要應力ノ面ガ斷面トナス角ナリ。

80. 彎曲應力ト應扭力トノ合成眞應力 彎曲力ト扭力トノ

作用ヲ受ケル軸ノ外面ノ一點ニ働ク應力ハ次ノ如シ。

軸ノ軸線ニ垂直ナル  
 面ニ於テハ

(i) 彎曲率  $M_1$  ヨリ生ズル最大單位應力  $s$ .  
 (ii) 扭力率  $M_2$  ヨリ生ズル最大單位應剪力  $s_s$ .

軸線ノ方向ノ面ニ於テハ

(i)  $s = 0$ .  
 (ii) 單位應剪力  $s_s$ .

然ラバ桁ノ場合ト同様ニ

$$\text{最大 } s_1 = \frac{1}{2}s + \frac{1}{2}\sqrt{s^2 + 4s_s^2}$$

$$\text{最小 } s_2 = \frac{1}{2}s - \frac{1}{2}\sqrt{s^2 + 4s_s^2}$$

主要應力ノ方向ノ變形ヲ夫々  $\epsilon_1, \epsilon_2$  トスレバ

$$E\epsilon_1 = s_1 - \frac{s_s}{m}, \quad E\epsilon_2 = s_2 - \frac{s_s}{m}$$

$$\therefore \left. \begin{aligned} E\epsilon_1 &= \frac{m-1}{2m} \cdot s + \frac{m+1}{2m} \sqrt{s^2 + 4s_s^2} \\ E\epsilon_2 &= \frac{m-1}{2m} \cdot s - \frac{m+1}{2m} \sqrt{s^2 + 4s_s^2} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (96)$$

此式ニ於テ  $E\epsilon_1, E\epsilon_2$  ハ夫々眞ノ最大單位應力及眞ノ最小單位應力ナリ。  $m$  ナキニ取レバ

$$\text{眞ノ最大單位應力} = \frac{3}{8} \cdot s + \frac{5}{8} \sqrt{s^2 + 4s_s^2} \dots\dots\dots (96a)$$

但 
$$s = \frac{M_1 \cdot c}{I}, \quad s_s = \frac{M_2 \cdot c}{2I}$$

此等ノ値ヲ(96a)式ニ代入スレバ

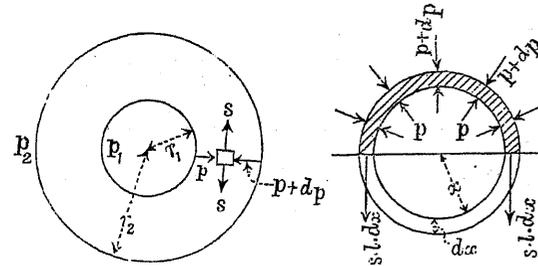
$$\text{眞ノ最大單位應力} = \frac{c}{I} \left[ \frac{3}{8} M_1 + \frac{5}{8} \sqrt{M_1^2 + M_2^2} \right] \dots\dots\dots (96b)$$

此式ノ括弧内ノ項ハ所謂等値彎曲率ナリ。

81. 厚キ中空圓筒(Thick Hollow Cylinders) 中空圓筒ノ壁ガ半徑ニ比シテ比較的厚ケレバ薄キ圓筒ニ於ケルガ如ク断面ノ應力配布ハ均等ナリト見做スヲ得ズ。圓筒ノ壁ガ壓力ヲ受ケテ變

形スルニエ其各層ハ壓力ノ一部分ニ耐ヘ殘リノ壓力ハ順次傳達セラル、ニ從ヒ次第ニ減少スルコト明カナリ。而シテ内壓ガ外壓ヨリモ大ナルカ又ハ小ナルカニ依テ各層ハ張力又ハ壓力ヲ受クベキナリ。水壓機(Hydraulic Press), 水力起重機(Hydraulic Jack)ノ圓筒ノ如キハ内面ニ於テ水壓ヲ受ケ、外面ニ於テ氣壓ヲ受クルモノナレドモ此場合ノ外壓ハ内壓ニ比シテ甚小ナルヲ以テ實用上之ヲ省略スルヲ得。

第 118 圖



第 118 圖ニ於テ  $r_1$  ハ内半徑;  $r_2$  ハ外半徑;  $p_1$  ハ内壓;  $p_2$  ハ外壓ナリトス。又中心ヨリ  $x$  ナル距離ニ於テ半徑ノ方向ノ單位應力ヲ  $p$  トシ圓周ニ沿ヒタル單位應張力ヲ  $s$  トス。

今圓筒ノ長サヲ  $l$  トシ、半徑  $x$  ニシテ細微ナル厚サ  $dx$  ナル圓筒ノ半分ノ平衡ヲ考フルニ内外兩面ニ働ク壓力ノ合力ハ直徑ヲ含ム平面ニ垂直ニ作用スル周張力(Hoop Tension)ニ等シカルベキナリ。即チ

$$(p \times 2x \cdot l) - (p + dp) \cdot 2(x + dx) \cdot l = 2 \cdot s \cdot l \cdot dx, \quad -p \cdot dx - x \cdot dp - dp \cdot dx = s \cdot dx$$

此式中  $dp \cdot dx$  ハ他ノ項ニ比シテ甚小ナルニエ之ヲ省略スルヲ得。依テ

$$s = -p - x \cdot \frac{dp}{dx} = -\frac{d}{dx}(p \cdot x) \dots\dots\dots (a)$$

横断面ハ壓力ヲ受ケタル後モ矢張平面ナリト見做スヲ得ベシ。然ラバ断面中ノ任意ノ點ニ於ケル軸ノ方向ノ變形  $\epsilon$  ハ常數

εシテ α = 無關係ナリ。從テ軸ノ方向ノ應力配布ハ均等ナリ。此單位應力ヲ s' トスレバ之ガ應張力ナル場合ニハ

$$\epsilon = \frac{1}{E} \left( s' - \frac{s-p}{m} \right).$$

ε, E, s' 及 m ハ常數ナルユエ (s-p) モ亦常數ナルベキナリ。即チ s-p=2a.....(b)

之ニ (a) 式ノ s ノ値ヲ代入スレバ

$$-2p - a \cdot \frac{dp}{dx} = 2a, \quad \frac{dp}{p+a} = -\frac{2dx}{a}.$$

之ヲ積分スレバ

$$\log(p+a) = -\log x^2 + (\text{積分常數}),$$
$$p+a = \frac{b}{x^2}, \quad p = \frac{b}{x^2} - a.....(c)$$

此ニ於テ a, b ハ常數ニシテ與ヘラレタル條件ニ依テ定ムベキモノナリ。

(b), (c) 二式ヨリ

$$s = \frac{b}{x^2} + a.....(d)$$

x=r<sub>1</sub> ナレバ p=p<sub>1</sub>, x=r<sub>2</sub> ナレバ p=p<sub>2</sub> ナルユエ (c) 式ヨリ

$$b = \frac{r_2^2 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} (p_1 - p_2), \quad a = \frac{p_1 r_1^2 - p_2 r_2^2}{r_2^2 - r_1^2}$$

此値ヲ (c), (d) 二式ニ代入スレバ

$$p = \frac{r_2^2 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} \cdot \frac{p_1 - p_2}{x^2} - \frac{p_1 r_1^2 - p_2 r_2^2}{r_2^2 - r_1^2},$$
$$s = \frac{r_2^2 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} \cdot \frac{p_1 - p_2}{x^2} + \frac{p_1 r_1^2 - p_2 r_2^2}{r_2^2 - r_1^2}.....(97)$$

之ヲラモめ氏 (Lamé) 公式ト謂フ。

若シ p<sub>2</sub>=0 ナレバ

$$p = \frac{r_2^2 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} \cdot \frac{p_1}{x^2} - \frac{p_1 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} = \frac{p_1 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} \left( \frac{r_2^2}{x^2} - 1 \right),$$
$$s = \frac{p_1 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} \left( \frac{r_2^2}{x^2} + 1 \right).....(97a)$$

是ニ由テ見レバ α ガ小ナル程 s ハ大ナルユエ内面 (x=r<sub>1</sub>) ニ於ケル周張力ガ最大單位應力ニシテ其値ハ (97) 式ヨリ

$$\left. \begin{aligned} \text{最大 } s_1 &= \frac{r_2^2}{r_2^2 - r_1^2} (p_1 - p_2) + \frac{p_1 r_1^2 - p_2 r_2^2}{r_2^2 - r_1^2} \\ p_2 &= 0 \text{ ナルトキハ} \\ \text{最大 } s_1 &= p_1 \cdot \frac{r_2^2 + r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} \end{aligned} \right\}.....(97a)$$

軸ノ方向ノ應力 s' 及 p<sub>2</sub> 共ニ零ナルトキハ s<sub>1</sub> ノ方向ノ最大變形ハ次ノ如シ。

$$\epsilon_1 = \frac{s_1}{E} + \frac{p_1}{m \cdot E} = \frac{p_1}{E} \left( \frac{r_2^2 + r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} + \frac{1}{m} \right),$$
$$E \cdot \epsilon_1 = p_1 \left( \frac{r_2^2 + r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} + \frac{1}{m} \right) = p_1 \left[ \frac{r_2^2(m+1) + r_1^2(m-1)}{m(r_2^2 - r_1^2)} \right].....(97b)$$

此應力 E·ε<sub>1</sub> ハ (97b) 式ガ與フル s<sub>1</sub> ヨリモ大ナリ。mヲ4ニ取レバ

$$E \epsilon_1 = p_1 \cdot \frac{5}{4} \cdot \frac{r_2^2 + \frac{3}{4} r_1^2}{r_2^2 - r_1^2}.....(97c)$$

次ニ圓壩ノ端面ガ内壓力 πr<sub>1</sub><sup>2</sup>·p<sub>1</sub> ナ受クルトキハ應張力 s' ハ (p<sub>1</sub> ·  $\frac{r_1^2}{r_2^2 - r_1^2}$ ) ニシテ此場合ニ内面ニ於テハ

$$\left. \begin{aligned} \epsilon_1 &= \frac{s_1}{E} - \frac{s' - p_1}{m \cdot E} \\ E \cdot \epsilon_1 &= p_1 \left[ \frac{r_2^2(m+1) + r_1^2(m-2)}{m(r_2^2 - r_1^2)} \right] \end{aligned} \right\}.....(97d)$$

此應力 E·ε<sub>1</sub> ハ (97d) ガ與フル E·ε<sub>1</sub> ヨリモ小ナリ。

若シ p<sub>2</sub> ノニ作用シ p<sub>1</sub> ガ零ナレバ

$$b = -\frac{r_2^2 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} p_2, \quad a = -\frac{r_2^2}{r_2^2 - r_1^2} p_2.$$

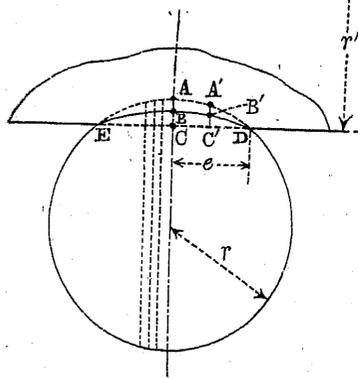
$$\therefore p = -\frac{r_2^2 r_1^2}{r_2^2 - r_1^2} \cdot \frac{p_2}{x^2} + \frac{r_2^2}{r_2^2 - r_1^2} p_2 = p_2 \cdot \frac{r_2^2}{r_2^2 - r_1^2} \left( 1 - \frac{r_1^2}{x^2} \right),$$
$$s = -p_2 \cdot \frac{r_2^2}{r_2^2 - r_1^2} \left( 1 + \frac{r_1^2}{x^2} \right).....(97e)$$

此場合ノ s ハ應張力ニシテ其最大値ハ次ノ如シ。

$$\text{最大 } s = \left[ -p_2 \frac{r_2^2}{r_2^2 - r_1^2} \left( 1 + \frac{r_1^2}{2a^2} \right) \right]_{x=r_1} = -\frac{2p_2 r_2^2}{r_2^2 - r_1^2}$$

82. 圓輾子ノ抵抗力 (Resistance of Solid Rollers) 今圓輾子ニテ荷重ヲ上方ヨリ下方ニ傳フル場合ヲ考フ。第119圖ノ如ク輾子ハ \$dz\$ ナル細微ノ厚サヲ有シ軸ニ並行ナル鉛直片ノ集合ヨリ成リ且此等ハ互ニ獨立ニ働クモノト假定ス。

第119圖



材料ノ彈性係數ヲ \$E\$; 輾子ノ上方ニアル材料ノ彈性係數ヲ \$E'\$; 輾子ノ半徑ヲ \$r\$; 輾子ノ上方ニ於ケル材ノ厚サヲ \$r'\$; \$A\$ 點ニ於ケル單位應壓力ヲ \$p\$; 他ノ點 \$A'\$ ニ於ケル單位應壓力ヲ \$p'\$; 輾子ガ單位ノ長サニ付支持スル全荷重ヲ \$P\$; \$A\$ ナ原點トシテ水平ニ測リタル距離ヲ \$x\$; 輾子ト上方ニ於ケル材トノ變形ノ和 \$AC\$ ナ \$e\$; \$DC\$ ナル長サヲ \$e'\$

ス。然ラバ

$$AB = \frac{p \cdot r}{E}, \quad A'B' = \frac{p' \cdot r}{E}, \quad BC = \frac{p \cdot r'}{E'}, \quad B'C' = \frac{p' \cdot r'}{E'}$$

$$e = AC = AB + BC = p \left( \frac{r}{E} + \frac{r'}{E'} \right) \dots (a)$$

$$A'C' = A'B' + B'C' = p' \left( \frac{r}{E} + \frac{r'}{E'} \right) \dots (b)$$

(b) 式ヲ (a) 式ヨリ除セバ

$$p' = A'C' \cdot \frac{p}{e}$$

$$\therefore P = \int_{-e}^{+e} p' \cdot dx = \frac{p}{e} \int_{-e}^{+e} A'C' \cdot dx$$

曲線 \$DAE\$ ナ拋物線ト見做スモ之ニ依テ生ズル誤差ハ小ナルニ

$$\int_{-e}^{+e} A'C' \cdot dx = \frac{4}{3} \cdot p \cdot e$$

然ラバ

$$P = \frac{4}{3} \cdot p \cdot e$$

而シテ

$$e = \sqrt{2r \cdot \epsilon - \epsilon^2} = \sqrt{2r \cdot \epsilon} = \sqrt{2r \cdot p \left( \frac{r}{E} + \frac{r'}{E'} \right)}$$

$$\therefore P = \frac{4}{3} \sqrt{2p^3 \cdot r \left( \frac{r}{E} + \frac{r'}{E'} \right)} \dots (98)$$

\$r=r'\$ ナラバ

$$P = \frac{4}{3} \cdot r \sqrt{2p^3 \left( \frac{E+E'}{E \cdot E'} \right)}$$

輾子ノ長サヲ \$l\$ トシ全抵抗力ヲ \$R\$ トスレバ

$$R = P \cdot l = \frac{4}{3} \cdot l \sqrt{2p^3 \cdot r \left( \frac{r}{E} + \frac{r'}{E'} \right)} \dots (98a)$$

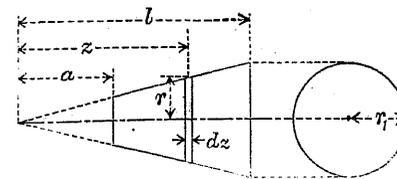
\$r=r'\$ ナラバ

$$R = P \cdot l = \frac{4}{3} \cdot r \cdot l \sqrt{2p^3 \left( \frac{E+E'}{E \cdot E'} \right)}$$

此式ガ與フル \$R\$ ノ値ハ眞值ナラザレドモ諸構造物ニ使用セラヌ、輾子ノ設計ニ對シ満足ナル結果ヲ與フルモノナリ。例ヘバ鋼輾子ノ作用強度ヲ \$p=15,000\$ 噸毎平方吋, \$E=E'=30,000,000\$ 噸毎平方吋ニ取レバ \$r=r'\$ ナル場合ニハ (98) 式ヨリ

$$P = \frac{8}{3} \cdot r \sqrt{\frac{p^3}{E}} = 900 \cdot r$$

第120圖



第120圖ニ示セルハ錐形輾子ニシテ圓錐ノ頂點ヨリ或斷面迄ノ距離ヲ \$z\$ トス。\$dz\$ ナ長サトセル錐形輾子ノ一部分ヲ考フルニ

$$r = \frac{z}{l} \cdot r_1$$

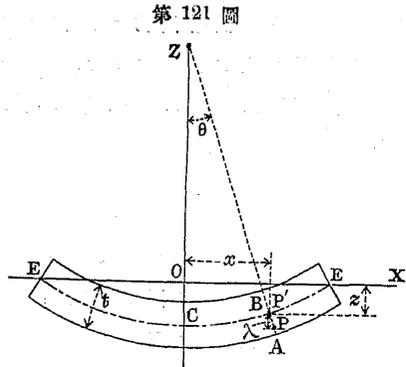
ナルニ \$r\_1=r'\$ ナル場合ニハ此部分ニテ支持スル荷重ハ (98a) 式ヨリ

$$dR = \frac{4}{3} \frac{r_1}{l} \sqrt{2p^2 \left( \frac{E+E'}{E \cdot E'} \right)} z \cdot dz$$

$$\therefore R = \int_a^l dR = \frac{4}{3} \frac{l^2 - a^2}{2l} r_1 \sqrt{2p^2 \left( \frac{E+E'}{E \cdot E'} \right)} \dots (90)$$

83. 平板ノ強サ (Strength of Flat Plates) 周邊ニテ支ヘラレ又ハ固定セラレタル平板ガ板面ニ垂直ニ外力ヲ受クルトキハ、單板ニ於ケルト異ナリ、彎曲ハ板ニ垂直ナル各面ニ於テ起ルベシ。以下述ブル所ノ平板強度論ハ、グラホフ氏 (Grashof) ノ理論ニ基クモノナリ。

(I) 圓板 平板ノ中央層ニ於テ其中心 O ヲ通シテ正座標軸 OX, OY ヲ假定シ之ニ直角ニ OZ 軸ヲ取り下方ニ測リタル Z ヲ正トス。然ラバ平板ガ荷重ヲ受ケタル後ノ中央層中ノ一點 P' ノ正座標ハ x, y, z ナリ。又 XZ 面中ノ一點 P ノ位置ハ横距 x ト中央層ヨリ此點迄ノ距離 λ トニテ定メリ、中央層ノ子午曲線 EE' (Meridian Curve) ハ正座標 x, z ニ依テ定メル。



$$s_x = \frac{m \cdot E}{m+1} \left( \epsilon_x + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} \right), \quad s_y = \frac{m \cdot E}{m+1} \left( \epsilon_y + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} \right),$$

$$s_z = \frac{m \cdot E}{m+1} \left( \epsilon_z + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} \right).$$

板ノ厚サ t ガ半徑 r ニ比シテ小ナルトキハ  $s_x$  ハ  $s_{xx}$  及  $s_{yy}$  ニ比較シテ省略シ得ル程ニ小ナルヲ以テ  $s_x$  ヲ零ト置ケバ

今與ヘラレタル點 P' 就テ X 軸ノ方向ノ單位應力ヲ  $s_x$ 、變形ヲ  $\epsilon_x$ ；Y 軸ノ方向ノ單位應力即チ單位周應力 (Circumferential Unit-Stress) ヲ  $s_y$ 、變形ヲ  $\epsilon_y$ ；Z 軸ノ方向ノ單位應力ヲ  $s_z$ 、變形ヲ  $\epsilon_z$  トス。然ルトキハ第十章第 69 節 (86) 式ヨリ

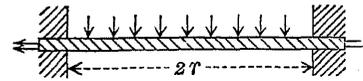
$$\epsilon_x + \frac{\epsilon_x + \epsilon_y + \epsilon_z}{m-2} = 0, \quad \epsilon_x = -\frac{\epsilon_x + \epsilon_y}{m-1}$$

$$\therefore \left. \begin{aligned} s_x &= \frac{m \cdot E}{m^2 - 1} (m \cdot \epsilon_x + \epsilon_y) \\ s_y &= \frac{m \cdot E}{m^2 - 1} (\epsilon_x + m \cdot \epsilon_y) \end{aligned} \right\} \dots (a)$$

中央層上ニ於テ Z 軸ヨリ x ナル距離ニアル點 P' = 就テ X 軸ト Y 軸トノ方向ノ變形ヲ夫々  $\epsilon'_x, \epsilon'_y$ ；子午曲線 EE' ノ曲度半徑ヲ  $\rho$ ；紙面ニ垂直ニシテ且 BZ ヲ含ム平面内ニ於テ、P 點ヲ含ム曲面ノ曲度半徑ヲ  $\rho'$  トス。若シ中央層ニ働ク應力ナケレバ中央層ヨリ λ ナル距離ニ於ケル層ノ變形ハ桁ノ普通彎曲理論ニ於ケルト同様ニ

$$\epsilon_x = \pm \frac{\lambda}{\rho}, \quad \epsilon_y = \pm \frac{\lambda}{\rho'}$$

第 122 圖



第 122 圖ノ如ク周邊ニテ固定セラレ從ツテ中央層ガ應力ノ作用ヲ受ケ  $\epsilon'_x, \epsilon'_y$  ナル變形ヲ生ジタリトセバ一般ニ

$$\epsilon_x = \epsilon'_x + \frac{\lambda}{\rho}, \quad \epsilon_y = \epsilon'_y + \frac{\lambda}{\rho'}$$

同シテ

$$\frac{1}{\rho} = -\frac{d^2 z}{dx^2}, \quad \rho' = \frac{x}{\sin \theta} = \frac{x}{\tan \theta} = \frac{x}{-dz/dx}, \quad \frac{1}{\rho'} = -\frac{1}{x} \frac{dz}{dx}$$

$$\therefore \left. \begin{aligned} \epsilon_x &= \epsilon'_x - \lambda \frac{d^2 z}{dx^2} \\ \epsilon_y &= \epsilon'_y - \frac{\lambda}{x} \frac{dz}{dx} \end{aligned} \right\} \dots (b)$$

此値ヲ (a) 式ニ代入スレバ

$$\left. \begin{aligned} s_x &= \frac{m \cdot E}{m^2 - 1} \left[ m \cdot \epsilon'_x + \epsilon'_y - \lambda \left( m \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} \right) \right] \\ s_y &= \frac{m \cdot E}{m^2 - 1} \left[ \epsilon'_x + m \cdot \epsilon'_y - \lambda \left( \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{m}{x} \frac{dz}{dx} \right) \right] \end{aligned} \right\} \dots (c)$$

平板ノ周邊=垂直=且均等=pナル單位張力ガ作用スルトキ、中央層中ノP'點ニ於テ、pヨリ生ズル應力 $s_x'$ 、 $s_y'$ ヲ知ラントセバ(c)式中ノλヲ零ト置クベシ。即チ

$$s_x' = \frac{m \cdot E}{m^2 - 1} [m \cdot \epsilon_x' + \epsilon_y'] = p, \quad s_y' = \frac{m \cdot E}{m^2 - 1} [\epsilon_x' + m \cdot \epsilon_y'] = p$$

$$\epsilon_x' = \epsilon_y' = \frac{p(m-1)}{m \cdot E} \dots \dots \dots (d)$$

之ヲ(b)式ニ代入スレバ

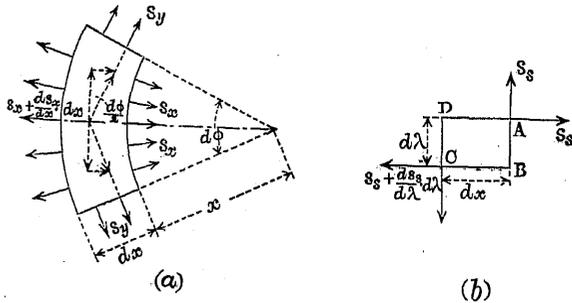
$$\epsilon_x = \frac{p(m-1)}{m \cdot E} - \lambda \cdot \frac{d^2 z}{dx^2}, \quad \epsilon_y = \frac{p(m-1)}{m \cdot E} - \frac{\lambda}{x} \frac{dz}{dx}$$

(d)式ノ値ヲ(c)式ニ代入スレバ

$$\left. \begin{aligned} s_x &= p - \frac{m \cdot E \cdot \lambda}{m^2 - 1} \left[ m \cdot \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} \right] \\ s_y &= p - \frac{m \cdot E \cdot \lambda}{m^2 - 1} \left[ \frac{d^2 z}{dx^2} + m \cdot \frac{dz}{dx} \right] \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots (e)$$

此式ハ考ヘツ、アル點ノ應力ヲ其點ノ正座標ノ項ニテ表ハスモノナリ。

第123圖



今第123圖ノ如ク $d\phi$ ナル細微角ヲナセルニツノ鉛直子午面トキ $x$ 及 $x+dx$ ヲ半徑トセル圓構面トニテ界サレタル板ノ細微部分ノ平衡ヲ考フ。(a)圖ハ板ノ中立面ヨリ下方ニ於ケル水平断面ヲ表ハスモノニシテハ $s_x$ 、 $s_y$ ハ共ニ應張力ナリ(中立面ヨリ上方即チλガ負ナルトキハ $s_x$ 、 $s_y$ ハ共ニ應壓力ナリ)。此細微部分ガ

平衡=アレバ次ノ條件ガ成立スベシ。

$$s_x d\phi \cdot d\lambda + 2 \cdot s_y \sin \frac{d\phi}{2} \cdot d\lambda \cdot dx + s_x \left( x + \frac{dx}{2} \right) d\phi \cdot dx - \left( s_x + \frac{ds_x}{dx} \cdot dx \right) \left( x + dx \right) d\phi \cdot d\lambda - \left( s_y + \frac{ds_y}{d\lambda} \cdot d\lambda \right) \left( x + \frac{dx}{2} \right) d\phi \cdot dx = 0$$

此式中 $ds_x \cdot d\lambda \cdot dx$ 及 $\frac{1}{2} ds_y \cdot dx^2$ ハ他項ニ比シ省略シ得ルガ故ニ

$$s_y - s_x - x \cdot \frac{ds_x}{dx} - \lambda \cdot \frac{ds_y}{d\lambda} = 0,$$

$$\frac{ds_x}{d\lambda} = \frac{s_y}{x} - \frac{1}{x} \left( s_x + x \cdot \frac{ds_x}{dx} \right) = \frac{s_y}{x} - \frac{1}{x} \frac{d(x \cdot s_x)}{dx}$$

之ニ(c)式ノ $s_x$ 、 $s_y$ ノ値ヲ代入スレバ

$$\frac{ds_x}{d\lambda} = \frac{1}{x} \left[ p - \frac{m \cdot E \cdot \lambda}{m^2 - 1} \left( \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{m}{x} \frac{dz}{dx} \right) - p + \frac{m \cdot E \cdot \lambda}{m^2 - 1} \left( m \cdot \frac{d^2 z}{dx^2} + m \cdot x \cdot \frac{d^2 z}{dx^3} + \frac{d^2 z}{dx^2} \right) \right]$$

$$\frac{ds_x}{d\lambda} = \frac{m^2 \cdot E \cdot \lambda}{m^2 - 1} \left[ \frac{dz}{dx^3} + \frac{1}{x} \frac{d^2 z}{dx^2} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} \right]$$

括弧内ノ量ハλノ函數ニアラザルニエ上式ヲ積分スレバ

$$s_x = \frac{m^2 \cdot E \cdot \lambda^2}{2(m^2 - 1)} \left[ \frac{d^2 z}{dx^3} + \frac{1}{x} \frac{d^2 z}{dx^2} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} \right] + C$$

板ノ上面又ハ下面即チ $\lambda = \pm \frac{t}{2}$ ニ對シテハ應剪力ハ零トナルニエ

$$C = -\frac{m^2 \cdot E \cdot t^2}{8(m^2 - 1)} \left[ \frac{d^2 z}{dx^3} + \frac{1}{x} \frac{d^2 z}{dx^2} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} \right]$$

$$\therefore s_x = -\frac{m^2 \cdot E \cdot (t^2 - 4\lambda^2)}{8(m^2 - 1)} \left[ \frac{d^2 z}{dx^3} + \frac{1}{x} \frac{d^2 z}{dx^2} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} \right] \dots \dots \dots (f)$$

之ハ中央層ヨリλナル距離ニアル一點(x, z)ニ於ケル單位應剪力ニシテ之ハ又該點ヲ含ム鉛直平面ニ沿ヒテ作用スル單位應剪力ナリ。(f)式ノ負ノ符號ハ第123圖(b)ニ記シタル應剪力ノ方向ガ反對ニシテ直角A, Oハ鈍角ニ變ズルコトヲ表ハスモノナリ。

茲ニ平板ガ中心ニ於テWナル荷重並ニ單位面積ニ付wナル等布荷重ヲ受クル場合ヲ考フルニ

板ノ中心ヨリ  $x$  ナル距離ニ於ケル断面(圓錐面)ノ剪斷力  
 $= \pi x^2 \cdot w + W$ .

之ハ  $x$  ナ半径トセル圓板ノ部分ヲ他部分ヨリ剪斷セントスル  
 作用ヲナスモノニシテ之ニ抵抗シテ平衡ヲ保ツモノハ其断面  
 = 作用スル全應剪力ナリ.

$$\therefore \int_{-\frac{t}{2}}^{+\frac{t}{2}} s_r \cdot 2\pi x \, d\lambda = \pi x^2 \cdot w + W, \quad \int_{-\frac{t}{2}}^{+\frac{t}{2}} s_r \, d\lambda = \frac{1}{2} \left( w \cdot x + \frac{W}{\pi x} \right).$$

之 = (f) 式ノ  $s_r$  ノ數値ヲ代入スレバ

$$\frac{m^2 \cdot E}{8(m^2-1)} \left[ \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} \right] \int_{-\frac{t}{2}}^{+\frac{t}{2}} (t^2 - 4\lambda^2) \, d\lambda = \frac{1}{2} \left( w \cdot x + \frac{W}{\pi x} \right),$$

$$\frac{m^2 \cdot E}{8(m^2-1)} \left[ \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} \right] \left[ \left( \frac{t}{2} t^2 + \frac{t}{2} \cdot t^2 \right) - \left( \frac{4}{3} \cdot \frac{t^3}{8} + \frac{4}{3} \cdot \frac{t^3}{8} \right) \right] = \frac{1}{2} \left( w \cdot x + \frac{W}{\pi x} \right),$$

$$\frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} = \frac{6(m-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \left( w \cdot x + \frac{W}{\pi x} \right),$$

$$\therefore s_r = \frac{m^2 \cdot E (t^2 - 4\lambda^2)}{8(m^2-1)} \times \left\{ \frac{6(m-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \left( w \cdot x + \frac{W}{\pi x} \right) \right\}$$

$$= \frac{3}{4} \cdot \frac{t^2 - 4\lambda^2}{t^3} \left( w \cdot x + \frac{W}{\pi x} \right) \dots \dots \dots (g)$$

是レ平板ノ任意ノ點ニ於ケル單位應剪力ナリ。而シテ (g) 式ガ表ハス如ク  $W > 0$  = シテ且平板ガ完全 = 弾性的ノモノナラバ板ノ中心點 ( $x=0$ ) = 於ケル  $s_r$  ハ無窮大ナルベキナリ。尤モ實際ニハ荷重ハ眞ノ一點ニ作用スル = アラズ多少ノ面積上ニ作用スルモノナルユエ事實上中心點ニ於ケル  $s_r$  ハ無窮大 = ナルコトナシ。

次ニ平板ノ子午線ノ方程式ヲ求メントス。

$$\frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} - \frac{1}{x^2} \frac{dz}{dx} = \frac{d}{dx} \left( \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} \right) = \frac{6(m-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \left( w \cdot x + \frac{W}{\pi x} \right),$$

$$\frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{dz}{dx} = \frac{6(m-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{x^2}{2} \cdot w + \frac{6(m-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \log_e x + C_1.$$

$$x \cdot \frac{d^2 z}{dx^2} + \frac{dz}{dx} = \frac{d}{dx} \left( x \cdot \frac{dz}{dx} \right) = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{x^3}{2} \cdot w + \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot x \cdot \log_e x + C_1 \cdot x,$$

$$x \cdot \frac{dz}{dx} = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{x^4}{8} \cdot w + \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \frac{x^2}{2} \cdot \log_e x - \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \frac{x^2}{4} + \frac{C_1 \cdot x^2}{2} + C_2,$$

$$\frac{dz}{dx} = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{x^3}{8} \cdot w + \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \frac{x}{2} \cdot \log_e x - \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \frac{x}{4} + \frac{C_1 \cdot x}{2} + \frac{C_2}{x},$$

$$\therefore z = \int dz = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{x^4}{32} \cdot w + \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{2\pi} \left[ \log_e x - \frac{1}{2} \right] \frac{x^2}{2} - \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \frac{x^2}{8} + \frac{C_1 \cdot x^2}{4} + C_2 \cdot \log_e x + C_3.$$

即チ

$$z = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{x^4}{32} + \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \frac{x^2}{4} (\log_e x - 1) + \frac{C_1 \cdot x^2}{4} + C_2 \cdot \log_e x + C_3 \dots \dots \dots (h)$$

是レ平板曲面ノ子午線ノ一般方程式ニシテ積分常數  $C_1, C_2$  及  $C_3$  ハ夫々ノ場合ニ應ジ適當ニ定ムベキモノナリ。

$x=0$  ナル點ニ於テ  $\frac{dz}{dx} = 0$  ナルユエ  $C_2 = 0$  ナリ。從テ (h) 式ヨリ

$$z = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{x^4}{32} + \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot \frac{W}{\pi} \cdot \frac{x^2}{4} (\log_e x - 1) + \frac{C_1 \cdot x^2}{4} + C_3.$$

特別ノ場合

(第一)  $W=0$  ニシテ荷重  $w$  ノミ作用スル場合。

$$z = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{x^4}{32} + \frac{C_1 \cdot x^2}{4} + C_3.$$

$x=r$  = 對シテ  $z=0$  ナルユエ

$$0 = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{r^4}{32} + \frac{C_1 \cdot r^2}{4} + C_3.$$

$$\therefore C_3 = - \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{r^4}{32} - \frac{C_1 \cdot r^2}{4}.$$

$$z = \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{x^4}{32} + \frac{C_1 \cdot x^2}{4} - \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{r^4}{32} - \frac{C_1 \cdot r^2}{4} = - \left( \frac{r^2 - x^2}{4} \right) \left[ \frac{6(m^2-1)}{m^2 \cdot E \cdot t^3} \cdot w \cdot \frac{r^2 + x^2}{8} + C_1 \right] \dots \dots \dots (i)$$

之ヲ微分スレバ

$$\frac{dz}{dx} = \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{x^3}{8} + \frac{C_1 x}{2}, \quad \frac{d^2 z}{dx^2} = \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{3}{8} x^2 + \frac{C_1}{2}$$

此等ノ値ヲ (b) 式 = 代入スレバ

$$\epsilon_x = \epsilon'_x - \lambda \cdot \frac{d^2 z}{dx^2} = \epsilon'_x - \lambda \left[ \frac{3}{8} \cdot \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot x^2 + \frac{C_1}{2} \right]$$

$$\therefore E \cdot \epsilon_x = \frac{m-1}{m} \cdot p - E \left[ \frac{3}{8} \cdot \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot x^2 + \frac{C_1}{2} \right] \lambda \dots \dots \dots (j)$$

又

$$\epsilon_y = \epsilon'_y - \frac{\lambda}{x} \cdot \frac{dz}{dx} = \epsilon'_y - \lambda \left[ \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{x^2}{8} + \frac{C_1}{2} \right]$$

$$E \cdot \epsilon_y = E \cdot \epsilon'_y - E \left[ \frac{1}{8} \cdot \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot x^2 + \frac{C_1}{2} \right] \lambda$$

而シテ (d) 式ヨリ

$$E \cdot \epsilon'_y = p \cdot \frac{m-1}{m}$$

$$\therefore E \cdot \epsilon_y = \frac{m-1}{m} p - E \left[ \frac{1}{8} \cdot \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot x^2 + \frac{C_1}{2} \right] \lambda \dots \dots \dots (k)$$

(g) 式中 W ナ 零 ト 置 ケ バ

$$s_x = \frac{3}{4} \cdot \frac{t^2 - 4\lambda^2}{t^3} \cdot w \cdot x$$

(第二) W=0 ニシテ且平飯ガ周邊ニテ支ヘラルル場合  $x=r$  =

對シテハ  $\lambda$  ノ 値 = 拘ハラズ  $s'_x = s_x = p = 0$  ナルユエ (e) 式ヨリ

$$m \left( \frac{d^2 z}{dx^2} \right)_{x=r} + \frac{1}{x} \left( \frac{dz}{dx} \right)_{x=r} = 0$$

(i) 式ヨリ

$$\frac{dz}{dx} = \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{x^3}{8} + \frac{C_1 x}{2}, \quad \frac{d^2 z}{dx^2} = \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{3}{8} x^2 + \frac{C_1}{2}$$

$$\therefore m \left[ \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{3}{8} r^2 + \frac{C_1}{2} \right] + \frac{1}{r} \left[ \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{r^3}{8} + \frac{C_1 r}{2} \right] = 0$$

$$C_1 = -\frac{3}{2} \cdot \frac{(m-1)(3m+1)}{m^3} \cdot \frac{w \cdot r^2}{E t^3}$$

此値ヲ (i) 式 = 代入スレバ

$$z = \frac{3}{16} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{w}{E t^3} \left[ -x^2 + \frac{5m+1}{m+1} r^2 \right] (r^2 - x^2)$$

ヲ 零 ト 置 ケ バ 最大撓度ヲ得

$$\text{最大 } z = \frac{3}{16} \cdot \frac{(m-1)(5m+1)}{m^2} \cdot \frac{w \cdot r^4}{E t^3} \dots \dots \dots (10)$$

(j) 式 = 於テ p ナ 零 ト シ 且  $C_1$  ノ 値ヲ 代入スレバ

$$E \cdot \epsilon_x = \frac{3}{4} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{w}{t^3} \left[ -3x^2 + \frac{3m+1}{m+1} r^2 \right] \lambda$$

(k) 式 =  $C_1$  ノ 値ヲ 代入スレバ

$$E \cdot \epsilon_y = \frac{3}{4} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{w}{t^3} \left[ -x^2 + \frac{3m+1}{m+1} r^2 \right] \lambda$$

$x=0, \lambda = \pm \frac{t}{2}$  = 對シテ  $E \cdot \epsilon_x, E \cdot \epsilon_y$  ノ 値ハ 最大ナリ。依テ

$$\text{最大 } (E \cdot \epsilon_x) = \text{最大 } (E \cdot \epsilon_y) = \pm \frac{3}{8} \cdot \frac{(m-1)(3m+1)}{m^2} \cdot \frac{w \cdot r^2}{t^2} \dots \dots \dots (10_a)$$

$s_x$  ノ 値ハ  $x=r, \lambda=0$  = 對シテ 最大ナリ。即チ

$$\text{最大 } s_x = \frac{3}{4} \cdot \frac{r}{t} \cdot w$$

今  $m$  ナ 3 ト シ 又 作用強度 ナ ス ト スレバ

$$\text{最大 } (E \cdot \epsilon_x) = \text{最大 } (E \cdot \epsilon_y) = \frac{5}{6} \cdot \frac{r^2 \cdot w}{t^2}$$

ナルユエ

$$s = \frac{5}{6} \cdot \frac{r^2 \cdot w}{t^2}, \quad t = r \sqrt{\frac{5w}{6s}} \dots \dots \dots (10_b)$$

(第三) 周邊ニテ固定セラレタル平飯ガ等布荷重ノミ受クル場

合  $x=r$  = 對シテ  $\frac{dz}{dx} = 0$  ナルユエ (i) 式ノ微分係數ヨリ

$$\left[ \frac{dz}{dx} \right]_{x=r} = \frac{3}{4} \cdot \frac{(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot r^2 + \frac{C_1 r}{2} = 0$$

$$\therefore C_1 = -\frac{3}{2} \cdot \frac{m^2-1}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot r^2$$

$$z = - \left[ \frac{6(m^2-1)}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot \frac{r^2 + x^2}{8} - \frac{3}{2} \cdot \frac{m^2-1}{m^2 E t^3} \cdot w \cdot r^2 \right] \left( \frac{r^2 - x^2}{4} \right)$$

$$z = \frac{3}{16} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{w}{E t^3} \cdot (r^2 - x^2)^2$$

$$\text{最大撓度 } z = \frac{3}{16} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{w \cdot r^4}{E t^3} \dots \dots \dots (10)$$

(j) 式 =  $C_1$  ノ 値ヲ 代入スレバ

$$E.\epsilon_x = \frac{m-1}{m} \cdot p + \frac{3}{4} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{w}{t^3} \cdot (r^2-3x^2)\lambda.$$

(k) 式 = C<sub>1</sub>ノ値ヲ代入スレバ

$$E.\epsilon_y = \frac{m-1}{m} \cdot p + \frac{3}{4} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{w}{t^3} \cdot (r^2-x^2)\lambda.$$

$p \geq 0$  ナレバ  $E.\epsilon_x$  ノ値ハ  $x=0, \lambda = \frac{t}{2}$  及  $x=r, \lambda = -\frac{t}{2}$  ニ對シテ最大ナリ。又  $E.\epsilon_y$  ノ値ハ  $x=0, \lambda = \frac{t}{2}$  ニ對シテ最大ニシテ  $E.\epsilon_x$  ノ第一最大値ニ等シ。即チ

第一最大 ( $E.\epsilon_x$ ) = 最大 ( $E.\epsilon_y$ )

$$= \frac{m-1}{m} \cdot p + \frac{3}{8} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{r^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (101_a)$$

$$\text{第二最大 } (E.\epsilon_x) = \frac{m-1}{m} \cdot p + \frac{3}{4} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{r^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (101_b)$$

此中ニテ第二者ハ明カニ最大値ナリ。

$p=0$  ナル場合ニハ

$$\text{最大 } (E.\epsilon_x) = \frac{3}{4} \cdot \frac{m^2-1}{m^2} \cdot \frac{r^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (101_c)$$

此式ニ於テ  $m$  ナ 3 トスレバ

$$\text{最大 } (E.\epsilon_x) = \frac{2}{3} \cdot \frac{r^2 \cdot w}{t^2}$$

トナルニ工作用強度ナ  $s$  トセバ

$$s = \frac{2}{3} \cdot \frac{r^2 \cdot w}{t^2}, \quad t = r \sqrt{\frac{2}{3} \cdot \frac{w}{s}} \dots \dots \dots (101_d)$$

(II) 矩形板 周邊ニテ固定セラレタル矩形板ガ等布荷重ヲ受ケル場合ニ就キ  $g$  ラ  $s$  氏方與ヘタル解法ハ次ノ如シ。

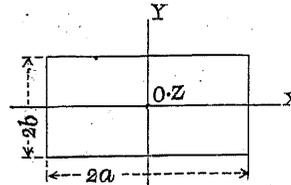
- 1°. 板ノ中央層ノ方程式ハ  $x$  及  $y$  ノ函數タルベキナリ。
- 2°. 板ノ邊ノ長サナ  $2a, 2b$  トスレバ求ムル所ノ函數ハ

(a)  $b = \infty$  ナルトキ  $y$  ノ總テノ値ニ對シテ

$$z = \frac{w}{2E.t^3} (b^2 - y^2)^2$$

(b)  $x = \infty$  ナルトキ  $x$  ノ總テノ値ニ對シテ

第 124 圖



$$z = \frac{w}{2E.t^3} (b^2 - y^2)^2$$

ナルベキナリ。何者此場合ニハ平  
板ハ兩端固定ノ一ツノ桁ト見做シ  
得ルヲ以テナリ。

以上ノ條件ヲ満足スベキ函數ハ  
次ノ如シ。

$$z = \frac{w}{2E.t^3} \cdot \frac{(a^2 - x^2)(b^2 - y^2)^2}{a^4 + b^4}$$

$x=y=0$  ニ對シテ  $z$  ハ最大ナリ。即チ

$$\text{最大 } z = \frac{1}{2} \cdot \frac{w}{E.t^3} \cdot \frac{a^2 b^4}{a^4 + b^4} \dots \dots \dots (102)$$

■ ノ方程式ヲ微分スレバ

$$\frac{d^2 z}{dx^2} = -\frac{2w}{E.t^3} \cdot \frac{(a^2 - 3x^2)(b^2 - y^2)^2}{a^4 + b^4}$$

$$\frac{d^2 z}{dy^2} = -\frac{2w}{E.t^3} \cdot \frac{(a^2 - x^2)^2 (b^2 - 3y^2)}{a^4 + b^4}$$

$$\frac{d^2 z}{dx \cdot dy} = \frac{8w}{E.t^3} \cdot \frac{(a^2 - x^2)x(b^2 - y^2)y}{a^4 + b^4}$$

$\frac{d^2 z}{dx^2}$  ハ  $x = \pm a, y = 0$  ニ對シテ最大ナリ。即チ

$$\text{最大 } \frac{d^2 z}{dx^2} = \frac{4w}{E.t^3} \cdot \frac{a^2 b^4}{a^4 + b^4}$$

$\frac{d^2 z}{dy^2}$  ハ  $y = \pm b, x = 0$  ニ對シテ最大ナリ。即チ

$$\text{最大 } \frac{d^2 z}{dy^2} = \frac{4w}{E.t^3} \cdot \frac{a^4 b^2}{a^4 + b^4}$$

$\frac{d^2 z}{dx \cdot dy}$  ハ  $x^2 = \frac{1}{3} a^2, y^2 = \frac{1}{3} b^2$  ニ對シテ最大ナリ。即チ

$$\text{最大 } \frac{d^2 z}{dx \cdot dy} = \frac{32}{27} \cdot \frac{w}{E.t^3} \cdot \frac{a^2 b^4}{a^4 + b^4}$$

$$\therefore \text{最大 } \epsilon_x = \epsilon_x' - \frac{1}{m} \cdot \epsilon_y' = \frac{1}{2} \cdot \frac{4w}{E.t^3} \cdot \frac{a^2 b^4}{a^4 + b^4}$$

$$\text{最大 } (E.\epsilon_x) = s_x' - \frac{1}{m} \cdot s_y' = \frac{2b^4}{a^4 + b^4} \cdot \frac{a^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (102_a)$$

同様 =

$$\text{最大 } (\epsilon, \epsilon_y) = s_y' - \frac{1}{m} \cdot s_x' \pm \frac{2a^4 - b^4}{a^4 + b^4} \cdot \frac{d^2z}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (102_b)$$

圓板 = 於ケルカ如ク中央層ヨリ板ノ任意ノ點ニ至ル距離ヲ  $\lambda$ ;  $(x, y, z)$  點 = 於テ OX = 並行ナル正断面 (Normal Section) ノ曲度半徑ヲ  $\rho_x$ ;  $(x, y, z)$  點 = 於テ OY = 並行ナル正断面ノ曲度半徑ヲ  $\rho_y$  トスレバ一般 =

$$\epsilon_x = \epsilon_x' + \frac{\lambda}{\rho_x}, \quad \epsilon_y = \epsilon_y' + \frac{\lambda}{\rho_y}$$

此 = 於テ  $\epsilon_x'$  及  $\epsilon_y'$  ハ夫々 OX 及 OY ノ方向 = 於ケル中央層ノ變形ナリトス。又微分學 = ヨリ次ノ關係ヲ得。

$$\rho_x = - \frac{\sqrt{1 + \left(\frac{dz}{dx}\right)^2 + \left(\frac{dz}{dy}\right)^2}}{\frac{dz}{dx^2} \cdot \cos^2 \alpha + 2 \frac{d^2z}{dx \cdot dy} \cdot \cos \alpha \cdot \cos \beta + \frac{d^2z}{dy^2} \cdot \cos^2 \beta}$$

此式中  $\alpha$  ハ法線 (Normal) ト Z 軸トナス角ニシテ  $\beta$  ハ法線ト X 軸トナス角ナリ。而シテ  $\frac{dz}{dx}$  及  $\frac{dz}{dy}$  ハ傾斜ヲ表ハシ其値小ナルニ  $\epsilon = \cos \alpha = 1$  及  $\cos \beta = 0$  ナリ。然ラバ

$$\frac{1}{\rho_x} = - \frac{d^2z}{dx^2}, \quad \text{及} \quad \frac{1}{\rho_y} = - \frac{d^2z}{dy^2}$$

$$\therefore \epsilon_x = \epsilon_x' - \lambda \cdot \frac{d^2z}{dx^2}, \quad \epsilon_y = \epsilon_y' - \lambda \cdot \frac{d^2z}{dy^2}$$

次 =  $x$  及  $y$  ノ變化ヲ夫々  $\xi$  及  $\eta$  トスレバ

$$\xi = \int_0^x \epsilon_x \cdot dx = \int_0^x \left[ \epsilon_x' - \lambda \cdot \frac{d^2z}{dx^2} \right] dx = \left[ x \cdot \epsilon_x' - \lambda \cdot \frac{dz}{dx} \right]_0^x = x \cdot \epsilon_x' - \lambda \cdot \frac{dz}{dx}$$

$$\therefore \frac{d\xi}{dy} = - \lambda \cdot \frac{d^2z}{dx \cdot dy}$$

$$\eta = \int_0^y \epsilon_y \cdot dy = y \cdot \epsilon_y' - \lambda \cdot \frac{dz}{dy}$$

$$\therefore \frac{d\eta}{dx} = - \lambda \cdot \frac{d^2z}{dx \cdot dy}$$

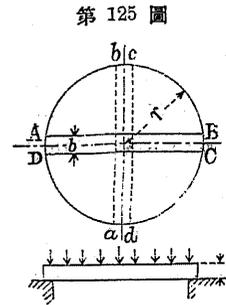
然ル =

$$s_{xy} = G \cdot \gamma_{xy} = G \left( \frac{d\xi}{dy} + \frac{d\eta}{dx} \right) = - 2G \cdot \lambda \cdot \frac{d^2z}{dx \cdot dy}$$

$$\begin{aligned} \therefore \text{最大 } s_y &= 2G \cdot \lambda \cdot \frac{d^2z}{dx \cdot dy} = \frac{m \cdot E \cdot t}{m+1} \cdot \frac{d^2z}{dx \cdot dy} \\ &= \frac{8}{27} \cdot \frac{m}{m+1} \cdot \frac{2a^2 \cdot b^2}{a^4 + b^4} \cdot \frac{a \cdot b}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (102_c) \end{aligned}$$

$\epsilon_x$  及  $\epsilon_y$  ガ最大ナル所 = 於テハ  $s_x = 0$  = シテ  $s_y$  ガ最大ナル所 = 於テハ  $s_x = s_x', s_y = s_y'$  ナリ。

(III) 略算法 (第一) 周邊ニテ支ヘラレタル圓板ガ單位面積ニ付  $w$  ナル等布荷重ヲ受クル場合



第 125 圖

板 = 加ハル全荷重 =  $\pi r^2 \cdot w$ ,

全圓周 = 於ケル反力 =  $\pi r^2 \cdot w$ ,

$$\begin{aligned} \text{圓周ノ單位長サニ於ケル反力} &= \frac{\pi r^2 \cdot w}{2\pi r} \\ &= \frac{r}{2} \cdot w. \end{aligned}$$

第 125 圖ノ如ク ABCD ナル細長片ヲ取り此幅ハ甚狭クシテ中心線ハ板ノ直径ト一致スルモノトセバ

$$\text{細長片ノ各端ニ於ケル反力} = b \cdot \frac{r}{2} \cdot w,$$

細長片 = 加ハル全荷重 =  $b \cdot 2rc \cdot w$ .

是 = 由テ見レバ細長片ノ兩端 = 於ケル反力ノ和ハ細長片 = 加ハル全荷重ノ半分ナルニ = 此細長片ガ平衡ニアル爲 = ハ AB, DC ナル兩側鉛直面 = 沿ヒテ  $brw$  ナル剪斷力ガ作用スベキナリ。此剪斷力ノ配布ハ不明ナレド之ハ均等 = 配布セラル、モノト假定スルヲ得ベシ。今細長片 ABCD ナーツノ單桁ト見做セバ中央 = 於ケル彎曲率ハ

$$M' = \frac{1}{2} br^2 c \cdot r - br^2 w \cdot \frac{r}{2} + \frac{1}{2} br^2 c \cdot \frac{1}{2} r = \frac{1}{4} br^2 w.$$

細長片ノ中央 = 於ケル線維單位應力ハ

$$s = \frac{M' \cdot \frac{t}{2}}{I} = \frac{\frac{1}{4} br^2 c \cdot \frac{t}{2}}{\frac{1}{12} bt^3} = \frac{3}{2} \cdot \frac{r^2}{t^2} \cdot w$$

而レテ ABCD ト直角ヲナセル細長片 abcd ノ中央 = 於ケル線維單

位應力モ亦  $\frac{3}{2} \frac{r^2}{t^3} w$  ナリ。依テ

$$\text{最大 (E.}\epsilon) = \pm \frac{3}{2} \frac{m-1}{m} \frac{r^2}{t^2} w \dots\dots\dots (103)$$

m ナ 3 ト セバ

$$\text{最大 (E.}\epsilon) = \pm \frac{r^2}{t^2} w \dots\dots\dots (103_a)$$

正確ナル解法 (100\_b) 式ニヨレバ

$$\text{最大 (E.}\epsilon) = \pm \frac{5}{6} \frac{r^2}{t^2} w$$

即チ (103\_b) 式ガ與フル値ハ此  $\frac{6}{5}$  ナリ。

飯ガ周邊ニテ固定セラル、場合ニハ彈曲線ノ方程式ヲ知ラザルベカラズ。從テ上記ノ如キ略算法ニ依ル能ハズ。 ((101\_d) 式参照)。

例題 茲ニ直徑 3 呎ノ鑄鐵圓飯アリ。之ガ周邊ニテ支ヘラレテ 250 呎每平方吋ノ等布荷重ヲ受クルトキ最大單位應張力ヲシテ 3,600 呎每平方吋ヨリ超過セシメザラントス。其厚サ如何。

m ナ 3 = 取レバ (103\_a) 式ヨリ

$$t = 18 \sqrt{\frac{250}{3,600}} = 4 \frac{3}{4} \text{ 吋.}$$

(100\_b) 式ヲ用フレバ

$$t = 18 \sqrt{\frac{5}{6} \cdot \frac{250}{3,600}} = 4 \frac{3}{8} \text{ 吋.}$$

斯ク兩式ガ與フル値 =  $\frac{3}{8}$  吋ノ差アリ。

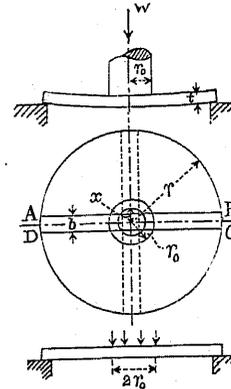
(第二) 周邊ニテ支ヘラレタル圓飯ガ中心ニ於テ W ナル集中荷重ヲ受クル場合

$$r \text{ ナ 半徑トセル小圓内ノ單位面積ニ加ハル荷重} = \frac{W}{\pi r_0^2},$$

$$x \text{ ナ 半徑トセル圓 (} x < r_0 \text{) ノ面上ニ加ハル全荷重} = \pi x^2 \times \frac{W}{\pi r_0^2}$$

$$= \frac{W x^2}{r_0^2}$$

第 126 圖



半徑 x ノ圓周ニ沿ヒテ單位ノ長サニ

$$\text{作用スル剪斷力} = -\frac{W x^2}{2\pi x} = -\frac{W x}{2\pi r_0^2}$$

半徑 x ノ圓周ニ沿ヒテ b ナル長サノ間ニ作用スル剪斷力ヲ V トスレバ

$$V = -\frac{W x}{2\pi r_0^2} \cdot b$$

第一ノ場合ニ於ケルガ如ク b ナル幅ノ細長片 ABCD ナ取り之チ一ツノ單桁ト見做シ徑間ノ中央ヨリ x ナル距離ニ於ケル断面ノ剪斷力ガ  $-\frac{W x}{2\pi r_0^2} \cdot b$  ナリトスレバ

$$\begin{aligned} dM &= V \cdot dx, \quad M = \int dM = -\int V \cdot dx + C_1 = -\int \frac{W x}{2\pi r_0^2} \cdot b \cdot dx + C_1 \\ &= -\frac{W b x^2}{4\pi r_0^2} + C_1 \dots\dots\dots (a) \end{aligned}$$

次ニ小圓外ニ於テ z ナ半徑トセル圓 ( $r_0 < z < r$ ) ナ考フルニ此圓周上ニ於テ b ナル長サノ間ニ作用スル剪斷力ヲ V' トスレバ

$$\begin{aligned} V' &= -\frac{W}{2\pi z} \cdot b, \quad M' = \int V' \cdot dz + C_2 = -\int \frac{W b}{2\pi z} \cdot dz + C_2 \\ &= -\frac{W b}{2\pi} \cdot \log_e z + C_2 \dots\dots\dots (b) \end{aligned}$$

(b) 式ニ於テ z ナ r トセバ  $M' = 0$  ナルニエ  $C_2 = \frac{W b}{2\pi} \cdot \log_e r$  ナ得。

$$\therefore M' = \frac{W b}{2\pi} \cdot \log_e \frac{r}{z}, \quad M'_{z=r_0} = \frac{W b}{2\pi} \cdot \log_e \frac{r}{r_0} \dots\dots\dots (c)$$

(a) 式ニ於テ x ナ r\_0 トスレバ  $M_x=r_0 = M'_{z=r_0}$  ナルベキヲ以テ

$$\frac{W b}{2\pi} \cdot \log_e \frac{r}{r_0} = -\frac{W b r_0^2}{4\pi r_0^2} + C_1, \quad C_1 = \frac{W b}{2\pi} \left[ \log_e \frac{r}{r_0} + \frac{1}{4} \right]$$

$$\therefore M = \frac{W b}{2\pi} \left[ -\frac{x^2}{2r_0^2} + \log_e \frac{r}{r_0} + \frac{1}{4} \right] \dots\dots\dots (d)$$

(d) 式中 x ナ零ト置ケバ細長片ノ中央即チ飯ノ中心ニ於ケル彎曲率ヲ得。

$$M_{x=0} = \frac{W \cdot b}{2\pi} \left[ \log_e \frac{r}{r_0} + \frac{1}{2} \right]$$

依テ鉄ノ中心ニ於ケル線維單位應力ハ

$$s = \frac{M \cdot \frac{t}{2}}{I} = \frac{W \cdot b}{2\pi} \left[ \log_e \frac{r}{r_0} + \frac{1}{2} \right] \cdot \frac{\frac{1}{2}t}{\frac{1}{12}bt^3} = \frac{3W}{\pi t^2} \left[ \log_e \frac{r}{r_0} + \frac{1}{2} \right]$$

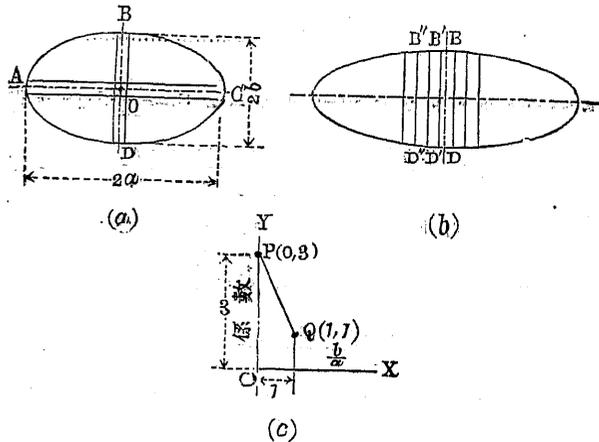
然ルニ ABCD = 垂直ナル細長片ノ中央ニ於テモ亦之ト等大ノ單位應力が作用スベキニヨリ

$$\text{最大}(E\epsilon) = \frac{m-1}{m} \cdot \frac{3W}{\pi t^2} \left[ \log_e \frac{r}{r_0} + \frac{1}{2} \right] \dots\dots\dots (104)$$

此式ニ於テ  $r_0 = r$  從テ  $W = \pi r_0^2 w$  ト置ケバ (103) 式ト同一ノ式ヲ得。

(第三) 周邊ニテ支ヘラレタル橢圓板ガ單位面積ニ付  $w$  ナル等布荷重ヲ受クル場合 此場合ニ鉄ノ中心  $O$  ニ於テ彎曲應力が最大ナルコトハ想像シ得ベシ。今前同様ニ短軸及長軸ヲ夫々中心線トセル細長片  $BD$  及  $AC$  ナ取り此等ヲ各々獨立ノ單桁ト考フレバ各細長片ハ等布荷重並ニ其兩側面ニ沿ヒテ作用スル剪斷力ヲ受クベシ。而シテ剪斷力ノ大サ及配布ハ共ニ不明ナレドモ細長片  $BD, AC$  ガ受クル荷重ト剪斷力トノ代數和ヲ夫々  $W_1, W_2$  トスレバ

第 127 圖



細長片  $BD$  及  $AC$  ノ中央點ニ於ケル撓度ヲ等値トスレバ

$$\frac{5}{384} \frac{W_1(2b)^3}{EI} = \frac{5}{384} \frac{W_2(2a)^3}{EI} \therefore W_1 b^3 = W_2 a^3$$

細長片ノ兩端ニ於ケル反力ハ荷重ニ正比例スベキヲ以テ  $B$  又ハ  $D$  ニ於ケル反力ヲ  $R_1, A$  又ハ  $C$  ニ於ケル反力ヲ  $R_2$  トセバ

$$\frac{R_1}{R_2} = \frac{W_1}{W_2} = \frac{a^3}{b^3}$$

ヲ得。此ノ如ク  $R_1, R_2$  ハ  $a^3, b^3$  = 反比例スルヲ以テ橢圓板ノ周邊ニ於ケル反力ハ均等ナラズ  $B$  及  $D$  ニ於テ最大ニシテ  $A$  及  $C$  ニ於テ最小ナルヲ知ル。

$$M_1 = R_1 b - \frac{W_1 b}{4} = \text{細長片 } BD \text{ ノ中央點 } O \text{ ニ於ケル彎曲率。}$$

$$M_2 = R_2 a - \frac{W_2 a}{4} = \text{細長片 } AC \text{ ノ中央點 } O \text{ ニ於ケル彎曲率。}$$

$$\frac{M_1}{M_2} = \frac{R_2 \frac{a^3}{b^3} b - W_2 \frac{a^3}{b^3} \frac{b}{4}}{R_2 a - W_2 \frac{a}{4}} = \frac{a^2}{b^2}$$

即チ彎曲率ハ  $a^2, b^2$  = 反比例ス。然ラバ彎曲率ハ細長片  $BD$  = 於テ最大ニシテ  $AC$  = 於テ最小ナリ。從テ彎曲應力モ亦細長片  $BD$  = 於テ最大ニシテ  $AC$  = 於テ最小ナルヲ知ル。換言スレバ  $a > b$  ナレバ  $O$  點ニ於テ  $BD$  ナル方向ノ彎曲應力ハ之ニ垂直ナル方向ノ應力ヨリモ大ニシテ鉄中ノ最大ナルモノナリ。

今最大應力ノ近似値ヲ定メンニ第 127 圖 (b) ノ如ク  $BD$  = 並行ナル數多ノ細長片  $B'D', B''D''$  等ニ分ツトキ此等ノ長サニ餘リ差異ナキ程ニ  $a$  ガ  $b$  = 比シテ甚大ナリト假定セヨ。然ラバ細長片  $BD, B'D'$  ノ撓度ハ殆ド同一ニシテ其境界即チ  $BD$  ノ兩側ニ於テ剪斷力ノ作用スルコトナク從テ  $BD$  ハ何等控制ヲ受ケザル單桁ト見做スヲ得ベシ。此假定ニ據レバ

$$\text{細長片 } BD \text{ ノ中央ニ於ケル彎曲率} = \frac{1}{8}(w a)(2b)^2 = \frac{1}{2} w a b^2,$$

$$\text{細長片 } BD \text{ ノ斷面係數} = \frac{1}{6} a b^2.$$

但  $\alpha$  ハ細長片ノ幅ニシテ  $t$  ハ板ノ厚サナリトス。

$$\therefore \pm \frac{\frac{1}{2}w \cdot \alpha \cdot b^3}{\frac{1}{6}\alpha \cdot t^3} = \pm 3w \cdot \frac{b^2}{t^2} = 0 \text{ 點ニ於ケル線維應力}$$

實際ハ細長片 BD ノ兩側ニ作用スル剪斷力ノ爲ニ控制セラル、故撓度減少シ應力ハ  $\pm \frac{3w \cdot b^2}{t^2}$  ヨリモ多少減セラルベシ。

次ニ  $\alpha = b$  即チ橢圓ガ圓トナルトキハ (103<sub>a</sub>) 式ニヨリ線維應力ハ  $\pm \frac{b^3}{t^2} W$  ナリ得。次故ニ上記二ツノ場合ノ外ハ  $3 \frac{w \cdot b^2}{t^2}$  ト  $\frac{b^2}{t^2} \cdot w$  トノ中間ノ應力ヲ受クルモノト見做スナリ得。係數ガ  $\frac{b}{a}$  ノ値ニ對シテ如何ニ變ズルヤ不明ナレドモ之ヲ  $\frac{b}{a}$  ノ一次函數ト假定シ  $\frac{b}{a} = 0$  ナルトキ係數ガ 3 ニシテ  $\frac{b}{a} = 1$  ナルトキハ係數ガ 1 ナル條件ニ依テ次式ガ得ラル。

$$\frac{1-0}{3-1} = \frac{1-x}{y-1} \dots \dots \dots \text{直線 PQ ノ方程式}$$

$$y = 2(1.5 - x), \text{ 係數} = 2\left(1.5 - \frac{b}{a}\right),$$

$$\pm 2\left(1.5 - \frac{b}{a}\right) \frac{b^2}{t^2} \cdot w = 0 \text{ 點ニ於ケル最大線維應力} \dots \dots \dots (105)$$

メリマン氏 (M. Merriman) ガぐらホスぼふ氏ノ研究及ばッハ氏 (C. Bach) ノ實驗ノ結果ニ基キ鍊鐵又ハ鋼橢圓板ニ就テ與ヘタル公式ハ次ノ如シ。

板ガ周邊ニテ支ヘラル、場合ニハ

許容單位應張力 (Allowable tensile unit-stress)

$$= 2 \frac{\alpha^2}{\alpha^2 + b^2} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (106_a)$$

鑄鐵板ナレバ

$$\text{許容單位應張力} = \frac{9}{4} \cdot \frac{\alpha^2}{\alpha^2 + b^2} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (106_b)$$

板ガ周邊ニテ固定セラル、場合ニハ

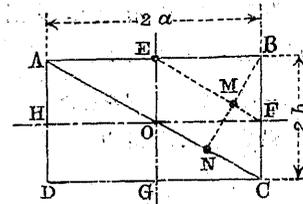
$$\text{許容單位應張力} = \frac{4}{3} \cdot \frac{\alpha^2}{\alpha^2 + b^2} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (106_c)$$

鑄鐵板ナレバ

$$\text{許容單位應張力} = \frac{3}{2} \cdot \frac{\alpha^2}{\alpha^2 + b^2} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot w \dots \dots \dots (106_d)$$

(第四) 周邊ニテ支ヘラル矩形板ガ單位面積ニ付  $w$  ナル等布荷重ヲ受クル場合 周邊ノ反力ハ橢圓板ニ於ケルト同様ニ  $R_{AB} > R_{BC}$  ナリ (第 128 圖) 而シテ AB 間ニアリテハ E ニ於テ最大ニシテ A 及 B ニ近付クニ從ヒ減少ス。又 BC 間ニアリテモ F ニ於テ

第 128 圖



最大ニシテ B 及 C ニ近付クニ從ヒ減少スルコトヲ想像シ得ベシ。故ニ對稱軸 HF ナリテ其一侧ニ加ハル荷重及反力ヨリ生ズル彎曲率ノ爲ニ鉛直断面 HF ニ如何ナル彎曲應力ヲ生ズルカヲ考フベキナレドモ周邊 HA, AB, BF ニ於ケル反力ノ

配布不明ニシテ反力ニ基因スル彎曲率ヲ知ル能ハズ。依テ便宜上對角線 AC ナ含ム鉛直断面 AC ニ於ケル應力ヲ考フベシ。然ラバ反力ノ配布ハ如何ナリトモ周邊 AB ニ於ケル反力ノ合力ハ AB ノ中央點 E ニ働クベク同様ニ周邊 BC ニ於ケル反力ノ合力ハ F 點ニ働クベシ。從テ周邊 AB, BC ニ於ケル反力ノ合力ノ働點ハ EF 線中ニ在ルベク AC ヨリ働點迄ノ距離ハ  $NM = \frac{1}{2} \cdot BN$  ナリ。

次ニ三角形 ABC ニ加ハル荷重ノ合成ハ其中心ニ働キ AC ヨリノ距離ハ  $\frac{1}{3} \cdot BN$  ナリ。而シテ荷重及反力ノ大サハ共ニ  $2abw$  ナルニ  $\Sigma AC$  ニ於ケル彎曲率ハ

$$2abw \left( \frac{1}{2} \cdot \overline{BN} - \frac{1}{3} \cdot \overline{BN} \right) = \frac{1}{3} \cdot abw \cdot \overline{BN}$$

然ルニ

$$\frac{\overline{BN}}{\overline{BC}} = \frac{\overline{AB}}{\overline{AC}}, \quad \overline{BN} = \frac{2a \cdot 2b}{2\sqrt{a^2 + b^2}} = \frac{2ab}{\sqrt{a^2 + b^2}}$$

断面 AC ノ断面係數ハ

$$\frac{1}{6} \cdot \overline{AC} \cdot t^2 = \frac{1}{6} \cdot 2\sqrt{a^2 + b^2} \cdot t^2 = \frac{t^2}{3} \sqrt{a^2 + b^2}$$

故 = 断面 AC = 於ケル平均線維應力ハ

$$s = \frac{\frac{1}{3} \cdot a \cdot b \cdot t \times \frac{2a \cdot b}{\sqrt{a^2 + b^2}}}{\frac{t^2}{3} \sqrt{a^2 + b^2}} = \frac{2a^2}{a^2 + b^2} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot t \dots (107)$$

$\frac{a}{b}$  が大ナレバ  $s$  ノ値ハ  $2 \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot t = 2 \cdot \frac{b^2}{t} \cdot t = 2b$  近付クベシ。又  $a=b$  ナレバ

$$s = \frac{b^2}{t^2} \cdot t \dots (107a)$$

めりまん氏ガばつは氏ノ實驗ヨリ得タル係數 = 基キ矩形板及正方形板 = 就テ與ヘタル最大單位應張力ハ次ノ如シ。

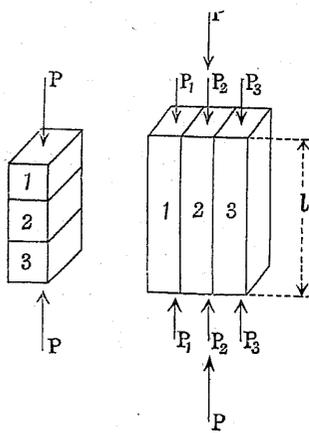
周邊 = テ支ヘラレタル場合      周邊 = テ固定セラレタル場合

最大單位應張力      最大單位應張力

矩形板	$\frac{9}{4} \cdot \frac{a^2}{a^2 + b^2} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot t$	$\frac{3}{2} \cdot \frac{a^2}{a^2 + b^2} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot t$
正方形板	$\frac{9}{8} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot t$	$\frac{3}{4} \cdot \frac{b^2}{t^2} \cdot t$

34. 集成棒狀體及集成桁 (Compound Bars and Beams) 第 129 圖 (a)

第 129 圖



(a)

(b)

ノ如キ異種類ノ材料ヨリ成レル棒狀體ガ支持シ得ル荷重ハ弱キ断面ガ支持シ得ル荷重 = 依テ定マルコト明カナリ。而シテ各断面ノ全應力ハ外力  $P$  = 等シキユニ断面積ヲ知レバ任意ノ断面ノ單位應力ヲ見出スヲ得。又各部分ノ長サ及材料ノ彈性係數ヲ知レバ普通ノ棒狀體ニ於ケルト同様ニシテ各部分ノ縱變形ヲ求メ得ベク全變形ハ各部分ノ變形ノ和 = 等シ。

(b) 圖ノ場合 = 於テハ各部分ガ支

持シ得ル荷重ハ各部分ノ長サノ變化ガ同一ナルコトノ條件 = 依テ見出スヲ得。今三ツノ部分ノ彈性係數ヲ  $E_1, E_2, E_3$ ; 断面積ヲ  $A_1, A_2, A_3$ ; 共通變形ヲ  $\epsilon$ ; 共通ノ長サヲ  $l$  トスレバ

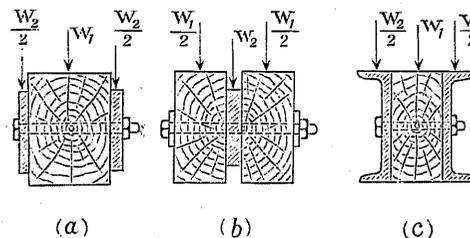
$$\epsilon = \frac{P_1 \cdot l}{A_1 \cdot E_1} = \frac{P_2 \cdot l}{A_2 \cdot E_2} = \frac{P_3 \cdot l}{A_3 \cdot E_3}, \quad P = P_1 + P_2 + P_3$$

$$\begin{aligned} \therefore P_1 &= \frac{P \cdot A_1 \cdot E_1}{A_1 \cdot E_1 + A_2 \cdot E_2 + A_3 \cdot E_3} \\ P_2 &= \frac{P \cdot A_2 \cdot E_2}{A_1 \cdot E_1 + A_2 \cdot E_2 + A_3 \cdot E_3} \\ P_3 &= \frac{P \cdot A_3 \cdot E_3}{A_1 \cdot E_1 + A_2 \cdot E_2 + A_3 \cdot E_3} \\ \epsilon &= \frac{P \cdot l}{A_1 \cdot E_1 + A_2 \cdot E_2 + A_3 \cdot E_3} \end{aligned} \dots (105)$$

外力  $P$  ガ軸 = 沿ヒテ働クナレバ上述ノ推論ハ  $P$  ノ壓力ナルト張力ナルトナ間ハズ等シク之ヲ適用スルヲ得ベシ。

第 130 圖

次 = 第 130 圖ノ



(a)

(b)

(c)

如ク二ツノ異種類ノ材料ヨリ成レル桁ヲ考フルニ集成棒狀體ニ於ケルト同様ニ荷重ハ各部分ニ適當ノ割合ニ

テ配分セラルベキナリ。此場合 = 各部分ノ撓度ハ同一ナルヲ以テ

$$\Delta = \frac{W_1 \cdot l^3}{\beta E_1 \cdot I_1} = \frac{W_2 \cdot l^3}{\beta E_2 \cdot I_2} \quad (\text{第四章第 29 節参照})$$

$$W = W_1 + W_2$$

此ニ於テ  $W$  ハ桁ガ受クル全荷重 = シテ  $W_1$  及  $W_2$  ハ各材料ガ受クル荷重ナリトス。然ラバ

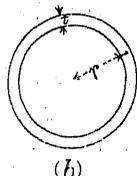
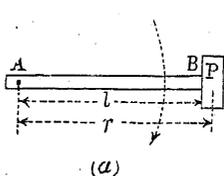
$$W_1 = \frac{W}{1 + \frac{E_2 \cdot I_2}{E_1 \cdot I_1}} \quad W_2 = \frac{W}{1 + \frac{E_1 \cdot I_1}{E_2 \cdot I_2}} \dots (103)$$

此式 = 依テーツノ集成桁ガ與ヘラレタル荷重ニ對シテ安全ナリヤ否ヤナ檢シ得ベク、又集成桁ヲ設計スルニハ先ヅ各材料ノ大サ及斷面形ヲ假定シテ之ガ支持シ得ル荷重ヲ算出シ之ト與ヘラレタル荷重トガ一致スル迄計算ヲ繰返セバ可ナリ。

85. 遠心力ヨリ生ズル應力 (Centrifugal Stresses)

(I) 遠心力ヨリ生ズル應張力 P ナル重量ヲ有スル物體ノ重

第 131 圖



$$Q = \frac{P \cdot v^2}{g \cdot r}$$

ニシテ式中ノ P ハ軸ヨリ物體ノ重心迄ノ距離、g ハ重力ノ加速度ナリトス。

第 131 圖 (a) = 示セルハ長サ l ナル均等横斷面ノ棒狀體ノ一端ニ P ナル重量ヲ付ケ之ヲシテ他端ニ於ケル軸 A ノ周リニ回轉セシムル場合ニシテ、今毎秒 n 回轉ノ速度ヲ保チテ之ヲ回轉スルトキ A = 於ケル棒狀體ノ應力ヲ求メントス。

軸ヨリ任意ノ距離 r<sub>1</sub> = 於ケル速度ハ 2πr<sub>1</sub>n = シテ角速度ヲ ω トスレバ r<sub>1</sub> ナル距離 = 於ケル速度ハ r<sub>1</sub>ω ナルニエ

$$2\pi r_1 n = r_1 \omega, \quad 2\pi n = \omega$$

之ハ n ト ω トノ關係ヲ表ハスモノナリ。又棒狀體ノ重量ヲ W トシ此重心ノ速度ヲ v<sub>1</sub> トスレバ重心ノ遠心力ハ Wv<sub>1</sub><sup>2</sup>/g ナルニエ

$$Q = \frac{P \cdot v^2}{g \cdot r} + \frac{W \cdot v_1^2}{\frac{1}{2} g l} = \frac{P(r \cdot \omega)^2}{g \cdot r} + \frac{W(\frac{1}{2} l \cdot \omega)^2}{\frac{1}{2} g l} = \frac{(P \cdot r + \frac{1}{2} W l) \omega^2}{g} \dots (a)$$

此遠心力ハ AB = 應張力ヲ生ジ軸ニ於テハ之ニ直角ナル方向ノ壓力ト彎曲率トヲ生ズベキナリ。(a) 式 = 於テ P=0 ナレバ

$$Q = \frac{\frac{1}{2} W l \cdot \omega^2}{g} \dots (b)$$

AB ノ應張力ハ放端 = 於テ零 = シテ軸 = 近付ク = 從ヒテ増加シ A = 於テハ Q トナル。

斷面積ヲ A; 單位容積ノ重量ヲ w; 軸ヨリ任意ノ點迄ノ距離ヲ x トスレバ (l-x) ナル長サノ部分ノ重量ハ w.A(l-x) = シテ此重心ヨリ軸迄ノ距離ハ  $x + \frac{l-x}{2} = \frac{1}{2}(l+x)$  ナリ。然ラバ此部分ノ遠心力ハ

$$Q' = \frac{w \cdot A(l-x) \frac{1}{2}(l+x) \omega^2}{g} = \frac{w \cdot A \cdot \omega^2 (l^2 - x^2)}{2g}$$

= シテ之ハ軸ヨリ x ナル距離ニ於テ作用スル應張力ナリ。 x=l ナレバ Q' ハ零 = シテ x=0 ナレバ (b) 式ノ如ク  $Q' = \frac{1}{2} \frac{W l \omega^2}{g}$  ナリ。

軸ヨリ x ナル距離 = 於テ作用スル單位應張力ハ

$$s_x = \frac{Q'}{A} = \frac{w \cdot \omega^2 (l^2 - x^2)}{2g} = \frac{1}{2} \left( \frac{w \cdot \omega^2}{g} \right) (l^2 - x^2)$$

例題 1. 茲ニ長サ 6 呎、斷面 2 吋×2 吋ナル鍊鐵釘アリ。此一端 = 400 斤ノ重量ヲ付シ之ヲ回轉スルトキ釘ヲ破壊スベキ回轉數毎秒如何。但釘ノ全重量ハ 80 斤ニシテ回轉軸ヨリ 400 斤ノ重量ノ重心迄ノ距離ハ  $6 \frac{1}{4}$  呎、鍊鐵ノ破壊抗張強度ハ 50,000 斤平方吋、g ハ 32.16 呎毎秒毎秒ナリトス、

(a) 式ヨリ

$$50,000 \times 4 = \frac{(400 \times 6 \frac{1}{4} + \frac{1}{2} \times 80 \times 6) \omega^2}{32.16}$$

$$\omega^2 = 2,347.44, \quad \omega = 48.4 \text{ 弧度毎秒}$$

$$\therefore n = \frac{\omega}{2\pi} = 7.8 \text{ 回轉毎秒}$$

第 131 圖 (b) ハ薄キ圓箍 = シテ此平均半徑ヲ r トシ幅ヲ b トスレバ重量ハ W = 2πwbrt ナリ。之ガ回轉スルトキハ箍ノ重心ト回轉軸ト一致スルニエ軸ニ作用スル遠心力ハ零ナリ。從テ軸ニ加ハル壓力ハ零ナレドモ遠心力ハ半徑ノ方向ニ於テ箍ニ作用シ薄キ管ニ於ケル内壓ト同様ニ應張力ヲ生ズベシ。

$$Q = \frac{W.v^2}{g.r} = \frac{W.r^2.\omega^2}{g.r} = \frac{2\pi.v.b.r.t.r\omega^2}{g} = \frac{2\pi.v.b.r^2.t.\omega^2}{g}$$

半徑ノ方向ノ單位壓力ハ

$$p' = \frac{2\pi.v.b.r^2.t.\omega^2}{g} / 2\pi.b.r = \left(\frac{v.\omega^2}{g}\right)r.t.$$

第二章第14節(10)式 = ヲリ圓周ノ方向ノ單位壓力  $s$  ト  $p'$  トノ關係ハ次ノ如シ.

$$r.p' = t.s, \therefore s = \frac{r.p'}{t} = \left(\frac{v.\omega^2}{g}\right)r^2, \dots\dots\dots(c)$$

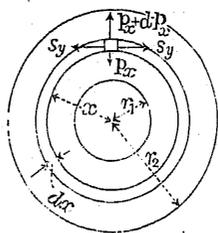
$$\omega = 2\pi n.$$

例題 2. 茲ニ幅 4 吋, 厚サ 2 吋, 外徑 62 吋ノ鑄鐵製輪アリ. 之ガ一分間 = 300 回轉ヲナストキ應張力ハ幾何ナルカ.

(c) 式ヨリ

$$s = \frac{\frac{450}{12^3} \times (2\pi.5)^2}{32.16 \times 12} \times 30^2 = 600 \text{ 斤/平方吋.}$$

第 132 圖



次ニ内半徑  $r_1$ , 外半徑  $r_2$  ナル厚キ輪ニ於テ(第 132 圖)内半徑  $x$ , 外半徑  $(x+dx)$  ナル環帶ヲ想像シ半徑ノ方向ノ單位壓力ヲ  $p_x$  ( $p_x+dp_x$ ) トシ此等ヲ應張力ト考フレバ環帶ニ作用スル外向キノ力ハ( $p_x+dp_x$ )ニシテ遠心力ヨリ生ズル單位壓力ハ  $p_x'$  ナリ. 此  $p_x' \propto \left(\frac{v.\omega^2}{g}\right)r.t$  ナル式中ノ  $r$  ト  $t$  トヲ夫々  $x$

ト  $dx$  トニテ置換ヘタルモノ即チ  $\left(\frac{v.\omega^2}{g}\right)x.dx$  ナリ. 又内方ニ向ヘル力ハ  $p_x$  ナリ. 然ラバ平衡條件式ハ次ノ如シ.

$$(p_x' + p_x + dp_x)(x+dx) - p_x.x = s_v dx.$$

$dp_x dx$  及  $dx^2$  ヲ省略スレバ

$$\left(\frac{v.\omega^2}{g}\right)x^2 dx + p_x dx + x.dp_x = s_v dx.$$

$$\left(\frac{v.\omega^2}{g}\right)x^2 + p_x + x \frac{dp_x}{dx} = s_v \dots\dots\dots(d)$$

變形後 =  $x$  ガ  $(x+\xi)$  =,  $dx$  ガ  $(dx+d\xi)$  = ナリ又リトスレバ半徑ノ方向ノ變形ハ  $\frac{d\xi}{dx}$  = シテ圓周ノ方向ノ變形ハ  $\frac{2\pi(x+\xi)-2\pi x}{2\pi x} = \frac{\xi}{x}$  ナ

リ. 然ラバ回轉軸ノ方向ノ應力ハ零ナルヲ以テ

$$\frac{\xi}{x} = \frac{1}{E} \left(s_v - \frac{p_x}{m}\right), \quad \frac{d\xi}{dx} = \frac{1}{E} \left(p_x - \frac{s_v}{m}\right).$$

此兩式ヲ解キテ

$$s_v = \frac{E.m}{m^2-1} \left[m \frac{\xi}{x} + \frac{d\xi}{dx}\right], \quad p_x = \frac{E.m}{m^2-1} \left[\frac{\xi}{x} + m \frac{d\xi}{dx}\right].$$

(d) 式 =  $p_x, s_v$  及  $\frac{dp_x}{dx}$  ノ値ヲ代入スレバ

$$x \frac{d^2\xi}{dx^2} + \frac{d\xi}{dx} - \frac{\xi}{x} = -\frac{v.\omega^2}{g} \frac{m^2-1}{m^2 E} x^2 \dots\dots\dots(e)$$

$$\frac{d^2\xi}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{d\xi}{dx} - \frac{\xi}{x^2} = -\frac{v.\omega^2}{g} \frac{m^2-1}{m^2 E} x.$$

之ヲ解クニハ先ツ次ノ微分方程式ヲ解クヲ要ス.

$$\frac{d^2\xi}{dx^2} + \frac{1}{x} \frac{d\xi}{dx} - \frac{\xi}{x^2} = \frac{d^2\xi}{dx^2} + \frac{d}{dx} \left(\frac{\xi}{x}\right) = 0,$$

$$\frac{d\xi}{dx} + \frac{\xi}{x} = 2A, \quad 2A = \text{積分常數.}$$

$$x \frac{d\xi}{dx} + \xi = 2Ax, \quad \xi x = Ax^2 + B, \quad B = \text{積分常數.}$$

$$\frac{\xi}{x} = A + \frac{B}{x^2}, \quad \therefore \frac{d\xi}{dx} = A - \frac{B}{x^2}.$$

次ニ  $\xi = C.x^3$  ナリト假定スレバ

$$\frac{\xi}{x} = C.x^2, \quad \frac{d\xi}{dx} = 3C.x, \quad \frac{d^2\xi}{dx^2} = 3C.$$

此等ヲ(e)式ニ代入スレバ  $C = -\frac{v.\omega^2}{g} \frac{m^2-1}{8m^2 E}$  ナリ. 然ラバ微分方程式解法ニ依リ(e)式ノ解答ハ次ノ如シ.

$$\frac{\xi}{x} = A + \frac{B}{x^2} - \frac{v.\omega^2}{g} \frac{m^2-1}{8m^2 E} x^2,$$

$$\frac{d\xi}{dx} = A - \frac{B}{x^2} - \frac{v.\omega^2}{g} \frac{3(m^2-1)}{8m^2 E} x^2$$

$$\therefore p_x = \frac{E.v}{m^2-1} \left[ (m+1)A - (m-1)\frac{B}{x^2} - (3m+1)\frac{v.\omega^2}{g} \frac{m^2-1}{8m^2 E} x^2 \right] \dots\dots\dots(f)$$

$x=r_2, w=r_1$  = 對シテ  $p_x=0$  ナルニエ

$$\left. \begin{aligned} 0 &= (m+1)A - (m-1)\frac{B}{r_2^2} - (3m+1)\frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{m^2-1}{8m^2E} \cdot r_2^2 \\ 0 &= (m+1)A - (m-1)\frac{B}{r_1^2} - (3m+1)\frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{m^2-1}{8m^2E} \cdot r_1^2 \end{aligned} \right\}$$

$$\therefore \left. \begin{aligned} A &= \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{(3m+1)(m-1)}{8m^2E} \cdot (r_2^2 + r_1^2) \\ B &= \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{(3m+1)(m+1)}{8m^2E} \cdot r_2^2 r_1^2 \end{aligned} \right\}$$

(f) 式ヨリ

$$p_x = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{3m+1}{8m} \left[ r_2^2 + r_1^2 - \frac{r_2^2 r_1^2}{a^2} - a^2 \right]$$

而シテ

$$s_y = \frac{E \cdot m}{m^2-1} \left[ m \cdot \frac{\xi}{a} + \frac{d\xi}{dx} \right] = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{1}{8m} \left[ (3m+1)(r_2^2 + r_1^2 + \frac{r_2^2 r_1^2}{a^2}) - (m+3)a^2 \right]$$

$s_y$ ノ値ハ常ニ正ニシテ  $w$ ガ増スニ從ヒテ減少ス。依テ  $w=r_1$ ニ對シテ其値ハ最大ナリ。即チ

$$\text{最大 } s_y = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{1}{4m} \left[ (3m+1)r_2^2 + (m-1)r_1^2 \right]$$

$r_1$ ガ甚小ナル場合ニハ最大  $s_y$ ハ  $\left( \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{3m+1}{4m} \cdot r_2^2 \right)$ ニ近キ値トナリ

$r_2$ ト  $r_1$ トノ差ガ小ナルトキハ薄キ箍ノ場合ノ  $s = \frac{w\omega^2}{g} \cdot r^2$ ニ近キ値トナルヲ知ルベシ。又  $p_x$ ハ  $r_1$ ヨリ大ニシテ  $r_2$ ヨリ小ナル  $w$ ノ總テノ値ニ對シテ正即チ應張力ニシテ

$$\frac{dp_x}{dw} = (\text{常數}) \left[ \frac{2r_2^2 r_1^2}{w^3} - 2w \right]$$

然ルニ

$$\left[ \frac{2r_2^2 r_1^2}{w^3} - 2w \right]_{w=r_2, r_1} = 0$$

$$\therefore \text{最大 } p_x = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{3m+1}{8m} (r_2 - r_1)^2$$

若シ  $r_1=0$ ナレバ  $w=r_2$ ニ對シテ  $p_x=0$ 又  $w=0$ ニ對シテ  $\xi=0$ ナリ。然ラバ  $\frac{\xi}{a}$ ノ式ガ示ス如ク  $B=0$ ナリ。依テ (f) 式ヨリ

$$0 = (m+1)A - (3m+1)\frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{m^2-1}{8m^2E} \cdot r_2^2$$

$$\therefore A = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{(3m+1)(m-1)}{8m^2E} \cdot r_2^2$$

$$s_y = \frac{E \cdot m}{m^2-1} \left[ m \cdot \frac{\xi}{a} + \frac{d\xi}{dx} \right] = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{1}{8m} \left[ (3m+1)r_2^2 - (m+3)a^2 \right]$$

之ハ  $w=0$  即チ中心ニ於テ最大ニシテ

$$\text{最大 } s_y = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{3m+1}{8m} \cdot r_2^2$$

此値ハ中心ニ微小ナル孔ヲ有スル厚キ箍ニ於ケル最大  $s_y$ ノ約半分ナリ。

$$\text{又 } p_x = \frac{E \cdot m}{m^2-1} \left[ \frac{\xi}{a} + m \cdot \frac{d\xi}{dx} \right] = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{3m+1}{8m} \cdot (r_2^2 - a^2)$$

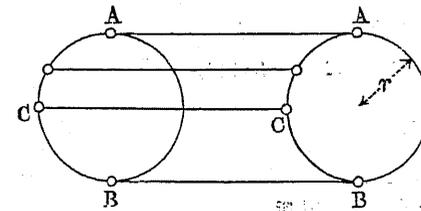
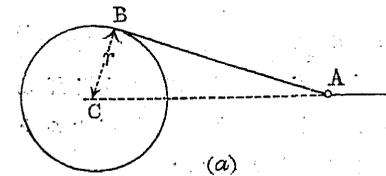
之ハ常ニ正ニシテ中心ヨリ遠ザカルニ從ヒテ減少ス。夫故ニ

$$\text{最大 } p_x = \frac{w\omega^2}{g} \cdot \frac{3m+1}{8m} \cdot r_2^2$$

トナリ最大  $s_y$ ト同値ナリ。

(II) 遠心力ヨリ生ズル彎曲應力 蒸氣機關ノ滑頭(Cross-Head)ト曲柄軸(Crank-Pin)トヲ連結スル連釘(Connecting Rod)ノ如キハ一端

第 133 圖



ガ圓ヲ齒キテ回轉スルニエ遠心力ノ爲ニ之ニ彎曲應力ヲ生ズベシ(第133圖(a))又機關車ノ二ツノ働輪ヲ連結スル水平釘ノ如キハ其一例ナリ(第133圖(b))而シテ(b)圖ノ場合ニハ釘ノ總テノ點ガ同速度ニテ回轉スルニハ(a)圖ノ場合ニ於ケルヨリモ解法簡單ナリ

先ツ水平釘ニ就テ考フ

(b)

ル。ニ機關車ノ速度ヲ $u$ ；水平釘ヲ連結セル働輪ノ周リノ水平釘端ノ回轉速度ヲ $v$ ；働輪ノ半徑ヲ $r_1$ ；水平釘端ガ畫ク圓ノ半徑ヲ $r$ トスレバ働輪ノ圓周ノ回轉速度ト機關車ノ線速度トハ同一ナルヲ以テ

$$v = \frac{u \cdot r}{r_1}$$

ヲ得。釘端ノミナラズ各點ハ $v$ ナル速度ニテ圓ヲ畫キテ回轉スルヲ以テ遠心力ノ爲ニ釘ハ彎曲作用ヲ受クベシ。而シテ釘ガ最低位BBニアレバ遠心力ハ之ニ下向キノ等布荷重トシテ働キ、最高位AAニアルトキハ上向キノ等布荷重トシテ働キ、車軸ト同平面即チQCナル位置ニアルトキハ釘ノ長サノ方向ニ應壓力ヲ生ズ。

水平釘ノ單位長サノ重量ヲ $w$ トスレバ每單位長サノ遠心荷重 $w'$ ハ次ノ如シ。

$$w' = \frac{w \cdot v^2}{g \cdot r} = \frac{w \cdot u^2 \cdot r}{g \cdot r_1^2} \dots \dots \dots (a)$$

水平釘ナーツノ單桁ト見做シ長サヲ $l$ 、幅ヲ $b$ 、高サヲ $d$ トスレバ最大單位彎曲應力ハ次ノ如シ。

$$s = \pm \frac{6M}{b \cdot d^2} = \pm \frac{3}{4} \cdot \frac{w' \cdot l^2}{b \cdot d^2} \dots \dots \dots (b)$$

例題 機關車ノ速度60哩毎時間、働輪ノ半徑3呎、水平鋼釘端ガ畫ク圓ノ半徑1呎、釘ノ厚サ2吋及高サ4吋、長サ8呎ナルトキ遠心荷重ヨリ生ズル最大單位彎曲應力ヲ求ム。

$u = 88$  呎毎秒  $= 22 \times 88$  吋毎秒,  
 $g = 12 \times 32.16$  吋毎秒毎秒,  $r_1 = 3 \times 12$  吋,  
 $r = 1 \times 12$  吋,  $l = 8 \times 12$  吋,  $b = 2$  吋,  $d = 4$  吋,  
 $w = \frac{8 \times 490}{12^3} = 2.27$  听/吋.  
 $\therefore w' = \frac{2.27 \times 12 \times 88^2 \times 12 \times 1}{32.16 \times 12 \times 3 \times 12^2} = 61$  听/吋.

$$s = \pm \frac{3 \times 61 \times 8 \times 12^2}{4 \times 2 \times 4^2} = 13,200 \text{ 听/平方吋.}$$

水平釘ノ如キハ急速ナル交番應力 (Alternate Stresses) ヲ受クルノミナラズ激衝 (Shock) ヲ受クルモノナリ。

次ニ第133圖(a)ニ就テ考フルニB端ハ半徑 $r$ ノ圓ヲ畫キ他端Aハ單ニ直線運動ヲナスヲ以テA端ニ於テハ遠心力ハ零ニシテB端ニ於テハ(a)式ガ與フル $w'$ ト同様ノ遠心力ガ働クベキナリ。連釘ガ(a)圖ノ如キ位置ニアルトキハ遠心荷重ハAニ於ケル零ヨリBニ於ケル $w'$ 迄均等ニ變化ス。今此釘ナーツノ單桁ト見做セバ全荷重ハ $\frac{1}{2}w' \cdot l$ ニシテ

$$A = \text{於ケル反力} = \left( \frac{1}{2}w' \cdot l \times \frac{1}{3}l \right) / l = \frac{1}{6}w' \cdot l,$$

$$B = \text{於ケル反力} = \frac{1}{3}w' \cdot l$$

ナルニエAヨリ $x$ ナル距離ニ於ケル断面ノ彎曲率ハ次ノ如シ。

$$M = \frac{1}{6}w' \cdot l \cdot x - \frac{w' \cdot x^2}{2} - \frac{1}{3}w' \cdot x = \frac{1}{6}w'(l^2 \cdot x - x^3).$$

$$\frac{dM}{dx} = (\text{常數})(l^2 - 3x^2), \quad \left[ l^2 - 3x^2 \right]_{x^2 = \frac{1}{3}l^2} = 0$$

即チ $x^2 = \frac{1}{3}l^2$ ニ對シテMハ最大ナルニエ

$$\text{最大 } M = 0.0642w' \cdot l^2.$$

矩形断面ナレバ最大單位彎曲應力ハ

$$s = \pm \frac{6M}{b \cdot d^2} = \pm 0.385 \frac{w' \cdot l^2}{b \cdot d^2},$$

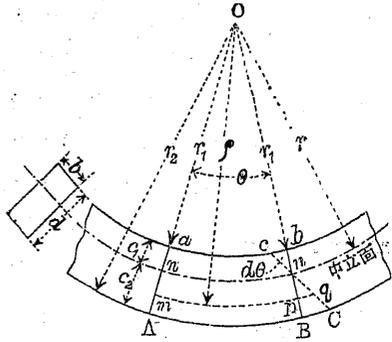
但

$$w' = \frac{w \cdot v^2}{g \cdot r}.$$

此ノ如ク最大 $s$ ハ水平釘ニ於ケル最大 $s$ ノ約二分ノ一ナリ。而シテ水平釘ノ断面ハ中央ニ於テ最大ニナシ、連釘ノ断面ハ滑頭ヨリ約0.6 $l$ ノ所ニ於テ最大ニナスベキナリ。

86. 曲桁 (Curved Beams) 普通ノ桁ノ理論ニ關スル基本假定ハ曲桁ニモ亦之ヲ適用スルヲ得。第134圖ニ示セルハ矩形断面ノ

第134圖



曲桁 = シテ上下兩面ハ同心曲面ナリ。

上下曲面ノ半徑ヲ夫々  $r_1$  及  $r_2$ ; 幅ヲ  $b$ ; 高サヲ  $d$  トスレバ

$$r_2 - r_1 = d$$

又中立面ヨリ凹面及凸面迄ノ距離ヲ夫々  $c_1$  及  $c_2$  トスレバ

$$c_1 + c_2 = d.$$

今  $c_1 < c_2$  即チ中立面ハ凹面ニ近クシテ單位彎曲應力ハ凸面ニ於ケルヨリモ凹面ニ於テ大ナルコトヲ證セントス。

桁ノ普通彎曲理論ニ於ケルト同様ニ彎曲スル前ノ半徑ノ方向ノ任意斷面  $Bb$  ハ彎曲後モ尙平面ニシテ  $Cc$  ナル位置ヲ取りタリトセヨ。然レバ纖維  $ab$  ハ  $bc$  丈ケ短縮シ纖維  $AB$  ハ  $BC$  丈ケ伸張シ中立面ニ於ケル纖維  $mn$  ノ長サハ不變ナリ。  $OA$  ト  $OB$  トノ間ノ角ヲ  $\theta$  トシ、 $Cc$  ト  $Bb$  トノ間ノ角ヲ  $d$  トスレバ

$$ab = r_1 \theta, \quad bc = c_1 d \theta$$

ナルヲ以テ

$$\text{凹面} = \text{於ケル單位短縮} = \frac{c_1 d \theta}{r_1 \theta}$$

又

$$AB = r_2 \theta, \quad BC = c_2 d \theta$$

ナルヲ以テ

$$\text{凸面} = \text{於ケル單位伸張} = \frac{c_2 d \theta}{r_2 \theta}$$

中立面ノ半徑ヲ  $r$  トシ、任意ノ曲面ノ半徑ヲ  $\rho$  ( $r_1 < \rho < r_2$ ) トスレバ

$$\frac{pq}{np} = \frac{(\rho - r) d \theta}{\rho \theta} = \text{纖維 } mp \text{ ノ單位變形}$$

夫故ニ

$$s_1 = E \cdot \frac{d \theta}{\theta} \cdot \frac{c_1}{r_1} = \text{凹面} = \text{於ケル單位彎曲應力}$$

$$s_2 = E \cdot \frac{d \theta}{\theta} \cdot \frac{c_2}{r_2} = \text{凸面} = \text{於ケル單位彎曲應力}$$

$$s = E \cdot \frac{d \theta}{\rho} = \text{半徑 } \rho \text{ ナル曲面ノ單位彎曲應力}$$

中立面ノ位置ハ半徑  $OB$  ノ方向ニ垂直ナル總テノ應力ノ代數和ガ零ナルコトノ條件ニ依テ之ヲ定ムルヲ得。

茲ニ斷面ノ高サノ方向ニ於テ  $b \cdot d \rho = dA$  ナル微細面積ヲ考フルニ

$$\sum s \cdot dA = E \cdot \frac{d \theta}{\theta} \sum \left( \frac{\rho - r}{\rho} \cdot dA \right) = b \cdot E \cdot \frac{d \theta}{\theta} \int_{r_1}^{r_2} \left( \frac{\rho - r}{\rho} \right) d \rho = 0,$$

$$\int_{r_1}^{r_2} \left( \frac{\rho - r}{\rho} \right) d \rho = \left[ \rho - r \cdot \log_e \rho \right]_{r_1}^{r_2} = (r_2 - r_1) - r \cdot \log_e \frac{r_2}{r_1} = d - r \cdot \log_e \frac{r_2}{r_1} = 0.$$

$$\therefore r = \frac{d}{\log_e \frac{r_2}{r_1}}$$

$$r_1 + c_1 = \frac{d}{\log_e \frac{r_2}{r_1}}, \quad r_2 - c_2 = \frac{d}{\log_e \frac{r_2}{r_1}}$$

$$\therefore c_1 = -r_1 + \frac{d}{\log_e \frac{r_2}{r_1}}$$

$$c_2 = r_2 - \frac{d}{\log_e \frac{r_2}{r_1}}$$

此兩式ハ矩形斷面曲桁ノ中立面ヨリ凹面及凸面ニ至ル半徑ノ方向ノ距離ヲ與フルモノニシテ明カニ  $c_2 > c_1$  ナリ。

斷面  $Bb$  = 於ケル彎曲率  $M$  ハ抵抗力率 = 等シキニエ

$$M = \sum s(\rho - r) \cdot dA = b \cdot E \cdot \frac{d \theta}{\theta} \int_{r_1}^{r_2} \frac{(\rho - r)^2}{\rho} \cdot d \rho = b \cdot E \cdot \frac{d \theta}{\theta} \cdot \frac{d(c_2 - c_1)}{2}$$

之ニ

$$s_1 = E \cdot \frac{d \theta}{\theta} \cdot \frac{c_1}{r_1}, \quad \text{即チ} \quad E \cdot \frac{d \theta}{\theta} = \frac{s_1 r_1}{c_1}$$

ヲ代入スレバ

$$s_1 = \frac{2M \cdot c_1}{b \cdot d \cdot r_1 (c_2 - c_1)} = \text{曲桁ノ凹面ニ於ケル單位彎曲應力}$$

又

$$s_2 = E \cdot \frac{d\theta}{\theta} \cdot \frac{c_2}{r_2}, \quad \text{即チ} \quad E \cdot \frac{d\theta}{\theta} = \frac{s_2 r_2}{c_2}$$

ヲ代入スレバ

$$s_2 = \frac{2M \cdot c_2}{b \cdot d \cdot r_2 (c_2 - c_1)} = \text{曲桁ノ凸面ニ於ケル單位彎曲應力}$$

以上  $s_1$  及  $s_2$  ノ式中ニ於テ  $\frac{c_1}{r_1}$  ハ  $\frac{c_2}{r_2}$  ヨリ大ナルヲ以テ明カニ  $s_1$  ハ  $s_2$  ヨリ大ナリ。

**例題**  $r_1 = 24$  吋,  $r_2 = 36$  吋ナル矩形断面曲桁ノ單位彎曲應力ヲ求ム。

$$\log_e \frac{r_2}{r_1} = 3.5835 - 3.1780 = 0.4055,$$

$$c_1 = -r_1 + \frac{d}{0.4055} = -24 + \frac{12}{0.4055} = -24 + 29.6 = 5.6 \text{ 吋},$$

$$c_2 = 12 - 5.6 = 6.4 \text{ 吋}.$$

$$\therefore s_1 = \frac{2 \times 5.6M}{bd \times 24 \times 0.8} = \frac{7.0M}{b d^2},$$

$$s_2 = \frac{2 \times 6.4M}{bd \times 36 \times 0.8} = \frac{5.3M}{b d^2}.$$

是ニ由テ見レバ曲桁ノ凹面ニ於ケル單位應力ハ常ニ普通ノ單桁ニ於ケル單位應力ヨリモ大ナリ。

$r_1$  ガ甚小ナレバ  $c_1$  モ亦甚小トナリ從テ  $s_1$  ハ甚シク大トナルヲ以テ小ナル彎曲率ニ依テ破壊ヲ來タスベシ。夫故ニ曲材ノ半徑ハ成ルベク大ニナスベキナリ。

(第四篇終)